

# 塚下遺跡(1)

(一)香林羽黒線地方道路交付金事業並びに  
北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

群馬県県土整備局 伊勢崎土木事務所  
東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





# 塚下遺跡(1)

(一)香林羽黒線地方道路交付金事業並びに  
北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

群馬県県土整備局 伊勢崎土木事務所  
東日本高速道路株式会社  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





遺跡遠景（南より赤城山を望む）▼下方が塚下遺跡



遺跡遠景（西上空より）





# 序

塚下遺跡は、伊勢崎市上田町に所在し、北関東自動車道とその側道にあたる一般県道香林羽黒線の建設に伴って、平成13年から平成14年にかけて当事業団によって発掘調査が実施されました。

このほど、群馬県伊勢崎土木事務所ならびに東日本高速道路株式会社の委託を受け、平成17年度から平成18年度にかけて整理事業を行いました遺構群のうち、県側道部分の成果がまとまり、ここに報告書を刊行する運びとなりました。

遺跡周辺は、遠く足尾山地から流れる地下水が湧き出でる湧水池が点在することから、古来より水に恵まれた土地であり、その水を求めた人々が集い住んだため、遺跡では旧石器時代から縄文時代前～中期、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代と永きにわたる人々の生活の跡が発見され、その一端を本書に収録しております。

本報告書の刊行に至るまでには、群馬県伊勢崎土木事務所・東日本高速道路株式会社・群馬県教育委員会・伊勢崎市教育委員会をはじめ、関係各位並びに周辺地域住民の方々にも多大なご尽力・ご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げますとともに本報告書ならびに出土資料が教育に研究に広く活用されますことを願ひまして、序といたします。

平成18年10月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 高 橋 勇 夫



# 例 言

- 1、 本報告書は、平成13～14年度に行われた一般県道香林羽黒線地方道路交付金事業(通称北関東自動車道側道)の建設に伴う「塚下遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告であり、隣接する北関東自動車道の建設に伴い調査された調査区分については改めて別報告となるが、境界線上に位置する遺構については、本線部分についても本書で取扱う事とした。
- 2、 遺跡は、群馬県伊勢崎市上田町(旧佐波郡東村上田)地内に所在する。
- 3、 事業主体 群馬県県土整備局(旧土木部道路建設課) 伊勢崎土木事務所  
北関東自動車道本線部＝東日本高速道路株式会社(旧日本道路公団)
- 4、 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5、 調査期間 平成13年8月1日～平成14年9月24日(塚下遺跡本線部および前道下遺跡との並行調査)
- 6、 調査組織
 

理事長 小野宇三郎

常務理事 赤山容造(平成13年度)、吉田 豊

事業局長 神保侑史(平成14年度)

管理部長 住谷 進(平成13年度)、萩原利通(平成14年度)

総務課 課長 大島信夫(平成13年度)、植原恒夫(平成14年度)

総務課 係長 笠原秀樹(平成13年度)、小山建夫、高橋房雄(平成14年度)

総務課 須田朋子・吉田有光・森下弘美、片岡徳雄(平成13年度)、田中賢一(平成14年度)

補助員 吉田恵子・並木綾子・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり  
狩野真子・今井もと子・松下次男・吉田 茂、蘇原正義(平成13年度)

東毛調査事務所 所長 水田 稔(平成13年度)、能登 健(平成14年度)

東毛調査事務所 調査研究部長 津金沢吉茂(平成13年度)、真下高幸(平成14年度)

東毛調査事務所 調査研究第二課長 相京建史(平成14年度)

東毛調査事務所 庶務課係長 笠原秀樹(平成14年度)

東毛調査事務所 庶務課 主任 柳岡良宏、主事 田中賢一(平成13年度)、事務補助員 中沢恵子

調査担当(県側道) 平成13年度 主任調査研究員 本間 昇、調査研究員 笹沢泰史  
平成14年度 主幹兼専門員 新倉明彦

(本線部) 平成13年度 主幹兼専門員 大西雅広、専門員 新井 仁・土谷慎二  
主任調査研究員 津島秀章・小室綾子・斉藤利子・斉藤 聡・本間 昇  
調査研究員 笹沢泰史

平成14年度 専門員 新井 仁・土谷慎二、調査研究員 石坂 聡

塚下遺跡 調査担当者一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成13年度												
本線					大西・津島・小室・斉藤		本間・笹沢			笹沢	新井(仁)・土谷	
県側道										本間	笹沢・本間	
平成14年度												
本線	新井(仁)・土谷・石坂(聡)					①～コンサルタント発掘地一部						
県側道	新倉											

- 7、整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 8、整理期間 平成17年4月1日～平成18年6月30日
- 9、整理組織 理事長 小野宇三郎(～平成17年6月)、高橋勇夫(平成17年7月～)
- 常務理事 木村裕紀
- 事業局長 津金沢吉茂
- 調査研究部長 西田健彦 資料整理部長 中束耕志
- 管理部長 矢崎俊夫(平成17年度)、総務部長 萩原 勉(平成18年度)
- 資料整理課長 相京建史(平成17年度)、資料整理第二グループリーダー 関 晴彦(平成18年度)
- 総務課長 宮前結城雄(平成17年度)、総務グループリーダー 笠原秀樹(平成18年度)
- 総務課 係長 竹内 宏(平成17年度)、経理グループリーダー 石井 清
- 総務課(総務・経理グループ)須田朋子・今泉大作・佐藤聖行・栗原幸代、吉田有光(平成17年度)
- 清水秀紀(～平成17年10月)、柳岡良宏(平成18年度)
- 補助員 内山佳子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・若田誠・武藤秀典・今井もと子・佐藤美佐子
- 整理担当 専門員(総括) 新倉明彦、(本線部整理担当=上席専門員 綿貫邦男)
- 整理補助員 木原幸子・田中富子・大森よしみ・小嶋八重子・富所恵子、
- 細井美佐子(平成17年10月～平成18年3月)
- 本線部整理補助員 尾田正子・長谷川公子・田村浩子・岩田彰子、松岡陽子・加藤 綾(平成17年度)、
- 酒井史恵・梅澤きく江(平成18年度)
- 器械実測 整理補助員 廣津真希子・友廣裕子、酒井史恵(平成17年度)
- 木器処理 整理補助員 小池 緑・佐々木茂美、田中のぶ子(平成17年度)、野沢健(平成18年度)
- 保存処理 主幹 関 邦一 嘱託員 土橋まり子
- 補助員 小村浩一・津久井桂一・多田ひさ子、森田智子(平成17年度)、長岡久幸(平成18年度)

10、本報告書の作成担当

- 編集・執筆 専門員(総括) 新倉明彦
- 遺物観察 専門員(総括) 関根慎二・新倉明彦、専門嘱託員 羽石智治
- 遺物写真撮影 上席専門員 綿貫邦男
- 遺構写真撮影 前記発掘調査担当者
- 分析・委託等 石材鑑定 群馬地質研究会 飯島静男
- 火山灰・プラントオパール分析 (株)古環境研究所 早田 勉
- 航空写真撮影 (株)シン技術コンサル
- 地上測量 アコン測量・朝日測量
- 写真デジタル化・修正業務 アカギ商会

11、出土遺物並びに遺構測量図・写真等の記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。今後、研究・教育等各方面での幅広い活用が望まれる。

12、発掘調査時から本報告書作成に至る間、群馬県教育委員会・伊勢崎市(旧東村)教育委員会・群馬県土木整備局(旧群馬県土木部道路建設課)・伊勢崎土木事務所をはじめ関係機関並びに周辺住民の方々には多大な協力をいただいた。

また、猛暑・極寒の厳しい気候時において発掘調査に従事していただいた発掘作業員各位にも改めて感謝の意を表したい。



# 凡 例

## 1、遺構番号

本報告書に用いた遺構番号は、遺構測量原図・出土遺物注記等との整合性を保つために、原則として発掘調査時に付した番号を踏襲したため、一部において欠番が生じた。また、逆に発掘調査時の誤りにより重複した番号や整理時に解明された遺構については、新たな番号を付し、( ) 内に旧名称・旧番号を記した。

## 2、軸と方位

本報告書の遺構図・全体図に記された方位記号の示す北は、磁北ではなく座標上の真北を示し、主軸角度等の計算においてもこれを基準として用いた。

## 3、図とその縮尺

本報告書に掲載の挿図は、挿図番号を付記せず、掲載頁番号をもってその位置を示した。

また、縮尺は原則として下記のとおりとし、例外については挿図内に縮尺を記した。

遺構実測図	竪穴住居跡 1:60	掘立柱建物跡 1:60	土坑・井戸跡 1:40
	住居跡竃跡 1:30	全体図 1:200	

遺物実測図	土 器 1:3	石製品 1:3	小型土製品・石製品 1:2・1:1
-------	---------	---------	-------------------

## 4、遺構面積

各遺構の面積の計測にあたり、竪穴住居跡については下辺を元に床面積をもとめたが、土坑等の下辺が不明瞭なものについては、上辺を元に面積を算出した。

## 5、写真図版

遺物写真の縮尺は、原則として1:4とし、大型品は1:6、小型品は1:2・1:1の縮尺を用いた。

## 6、色 調

遺構土層断面および遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に拠った。

## 7、地形図

本報告書で使用した地形図は下記のとおりである。

国土地理院 地勢図 1/200,000 「宇都宮」	地形図 1/25,000 「桐生」・「上野境」・「大胡」・「伊勢崎」
---------------------------	------------------------------------

国土地理院 数値地図25,000(地図画像) 「宇都宮」
------------------------------

# 目 次

扉  
口 絵  
序  
例 言  
凡 例  
目 次

遺構別索引(挿図・図版目次)

## I 発掘調査の概要

1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	3
3 調査区の設定	4
4 遺構名称	5
5 調査の手順	5
6 基本土層	6

## II 周辺の環境

1 地理的環境	7
2 歴史的環境	9

## III 検出遺構と出土遺物

1 竪穴住居跡	15
2 掘立柱建物跡	68
3 井戸跡	69
4 炉 跡	73
5 土坑跡・遺構外出土遺物	75

## 写真図版

検出遺構	PL.01
出土遺物	PL.42

## 報告書抄録

付 図	全体図	住居・土坑	S=1/200
		ピット	S=1/200

## 遺構別掲載頁一覧

## 竪穴住居跡

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
73号住居跡	P15	P15	P15・16	P16~18	PL.05	PL.42	奈良・平安	
95号住居跡	P18	P19・20	P20	P21	PL.06・07	PL.42	奈良・平安	96号住居跡と重複
96号住居跡	P19	P19	P20	P21	PL.07	PL.42	奈良・平安	95・111号住居跡と重複
97号住居跡	P21・22	P22	P23	P23	PL.08・09	PL.43	奈良・平安	100号土坑跡と重複
98号住居跡	P23	P24	P25・26	P26	PL.09・10	PL.43	奈良・平安	99号土坑跡と重複
100号住居跡	P27	P27・28	P27~29	P29・30	PL.11	PL.42	奈良・平安	
102号住居跡	P31	P31・32	P31・32	P32・33	PL.12	PL.43	奈良・平安	
103号住居跡	P33	P33	P33	P34	PL.12	PL.43	奈良・平安	
104号住居跡	P34	P34	P35	P35	PL.13	—	奈良・平安	119号土坑跡と重複
105号住居跡	—	—	—	—	—	—	—	欠番
106号住居跡	P35	P36・37	P37・38	P39	PL.13・14	PL.42	奈良・平安	
107号住居跡	P39・40	P40	P40・41	P41	PL.15	PL.44	古墳前期	
109号住居跡	P41	P42	P42	P42	PL.16	—	奈良・平安	
111号住居跡	P43	P43	P44~48	P48	PL.17	PL.45・46	縄文中期	96号住居跡と重複
112号住居跡	P49	P49・50	P50	P51	PL.18・19	PL.46・47	縄文中期	
113号住居跡	P51	P52	P51~55	P55・56	PL.20・21	PL.47・48	縄文中期	221号土坑跡と重複
114号住居跡	P56	P56・57	P57・58	P58	PL.21	PL.48	縄文中期	103・104号土坑跡と重複
115号住居跡	—	—	—	—	—	—	縄文中期	「1号炉跡」と名称変更
116号住居跡	P58	P59	P58~60	P60・61	PL.22	PL.49	縄文中期	
117号住居跡	P61	P62	P61・62	P63	PL.22	PL.49	縄文中期	
119号住居跡	P63	P64	P63~65	P66	PL.22	PL.49	縄文中期	

※ 1~72、74~94、99、101、108、110、118、120号住居跡～は北関東自動車道本線部「塚下遺跡(2)」にて報告

## 掘立柱建物跡

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
9号掘立柱建物跡	P68	P68	—	—	—	—	奈良・平安	遺構写真は航空写真のみ
12号掘立柱建物跡	P68	P68	—	—	—	—	奈良・平安	

## 竪穴状遺構跡

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
2号竪穴状遺構跡	P66	P67	P67	P67	PL.23	PL.51	奈良・平安	

## 井戸跡

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
1号井戸跡	P69・70	P69	P70・71	P71・72	PL.24	PL.44	古墳前期	106号住居跡と重複
2号井戸跡	P72	P72	P72	P72	PL.24	PL.44	奈良・平安	

## 土坑跡

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
95号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.24	—	不明	
99号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.24	PL.53	縄文中期	98号住居跡と重複
100号土坑跡	一覧表	P84	P86	P90	PL.24	PL.53	奈良・平安	97号住、121号土坑と重複
103号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.24	—	不明	114号住居跡と重複
104号土坑跡	一覧表	全体図	P87・88	P90	PL.25	PL.53	縄文中期	114号住、358A土坑と重複
105号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	PL.25	PL.53	縄文中期	358A土坑跡と重複
106号土坑跡	一覧表	P84	—	—	PL.25	—	奈良・平安	
107号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.25	—	不明	
108号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.25	—	不明	202・203号土坑跡と重複
110号土坑跡	一覧表	P84	—	—	PL.25	—	奈良・平安	2号竪穴、357土坑跡と重複
111号土坑跡	一覧表	全体図	P88・89	P90	PL.25	PL.53	縄文中期	2号竪穴状遺構跡と重複
112号土坑跡	一覧表	全体図	P87・88	P90	PL.25	PL.53	縄文中期	351号土坑跡と重複
113号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.26	PL.53	縄文中期	2号竪穴、369A土坑と重複
114号土坑跡	一覧表	全体図	P88・89	P90	PL.26	PL.53	縄文中期	
115号土坑跡	一覧表	P85	—	—	PL.26	—	縄文中期	
116号土坑跡	一覧表	P85	P87・89	P90	PL.26	PL.53	縄文中期	

## 遺構別掲載頁一覧

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
119号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.26	PL.53	縄文中期	104号住居跡と重複
120号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.26	—	不明	
121A号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.26	—	不明	100号土坑跡と重複
121B号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	—	—	不明	
122号土坑跡	一覧表	P85	—	—	PL.26	—	縄文中期	
123号土坑跡	一覧表	全体図	P87・89	P90	PL.27	PL.53・54	縄文中期	
124号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.27	—	不明	
125号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.27	—	不明	
126号土坑跡	一覧表	P85	—	—	PL.27	—	不明	
127号土坑跡	一覧表	P85	—	—	PL.27	—	不明	
128A号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	—	—	不明	
128B号土坑跡	一覧表	P85	—	—	PL.27	—	不明	
130号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.27	—	不明	
131号土坑跡	一覧表	P85	—	—	PL.27	—	不明	
133号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.28	—	不明	
134号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.28	—	不明	
135号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.28	—	不明	136号土坑跡と重複
136号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.28	—	不明	135号土坑跡と重複
137号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.28	—	不明	350号土坑跡と重複
138号土坑跡	一覧表	P86	—	—	PL.28	—	不明	
139号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.28	—	不明	
146号土坑跡	一覧表	全体図	P90	P90	PL.28	PL.54	縄文	154号土坑跡と重複
153号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.29	—	不明	103号住居跡と重複
154号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.29	PL.53	縄文中期	146号土坑跡と重複
157号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.29	—	不明	
158号土坑跡	一覧表	全体図	P86・87・89	P90	PL.29	PL.53	縄文中期	
159号土坑跡	一覧表	全体図	P86・87	P90	PL.29	PL.53	縄文前期	221号土坑跡と重複
160号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.29	—	縄文中期	98号住居跡と重複
161号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.30	—	不明	207号土坑跡と重複
164号土坑跡	一覧表	全体図	P88・90	P90	PL.30	PL.53・54	縄文中期	
165号土坑跡	一覧表	P78	P78・79	P79・80	PL.30	PL.51	縄文中期	
166号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.30	PL.53	縄文中期	1号炉跡と重複
168号土坑跡	一覧表	全体図	P88・89	P90	PL.30	PL.53	縄文中期	209号土坑跡と重複
169号土坑跡	一覧表	P86	P87・88	P90	PL.31	PL.53	縄文中期	
178号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.31	—	不明	
179号土坑跡	一覧表	P86	P87・89	P90	PL.31	PL.53	縄文中期	
180号土坑跡	一覧表	P86	—	—	PL.31	—	不明	
181号土坑跡	一覧表	P86	—	—	PL.31	—	不明	
182号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.31	—	不明	
196号土坑跡	一覧表	P80	P80~82	P82	PL.32	PL.51・52	縄文中期	1号炉と重複、炉跡より旧
198号土坑跡	一覧表	—	—	—	—	—	縄文中期	「1号炉跡」に名称変更
200号土坑跡	一覧表	全体図	P88・89	P90	PL.31	PL.53・54	縄文中期	
201号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.31	—	不明	
202号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	108号土坑跡と重複
203号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	108号土坑跡と重複
204号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	
205号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	
206号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	107号住居跡と重複
207号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	PL.33	PL.53	縄文中期	161号土坑跡と重複
208号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	
209号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.33	—	不明	168号土坑跡と重複
212号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.34	—	不明	
221号土坑跡	一覧表	全体図	P88・89	P90	PL.29	PL.53	縄文中期	113号住居跡他と重複
225号土坑跡	一覧表	全体図	P87・88	P90	PL.34	PL.53	縄文中期	
227号土坑跡	一覧表	全体図	P87・88	P90	PL.34	PL.53	縄文中期	228号土坑跡と重複
228号土坑跡	一覧表	全体図	—	—	PL.34	—	不明	227号土坑跡と重複
232号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	PL.34	PL.53	縄文中期	



遺構別掲載頁一覧

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
234号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.34	PL.53	縄文中期	
238号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.29	-	不明	113号住居跡と重複
246号土坑跡	-	-	-	-	-	-	縄文中期	「3号炉跡」に名称変更
247号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.34	-	不明	
254号土坑跡	一覧表	P83	P83	P83	PL.35	PL.52	縄文中期	
255号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.34	PL.53	縄文中期	
260号土坑跡	一覧表	全体図	P87・88	P90	PL.36	PL.53	縄文中期	
263号土坑跡	一覧表	全体図	P88・89	P90	PL.36	PL.53	縄文中期	279号土坑跡と重複
268号土坑跡	一覧表	P84	P84	P84	PL.36	PL.52	縄文中期	
269号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.36	-	不明	2号竪穴状遺構跡と重複
270号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.36	-	不明	2号竪穴状遺構跡と重複
271号土坑跡	一覧表	全体図	P87	P90	PL.36	PL.53	縄文中期	2号竪穴,351号土坑と重複
276号土坑跡	一覧表	P86	-	-	PL.36	-	不明	
279号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.37	-	不明	116号住居,263号土坑と重複
280号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.37	-	不明	
281号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.37	PL.53	縄文中期	
283号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.37	-	不明	
284号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	-	-	不明	
285号土坑跡	一覧表	全体図	P88	P90	PL.37	PL.53	縄文中期	290号土坑跡と重複
286号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.37	-	不明	287号土坑跡と重複
287号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.37	-	不明	286号土坑跡と重複
290号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.37	-	不明	285号土坑跡と重複
297号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	PL.38	PL.53	縄文中期	
298号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	299・300号土坑跡と重複
299号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	298号土坑跡と重複
300号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	298・301号土坑跡と重複
301号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	300号土坑跡と重複
306号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	
307号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	
308号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.38	-	不明	
309号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	
310号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	
320号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	95号住居跡と重複
321号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	
323号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	
324号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	
350号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	PL.40	PL.54	縄文	袋状土坑。137土坑と重複
351A号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	112・271号土坑跡と重複
354B号土坑跡	一覧表	全体図	P87~89	P90	-	PL.53・54	縄文中期	
355B号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.39	-	不明	
357A号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	110号土坑跡と重複
358A号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	PL.41	PL.54	縄文	104・105号土坑跡と重複
359B号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	
360B号土坑跡	一覧表	全体図	P89	P90	-	PL.54	縄文	
367A号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	95・96号住居跡と重複
368号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	-	-	不明	
369A号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	113号土坑跡と重複
391号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	
392号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	
393号土坑跡	一覧表	全体図	-	-	PL.41	-	不明	

その他

遺構名	本文	遺構実測図	遺物実測図	遺物観察表	遺構写真	遺物写真	遺構時期	備考
1号炉跡	P73	P73	P73・74	P74	PL.23	PL.51	縄文中期	旧115号住居、198号土坑
3号炉跡	P74	P74	P74	P74	PL.23	PL.51	縄文中期	旧246号土坑跡



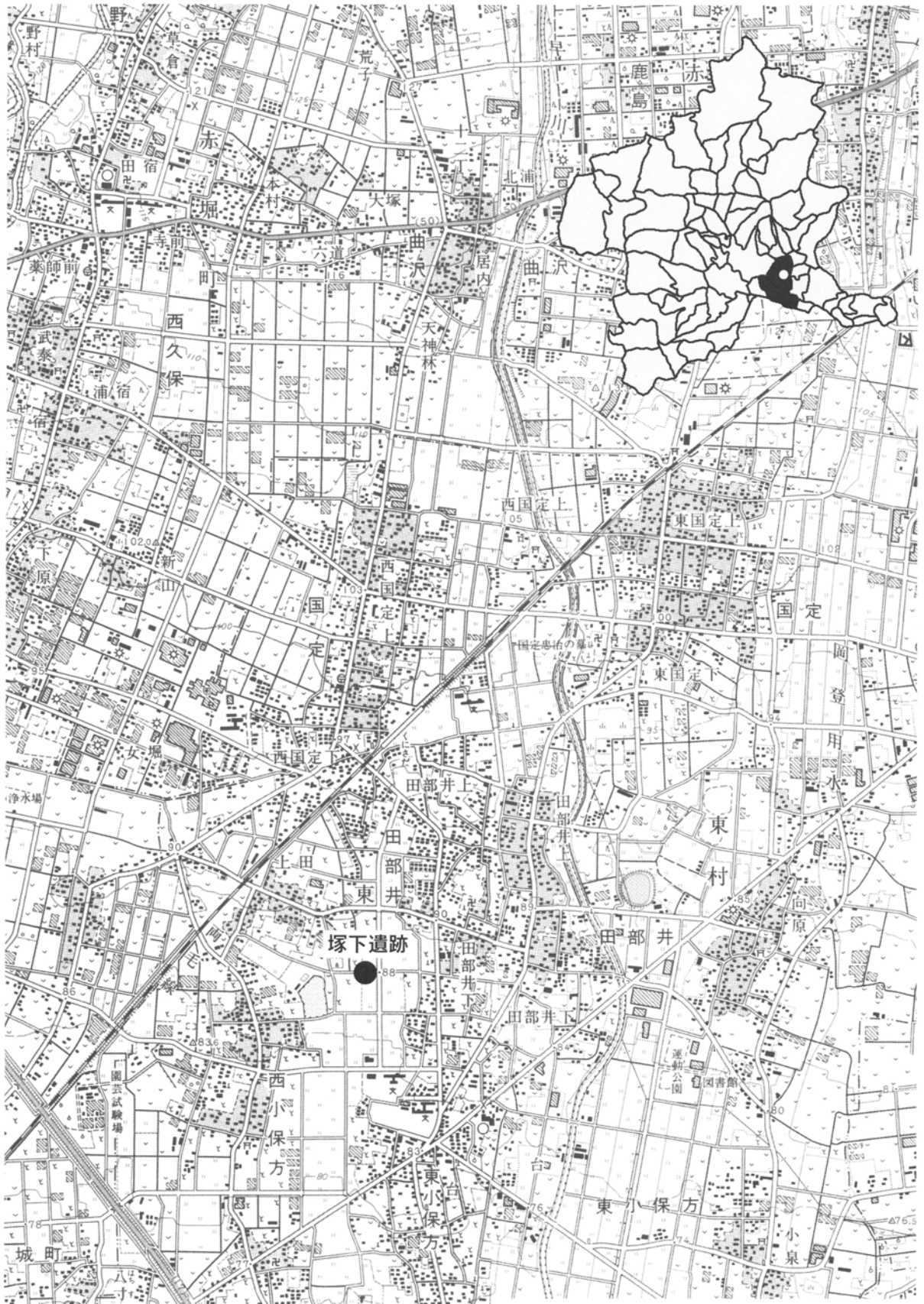
# I 発掘調査の概要

## 1 調査に至る経過

北関東自動車道（高崎水戸線のうち）の計画は、高崎・伊勢崎間14.9kmの現地調査を終了し、伊勢崎・群馬栃木県境間17.7kmについて発掘調査が開始されたのは平成12年度である。伊勢崎から岩舟間の建設事業に先立ち、埋蔵文化財発掘調査が行われるまでには、平成8年道路公団高崎工事事務所より伊勢崎以東の埋蔵文化財分布状況の問い合わせに応じ、計画路線周辺の各市町の遺跡分布図を提示した。群馬県教育委員会は埋蔵文化財分布状況の詳細確認を行うため、沿線の伊勢崎市・佐波郡東村・新田郡藪塚本町・太田市の2市1町1村に協力要請を行い遺跡の確認作業に入った。伊勢崎-県境間の建設に伴い計画路線に関わる埋蔵文化財発掘調査について、群馬県教育委員会スポーツ文化部文化財保護課、県土木部道路建設課高速道路対策室、日本道路公団と協議した結果、本線部分の発掘調査及び側道部分で県道についての発掘調査は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。平成12年8月から現地調査は開始された。

塚下遺跡は佐波郡東村大字上田地区に所在する。塚下遺跡は群馬県教育委員会の試掘調査の結果、古墳・奈良・平安時代の集落遺跡と、縄文土器の包含層を中心とした遺跡であることが判明しており、全面が調査対象地となった。本線部分の調査とほぼ同時期に県側道である、一般県道香林西国定伊勢崎線地方特定整備事業（北関東自動車道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査）も進めることとなった。このため、調査の効率化・経費の削減・安全対策等勘案し、用地の引渡しを受けた調査対象地は本線と側道が同時に調査を進めることができるよう各機関に協力を求めた。その結果、各機関で検討していただき承諾を得ることができた。これにより、近接して調査を行っていた遺跡から相次いで旧石器の出土報告があったが、集落の調査を行いながら、遺構の無い部分にトレンチを入れ、文化層の確認を行ったところ、同一地形面から構成されている本遺跡にも旧石器の確認ができた。本線と側道の調査範囲を広く確保できたことにより、計画的に旧石器の調査まで終了させることができた。本線部分は平成13年8月1日から平成14年7月31日、側道部分は平成13年3月30日から平成14年9月30日までの期間で調査を実施した。報告書作成についても、資料として使い易く、効率的な整理期間と経費削減を目標として、各機関と協議し、承諾を得て事業実施を行ってきた。

(上席専門員 相京建史)



塚下遺跡位置図

S=1:25,000

国土地理院 1:25,000 地形図「大胡」・「桐生」



## 2 調査の方法と経過

北関東自動車道塚下遺跡は、本線部と側道部を同時に調査した。調査区は、本線部が現道を境界として1～4区、側道部も同様に1・2区に設定した。遺構番号は遺構ごとに本線と通しの番号をふった。平成13年8月から本線部の調査に入り、3区、4区、2区、1区の順に調査を進めた。側道部は平成14年の1月から開始した。表土は重機で掘削し、その後人力により遺構確認、遺構掘削、写真撮影、測量を順次行い調査を進めた。遺構の全容が把握できたところで航空写真撮影を行うこととした。1区の古墳時代以降の遺構から調査し、2月からは2区も調査を開始した。2月28日には本線部とともに航空写真撮影を行った。古墳時代以降の遺構は、3月中に大部分が終了した。縄文時代の遺構は確認面が古墳時代以降の遺構と同じため、3月からは、縄文時代の遺構の調査も並行して行った。さらに、3月後半には、1区の一部で旧石器試掘も行った。旧石器の試掘は、10×10m方眼内に5×2mのトレンチを1ヶ所ずつ入れた。

平成14年度は、まず、1区・2区の縄文時代の遺構を中心に調査を行った。そして6月6日に本線部とともに航空写真撮影を行った。その後1区の旧石器試掘を並行して行ったが、本線部を中心として剥片等の遺物が出たため、出土したトレンチの周辺を広げて旧石器の調査を行ったところ、石器、剥片等が100点以上出土した。調査は8月末まで継続した。

6月後半からは、現在使用中の道路下のため調査できなかった部分の調査を開始した。重機で表土を掘削し、他の調査区と同様に遺構の調査を行い、7月24日に航空写真撮影を行った。8月後半からは、現道下の調査と並行して2区の縄文包含層および旧石器試掘を行ったが、旧石器の遺物等は出土しなかった。9月上旬からは、現道下で残っていた部分の調査を行い、9月24日に調査を終了した。

(主任調査研究員 新井 仁)

### 調査日誌抄録

#### 平成13年度

08/01 調査開始。本線部調査担当=大西・津島・小室・斉藤  
08/02 3区 重機による表土掘削～遺構確認開始  
08/06 3区 住居跡(1号住居跡～)調査開始  
08/21 台風襲来  
09/25 4区 重機による表土掘削～遺構確認開始  
10/01 本線部調査担当=本間・笹沢  
10/04 4区 住居跡等(34号住居跡～)調査開始  
10/11 4区調査と並行し1・2区表土掘削を開始  
10/24 2区 遺構調査開始  
11/13 1区 遺構調査開始  
11/20 4区 遺構調査終了  
12/21 年内作業を終了  
01/08 本線部作業再開。調査担当=笹沢  
01/08 側道部 重機による表土掘削作業開始。調査担当=本間  
01/10 伊勢崎土木事務所打合せ  
01/18 航空写真撮影  
01/23 1区調査と並行し4区 旧石器試掘調査開始  
02/01 本線部調査担当=新井・土谷  
側道部調査担当=笹沢・本間  
03/18 1区 旧石器試掘調査開始  
03/28 年度内作業を終了

#### 平成14年度

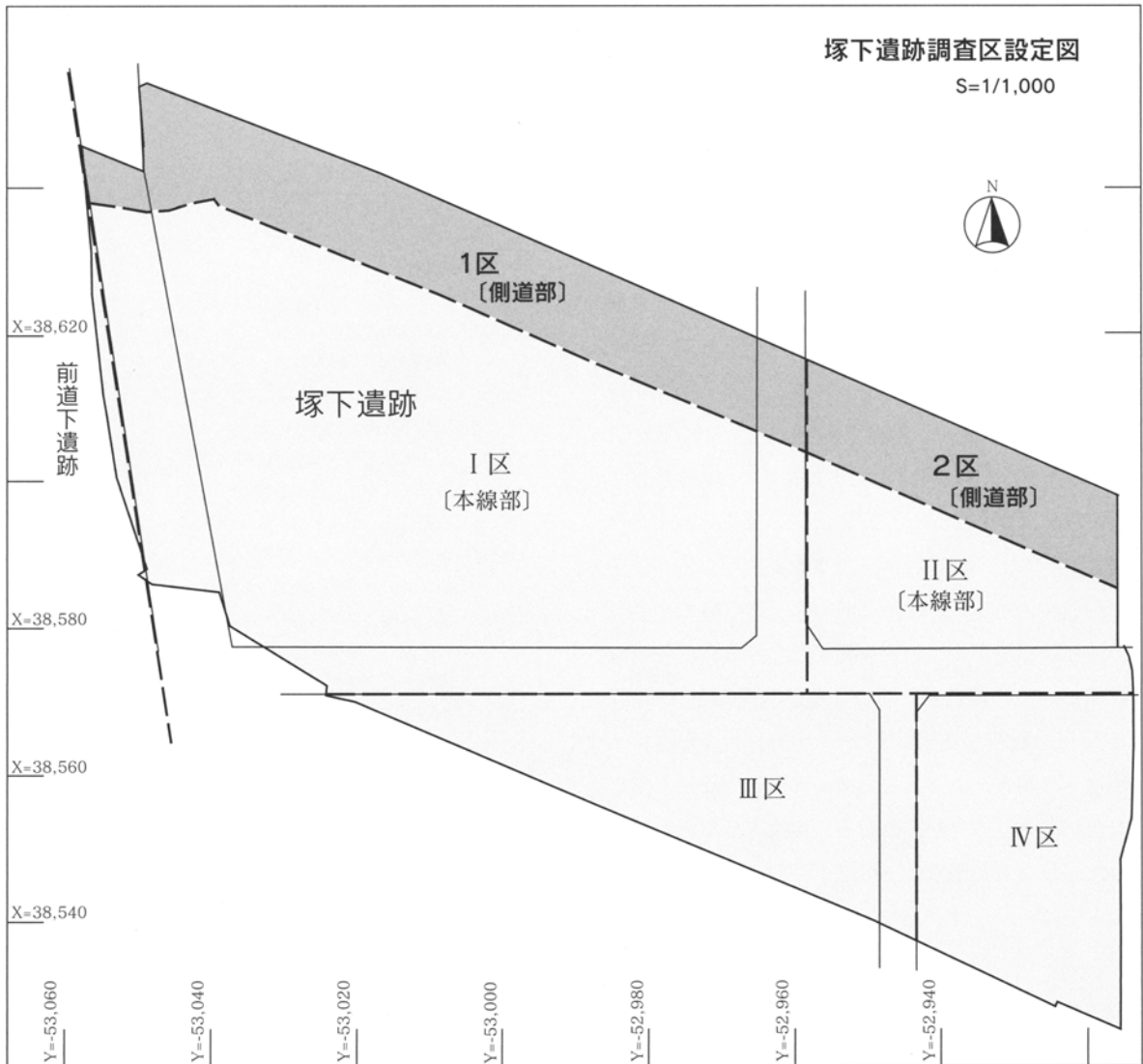
04/01 本線部調査担当=新井・土谷・石坂  
側道部調査担当=新倉  
04/08 作業開始。1・2区 縄文時代遺構調査  
05/22 3区 旧石器試掘調査開始  
05/28 県土木部と側道部調査について打合せ  
06/01 コンサルタント菊池氏属  
06/04 道路公団・県土木部・JV・事業団調整会議  
06/04 前道下遺跡発掘調査準備  
06/06 1～3区 航空写真撮影。1区 旧石器試掘調査開始  
06/19 調査区内道路下調査のため、重機による表土掘削開始  
06/28 旧道路下、遺構確認～調査  
07/11 調査事務所移転  
07/16 台風襲来、調査区水没  
07/24 航空写真撮影  
08/21 2区 縄文包含層調査開始  
08/26 2区 旧石器試掘調査開始  
08/27 1区 旧石器試掘調査終了～埋め戻し  
09/04 調査区内道路下調査のため、重機による表土掘削開始  
09/12 2区 旧石器試掘調査終了～埋め戻し  
09/24 調査終了、引き渡し

### 3 調査区の設定

発掘調査を進める上で、調査現場に於いて便宜的に調査区を設定した。設定に当たっては、下掲図のように調査範囲内を縦横に走る現有道(町道)を境として、県側道部を西側からアラビア数字を用いて1区・2区に、本線部はローマ数字を用いてⅠ～Ⅳ区に分割した。県側道部分の1区と本線部Ⅰ区、県側道部の2区と本線部Ⅱ区が相対して接する。調査最終段階において現道路下の調査を行った際に、一部において「1区-2」等の枝番号を用いた。

グリッドの設定については、隣接する北関東自動車道関連等の諸遺跡との位置的な整合性を保つために、国家座標軸第Ⅸ系を用い、調査時の平面測量等を行った。名称には一般的なグリッド呼称に用いられるようなアルファベットと数字の組み合わせを用いず、X・Yの座標値をそのまま用いて位置の呼称とした。また、調査時に任意の範囲内において遺物を取り上げる等の必要が生じた場合は、範囲の対角線2点の座標値を並記することでその範囲を示した。

上記の調査区については、発掘調査時においてのみ用い、遺物注記や遺構測量原図等にその名称が残るものの、本報告時には区分する必要があるために調査区番号の表記はしていない。



## 4 遺構名称

発掘調査時における遺構名称の付与に際しての約束事としては、遺構種別を表すための SJ・SK・SD 等のアルファベットを用いた略号は使用せず、○号住居跡・○号土坑跡・○号井戸跡・○号溝跡などの名で呼称し、出土遺物の注記に際しては○住・○土・○溝と略してこれを記すこととした。

また、遺構番号については、側道部・北関東自動車道本線部の各調査区を通して、遺構種ごとに通番を付与した。

上記の検出遺構の名称については、本報告時においても遺構測量原図や出土遺物注記との整合性を保つために、原則として発掘調査段階で付与した呼称を踏襲した。発掘調査時に誤って重複した同一番号を付してしまった遺構については、整理作業時において、番号末尾にアルファベット(例=368A・368B 号土坑跡など)を付記してユニーク性を保った。同様に整理作業時において検討の結果、遺構種別や名称そのものに変更を加えたものについては、本文内や「遺構別掲載頁一覧」の備考欄内に旧名称を記した。

## 5 調査の手順

発掘調査時における表土の除去作業では、試掘調査の結果に基づき、遺構確認面と判断された深度まで大型掘削機械を用いて表土の除去を行った。調査範囲内を縦横に走る現有道については、周辺住民の生活道として不可欠であり、寸断が難しいことから、現有道周辺部分の調査終了後に迂回路を設置して道路下の調査を改めて行った。このため、現有道にかかる遺構については、全景写真等が分割された形となった。

表土の除去後、調査区内に平面図等の記録用測量杭を前述の国家座標軸に沿って打設し、併せて水準杭も数ヶ所設けた。

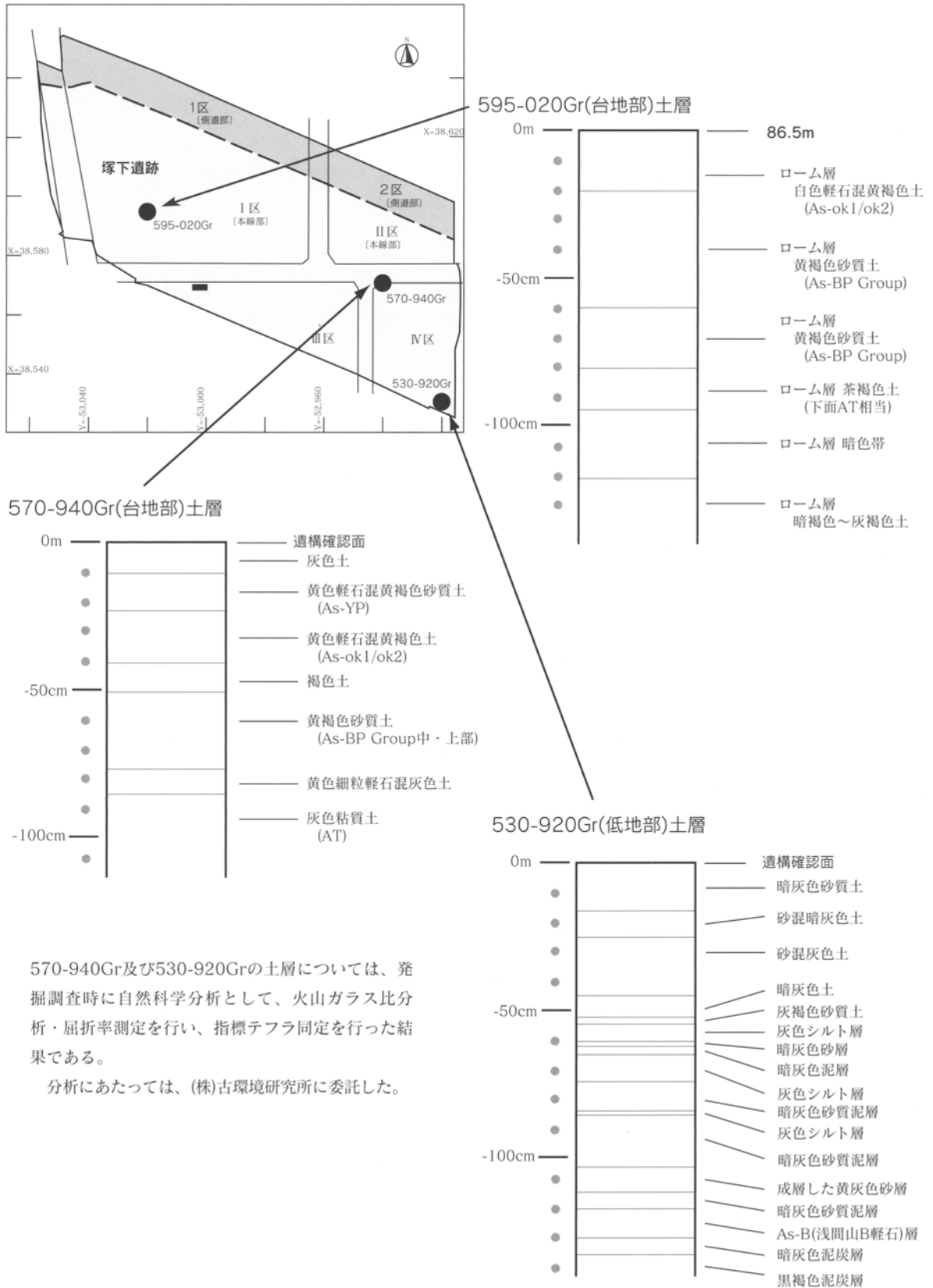
遺構確認面での検出作業後の遺構の掘削に際しては、埋没土の観察用断面をベルト状に残して掘削を行い、掘削途上で出土した遺物については、遺構の時期や性格を判別するにいたる遺物を残し、遺構単位で取り上げを行った。

遺構の記録測量については、原則として竪穴住居跡・井戸跡・土坑跡・掘立柱建物跡の平面図化を 1/20 縮尺で、溝跡および土坑群・pit 群の平面図化を 1/40 縮尺で、竪穴住居跡竈部の平面図化を 1/10 縮尺でそれぞれ主に電子測量機器を用いて行った。また、遺構断面および埋没土層断面については、原則として平面図と同縮尺にて主に手実測での図化を行った。

遺構の記録写真の撮影については、6×6・6×7 判中型カメラと 35mm 一眼レフカメラを用いてモノクロ写真撮影を、35mm 一眼レフカメラでカラーリバーサル写真の撮影を行った。撮影に用いたフィルムの感度は機動性を重視し、モノクロについては ISO400 を、リバーサルについては ISO200 を主に用いた。また、高高度よりの遺跡全体写真の撮影にはラジコンヘリコプターを用いた遠隔撮影を専門業者に委託して行った。

出土遺物については、調査現場において付着土の洗浄後、遺跡名・遺構名・取り上げ番号を水性白色顔料並びに黒色顔料を用いて注記を行った。

## 6 基本土層



570-940Gr及び530-920Grの土層については、発掘調査時に自然科学分析として、火山ガラス比分析・屈折率測定を行い、指標テフラ同定を行った結果である。

分析にあたっては、(株)古環境研究所に委託した。

## II 周辺の環境

### 1 地理的環境

塚下遺跡は、大間々扇状地のⅠ面(桐原面)上に位置する。(次頁の位置図参照)

大間々扇状地は、渡良瀬川が足尾山地を流れ出る谷口にあたる大間々町(標高約200m)を扇頂とし、西は赤城火山南東斜面、東は八王子丘陵・金山丘陵を限りとする東西約14km、南北約16kmに及ぶ関東地方で三番目に大きな扇状地である。大量の砂礫を堆積させた渡良瀬川は、その後に現在の河道へと移動したため、扇中央部には河川がなく乾燥した土地となった。一方、基盤層である厚い砂礫層を流れ伝わる地下水や扇状地上に降った雨水は浸透し、扇端部で湧水として湧出する。この湧水点を源として小河川が生まれ、南側の利根川に沿って帯状に形成された自然堤防との間に沖積低地を形成した。

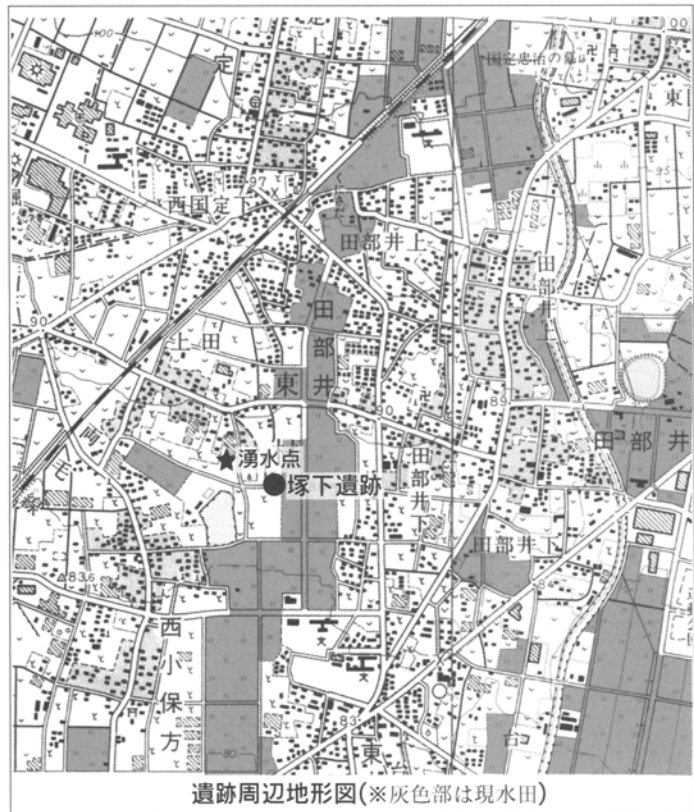
この大間々扇状地は、早川を境として形成時期を異にする新旧二つの地形面からなり、その様相も大きく異なる。早川より西側の赤城山南麓地域であるⅠ面(桐原面)は約50,000年前に形成され、早川より東側から八王子丘陵までのⅡ面(藪塚面)は約13,000年前に形成された。本遺跡の立地するⅠ面(桐原面)は、形成時期が古いため開析谷が深く樹枝状に侵食し、Ⅱ面とは様相を異にする。遺跡の位置する標高85~90m地点には、等高線に沿うように湧水池が数多く点在し、この湧水点より流れ出た水がそれぞれ細長い谷を形成する。この湧水点の存在が遺跡の立地条件として重要となる。

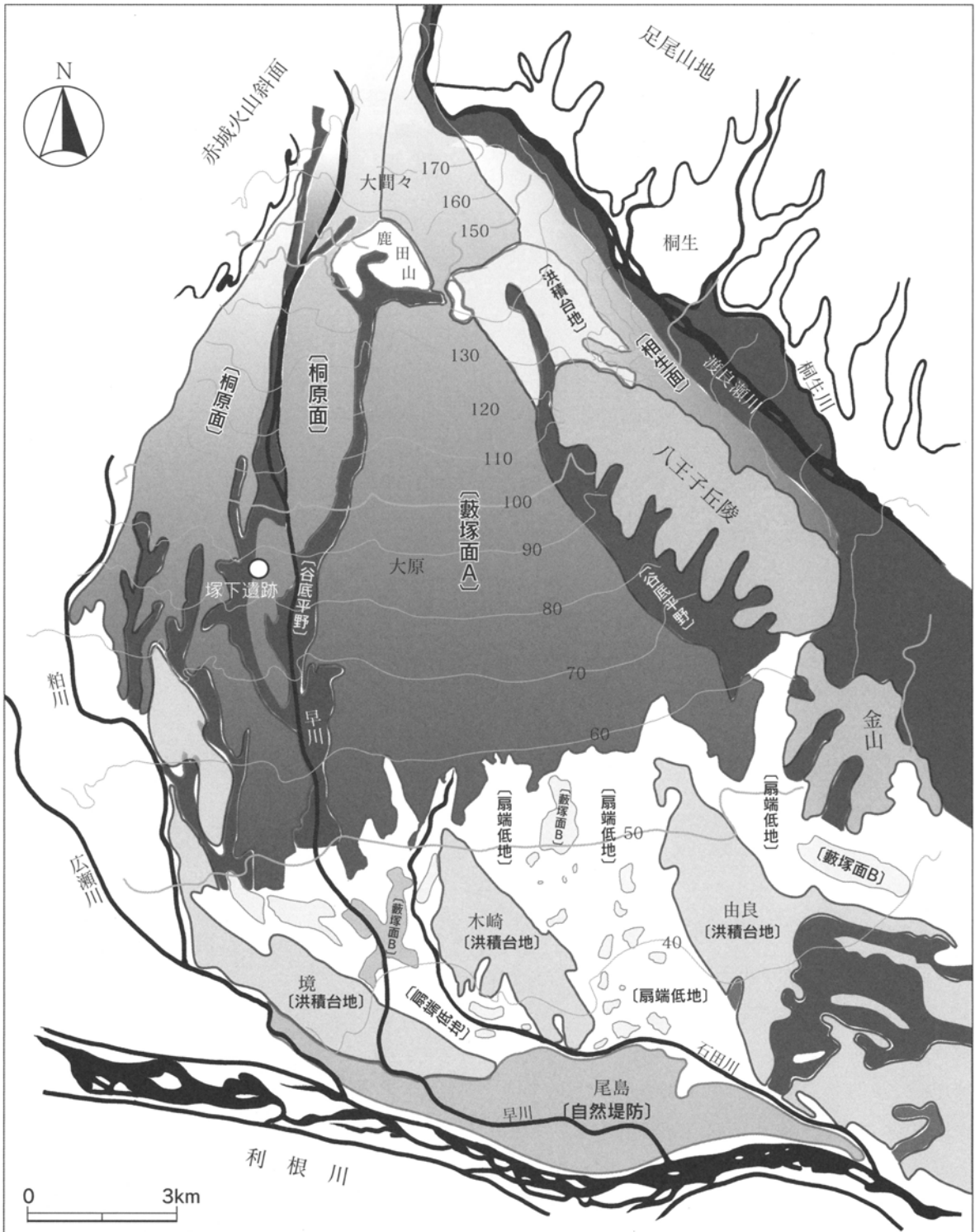
現存する湧水点としては、遺跡の西1km弱の地点に「あまが池(天ヶ池・尼が池)」が存在するが、北関東自動車道の建設に伴う一連の発掘調査においても幾つかの湧水点が検出されている。代表的なものとしては、三和町工業団地遺跡(11頁No.5)・大井戸遺跡において検出された「大井戸(男井戸)」、舞台遺跡において検出された

「角弥(かけや)清水」・「谷地清水」などで、それぞれ縄文時代より存在し、昭和期の圃場整備(農地改良)事業以前までは豊に湧き出でる水が農業用水として利用されていたものである。

本遺跡に最も近い湧水点としては、西に隣接する前道下遺跡の県側道部の発掘調査において、小さな湧水点が検出された。その位置は調査区の北東端部、すなわち本遺跡の北西端部より10mほどの近い位置となる。(右図★印) この湧水点を起源とし南側に形成された谷が、本遺跡で検出された集落跡の西境となっている。

また、遺跡東側は北よりのびる谷に接し、調査区の側道2区(本線Ⅱ区)東半より緩やかに下る。この谷と湧水点から発する小開析谷とが遺跡南方で相結ぶため、遺跡は舌状の台地上に位置することとなる。





大間々扇状地と塚下遺跡

## 2 歴史的環境

本報告書の刊行時にあつては伊勢崎市に合併となった旧佐波郡東村は、明治22年の町村制再編に伴って、旧来の東国定・西国定・田部井・小泉・東小保方・西小保方の村々の合併により生まれた村であり、その新名称の決定に際しては、ひとつに佐波郡内の東部に位置していること、併せて村内北部を東西に通る「あづま道・東山道」にちなんで「東村」と命名された、と『東村誌』は記す。

**交通の要衝** あづま道は古代東山道駅路の名残りとも言われ、京の都から奥州平泉に通じる中世鎌倉～室町時代の幹線道である。群馬県内に残るあづま道に関わる資料のうち、絵画資料として寛文9(1669)年「上野国新田領鹿田村と阿左美村藪塚村野境論之事」絵図に記された「阿津間道」、寛文11(1671)年「上野御新田開発計画絵図」に記された「我妻海道」、元禄10(1697)年「上野国新田郡笠懸野御新田絵図」に記された「吾妻道」、天保14(1843)年「飯土井村絵図」に記された「吾妻道」などがあり、また、石造物としては前橋市天川大島所在の宝暦3(1753)年銘の道標に記された「あつ満道」、太田市(旧藪塚本町)大原字上西所在の天保4(1833)年銘の道標に記された「阿津ま道」などが残る。

本遺跡周辺にも古くからあづま道の通過点として知られる「六道の辻」が在り、二基の道標が現存する。道標は県道の拡幅に伴い北へ6メートル程移設された位置に現存し、共に六角柱形を呈する。元禄10(1697)年造立の小型の道標には「南 平つか通 いせさき通、西 ニノミヤ通 あ寿ま 大原通、東 くわんおん通 かのえくよう奉納、元禄十丑年 上田村」と記され、また、天明元(1781)年の造立となる大きい方の道標は、台座を有し、「南 秩父 中せ くまかい通、伊勢崎 たかさき起通、西国 ニノ宮 前はし通、北 赤城 湯のさわ通、四国 きりう 大間々通、坂東 丹つ多 足利通、奉納 供養 天明元辛丑十月 日 施主 源内 同 政右エ門 同 源六」と記す。いずれも銘文中に「奉納・供養」の文字が見られるのは、石柱が道標の機能を持つと共に、六道＝「地獄道・餓鬼道・畜生道・阿修羅道・人間道・天道」、六道の辻＝現世と冥界の境、という仏教信仰にかけて造立されたためである。

この道標の存在でわかるように、この地が北東へと向かう「あづま道」のみならず、武蔵へと向かう熊谷道、西は前橋・高崎、北は赤城・大間々・桐生、東は新田・下野足利へと、古来より交通の要衝であったことがうかがえる。また、銘文中に見える「平つか」は世良田平塚の河岸への道であることを示し、足尾銅山からの「かしけえど」＝河岸街道、足尾産出銅の搬出経路として重要であった。このことは、この上田村が石高がわずか百石であるにも関わらず、江戸時代をとおして天領とされていることから、如何に重要視されていたかが解る。

しかしながら、残る絵図や道標などの資料に残るあづま道は、近世に至ってのものであり、中世幹道ましてや古代東山道駅路の存在を示すものではない。単に東山道駅路や駅路の廃絶後もその機能を踏襲した中世道・近世道「あづま道」との推論であったが、平成13年、この「六道の辻」の北1kmの地点でJR国定駅南口整備事業に伴い発掘調査された田部井大根谷戸遺跡(11頁図No.12)から、路面巾3.2m、側溝巾0.8～1.2m、検出全長23.9mを測る道路跡が検出された。この道路跡の最古路面が天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴う火山灰(As-B)降下から時間経過の少ない段階で構築されていることから、中世道路跡、すなわち「あづま道」であろうと判断された。



この田部井大根谷戸遺跡での道路遺構の発見によって、少なくとも中世幹道としての「あづま道」の存在が明らかとなり、この地が歴史的に古代には至らずとも中・近世には交通の要衝であったことが確かとなった。

**水 利** 地理的環境でも述べたように、遺跡は大間々扇状地上に位置し、遺跡周辺の水系は唯一の河川である早川のみであり、これに加えて付近に点在する湧水点に端を発する小開析谷を流れる水が周辺の水利となっていた。しかし、早川と湧水を水源とする水田は、明治43年調べの段階でも旧東村水田総面積の一割に過ぎず、また、早川を流れる水も渇水期や田植えの時期には水が少なく、過去に水争いが絶えなかったと伝えられる。そのため、遺跡周辺には天神沼・西小保方沼・五反田沼・陣屋沼・御手洗沼・磯沼などの溜井が点在し、不足する農業用水を補っている。

－女堀の開削－ 前橋市上泉町の桃の木川(旧利根川)を取水源とし、赤城南麓を西から東へと東山道駅路に沿うように開削された壮大な用水路跡である女堀。掘削年代は調査の結果、掘削排土下に検出された排土運搬路下より天仁元(1108)年に噴火の浅間B軽石(As-B)が確認されたことから12世紀中頃に判明し、併せて計画区域の全線を同時着工されていることも判明した。巾12～20m、深さ3～5mを測り、全長は12.75km、本遺跡の北方1km弱の西国定付近で消失する。中世淵名荘への通水を目的とした用水路と推定されるが、溝の底面に掘削途中の痕跡を残し、通水されず完成直前で中断・放置されたことが判明した。未完成の要因として、経路途上で荒砥川・神沢川・桂川・粕川を渡ること、始点と終点の標高差がわずか4m程であることなどが挙げられている。

－岡登用水の開削－ 大間々扇状地の水田開発用の灌漑用水路として代官岡上治郎兵衛景能により寛文4(1664)年～同12年にかけて開削される。取水口は渡良瀬川の桐生市相生町付近と推定され、当初は笠懸野(現みどり市笠懸町)一帯の荒地の新田開発を主目的とするが、水利権の関係で取水期を制限された上に、暑い土地を流れるが故に通水途中で地下浸透が著しいなど、思うような水利が得られず廃絶となる。

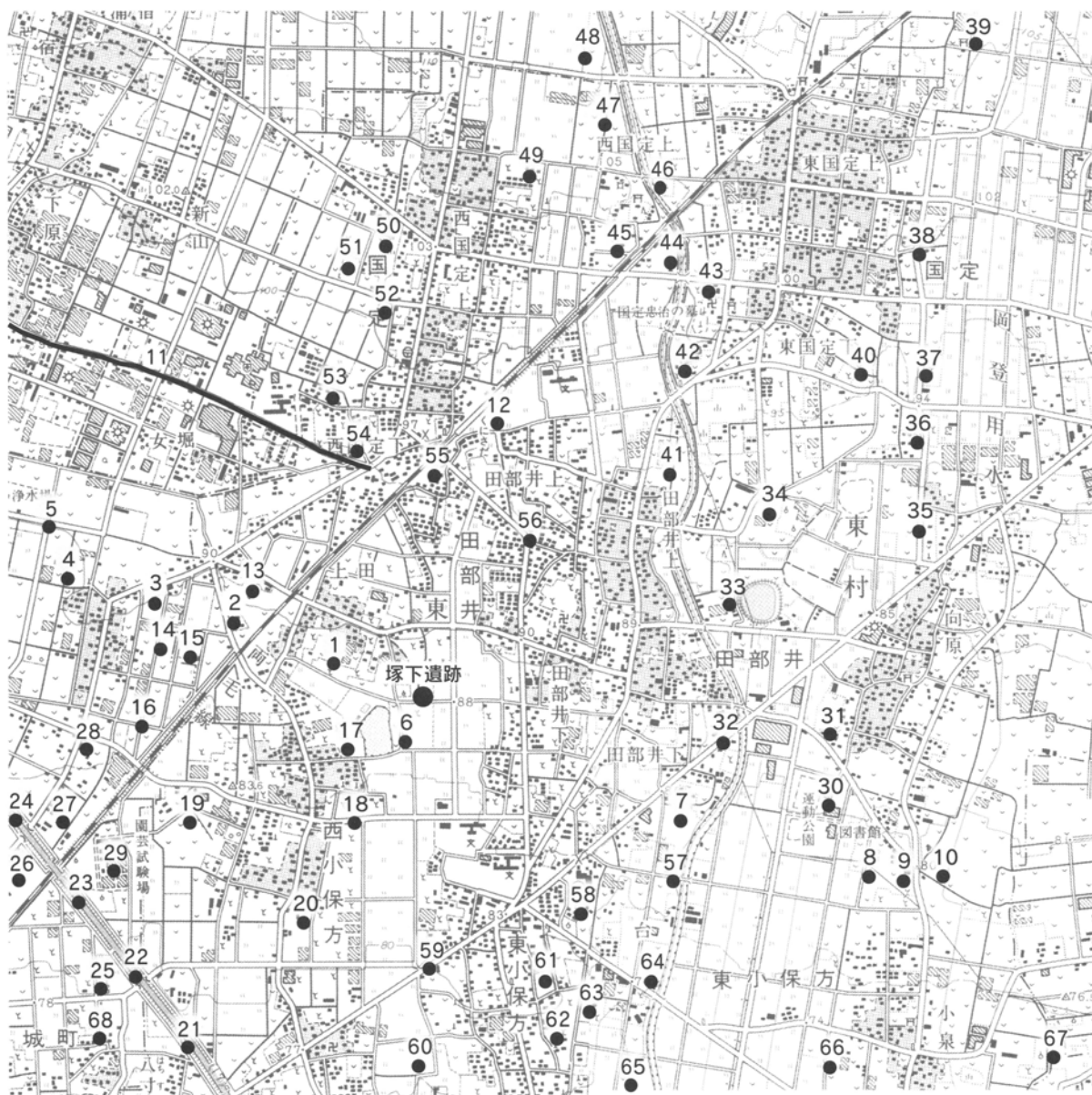
180年後の安政3(1856)年に幕府あて復興願が出され、取水口の変更や幾度もの改修工事を経て現在に至る。

－大正用水の開削－ 赤城南麓一帯の灌漑を目的として、前橋市田口町の利根川沿い佐久発電所放水路より取水し、伊勢崎市(旧赤堀町)香林にて早川に放流する、全長約24kmにおよぶ用水路。明治32年に用水計画があがり、大正7(1918)年に県議会で可決されるものの経済的な不況で延期、昭和19(1944)年に着工し同27(1952)年に完成、その後改修を繰り返し現在に至る。

上記の三つの用水路開削は、赤城南麓を舞台とした中世以降の水田の復興や新田開発の歴史であると共に、失敗の歴史でもある。「女堀」が目指した「大間々扇状地の潤れた土地に利根川の豊富な水を通水する」という壮大な計画は、800年後の昭和に至ってようやく達成し得たほど困難な事業であった。

その間の水利は、現在でも遺跡周辺に点在する湧水や溜井よりの水に頼るしかなく、逆に考えれば乏しいながらも安定供給されていたとも言えよう。女堀計画にみられる火山災害耕作地の復興と荘園領地拡大に伴う新田開発、また、周辺諸遺跡で断片的に検出されている律令期の溝跡などの耕地拡大を目的とした新田開発以前の旧態水田では、この湧水や溜井よりの水を如何に利用するかが本遺跡周辺地域の水田を維持する鍵であったと推察される。

以上、交通と水利の活用の歴史こそが、本遺跡周辺地域の歴史的環境とも言えよう。



周辺遺跡位置図

S=1:25,000

国土地理院 1:25,000 地形図「大胡」 「桐生」

- |              |             |              |               |           |
|--------------|-------------|--------------|---------------|-----------|
| 1:前道下遺跡      | 15:大道遺跡     | 29:園芸試験場第二遺跡 | 43:東村52~55号墳  | 57:根性坊遺跡  |
| 2:大上遺跡       | 16:下書上遺跡    | 30:東村56号墳    | 44:天神前Ⅱ遺跡     | 58:野間遺跡   |
| 3:天ヶ堤遺跡      | 17:溜井上遺跡    | 31:向原遺跡      | 45:天神前Ⅰ遺跡     | 59:下柳沢遺跡  |
| 4:書上遺跡       | 18:上慶本遺跡    | 32:田部井遺跡     | 46:曲沢Ⅱ遺跡      | 60:寺東遺跡   |
| 5:三和町工業団地遺跡  | 19:中西原遺跡    | 33:天神沼Ⅰ遺跡    | 47:曲沢Ⅰ遺跡      | 61:上中西Ⅰ遺跡 |
| 6:塚下遺跡       | 20:八幡付遺跡    | 34:天神沼Ⅱ遺跡    | 48:曲沢遺跡       | 62:下中西Ⅰ遺跡 |
| 7:下元屋敷遺跡     | 21:八寸大道上遺跡  | 35:西磯遺跡      | 49:開発遺跡       | 63:上中西Ⅲ遺跡 |
| 8:下田遺跡       | 22:書上上吉祥寺遺跡 | 36:磯沼遺跡      | 50:独古田Ⅰ遺跡     | 64:上中西Ⅱ遺跡 |
| 9:南原間遺跡      | 23:書上上原之城遺跡 | 37:水殿遺跡      | 51:東村51号墳     | 65:下中西Ⅱ遺跡 |
| 10:下大久保遺跡    | 24:書上本山遺跡   | 38:見取遺跡      | 52:独古田Ⅱ遺跡     | 66:東村1号墳  |
| 11:女堀遺跡      | 25:原之城遺跡    | 39:二本松稲荷     | 53:金堀塚、東村漏3号墳 | 67:遠北古墳   |
| 12:田部井大根谷戸遺跡 | 26:天野沼遺跡    | 40:諏訪原遺跡     | 54:東村49号墳     | 68:渡利遺跡   |
| 13:六道遺跡      | 27:書上古墳群    | 41:東ノ宿遺跡     | 55:東村48号墳     |           |
| 14:天ヶ堤遺跡     | 28:書上遺跡     | 42:諏訪山遺跡     | 56:北西山遺跡      |           |

## 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡概要・調査履歴	主な文献
1	前道下遺跡	伊勢崎市上田町 (旧 佐波郡東村大字上田)	北関東自動車道関係 事業団調査 旧石器、縄文時代集落、古墳時代～奈良・平安時代集落	事業団『年報22』2003年 他
2	大上遺跡	伊勢崎市小保方町 (旧 佐波郡東村大字小保方)	北関東自動車道関係 事業団調査 旧石器、縄文時代集落	事業団『年報22』2003年 他
3	天ヶ堤遺跡	伊勢崎市三和町	北関東自動車道関係 事業団調査 旧石器、縄文時代集落、古墳時代集落、平安時代掘立柱建物	事業団『年報22』2003年 他
4	書上遺跡	伊勢崎市三和町	北関東自動車道関係 事業団調査 旧石器、古墳時代集落 側道部伊勢崎市教育委員会調査(天ヶ堤Ⅳ・書上Ⅱ)	事業団『年報22』2003年 他
5	三和町工業団地遺跡	伊勢崎市三和町	1995～97年度事業団調査 旧石器、古墳、奈良・平安集落 以後、伊勢崎市調査会調査 縄文、古墳(周溝墓群)他	事業団報告書第246集『三和町工業団地Ⅰ遺跡(1)』他
6	塚下遺跡	伊勢崎市上田町 (旧 佐波郡東村大字上田)	1980年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0030 縄文、古墳、奈良・平安時代	
7	下元屋敷遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	北関東自動車道関係 事業団調査	事業団調査報告書第362集 『下元屋敷遺跡』
8	下田遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	北関東自動車道関係 事業団調査	事業団『年報22』2003年 他
9	南原間遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	北関東自動車道関係 事業団調査 市町村遺跡No.0054(鉄滓散布) 側道部東村遺跡調査会調査	事業団『年報22』2003 『南原間・下大久保遺跡』
10	下大久保遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	北関東自動車道関係 事業団調査 側道部東村遺跡調査会調査	事業団『年報22』2003 『南原間・下大久保遺跡』
11	女堀遺跡	前橋市上泉町 ～伊勢崎市西国定町	市町村遺跡No.0206 国史跡 全長13km中世初期用水路	『女堀』1984 他
12	田部井大根谷戸遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	JR両毛線国定駅南口整備事業に伴い事業団調査 奈良・平安時代集落・大溝、中世あづま道	事業団調査報告書第305集 『田部井大根谷戸遺跡』2002
13	六道遺跡	伊勢崎市上田町 他 (旧 佐波郡東村大字上田)	1976年度東村教育委員会調査、市町村遺跡No.0056 縄文時代中期集落	
14	天ヶ堤遺跡	伊勢崎市三和町	1977年度・1998年度伊勢崎市教育委員会調査 No.0077 縄文時代前期、古墳時代前期～後期、奈良・平安時代集落	『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』1978
15	大道遺跡		縄文時代前期集落	
16	下書上遺跡		奈良・平安時代	『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』1978
17	溜井上遺跡	伊勢崎市西小保方町 (旧 佐波郡東村大字西小保方)	市町村遺跡No.0028 縄文時代中期集落	
18	上慶本遺跡	伊勢崎市西小保方町 (旧 佐波郡東村大字西小保方)	1980年度東村教育委員会調査、市町村遺跡No.0008 古墳時代前期・後期集落	
19	中西原遺跡	伊勢崎市西小保方町 (旧 佐波郡東村大字西小保方)	1968年・1995～97年度東村教育委員会調査 No.0038 縄文時代中期集落、古墳時代後期集落、平安時代集落	『東村誌』
20	八幡付遺跡	伊勢崎市西小保方町 (旧 佐波郡東村大字西小保方)	市町村遺跡No.0042 縄文時代中期、古墳、奈良・平安包蔵地	
21	八寸大道上遺跡	伊勢崎市西小保方町 (旧 佐波郡東村大字西小保方)	1982年度事業団調査、1983年度東村教育委員会調査 遺跡No.0003 縄文、古墳～奈良・平安時代集落、玉工房跡	事業団調査報告書第91集 『八寸大道上遺跡』1989
22	書上下吉祥寺遺跡	伊勢崎市三和町・豊城町	1979～81年度伊勢崎市教育委員会調査 遺跡No.0091 昭和57～59年度事業団調査 縄文、古墳、奈良・平安集落	伊勢崎市教育委員会『下吉祥寺遺跡』1983 他
23	書上上原之城遺跡	伊勢崎市三和町・豊城町	1982～84年度上武道路建設に伴い事業団調査 古墳2基、奈良・平安集落 調査時旧称は八寸B遺跡	『書上下吉祥寺・書上上原之城・上植木志町田遺跡』1988
24	書上本山遺跡	伊勢崎市三和町	1984年度上武道路建設に伴い事業団調査 旧石器、縄文、古墳、奈良・平安時代	『書上本山・波志江六反田・波志江天神山遺跡』1992
25	原之城遺跡	伊勢崎市豊城町	1981・1983～86年度伊勢崎市教育委員会調査 市町村遺跡No.0092 古墳時代豪族居館跡、奈良・平安集落	伊勢崎市教育委員会『原之城遺跡』1986 他
26	天野沼遺跡	伊勢崎市三和町	1977年度伊勢崎市教委・1978年土地改良埋文調査団調査 市町村遺跡No.0089 奈良・平安時代集落	『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』1978

番号	遺跡名	所在地	遺跡概要・調査履歴	主な文献
27	書上古墳群	伊勢崎市三和町	市町村遺跡No.0127 『上毛古墳総覧』に30基程記載 1983年度上武道路建設に伴い1・2号墳事業団調査	『書上下吉祥寺・書上上原之城・上植木壱町田遺跡』1988
28	書上遺跡	伊勢崎市三和町	市町村遺跡No.0076 上武道路部分は上記の書上本山遺跡として調査	
29	園芸試験場第二遺跡	伊勢崎市三和町	1974年度上武道路建設に伴い群馬県教育委員会調査 市町村遺跡No.0090 奈良・平安時代集落	『県園芸試験場第二遺跡下江田前遺跡』1983
30	東村56号墳	伊勢崎市 (旧 佐波郡東村)	市町村遺跡No.0154	
31	向原遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	1988、1998年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0053 縄文中期土坑群、近世溝	
32	田部井遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	市町村遺跡No.0029 中世	
33	天神沼Ⅰ遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	1985・87年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0032 縄文前期、古墳、奈良・平安時代集落、中世館跡	東村教育委員会『天神沼遺跡群』1988
34	天神沼Ⅱ遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	1986年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0033 縄文前期、古墳、奈良・平安時代集落、中世館跡	東村教育委員会『天神沼遺跡群』1988
35	西磯遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	市町村遺跡No.0039 縄文、奈良・平安包蔵地	
36	磯沼遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0002 縄文、古墳、奈良・平安包蔵地	
37	水殿遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0026 縄文、古墳、奈良・平安包蔵地	
38	見取遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0052 縄文包蔵地	
39	二本松稲荷	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0007 平安時代・近世	
40	諏訪原遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0024 縄文、奈良・平安時代	
41	東ノ宿遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	1986年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0043 縄文、古墳、奈良・平安時代	東村教育委員会『天神沼遺跡群』1988
42	諏訪山遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	1998、2002年度東村教育委員会・調査会調査 市町村遺跡No.0025 縄文包含地、平安時代集落	東村遺跡調査会『諏訪山遺跡Ⅲ』2002 他
43	東村52～55号墳	伊勢崎市 (旧 佐波郡東村)	市町村遺跡No.0150・0151・0152・0153	
44	天神前Ⅱ遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0035	
45	天神前Ⅰ遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0034	
46	曲沢Ⅱ遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	1978年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0049 縄文、古墳、奈良・平安時代	東村教育委員会『曲沢遺跡』1979
47	曲沢Ⅰ遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	1978年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0048 縄文、平安時代	
48	曲沢遺跡	伊勢崎市曲沢町 (旧 佐波郡赤堀町曲沢下田)	1977～79、87、92、98年赤堀町教育委員会調査 縄文中期～後期初頭集落 市町村遺跡No.0001	赤堀町教育委員会『曲沢遺跡発掘調査概報』1979
49	開発遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0007 縄文包蔵地	
50	独古田Ⅰ遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0036 縄文、古墳、奈良・平安包蔵地	
51	東村51号墳	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0101 古墳	
52	独古田Ⅱ遺跡	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0037 縄文、弥生、古墳、奈良・平安包蔵地	
53	金堀塚・東村記載漏れ3号墳	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0110 古墳	

番号	遺跡名	所在地	遺跡概要・調査履歴	主な文献
54	東村49号墳	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0148	
55	東村48号墳	伊勢崎市国定町 (旧 佐波郡東村大字国定)	市町村遺跡No.0147	
56	北西山遺跡	伊勢崎市田部井町 (旧 佐波郡東村大字田部井)	市町村遺跡No.0012 縄文包蔵地	
57	根性坊遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	1981年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0015 縄文、平安時代	東村教育委員会『根性坊・上中西遺跡』
58	野間遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	市町村遺跡No.0041 縄文、奈良・平安包蔵地	
59	下柳沢遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	1983年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0022	
60	寺東遺跡	伊勢崎市西小保方町 (旧 佐波郡東村大字西小保方)	1983～84年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0031 平安時代	
61	上中西Ⅰ遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	市町村遺跡No.0009 縄文、奈良・平安時代、中世	
62	下中西Ⅰ遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	市町村遺跡No.0018 縄文、古墳時代	
63	上中西Ⅲ遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	市町村遺跡No.0011 縄文、奈良・平安時代	
64	上中西Ⅱ遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	1981年度東村教育委員会調査 市町村遺跡No.0010 平安時代・中世	東村教育委員会『根性坊・上中西遺跡』
65	下中西Ⅱ遺跡	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	市町村遺跡No.0019 縄文、古墳、奈良・平安時代	
66	東村1号墳	伊勢崎市東小保方町 (旧 佐波郡東村大字東小保方)	市町村遺跡No.0020	
67	遠北古墳	太田市 (旧 新田町大字権右衛門)	市町村遺跡No.0201 古墳	
68	渡利遺跡	伊勢崎市豊城町	市町村遺跡No.0121 古墳、奈良・平安時代	

1、上記の周辺遺跡一覧および周辺遺跡位置図の作成にあたっては、群馬県遺跡情報システム〔web版〕(URL=<http://www2.wagamachi-guide.com/gunma/map/>)の位置情報を基に不足情報を補足した。また、遺跡位置については、調査区の概ね中心をもって表記した。

2、周辺遺跡位置図の作成にあたっては、国土地理院 数値地図25,000(地図画像)の1/25,000地形図「大胡」「桐生」をベースとして用いた。

3、発掘調査から整理事業に至る間に、群馬県における大規模な市町村合併が行われ、各地で住所表記の変更が行われた。本書では、遺跡所在地の住所表記は基本的に新住所を用い、既存の文献等との齟齬が無いように( )内に旧称を併記した。当該市町村および周辺市町村の合併事例としては、伊勢崎市(旧伊勢崎市・赤堀町・佐波郡東村・境町が平成17年1月1日合併)、前橋市(旧前橋市・大胡町・宮城村・粕川村が平成16年12月5日合併)、太田市(旧太田市・新田郡尾島町・新田町・藪塚本町が平成17年3月28日合併)が挙げられる。

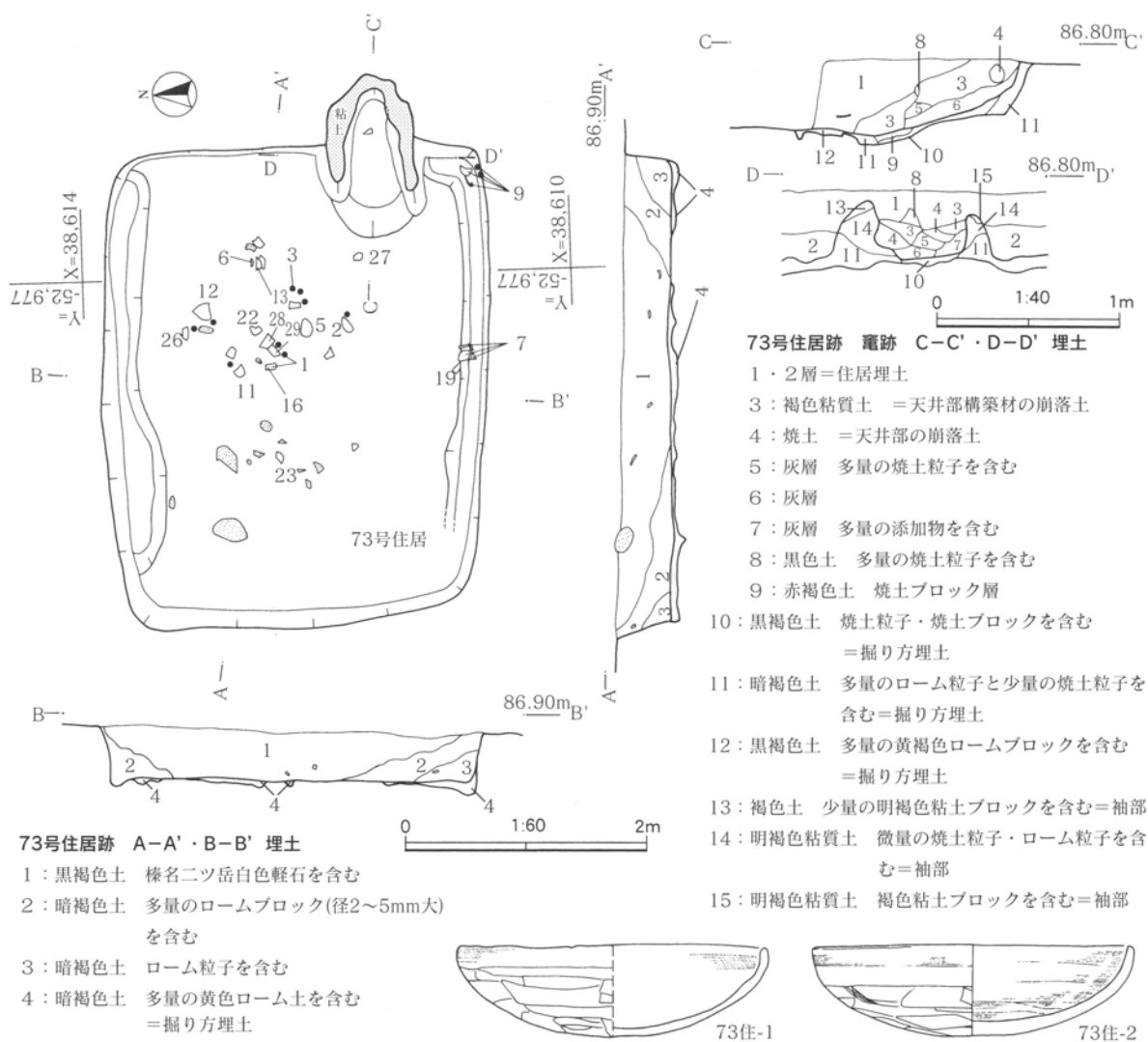
### Ⅲ 検出遺構と出土遺物

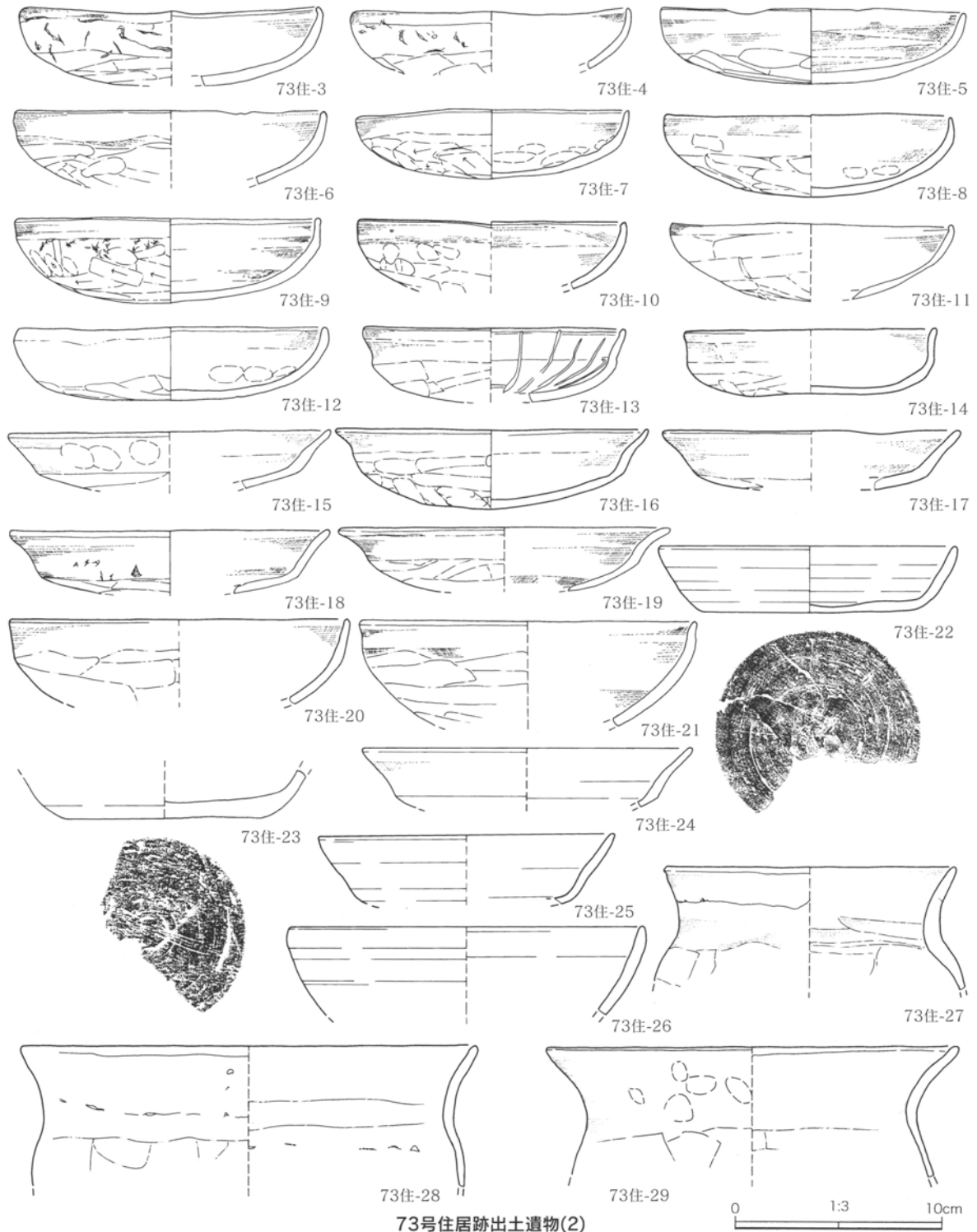
#### 1 竪穴住居跡

73号住居跡 (遺構写真PL5、遺物写真PL42)

位置：X=38,612 Y=-52,978 主軸方位：N-93° -E 面積：10.90㎡

平面形状は、東西軸4m×南北軸3.2mを測る隅丸長形状を呈する。重複や攪乱等による欠失はなく、床面までの残存深度は46cmほどを測り、壁の上方に若干の崩落が見られるものの遺存状態は良好であった。東壁中央やや南寄りの位置に竈跡を有し、煙道部端は壁より60cmほど突出する。袖部は粘土のみで造り出され、袖部構築土中に焼土粒子の混入が認められるため、使用途中で修復が行われたものと推察される。床面は全面に薄く貼り床を施す。掘り方も浅く均質で土坑状の深い掘り込みは有しない。内部施設としては、東西の長辺壁下に巾18~32cm、深度10cmほどを測る壁溝を検出したのみで、柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。出土遺物は、土師器坏完形品(No.1・2)の他、同破片、須恵器坏片、土師器甕片などを出土するが、いずれも住居埋没途上の埋土中よりの出土である。埋土は3層からなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複する遺構はない。





73号住居跡出土遺物(2)

73号住居跡 出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
73号住居跡 1	土師器 坏	床面+5cm 1/4 口縁~底部	口径 (12.8) 底径 - 高さ 3.8	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色 5YR5/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=ナデ。	
73号住居跡 2	土師器 坏	床面+7cm 3/4 口縁~底部	口径 13.0 底径 - 高さ 3.7	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色 7.5YR5/4	外面=口縁部は横ナデ、体~底部は丁寧 なヘラ削り後にヘラナデ。 内面=ナデ。	



73号住居跡 出土遺物観察表2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成型技法等の特徴	備考
73号住居跡 3	土師器 坏	床面+7cm 2/3 口縁~底部	口径 (14.4) 底径 - 高さ (3.7)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色 7.5YR6/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 4	土師器 坏	埋土中 1/4 口縁~底部	口径 (13.4) 底径 - 高さ (2.9)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色 5YR6/4	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 5	土師器 坏	床面+1cm 2/3 口縁~底部	口径 14.8 底径 - 高さ 3.6	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③褐色 7.5YR4/3	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 6	土師器 坏	床面+11cm 破片 口縁~底部	口径 (15.0) 底径 - 高さ (3.5)	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい赤褐色 2.5YR5/4	外面=口縁部は横ナデ、体~底部は丁寧 なヘラ削り。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 7	土師器 坏	床面+1cm 略完形	口径 13.1 底径 - 高さ 3.2	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい褐色 7.5YR5/4	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 8	土師器 坏	埋土中 1/3 口縁~底部	口径 (14.0) 底径 - 高さ 3.9	①微砂少、細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③明褐色 7.5YR5/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り。 内面=やや粗いナデ。	
73号住居跡 9	土師器 坏	床面+9cm 完形	口径 14.7 底径 - 高さ 4.1	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色 5YR5/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部は丁寧 なヘラ削り後にヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 10	土師器 坏	埋土中 破片 口縁~底部	口径 (12.8) 底径 - 高さ (3.2)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい橙色 7.5YR6/4	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 11	土師器 坏	床面+22cm 1/3 口縁~底部	口径 (13.6) 底径 - 高さ (3.5)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③橙色 2.5YR6/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=ナデ。	
73号住居跡 12	土師器 坏	床面+36cm 3/4 口縁~底部	口径 14.8 底径 - 高さ 3.5	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③褐色 5YR6/6	底部平底。外面=口縁部は横ナデ、体 ~底部はヘラ削り後に丁寧なヘラナデ。 内面=ナデ。	
73号住居跡 13	土師器 坏	床面+9cm 1/4 口縁~底部	口径 (12.6) 底径 - 高さ (3.5)	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色 2.5YR5/6	口縁部外反。外面=口縁部は横ナデ、 体~底部はヘラ削り後にヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 14	土師器 坏	埋土中 1/3 口縁~底部	口径 (12.0) 底径 - 高さ (3.1)	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰、良好 ③にぶい黄褐色 10YR6/4	底部平底。外面=口縁部は横ナデ、体 ~底部はヘラ削り後に粗くヘラナデ。 内面=ナデ。	
73号住居跡 15	土師器 坏	埋土中 破片 口縁~底部	口径 (15.6) 底径 - 高さ (2.9)	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③橙色 5YR6/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り後に粗くヘラナデ。 内面=ナデ。	
73号住居跡 16	土師器 坏	床面+4cm 2/3 口縁~底部	口径 15.1 底径 - 高さ 3.8	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③褐色 5YR6/8	口縁部外反。外面=口縁部は横ナデ、体 ~底部はヘラ削り後にヘラナデ。 内面=ナデ。	
73号住居跡 17	土師器 坏	竈埋土 破片 口縁~底部	口径 (14.4) 底径 - 高さ (2.8)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③褐色 5YR6/6	口縁部外反。外面=口縁部は粗い横ナ デ、体~底部はヘラ削り後に粗くヘラナ デ。内面=丁寧なナデ。	
73号住居跡 18	土師器 坏	埋土中 破片 口縁~底部	口径 (15.4) 底径 - 高さ (3.0)	①微・細砂やや多 ②酸化焰、良好 ③褐色 5YR6/6	口縁部外反。外面=口縁部は横ナデ、 体~底部はヘラ削り後に丁寧なヘラナ デ。内面=ナデ。	
73号住居跡 19	土師器 坏	床面+11cm 1/5 口縁~底部	口径 (16.0) 底径 - 高さ (3.0)	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③にぶい赤褐色 5YR5/4	口縁部外反、底部器肉極薄。外面=口 縁部は横ナデ、体~底部はヘラ削り後 にヘラナデ。内面=ナデ。	
73号住居跡 20	土師器 坏	竈埋土 破片 口縁~底部	口径 (16.4) 底径 - 高さ (4.0)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③褐色 5YR6/6	外面=口縁部は横ナデ、体~底部はヘラ 削り。 内面=ナデ。	

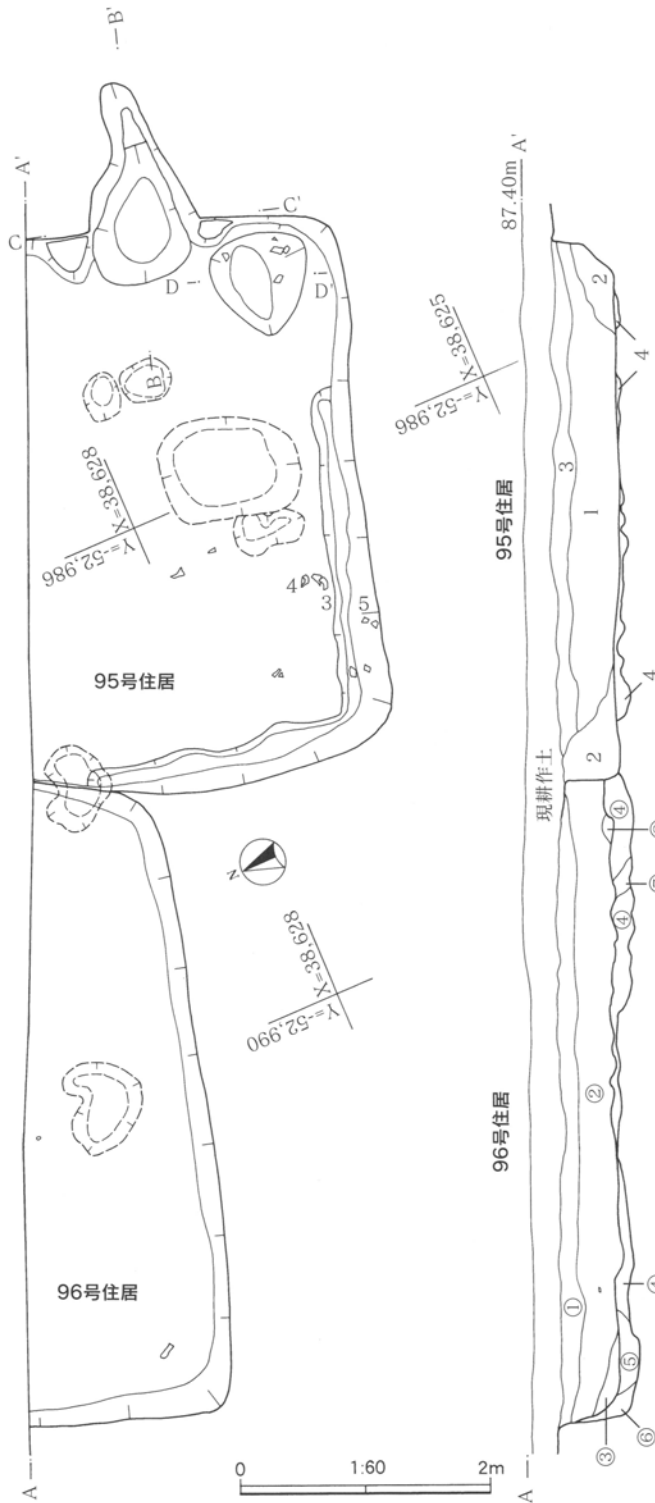
73号住居跡 出土遺物観察表3

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
73号住居跡 21	土師器 坏	埋土中 1/5 口縁～底部	口径 (16.2) 底径 - 高さ (5.0)	①微・細砂少 ②酸化焰、良好 ③明赤褐色 5YR5/6	外面＝口縁部は横ナデ、体～底部はヘラ削り。 内面＝丁寧なナデ。	
73号住居跡 22	須恵器 坏	床面+5cm 2/3 口縁～底部	口径 14.4 底径 10.0 高さ 3.2	①微・細・粗砂少 ②還元焰、良好 ③灰白色 10Y7/1	ロクロ成・整形。 外面＝底部は回転ヘラ切り後、未調整。	
73号住居跡 23	須恵器 坏	床面+25cm 破片 底部	口径 - 底径 (9.6) 高さ (2.3)	①微・細・粗砂多 ②還元焰、良好 ③灰白色 2.5GY8/1	ロクロ成・整形。 外面＝底部は回転ヘラ切り後、未調整。	
73号住居跡 24	須恵器 坏	埋土中 破片 口縁～底部	口径 (15.8) 底径 - 高さ (2.8)	①微・細・粗砂少 ②還元焰、良好 ③灰白色 7.5Y7/2	ロクロ成・整形。 外面＝底部外縁は回転ヘラ切り後、ヘラ調整。	
73号住居跡 25	須恵器 坏	埋土中 破片 口縁～底部	口径 (14.2) 底径 - 高さ (3.3)	①微・細・粗砂少 ②還元焰、良好 ③灰白色 10Y8/1	ロクロ成・整形。 外面＝底部外縁は回転ヘラ切り後、ヘラ調整。	
73号住居跡 26	須恵器 鉢	床面+33cm 破片 口縁～底部	口径 (17.0) 底径 - 高さ (4.2)	①微・細・粗砂多 ②還元焰、良好 ③灰白色 10Y8/2	ロクロ成・整形。	
73号住居跡 27	土師器 甕	床面+22cm 破片 口縁～胴部	口径 (14.0) 底径 - 高さ (5.8)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰、良好 ③赤褐色 2.5YR4/6	外面＝口縁部は丁寧な横ナデ、胴部はヘラ削り。 内面＝口縁部は横ナデ。	
73号住居跡 28	土師器 甕	床面+23cm 破片 口縁～胴部	口径 (21.9) 底径 - 高さ (6.7)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③橙色 2.5YR6/6	外面＝口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。 内面＝口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	
73号住居跡 29	土師器 甕	床面+18cm 破片 口縁～胴部	口径 (19.8) 底径 - 高さ (6.2)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰、良好 ③橙色 7.5YR6/6	外面＝口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。 内面＝口縁部は横ナデ、胴部はナデ。	

## 95号住居跡 (遺構写真PL6・7、遺物写真PL42)

位置：X=38,628 Y=-52,986 主軸方位：N-108° -E 面積：(10.79)m<sup>2</sup>

平面形状は、東西軸4.3mを測る隅丸長方形を呈すると思われるが、北側部が調査区域外にかかるため、規模・形状の全容は不明。遺構確認面における残存壁高は35cmほどであるが、調査区壁にみる遺構断面ではプラス12cmほどを確認する。壁は上方に若干の崩落が見られるものの遺存状態は比較的良好であった。竈跡は東壁に位置し、煙道部は緩やかに傾斜して壁より1.2mほど突出する。袖部は粘質土を用いて構築され、最終使用面下に旧使用面灰層を確認した。床面は一部南壁側の床下に土坑状の掘り方を有し、この部分に貼り床を施すのみで、他所は地山をもって床面とする。内部施設としては、住居南東コーナー部に径80cm、深度29cmを測る貯蔵穴と推察される土坑を検出した。また、この土坑を避けて南壁中央付近から西壁中央部にかけて壁溝が検出された。出土遺物としては、竈跡の煙道先端部より土師器甕(No.8)が出土し、出土状況より煙突材として用いられたものと考えられる。また、墨書土師器坏(No.1)などが出土するも、いずれも埋土中位より上層からの出土である。埋土は3層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複する遺構として、西壁中央部において96号住居跡と重複し、埋土断面の状況および96号住居の竈部を本住居が破壊していることから、本住居跡の方が新しいものと判断された。



95・96号住居跡 A-A' 埋土

[95号住居跡]

- 1：暗褐色土 多量の黒褐色土ブロックと少量のローム・焼土粒子を含む
- 2：暗褐色土 少量の黒褐色土ブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む
- 3：黒褐色土 多量の暗褐色土ブロックと少量のローム粒子を含む
- 4：明褐色土 多量のロームブロック・ローム粒子を含む＝掘り方埋土

96号住居跡 (遺構写真PL7、遺物写真PL42)

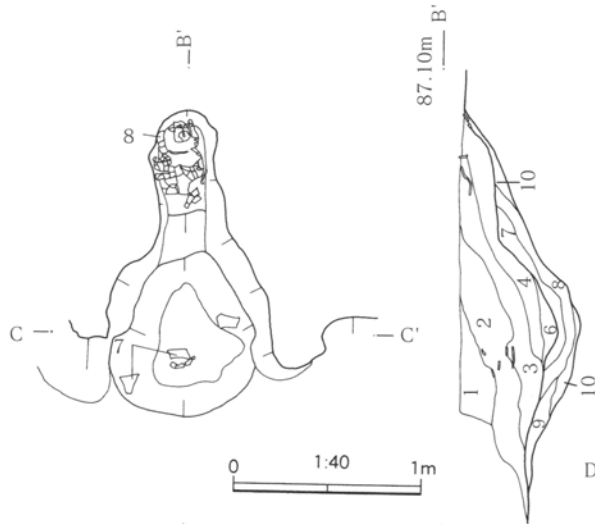
位置：X=38,630 Y=-52,990

主軸方位：N-106° -E 面積：(5.83)m<sup>2</sup>

平面形状は、東西軸5.1mを測る隅丸長方形を呈すると思われるが、北側部が調査区域外にかかるため規模・形状の全容は不明。遺構確認面における残存壁高は43cmほどであるが、調査区壁にみる遺構断面ではプラス12cmほどを確認する。壁は上方に若干の崩落が見られるものの遺存状態は比較的良好であった。竈は東壁の南東コーナー寄りに有ったものと思われるが、重複する95号住居跡により削平され、わずかに掘り方の一部を残すのみであった。床面は掘り方に合わせて住居中央部は薄く、壁際にやや厚い貼り床を施す。内部施設は、柱穴・貯蔵穴・壁溝共に調査範囲内においては検出されなかった。出土遺物は少なく、底部外面にヘラ記号「×」を記した須恵器坏片(No.1) などが出土するも、いずれも埋土中位より上層からの出土である。埋土は3層からなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は前記のとおり東側において95号住居跡と接し、竈部を削平されていることから本住居跡の方が古いものと判断された。また、南側において111号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相および出土遺物の年代より、本住居跡の方が新しいものと判断された。

[96号住居跡]

- ①：黒褐色土 多量の暗褐色土ブロックと少量のローム粒子・砂粒を含む
- ②：暗褐色土 多量の黒褐色土ブロックと少量のロームブロック・ローム粒子を含む
- ③：黒褐色土 少量の暗褐色土ブロックと微量のローム粒子を含む
- ④：黄褐色土 ローム土を主体に多量の黒褐色土ブロック含み硬化する＝貼り床・掘り方埋土
- ⑤：黒褐色土 多量のロームブロック・ローム粒子を含む
- ⑥：黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子を含む
- ⑦：暗褐色土 少量のロームブロック・ローム粒子を含む
- ⑧：褐色土 多量の焼土を含む＝竈跡痕跡

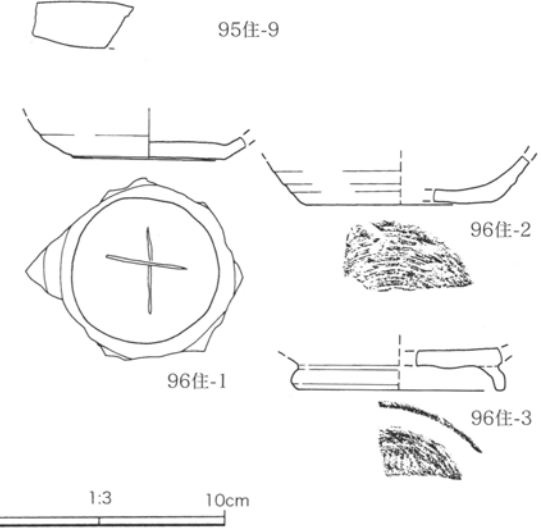
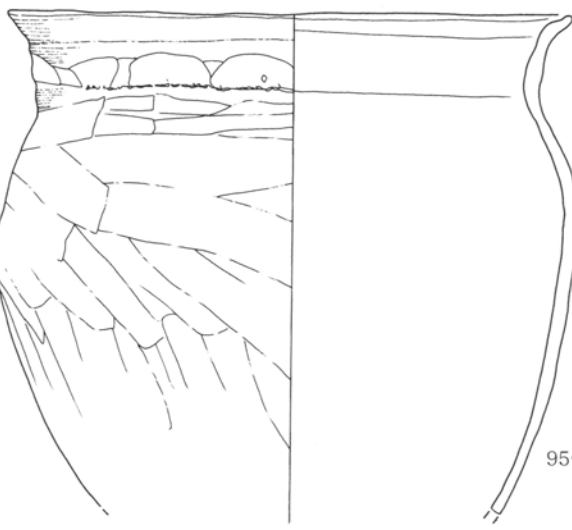
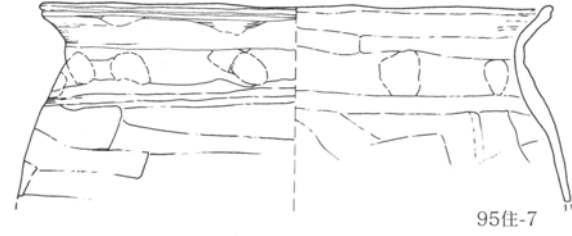
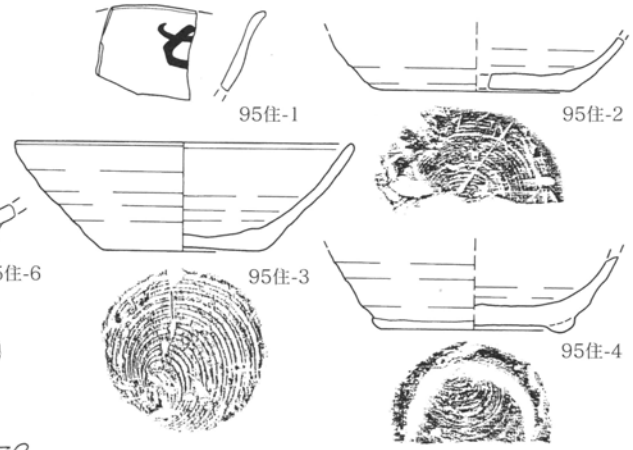
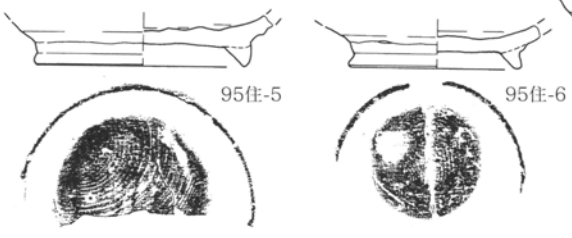
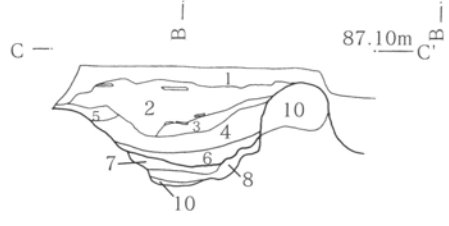
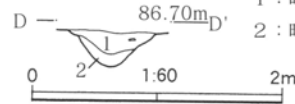


95号住居跡 竈跡 B-B'・C-C' 埋土

- 1: 暗褐色土 住居埋土1層土に同じ
- 2: 灰褐色粘質土 焼土粒子・炭化物を含む=天井部崩落土
- 3: 黒褐色土 白色軽石と多量の灰・焼土粒子を含む
- 4: 灰褐色粘質土 全体に焼土化=煙道部天井崩落土
- 5: 褐色粘質土 =袖部崩落土
- 6: 暗褐色土 多量の灰を含む
- 7: 灰褐色土 多量の灰と焼土ブロックを含む
- 8: 灰褐色土 灰の硬化層
- 9: 暗褐色土 灰・焼土・ローム粒子を含む
- 10: 褐色粘質土 =袖部構築材

95号住居跡 貯蔵穴 D-D' 埋土

- 1: 暗褐色土 焼土粒子・炭化物を含む
- 2: 暗褐色土 ローム粒子を含む



95号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
95号住居跡 1	須恵器 坏	埋土中 破片 口縁部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 5Y7/2	ロクロ成・整形。外面体部に逆位の墨書文字有り、判読不可。	墨書土器
95号住居跡 2	須恵器 坏	埋土中 1/2 体～底部	口径 - 底径 (7.7) 高さ (2.1)	①細・粗砂多 ②還元焰、良好 ③灰白色 5Y7/2	ロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。内面体部に墨跡残る。	墨書土器
95号住居跡 3	須恵器 坏	床面+17cm 1/2 口縁～底部	口径 13.3 底径 6.2 高さ 4.3	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③灰色 5Y6/1	ロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。外面口縁部付近に重焼き痕残る。	
95号住居跡 4	須恵器 椀	床面+2cm 1/2 体～底部	口径 - 底径 (8.0) 高さ (3.0)	①細・粗砂多 ②還元焰 良好 ③淡黄色 2.5Y8/3	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。	
95号住居跡 5	須恵器 椀	床面+7cm 2/3 底部	口径 - 底径 (8.5) 高さ (2.0)	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 2.5Y7/1	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。内面底部に研磨跡・墨痕跡残る。転用碗として利用。	墨書土器
95号住居跡 6	須恵器 椀	埋土中 2/3 体～底部	口径 - 底径 6.8 高さ (1.8)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③灰白色 5Y7/1	ロクロ成・整形。摩滅甚大。	
95号住居跡 7	土師器 甕	床面+10cm 破片 口縁～胴部	口径 (20.3) 底径 - 高さ (7.6)	①細・粗砂多 ②還元焰、良好 ③橙色 5YR6/6	外面=口縁部は指頭圧痕凹みを残しナデ。胴部はヘラ削り後に粗いナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
95号住居跡 8	土師器 甕	使用面直上 2/3 口縁～胴部	口径 22.2 底径 - 高さ (19.3)	①微・細砂多 ②還元焰、良好 ③橙色 5YR6/8	外面=口縁部横ナデ、胴部はヘラ削り後に粗いナデ。内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
95号住居跡 9	石製品 砥石	埋土中 1/2	長さ 7.1 巾 4.2 厚さ 3.1	石材=砥沢石 重量= 85.42g	置き砥使用用途上に摩滅中折れ。掲げ砥に転用のため二穴の穿孔を試みるが中断。	

96号住居跡 出土遺物観察表

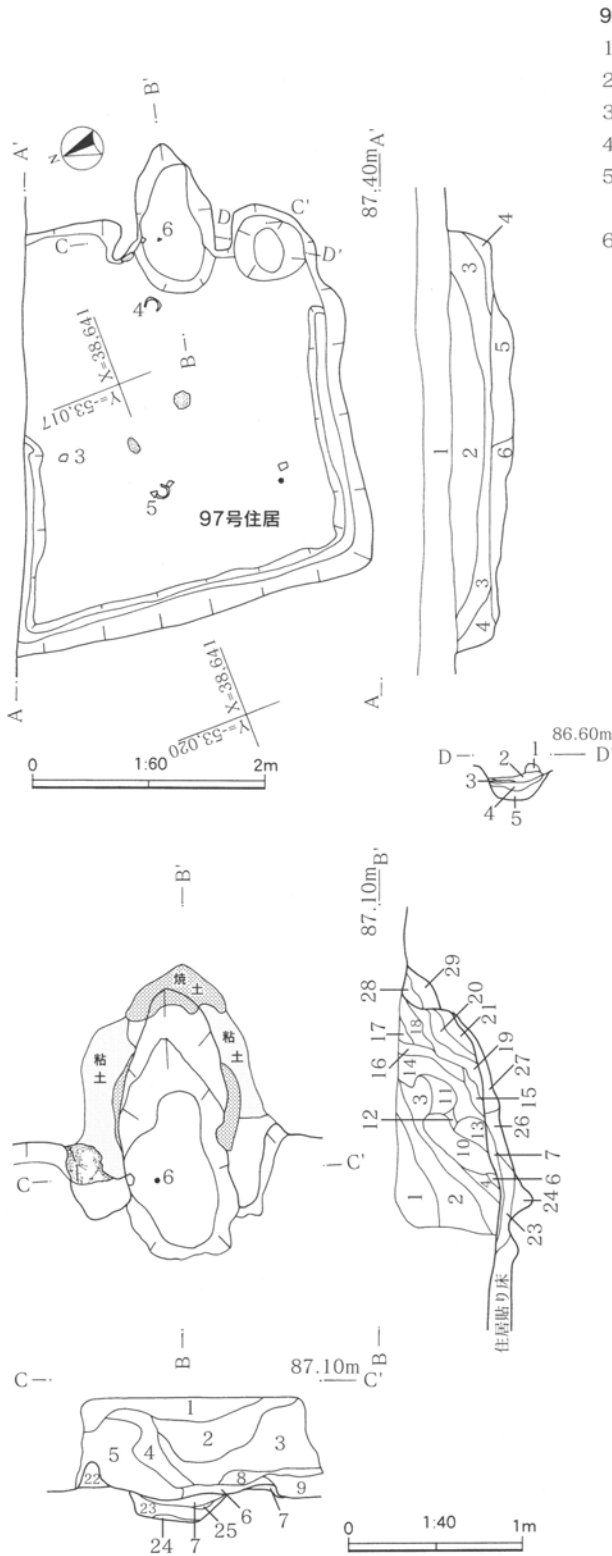
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
96号住居跡 1	灰釉陶器 坏	埋土中 破片 底部	口径 - 底径 (6.0) 高さ (1.5)	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 2.5Y8/1	丁寧なロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。外面底部中央に焼成前ヘラ記号「×」	ヘラ記号「×」
96号住居跡 2	須恵器 坏	埋土中 破片 体～底部	口径 - 底径 (7.4) 高さ (1.8)	①微・細砂多 ②還元焰 やや良 ③灰白色 2.5Y7/1	ロクロ成・整形。底部は回転系切り後未調整。	
96号住居跡 3	須恵器 椀	埋土中 破片 底部	口径 - 底径 (8.0) 高さ (1.7)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③灰色 7.5Y6/1	ロクロ成・整形。底部は回転系切り後未調整。	

97号住居跡 (遺構写真PL.8・9、遺物写真PL.43)

位置：X=38,641 Y=-53,017 主軸方位：N-100° -E 面積：(7.96)m<sup>2</sup>

平面形状は、東西軸3.5mを測るやや歪な隅丸形状を呈すると思われるが、北側が調査区域外にかかるため、規模・形状の全容は不明。床面までの残存深度は53cmほどを測り、壁に若干の崩落が見られるものの遺存状態は良好であった。竈跡は東壁中央やや南寄りに位置し、煙道部は長く突出せず急峻に立ち上がる。崩落した天井部土や燃焼部・煙道部の壁の焼土化からみて、長期間の継続使用の痕跡が窺える。また、竈掘り方埋土内にも焼土が含まれることから、修復を経て使用されていたものと推察される。床面は浅いながらも不規則な掘り方に合わせて、全面に貼り床を施す。内部施設としては、柱穴の検出はなく、南東コーナー部に貯蔵穴と考えられる土坑を検出するのみで、内部埋土中には竈構築材粘土・焼土塊の混入が見られ、竈崩壊時には開口していたものと推察される。また、この貯蔵穴を避けるようにして南壁と西壁の直下に巾15～

20cm、深度4~7cmほどの浅い壁溝を検出した。出土遺物については、その大半が埋土中位より上層からの出土である。埋土は3層からなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複する遺構として、南東コーナー部において100号土坑跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相から本住居跡の方が古いものと判断された。



**97号住居跡 A-A' 埋土**

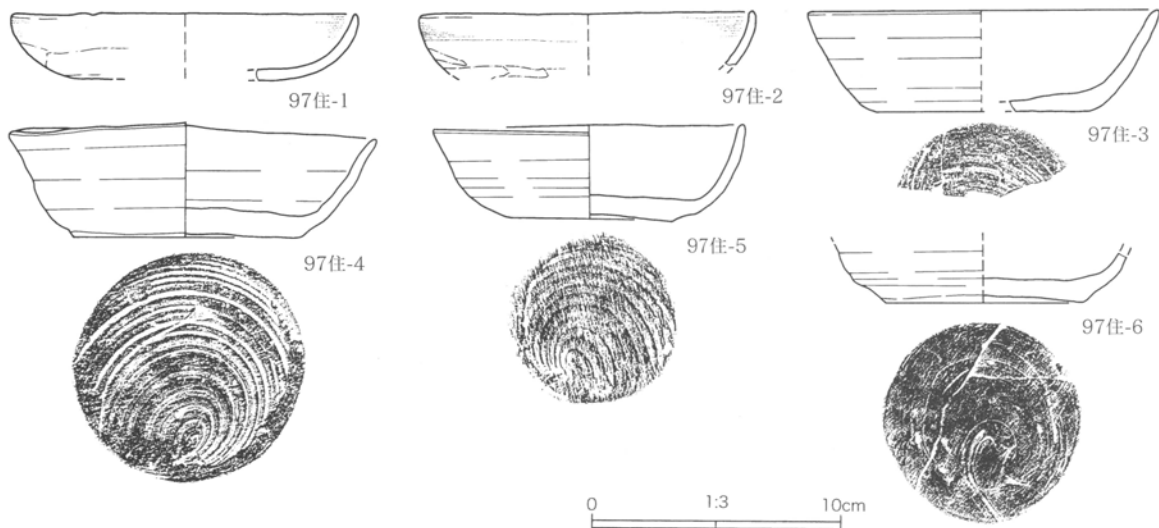
- 1：黒褐色土 現耕作土
- 2：黒褐色土 少量のローム小ブロック・焼土粒子を含む
- 3：暗褐色土 少量のローム小ブロックを含む
- 4：暗褐色土 微量のローム小ブロックを含む
- 5：褐色土 多量のロームブロック(径3~5mm大)を含む  
=掘り方埋土
- 6：褐色土 多量のロームブロック・黒褐色土ブロック(径3~5mm大)を含む=掘り方埋土

**97号住居跡 貯蔵穴 D-D' 埋土**

- 1：灰黄褐色粘質土 少量のローム粒子を含む=電構築材
- 2：暗褐色土 多量のローム小ブロックと少量の焼土粒子・焼土ブロックを含む=電構築材
- 3：黄褐色土 ローム土に少量の暗褐色土ブロックを含む
- 4：明褐色土 少量のローム小ブロックを含む
- 5：暗褐色土 少量のロームブロックと微量の焼土粒子を含む

**97号住居跡 竈跡 B-B'・C-C' 埋土**

- 1：黒褐色土 多量の白色軽石・ローム粒子・焼土粒を含む
  - 2：黒褐色土 ロームブロックを含む
  - 3：黒褐色土 ロームブロック・焼土粒子を含む
  - 4：暗褐色粘質土 =天井部崩落土
  - 5：灰褐色粘質土 少量の焼土粒子を含む
  - 6：灰層 焼土粒子を含む
  - 7：灰層 焼土粒子・ローム粒子を含む=使用面
  - 8：暗褐色土 焼土粒子を含む
  - 9：黒褐色土 ロームブロックを含む
  - 10：灰黄褐色粘質土 微量の焼土粒子を含む=天井部崩落土
  - 11：暗褐色土 ローム粒子を含む
  - 12：明褐色土 ローム粒子・粘土ブロックを含む
  - 13：暗褐色土 少量の焼土粒子を含む
  - 14：灰黄褐色粘質土 少量のロームブロックを含む  
=天井部崩落土
  - 15：暗褐色土 少量の焼土粒子・焼土ブロックを含む
  - 16：明褐色土 少量の焼土ブロック・粘土ブロックを含む
  - 17：黒褐色土 ローム粒子・白色軽石を含む=崩落後流入土
  - 18：黒褐色土 焼土粒子を含む=崩落後流入土
  - 19：焼土ブロック層 =崩落煙道部天井土
  - 20：明褐色土 少量の焼土粒子を含む
  - 21：明褐色土 焼土粒子・ロームブロックを含む
  - 22：黒褐色土 灰褐色粘土ブロック・ロームブロックを含む
  - 23：黒褐色土 少量の焼土・ローム粒と微量の炭化物を含む
  - 24：褐色土 微量の焼土粒子・ローム粒子を含む
  - 25：暗褐色土 少量の焼土粒子を含む
  - 26：褐色土 少量の焼土粒子・ロームブロックを含む
  - 27：暗褐色土 少量の焼土粒子・ロームブロックを含む
  - 28：焼土層 =煙道部使用面
  - 29：黄褐色土 少量の焼土粒子を含む=電掘り方埋土
- ※23~29層土=電掘り方埋土



97号住居跡 出土遺物観察表

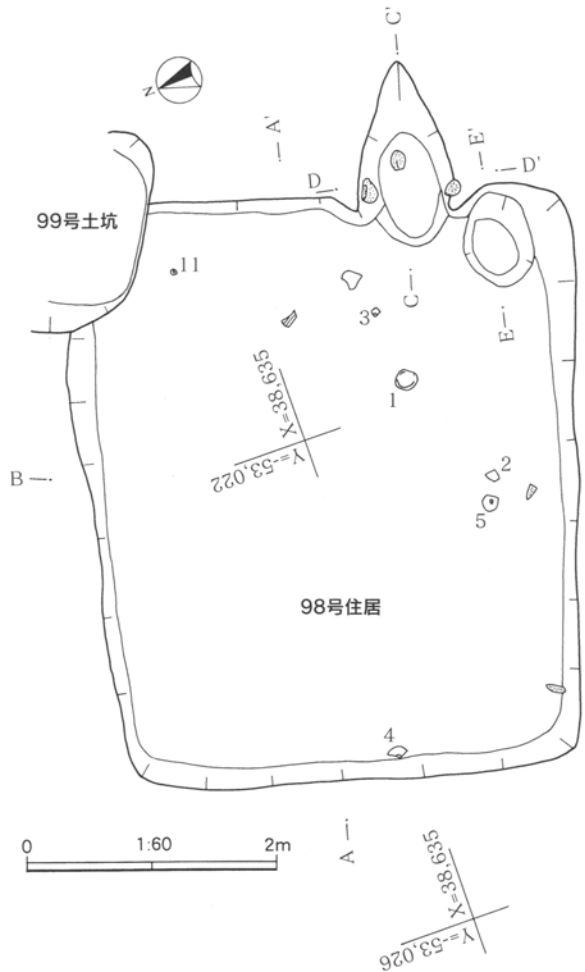
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
97号住居跡 1	土師器 坏	埋土中 破片 口縁～底部	口径 (13.6) 底径 - 高さ (2.6)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③褐色 7.5YR4/6	外面=口縁部横ナデ、体部はヘラ削り後に粗いナデ。 内面=口縁部横ナデ。	
97号住居跡 2	土師器 坏	埋土中 破片 口縁～体部	口径 (13.4) 底径 - 高さ (2.8)	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③にぶい赤褐色 5YR4/4	外面=口縁部横ナデ、体部はヘラ削り後に粗いナデ。 内面=口縁部横ナデ。	
97号住居跡 3	須恵器 坏	床面+10cm 破片 口縁～底部	口径 (13.9) 底径 (8.4) 高さ 4.0	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③灰色 10Y5/1	ロクロ成・整形。底部回転系切り後に周縁部のみヘラ調整。	
97号住居跡 4	須恵器 坏	床面+28cm 3/4 口縁～底部	口径 14.5 底径 9.0 高さ 4.5	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③灰色 7.5Y6/1	丁寧なロクロ成・整形。底部回転系切り後は未調整。	
97号住居跡 5	須恵器 坏	床面+21cm 2/3 口縁～底部	口径 12.3 底径 6.4 高さ 3.8	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③にぶい黄褐色 10YR5/4	丁寧なロクロ成・整形。底部回転系切り後は未調整。	
97号住居跡 6	須恵器 坏	床面+9cm 4/5 体～底部	口径 - 底径 7.9 高さ (2.3)	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③灰黄色 2.5Y7/2	丁寧なロクロ成・整形。底部回転系切り後は未調整。	

98号住居跡 (遺構写真PL.9・10、遺物写真PL.43)

位置：X=38,635 Y=-53,022 主軸方位：N-105° -E 面積：(15.72)㎡

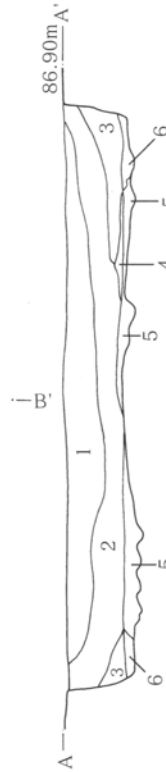
平面形状は、東西軸4.7m×南北軸4mほどを測る隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は47cmほどを測り、壁の崩落も少なく遺存状態は良好であった。竈跡は東壁中央やや南東コーナー寄りに位置し、煙道部は緩やかに立ち上がり、壁より1.1mほど突出する。両袖部内に芯材として楕円礫を埋設し、天井部芯材として土師器長胴甕を横位に連結して両袖石間にブリッジ状に渡す。また、燃烧部中央に支脚石を一石埋設する。床面は住居中央部は浅く、壁よりに深い掘り方を有し、全面に貼り床を施す。内部施設に関しては、柱穴および壁溝は検出されず、南東コーナー部に径55cm～75cm、深度20cmを測る楕円形の貯蔵穴が一基検出されたのみである。出土遺物は土師器坏・甕、須恵器坏・蓋のほか、「中」の文字を記す墨書須恵器坏(No.3)、石製紡錘車(No.11)などの出土がある。埋土は3層からなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複する遺構としては、北東コーナー部において99号土坑跡と重複し、新旧関係は遺構確認時の埋土の様相から本住居跡の方が古いものと判断された。





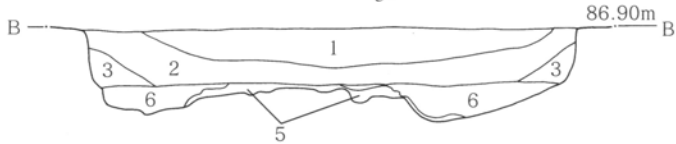
**98号住居跡 A-A'・B-B' 埋土**

- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子を含む
- 2: 暗褐色土 多量のローム粒子・ローム小ブロックと少量の焼土粒子を含む
- 3: 暗褐色土 多量のローム粒子と少量のローム小ブロック・焼土粒子を含む
- 4: 赤褐色土 多量の焼土粒子・ブロックを含む
- 5: 黄褐色土 ローム大ブロックと黒色土の混土
- 6: 黄褐色土 ローム大ブロックと多量の黒色土の混土



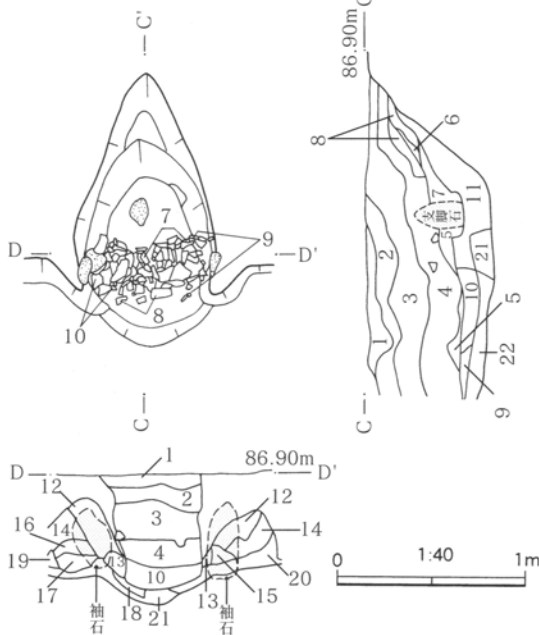
**98号住居跡 貯蔵穴 E-E' 埋土**

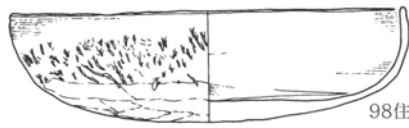
- 1: 黒色土 ローム粒子・焼土粒子を含む
- 2: 黒色土 ローム粒と多量の焼土粒子を含む
- 3: 黒色土 ロームブロックを含む
- 4: 黒色土 ロームブロック・焼土粒子を含む



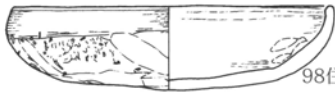
**98号住居 竈跡 C-C'・D-D' 埋土**

- 1: 黒色土 茶褐色土、少量の炭化物・焼土粒子を含む
- 2: 茶褐色土 黒色土を含む
- 3: 茶褐色土 多量の黒色土を含む
- 4: 茶褐色土 多量の黒色土とローム粒子を含む
- 5: 茶褐色土 4層土+炭化物
- 6: 焼土
- 7: 茶褐色粘質土 =竈天井部構築材
- 8: 黒色土 茶褐色土を含む
- 9: 黒褐色土 少量の焼土粒子・ローム粒子を含む
- 10: 黒褐色土 多量の焼土粒子・炭化物を含む
- 11: 暗褐色土 多量の灰・焼土小ブロックと少量のロームブロック(径10mm大)を含む=使用面
- 12: 灰白色粘土 少量の焼土粒子・白色軽石を含む=袖部構築材
- 13: 黒色土 ローム粒子・焼土粒子を含む
- 14: 灰白色粘土 少量のローム粒子を含む=袖部構築材
- 15: 灰白色粘土 微量のローム粒子を含む=袖部構築材
- 16: 灰白色粘土 多量のローム粒子を含む=袖部構築材
- 17: 黒色土 多量のローム粒子を含む
- 18: 黒色土 ローム粒子と微量の焼土粒子を含む
- 19: 黄褐色土 黒色土とロームブロックを含む
- 20: 黄褐色土 黒色土とローム土の混土
- 21: 黄褐色土 多量の黒色土と微量の焼土粒子を含む
- 22: 黄褐色土 ローム土と黒褐色土の混土=住居掘り方埋土

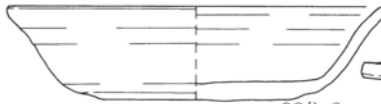




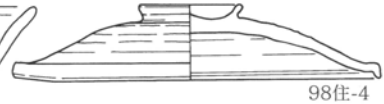
98住-1



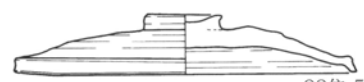
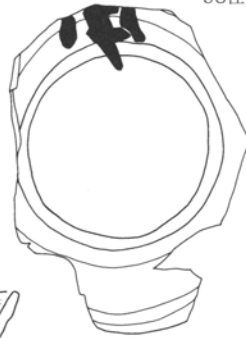
98住-2



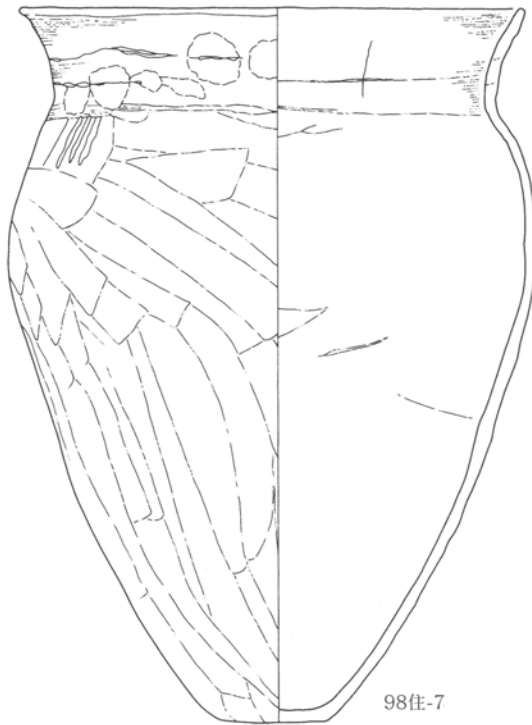
98住-3



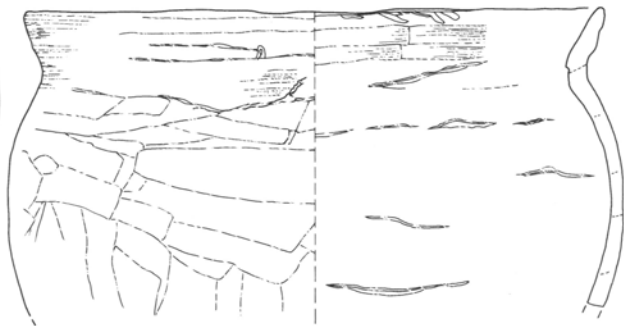
98住-4



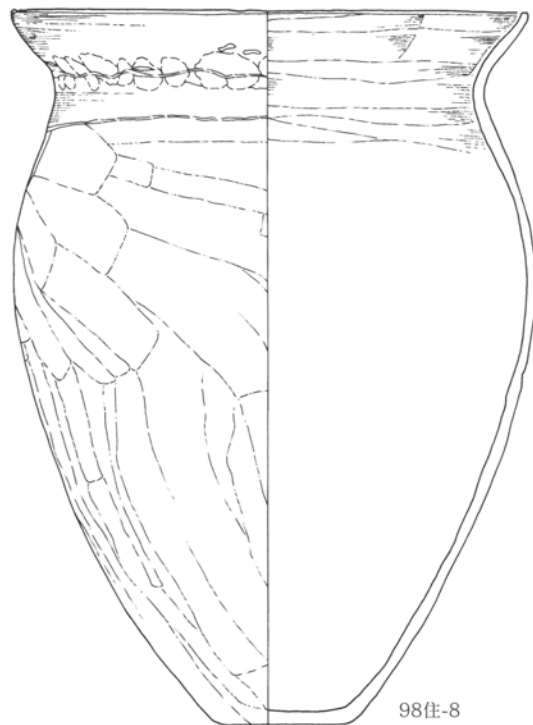
98住-5



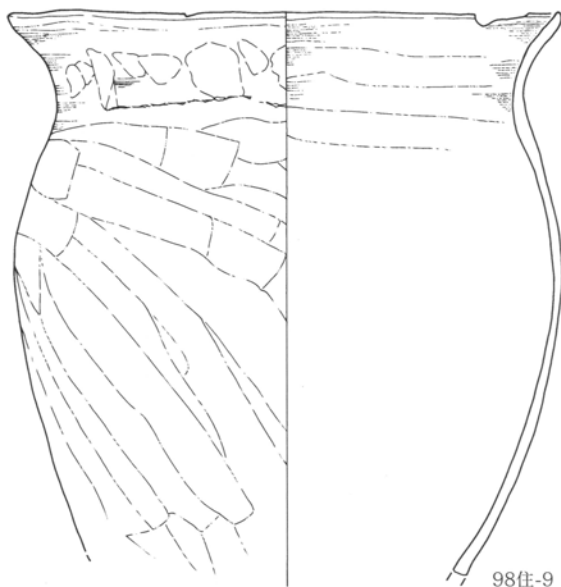
98住-7



98住-6

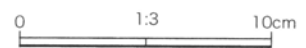


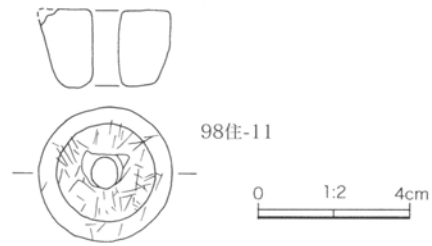
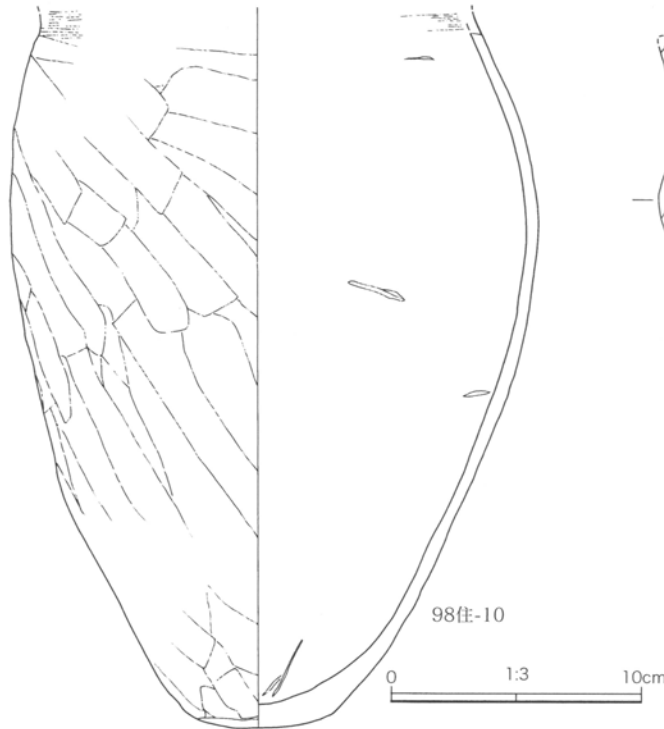
98住-8



98住-9

98号住居跡出土遺物(1)





遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態
98号住居跡 11	石製品 紡錘車	床面直上 完形
計測値等		
上径 3.5cm	石材=蛇紋岩	
底径 2.6cm	重量 41.86g	
高さ 2.1cm	孔径 0.7cm	

98号住居跡出土遺物(2)

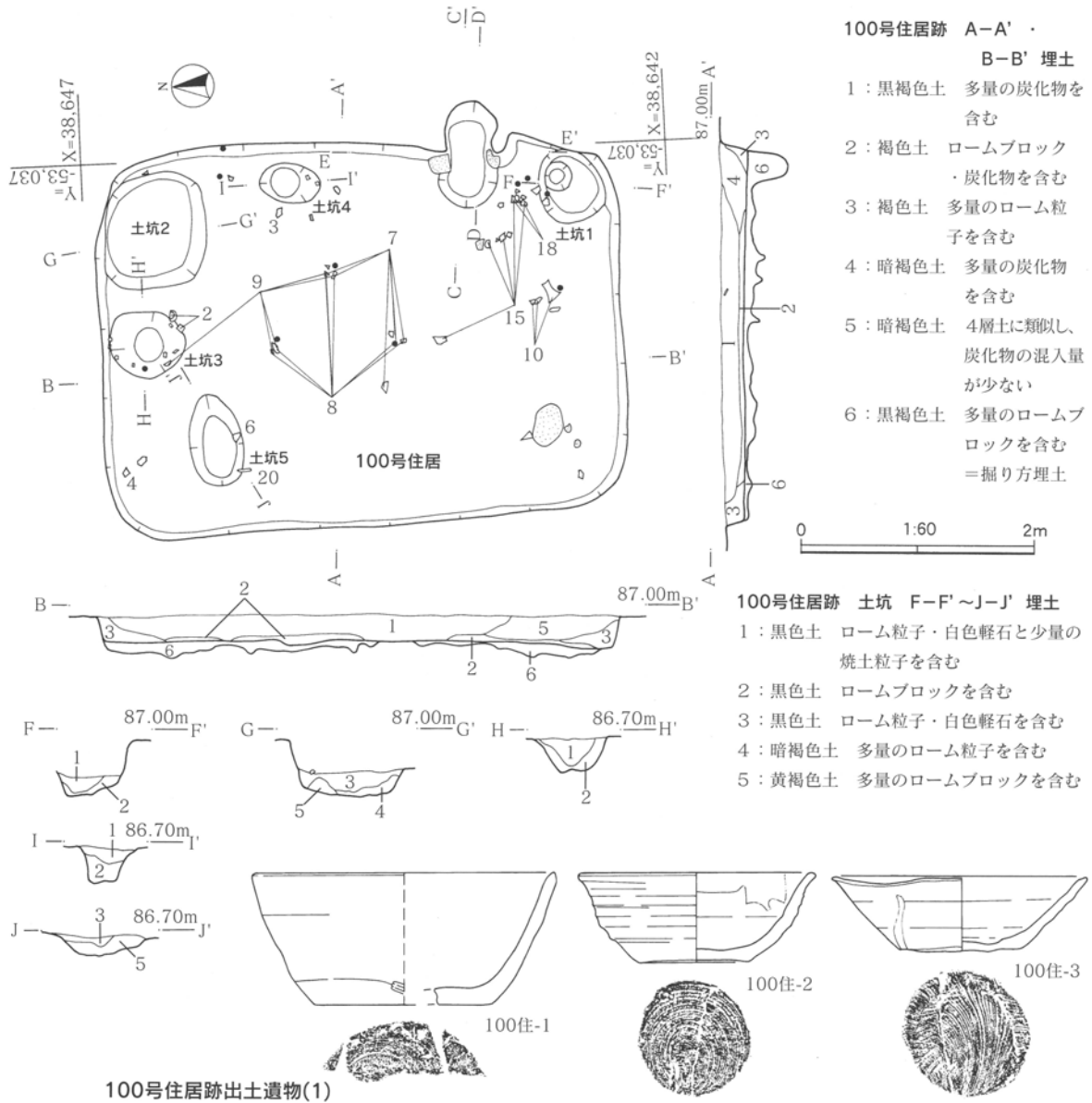
98号住居跡 出土遺物観察表

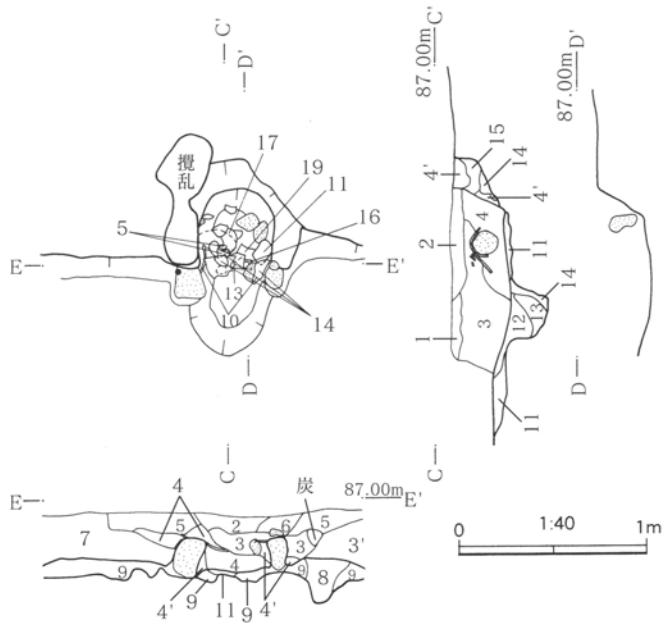
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
98号住居跡 1	土師器 坏	床面+4cm 略完形	口径 15.6 底径 - 高さ 4.3	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③暗赤褐色 5YR3/2	外面=口縁部横ナデ、体部未調整粘土じわ残、底部へラ削り。 内面=丁寧なナデ。	
98号住居跡 2	土師器 坏	床面+5cm 2/3 口縁~底部	口径 12.5 底径 - 高さ 3.3	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR6/4	外面=口縁部横ナデ、体~底部へラ削り後に粗いへラナデ。 内面=ナデ。	
98号住居跡 3	須恵器 坏	床面+2cm 1/3 口縁~底部	口径 (15.0) 底径 7.4 高さ 3.7	①微・細・粗砂多 ②還元焰 良好 ③灰色 7.5Y6/1	ロクロ成・整形。底部回転へラ切り。 内面底部に重ね焼痕跡残る。 外面体部に正位「中」の墨書文字。	墨書土器 「中」
98号住居跡 4	須恵器 蓋	床面+15cm 略完形	口径 14.4 摘み径 4.0 高さ 3.0	①細・粗砂多 ②還元焰 良好 ③灰白色 5Y7/1	丁寧なロクロ成・整形。	
98号住居跡 5	須恵器 蓋	床面+3cm 完形	口径 13.5 摘み径 3.1 高さ 2.3	①微・細・粗砂多 ②還元焰 良好 ③灰色 10Y4/1	やや粗雑なロクロ成・整形。	
98号住居跡 6	土師器 甕	埋土中 破片 口縁~胴部	口径 (23.0) 底径 - 高さ (11.6)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③褐色 7.5YR4/4	口縁部肉厚不均質。 外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り。 内面=ナデ。	
98号住居跡 7	土師器 甕	床面+2cm 2/3 口縁~底部	口径 20.0 底径 4.3 高さ 28.0	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色 5YR4/3	外面=口縁部横ナデ、胴~底部はへラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
98号住居跡 8	土師器 甕	床面+7cm 2/3 口縁~底部	口径 20.5 底径 5.1 高さ 28.0	①細・粗砂やや多 ②酸化焰 良好 ③暗赤褐色 5YR3/3	外面=口縁部は指頭圧痕の凹みを残し横ナデ。胴部~底部はへラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
98号住居跡 9	土師器 甕	床面+8cm 3/4 口縁~胴部	口径 21.8 底径 - 高さ (22.3)	①微・細砂やや多 ②酸化焰 良好 ③暗赤褐色 5YR3/4	外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
98号住居跡 10	土師器 甕	床面+4cm 2/3 頸~底部	口径 - 底径 5.6 高さ (27.5)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③明赤褐色 2.5Y5/6	外面=胴~底部へラ削り。 内面=胴部ナデ。	

100号住居跡 (遺構写真PL.11、遺物写真PL.42)

位置：X=38,645 Y=-53,039 主軸方位：N-95° -E 面積：13.45㎡

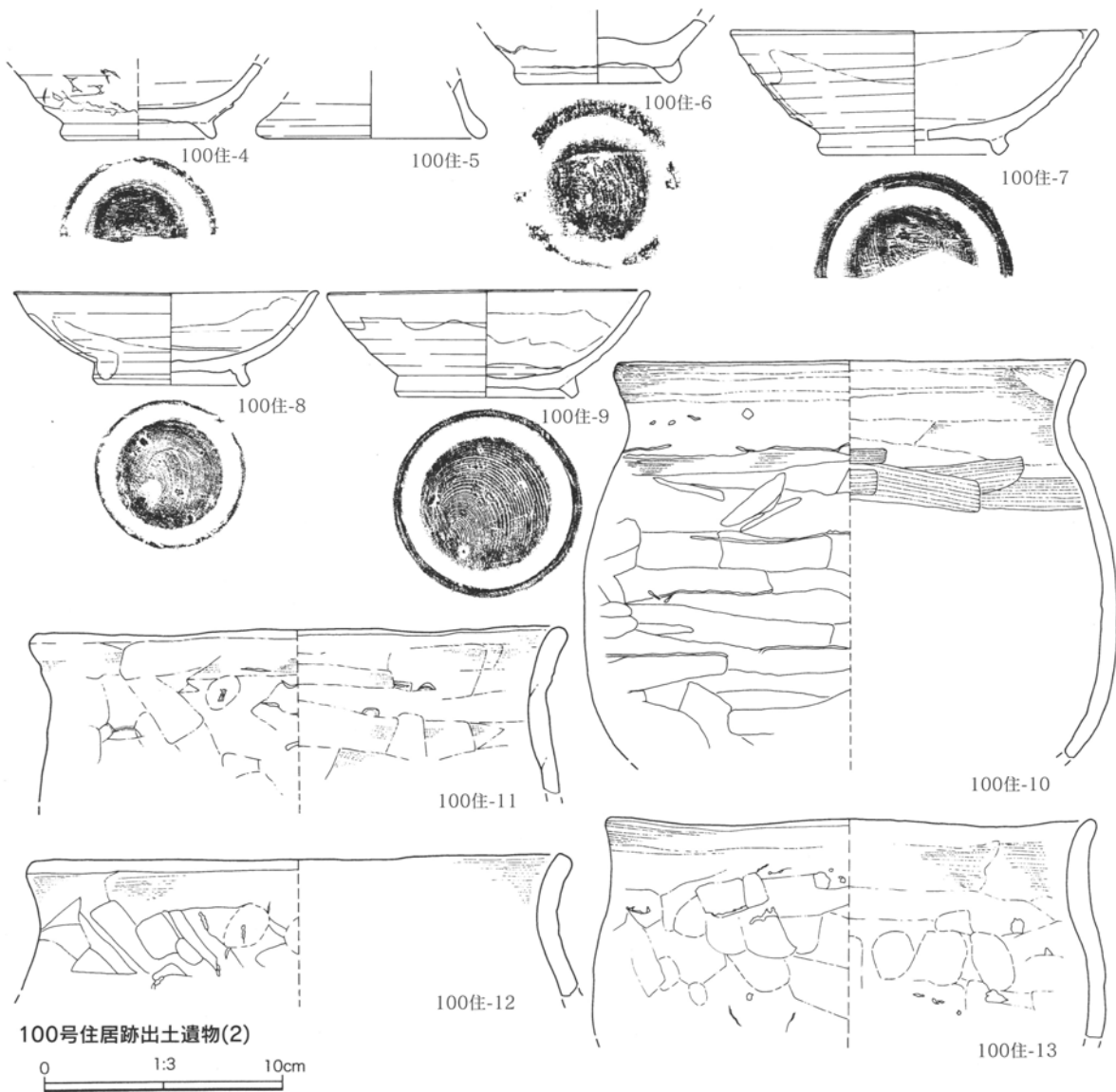
平面形状は、南北軸4.5m×東西軸3.3mを測る横長の隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は26cmを測り、壁の崩落は少なく遺存状態は比較的良好であった。竈跡は長軸である東壁の南東コーナー寄りに位置し、煙道部は急峻に立ち上がり、壁からあまり突出しない。袖部芯材として両袖に円礫を埋設する。竈の埋土内よりも礫の出土がみられることから、欠失した天井部にも芯材として礫が使用されていたものと推察される。床面は浅い掘り方に合わせて全面に貼り床を施す。内部施設としては、南東コーナー部に径60cm、深度30cmを測る貯蔵穴(土坑1)1基を検出する。柱穴は北壁際中央部と東壁際中央やや北寄りに検出されたのみで、対となる柱穴は見当たらず、壁溝も検出されなかった。出土遺物としては、土師器杯・甕、須恵器杯・椀と共に灰釉陶器碗(No.7・8・9)、羽釜片などを出土するが、いずれも床面より間層をおいての出土である。掘り方面において北東と南西の各コーナー部に径90~110cmほどを測る土坑を検出する。埋土は4層からなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構なし。



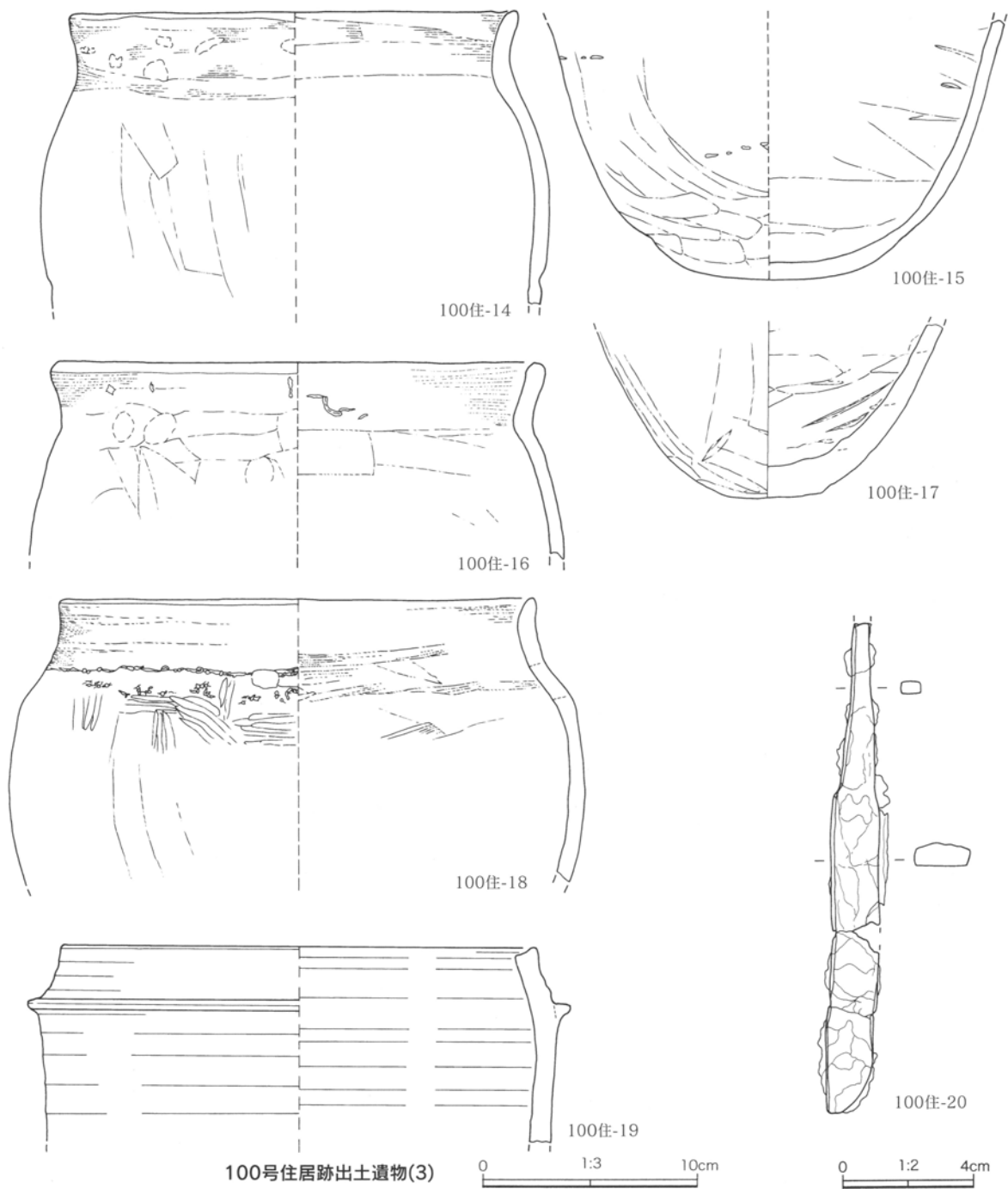


100号住居跡 竈跡 C-C'~E-E' 埋土

- 1: 黒褐色土 白色軽石・褐色土ブロックを含む
  - 2: 褐色土 白色軽石を含む
  - 3: 黒色土 焼土粒子と多量の炭化物を含む
  - 3': 黒色土 少量の焼土粒子・炭化物を含む
  - 4: 褐色土 多量の焼土ブロック・炭化物を含む
  - 4': 褐色土 少量の焼土ブロックと多量の炭化物を含む
  - 5: 黒褐色土 白色軽石を含む
  - 6: 褐色土 少量の焼土粒子を含む
  - 7: 黄褐色土 ローム土と少量の暗褐色土の混土
  - 8: 黒色土 多量のロームブロックを含む
  - 9: 黒色土 焼土粒子と多量のロームブロックを含む
  - 10: 黒色土 多量の焼土ブロックを含む
  - 11: 黒色土 ローム粒子・ロームブロックを含む
  - 12: 黒色土 多量の炭化物・焼土ブロックを含む
  - 13: 黒色土 多量の炭化物・ロームブロックを含む
  - 14: 黒色土 多量のローム大ブロックを含む
  - 15: 黄褐色土 多量のローム粒子を含む
- ※11~15層土 = 竈掘り方埋土



100号住居跡出土遺物(2)



100号住居跡出土遺物(3)

100号住居跡 出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
100号住居跡 1	須恵器 坏	竈埋土 破片 口縁～底部	口径 (13.0) 底径 (7.6) 高さ 5.6	①微・細・粗砂多 ②還元焰 赤焼 ③浅黄橙色 10YR8/3	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。	
100号住居跡 2	須恵器 坏	床面+22cm 4/5 口縁～底部	口径 10.1 底径 4.7 高さ 3.8	①微・細・粗砂少 ②還元焰 赤焼 ③明黄褐色 10YR6/6	ロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。口縁部に油煙付着、灯明皿として使用。	灯明皿
100号住居跡 3	須恵器 坏	床面+6cm 3/4 口縁～底部	口径 10.7 底径 5.1 高さ 3.2	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰黄色 2.5YR7/2	ロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。	

100号住居跡 出土遺物観察表2

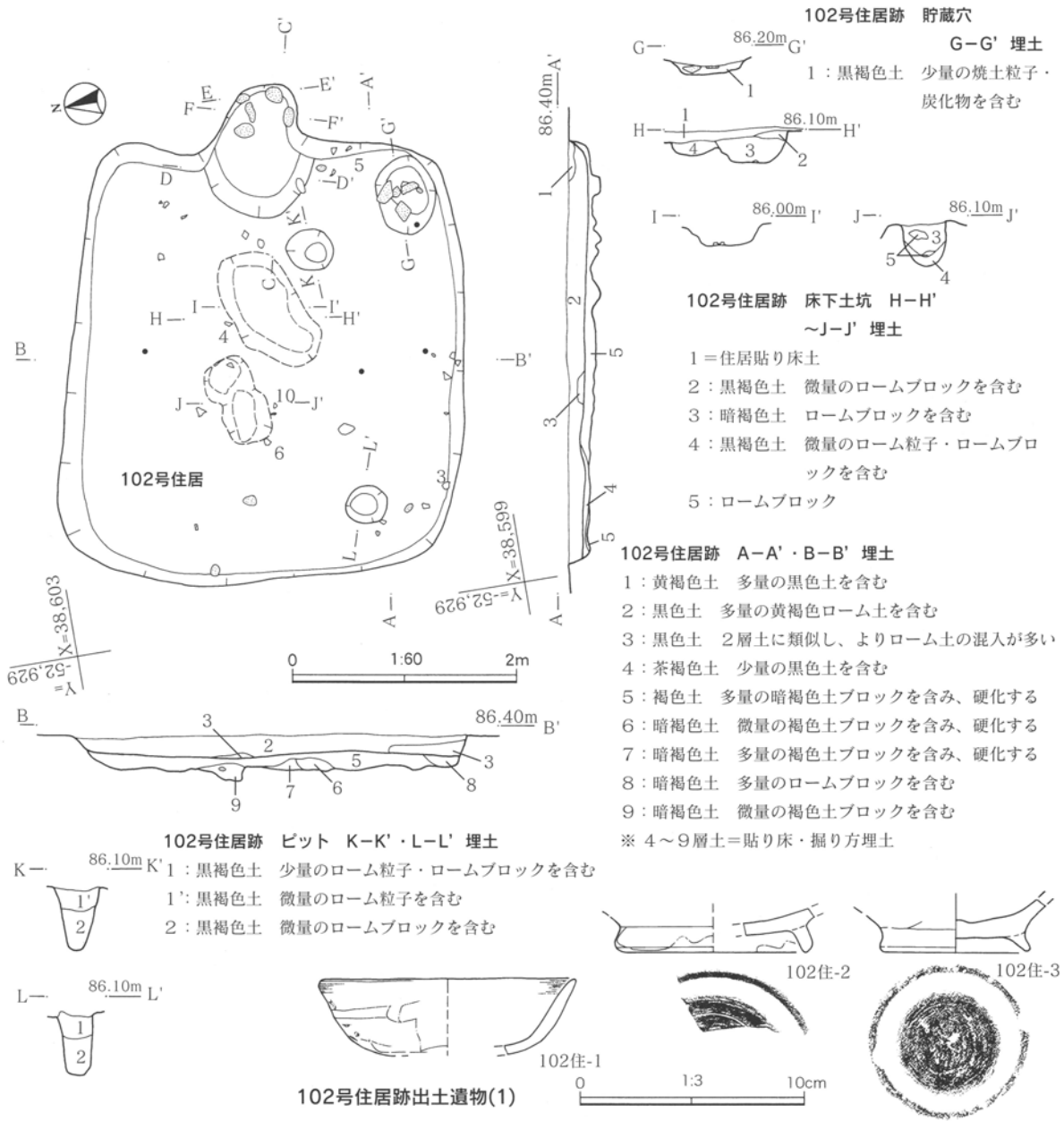
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
100号住居跡 4	須恵器 椀	床面+16cm 1/2 体~底部	口径 - 底径 (6.5) 高さ (3.0)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③暗灰黄色 2.5Y5/2	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転系切り、高台貼付け後に糸切り痕指ナデ。	
100号住居跡 5	須恵器 椀	床面+14cm 破片 高台部	口径 - 底径 9.0 高さ (2.4)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③灰白色 10YR8/2	高足高台。	
100号住居跡 6	須恵器 椀	床面直上 破片 体~底部	口径 - 底径 7.0 高さ (2.6)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/4	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転系切り後未調整。	
100号住居跡 7	灰釉陶器 碗	床面+7cm 1/2 口縁~底部	口径 15.3 底径 8.0 高さ 5.2	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 5Y7/1	漬け掛け施釉。貼付け高台。高台は低く幅広。底部回転系切り後未調整。 虎渓山	
100号住居跡 8	灰釉陶器 碗	床面+7cm 3/4 口縁~底部	口径 12.7 底径 5.8 高さ 3.9	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 5Y7/1	漬け掛け施釉。高台は低く幅広。底部回転系切り後未調整。 虎渓山	
100号住居跡 9	灰釉陶器 碗	床面直上 1/2 口縁~底部	口径 13.4 底径 7.7 高さ 4.5	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 10Y7/1	漬け掛け施釉。高台は低く幅広。底部回転系切り後未調整。 虎渓山	
100号住居跡 10	土師器 甕	床面+9cm 破片 口縁~胴部	口径 (19.6) 底径 - 高さ (16.5)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色 2.5YR4/4	外面=口縁部上位横ナデ、下位粗い指ナデ。胴部ヘラ削り後粗いヘラナデ。 内面=口縁部横ナデ。	
100号住居跡 11	土師器 甕	床面+13cm 破片 口縁~胴部	口径 (22.4) 底径 - 高さ (6.9)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③橙色 5YR7/6	外面=口縁部指頭圧痕の凹みを残し粗雑な指ナデ。 内面=口縁部粗い横ナデ。	
100号住居跡 12	土師器 甕	埋土中 破片 口縁部	口径 (22.6) 底径 - 高さ (5.9)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/4	外面=口縁部粗い指ナデ、胴部との境にヘラ調整時のヘラ痕の凹みを残す。 内面=口縁部横ナデ。	
100号住居跡 13	土師器 甕	床面+8cm 破片 口縁~胴部	口径 (19.8) 底径 - 高さ (9.0)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/2	外面=口縁部粗い指ナデ、胴部には指頭圧痕の凹みを残す。 内面=口縁部横ナデ。	
100号住居跡 14	土師器 甕	床面+14cm 破片 口縁~胴部	口径 (20.7) 底径 - 高さ (13.4)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色 5YR4/3	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後に粗いヘラナデ。 内面=口縁部横ナデ。	
100号住居跡 15	土師器 甕	床面+9cm 破片 胴~底部	口径 - 底径 (7.0) 高さ (11.8)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄褐色 10YR4/3	外面=胴~底部ヘラ削り後に一部粗いヘラナデ。 内面=粗い指ナデ。	
100号住居跡 16	土師器 甕	床面+7cm 破片 口縁~胴部	口径 (22.8) 底径 - 高さ (9.0)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③橙色 5YR7/6	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。 内面=口縁部横ナデ、粗い横方向のヘラナデ。	
100号住居跡 17	土師器 甕	床面+8cm 破片 胴~底部	口径 - 底径 4.0 高さ (8.0)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③暗灰黄色 2.5YR5/2	外面=胴~底部ヘラ削り後に一部粗いヘラナデ。 内面=粗い指ナデ。	
100号住居跡 18	土師器 甕	床面+9cm 破片 口縁~胴部	口径 (22.0) 底径 - 高さ (13.0)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③明赤褐色 10YR6/4	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後に粗いヘラナデ。 内面=口縁部横ナデ。	
100号住居跡 19	須恵器 羽釜	床面+12cm 破片 口縁~胴部	口径 (21.8) 底径 - 高さ (8.9)	①微・細砂少 ②還元焰 ③褐色 7.5YR4/3	内外面共に口縁部~胴部上位に丁寧な横方向のナデ。	
100号住居跡 20	鉄器 刀子	床面+11cm 略完形	長さ 15.0 巾 1.7 厚さ 0.7	重量=42.39g	全体に腐食が著しいが、X線写真では切先部と茎部は比較的遺存状態良好。区は棟区のみ良好に残る。	

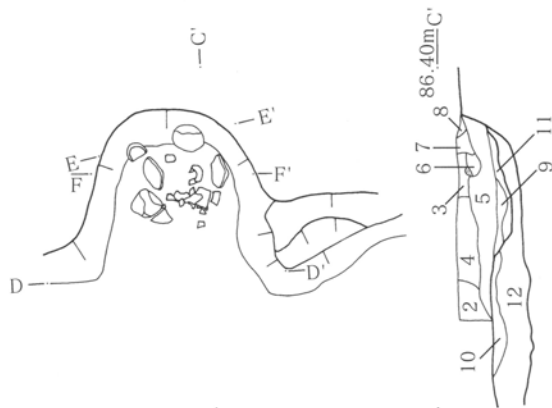


102号住居跡 (遺構写真PL.12、遺物写真PL.43)

位置：X=38,601 Y=-52,927 主軸方位：N-102° -E 面積：11.62㎡

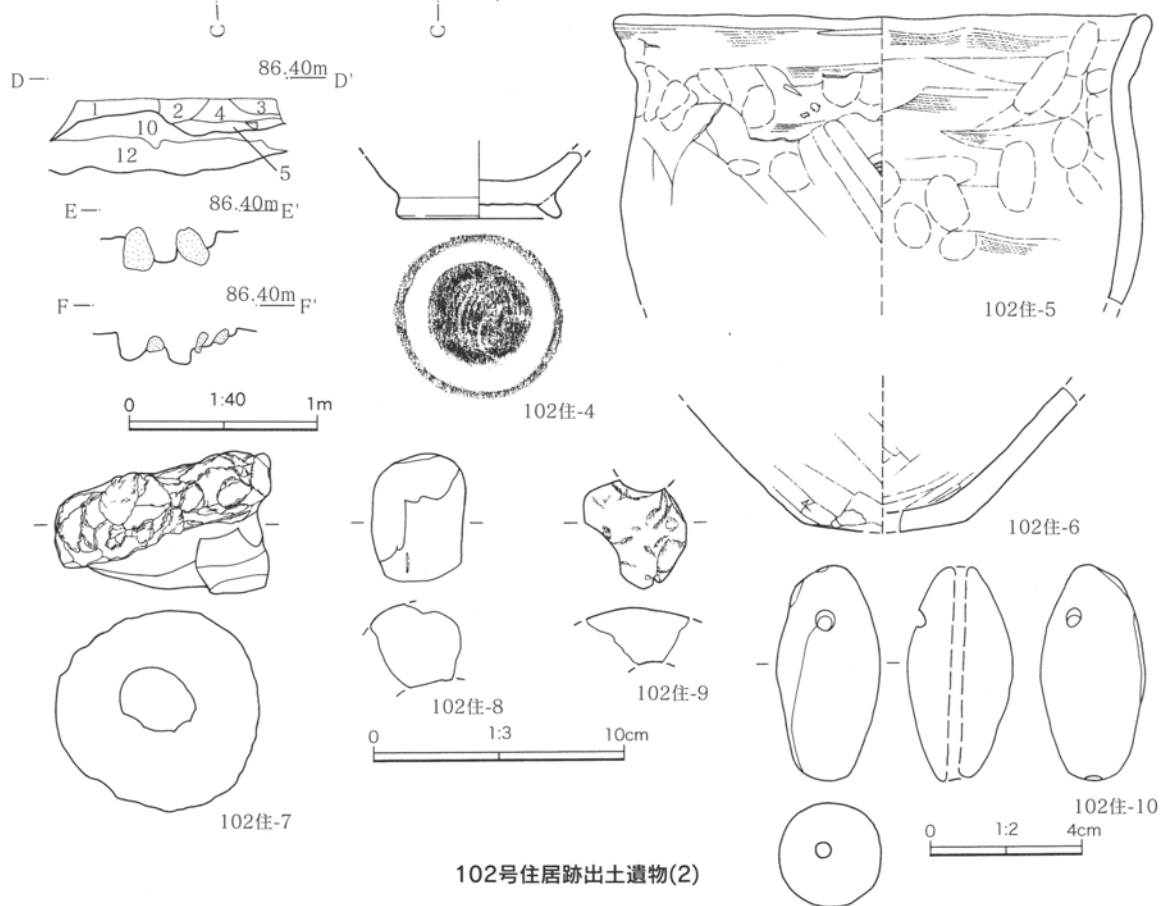
平面形状は、東西軸3.8m×南北軸3.2~3.5mを測るやや歪な隅丸方形状を呈する。床面までの残存深度はわずかに20cmを測るのみで、北側壁の上半部を攪乱にて欠失するなど遺存状態は悪い。竈跡は東壁のほぼ中央に位置し、煙道は急峻に立ち上がり、壁からあまり突出しない。原位置は保たないものの燃焼部の埋土内より円礫が多く出土し、また、後記の貯蔵穴内よりも円礫が出土しており、竈の構築材として礫が多く用いられたものと推察される。床面は全体に5~15cmほどの掘り方を有するため、全面に貼り床を施す。内部施設としては、南東コーナー部に径50×70cm、深度16cmを測る貯蔵穴1基を検出した。埋土内には竈の構築材の礫が混入し、竈崩壊時には開口していたものと思われる。出土遺物には床下土坑内より出土の羽口(No.7・8)の他、土師器杯・甕・高杯、須恵器杯・椀、灰釉陶器碗などの出土がある。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構なし。





102号住居跡 竈跡 C-C'・D-D' 埋土

- 1: 黄褐色土 = 住居埋土1層土
- 2: 黒色土 多量の茶褐色土を含む
- 3: 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含む
- 4: 黒色土 多量の茶褐色土と少量の焼土粒子を含む
- 5: 黒色土 多量の茶褐色土・焼土粒子を含む
- 6: 暗褐色土 ローム粒子と少量の焼土粒子を含む
- 7: 暗褐色土 多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む
- 8: 暗褐色粘土 = 竈構築材
- 9: 暗褐色土 焼土粒子と微量の炭化物を含む
- 10: 黒褐色土 多量の焼土粒子を含む=使用面
- 11: 灰層 = 使用面
- 12: 褐色土 ローム粒子を含む=竈掘り方埋土



102号住居跡出土遺物(2)

102号住居跡 出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
102号住居跡 1	土師器 坏	竈埋土 破片 口縁～底部	口径 (11.4) 底径 - 高さ (3.3)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③明赤褐色 2.5YR5/6	外面=口縁～体部横ナデ、底部ヘラナデ。 内面=口縁～底部ナデ。	
102号住居跡 2	灰釉陶器 碗	埋土中 破片 高台部	口径 - 底径 (8.7) 高さ (1.9)	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 5Y7/1	内面底部にも施釉。大原2号窯式。	
102号住居跡 3	須恵器 椀	床面+6cm 破片 高台部	口径 - 底径 (6.6) 高さ (2.3)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③明黄褐色 10YR7/6	ロクロ成・整形。底部回転系切り後高台部貼付け時に一部ナデ。	
102号住居跡 4	須恵器 椀	床面+5cm 破片 高台部	口径 - 底径 6.6 高さ (2.6)	①微・細砂多 ②還元焰 良好 ③にぶい黄褐色 10YR7/4	ロクロ成・整形。底部回転系切り後高台部貼付け時に一部ナデ。	

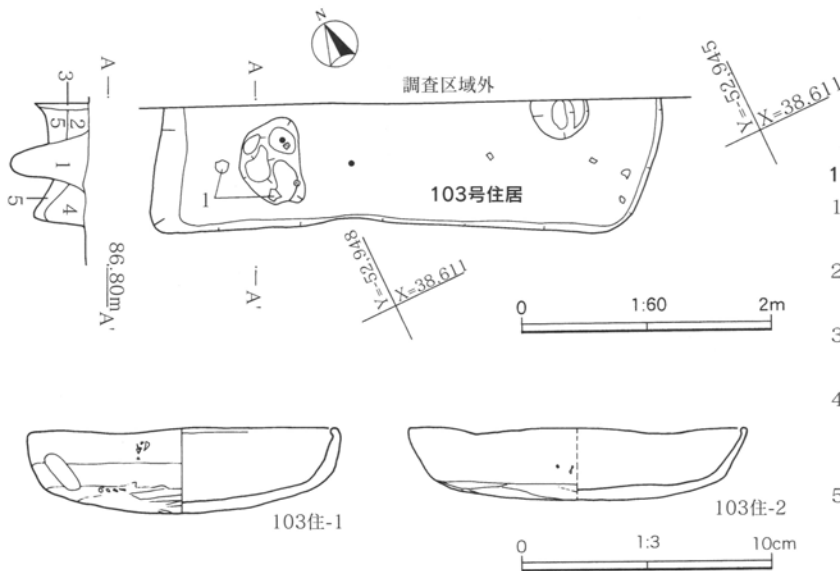
102号住居跡 出土遺物観察表2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
102号住居跡 5	土師器 甕	床面-5cm 破片 口縁~胴部	口径 (21.4) 底径 - 高さ (11.5)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/4	外面=口縁部肉厚で指圧痕の凹みを残し粗い横ナデ。胴部へラ削り後に粗いへラナデ。内面=横ナデ。	
102号住居跡 6	土師器 甕	床面直上 破片 胴~底部	口径 - 底径 (6.4) 高さ (5.6)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③浅黄橙色 7.5YR8/6	外面=胴下半~底部へラ削り。 内面=胴下半~底部ナデ。	
102号住居跡 7	土製品 羽口	床下土坑 破片 先端部	径 8.0 長さ (5.6)	①微・細・粗砂多 ③にぶい黄橙色 10YR7/2	先端部に還元化・発泡・鉄分融着。	
102号住居跡 8	土製品 羽口	床下土坑 破片 先端部	径 - 長さ (5.0)	①微・細・粗砂多 ③にぶい黄橙色 10YR6/3	先端部は還元化。	
102号住居跡 9	土製品 羽口	埋土中 破片 先端部	径 - 長さ (4.2)	①微・細・粗砂多 ③浅黄色 2.5Y7/3	先端部に還元化・発泡・鉄分融着。	
102号住居跡 10	土製品 土錘	床面+7cm 完形	長さ 5.7 巾 2.8 重量 37g	①細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR5/4	手握ね成形。	

103号住居跡 (遺構写真PL.12、遺物写真PL.43)

位置：X=38,612 Y=-52,947 主軸方位：N-119° -E 面積：(3.46)m<sup>2</sup>

平面形状は、隅丸形状を呈すると思われるが、北半部が調査区域外にかかるため、東西軸で4.0mを測ることが判明するのみで全体の規模・形状は不明である。また、床面までの遺存状態も上面の削平を受けて、壁高わずか10~15cmほどを測るのみである。竈跡は検出されておらず、恐らくは調査区域外の未調査部に存在するものと思われる。床面は不定形の小土坑状の掘り方の上に貼り床を施す。内部施設としては、南西コーナー付近に不定形の土坑を、また、北東部調査区境にピットを各1基検出する。出土遺物は少なく、埋土中より土師器坏片を数点出土するのみである。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を呈する。重複遺構は南東コーナー部において153号土坑跡と重複し、この土坑が住居掘り方調査時において検出されたことから、本住居跡の方が新しいものと判断された。



103号住居跡 A-A' 埋土

- 1：暗褐色弱粘質土 明褐色土ブロックを含む
- 2：黒褐色土 少量の明褐色土ブロックを含む
- 3：黒褐色土 多量のロームブロックを含む
- 4：黒褐色土 少量の白色軽石・ローム 粒子・明褐色土ブロックを含む
- 5：黄褐色土 ローム土に少量の褐色土ブロックを含む

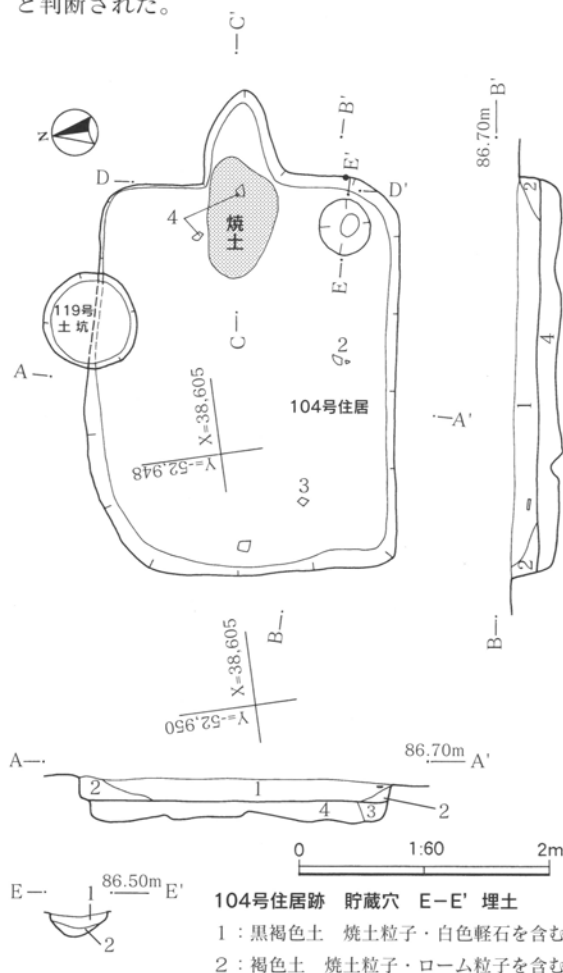
103号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
103号住居跡 1	土師器 坏	床面+7cm 4/5 口縁~底部	口径 12.4 底径 - 高さ 3.3	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③橙色 7.5YR6/6	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り後ヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	
103号住居跡 2	土師器 坏	床面-3cm 1/3 口縁~底部	口径 (13.4) 底径 - 高さ 2.8	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③橙色 7.5YR6/6	外面=口縁部横ナデ、体~底部丁寧なヘラ削り後ヘラナデ。 内面=丁寧なナデ。	

104号住居跡 (遺構写真PL.13)

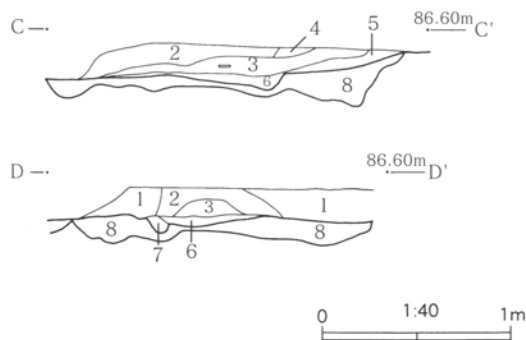
位置：X=38,605 Y=-52,947 主軸方位：N-98°-E 面積：6.72㎡

平面形状は、東西軸3.1m×南北軸2.5mを測るやや歪な隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は25cmほどを測り、上面の削平を受けるものの壁の崩落は見られず、比較的に遺存状態は良好であった。竈跡は東壁のほぼ中央部に検出され、燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。袖石等を用いられた痕跡は無く、粘土のみで構築されたものと考えられる。また、竈の掘り方は住居掘り方の延長上に掘り込まれ、同一埋土によって埋められていた。床面は全体に10~20cmの掘り方を有し、全面にわたり貼り床を施す。内部施設としては、南東コーナー部に径40cm、深度20cmほどを測る貯蔵穴跡を1基検出したのみである。出土遺物はわずかに土師器坏・甕、須恵器坏・碗を出土する。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を呈する。重複遺構は、北壁に接して119号土坑跡と重複し、遺構確認時の状況より、本住居跡の方が古いものと判断された。



104号住居跡 A-A'・B-B' 埋土

- 1：黒褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・焼土粒子・明褐色土ブロックを含む
- 2：暗褐色土 多量の黄褐色土ブロックを含む
- 3：暗褐色土 多量のロームブロックを含む
- 4：黄褐色土 多量の暗褐色土を含み、硬化する  
=貼り床土・掘り方埋土

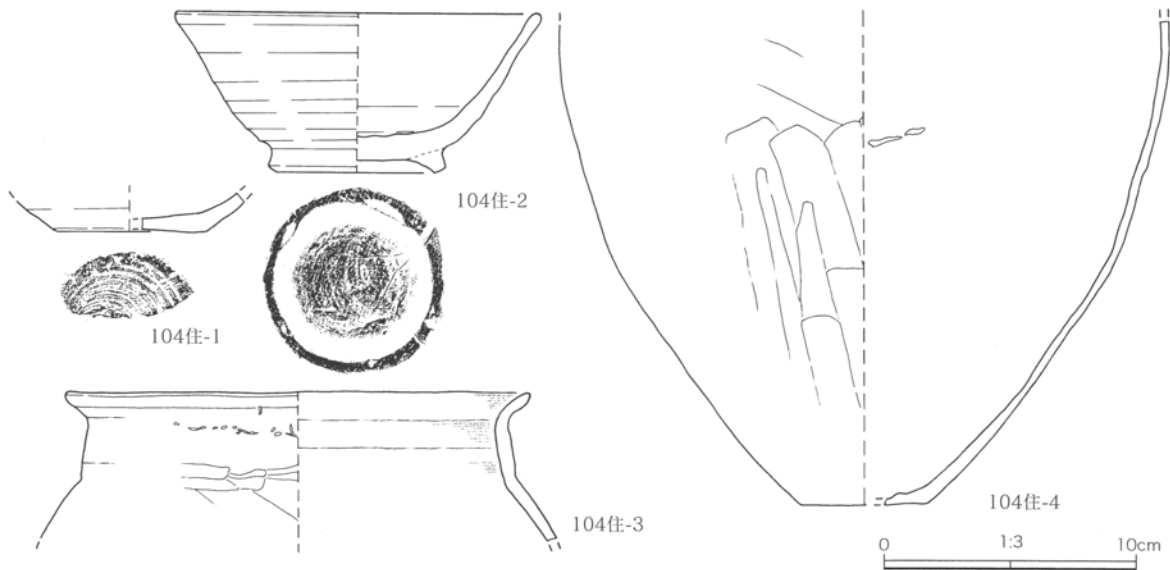


104号住居跡 竈跡 C-C'・D-D' 埋土

- 1：暗褐色土 少量の榛名二ツ岳白色軽石・明褐色土ブロックを含む
- 2：暗褐色土 焼土粒子を含む
- 3：暗褐色土 多量の焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む  
=天井部崩落土
- 4：暗褐色土 少量の焼土粒子を含む
- 5：褐色土 微量の焼土粒子を含む
- 6：暗褐色土 多量の焼土粒子を含む=使用面
- 7：褐色土 微量のローム粒子を含む
- 8=住居掘り方埋土4層土と同じ

104号住居跡 貯蔵穴 E-E' 埋土

- 1：黒褐色土 焼土粒子・白色軽石を含む
- 2：褐色土 焼土粒子・ローム粒子を含む



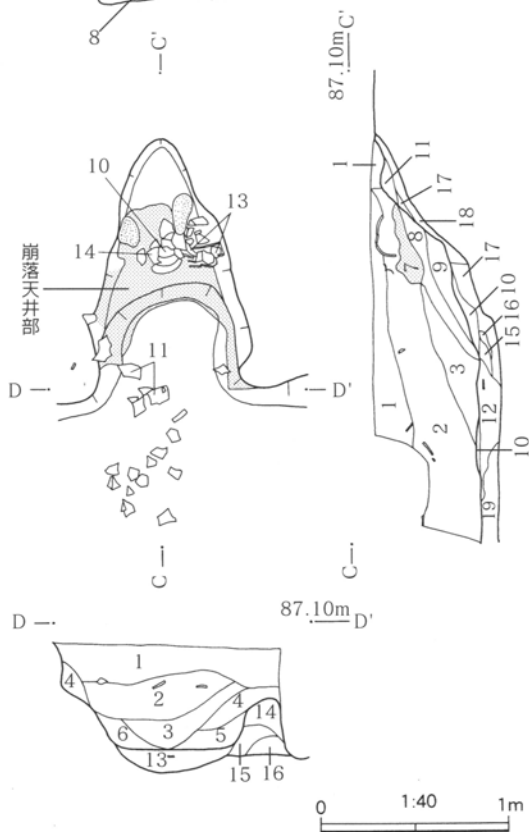
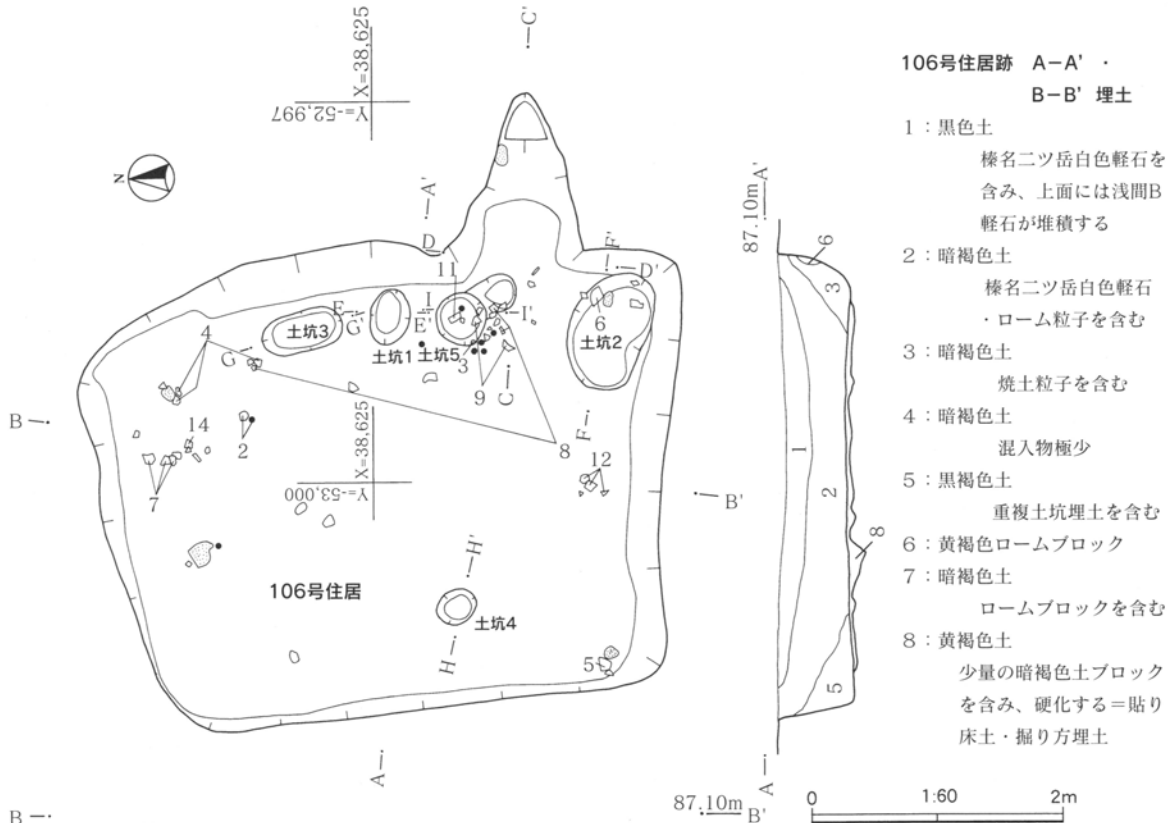
104号住居跡 出土遺物観察表

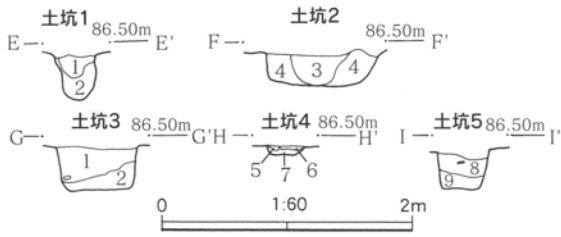
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
104号住居跡 1	須恵器 坏	埋土中 破片 底部	口径 — 底径 (6.0) 高さ (1.5)	①微・細砂やや多 ②還元焰 良好 ③灰黄色 2.5Y6/2	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転糸切り後は未調整。	
104号住居跡 2	須恵器 椀	床面+1cm 1/3 口縁~底部	口径 (14.6) 底径 7.0 高さ 6.3	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰黄褐色 10YR4/2	丁寧なロクロ成・整形。底部付近やや肉厚。底部回転糸切り痕を高台貼付け時にナデ調整。	
104号住居跡 3	土師器 甃	床面+5cm 破片 口縁~胴部	口径 (18.4) 底径 — 高さ (5.9)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR6/4	内外面口縁部横ナデ。	
104号住居跡 4	土師器 甃	床面+3cm 破片 胴~底部	口径 — 底径 (5.0) 高さ (19.0)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③赤褐色 5YR4/8	外面=胴~底部は縦方向の丁寧なへら削り。 内面=丁寧なナデ。	

106号住居跡 (遺構写真PL.13・14、遺物写真PL.42)

位置：X=38,625 Y=-53,000 主軸方位：N-94° -E 面積：13.57㎡

平面形状は、南北軸3.8~4.9m×東西軸3.7mを測る、やや歪な隅丸台形状を呈する。床面までの残存深度は64cmほどを測り、西壁中央部と北東コーナー部壁が重複遺構により不明瞭ではあるが、他所は崩落も少なく遺存状態は良好であった。竈跡は東壁の南東コーナー寄りに位置し、遺存状態は良好で、焼土化した煙道部天井が残る。燃烧部には崩落天井部の焼土と共に礫や土器片も混在し、構築材の一部として用いられたものと考えられる。燃烧部両壁は被熱による焼土化が著しく、長期間の使用が推察される。また、竈掘り方埋土内にも焼土が含まれることから、使用途中での修復が想定される。床面は竈前面北側に床下土坑を1基有するのみで掘り方を持たないため、地山掘削面をもって床面とし、部分的に薄い貼り床を施す。内部施設としては、東壁下に3基のピット(土坑1・3・5)を検出し、深度も40~44cmを測ることから柱穴跡と考えられるが、対となる位置でのピット検出はない。また、南東コーナー部に径60~100cm、深度25cmを測る貯蔵穴跡と考えられる土坑を検出した。出土遺物として、土師器坏・甃・高坏、須恵器坏・椀、羽釜片が出土する。埋土は3層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は、117号住居跡と、西壁中央部で1号井戸跡と、北東コーナー部で107号住居跡とそれぞれ重複し、遺構確認時の埋土の状況より全ての遺構より本住居跡の方が新しいものと判断された。





106号住居跡 土坑 E-E' ~ I-I' 埋土

- 1: 黒色土 少量の白色軽石・ローム粒子を含む
- 2: 黒色土 少量の白色軽石と多量のローム粒子を含む
- 3: 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・ロームブロックを含む
- 4: 黒褐色土 ローム粒子と多量のロームブロックを含む
- 5: 黒褐色土 多量の焼土粒子を含む
- 6: 灰白色粘土 焼土ブロックを含む
- 7: 灰白色粘土 ※5~7層土は竈材の混入
- 8: 黒褐色土 焼土粒子・ローム粒子を含む
- 9: 黒褐色土 微量の焼土粒子を含む



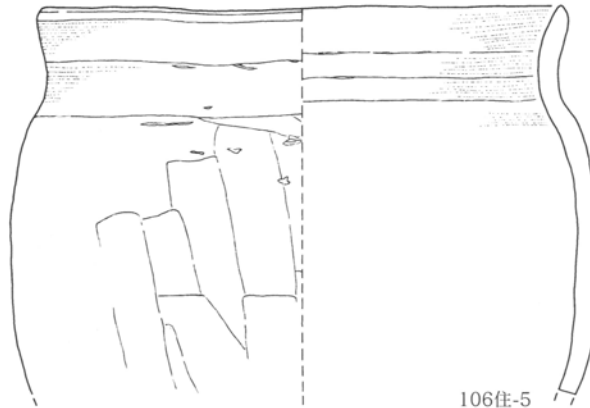
106住-1



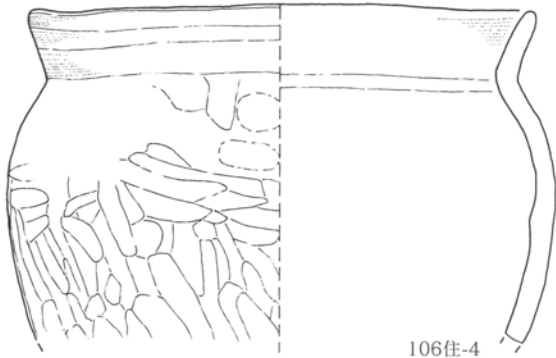
106住-3



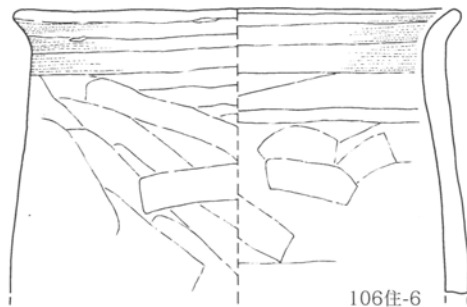
106住-2



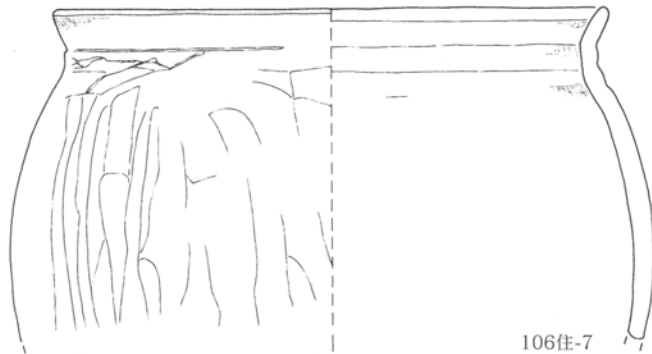
106住-5



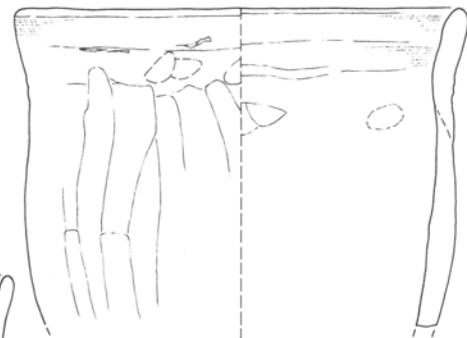
106住-4



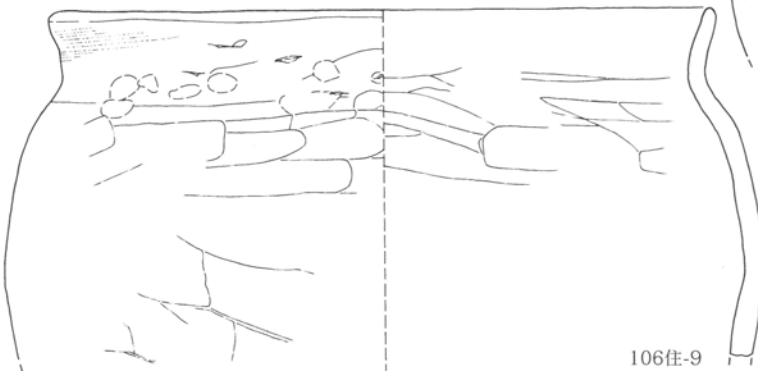
106住-6



106住-7

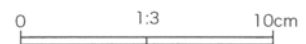


106住-8



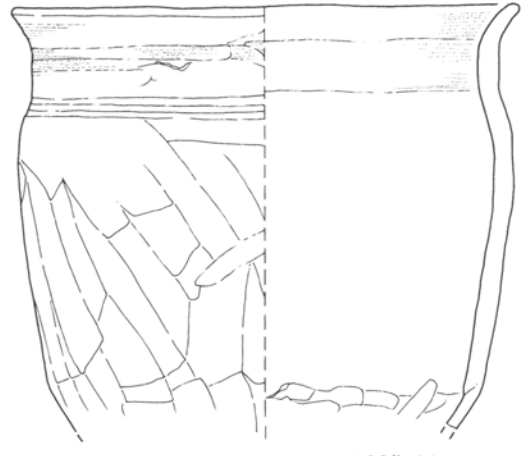
106住-9

106号住居跡出土遺物(1)

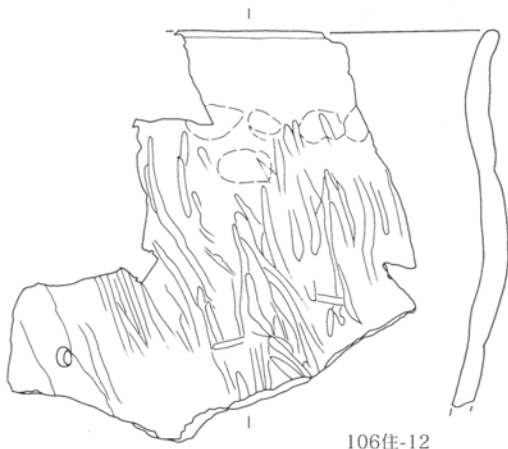




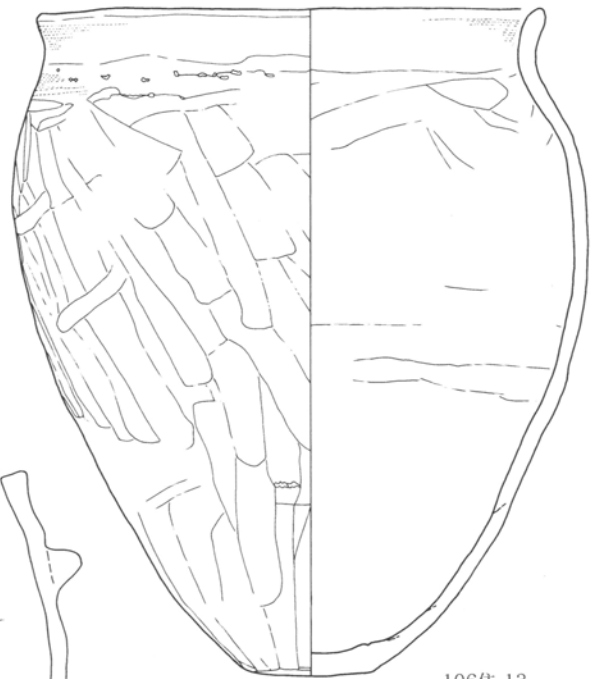
106住-10



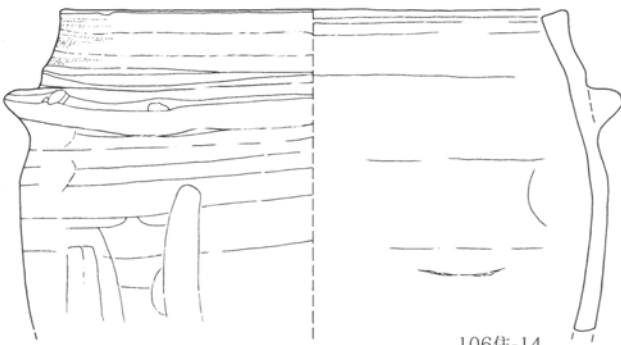
106住-11



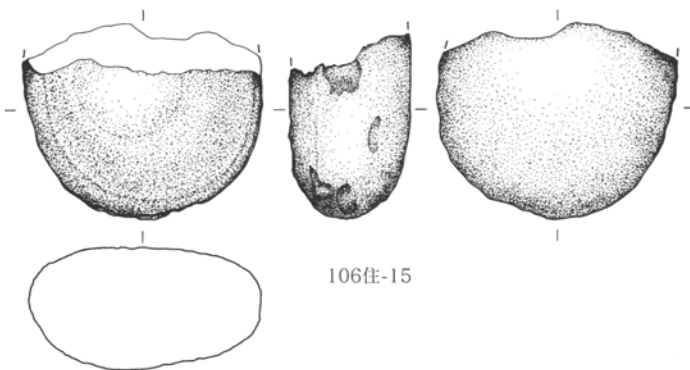
106住-12



106住-13



106住-14



106住-15

106号住居跡出土遺物(2)





106号住居跡 出土遺物観察表

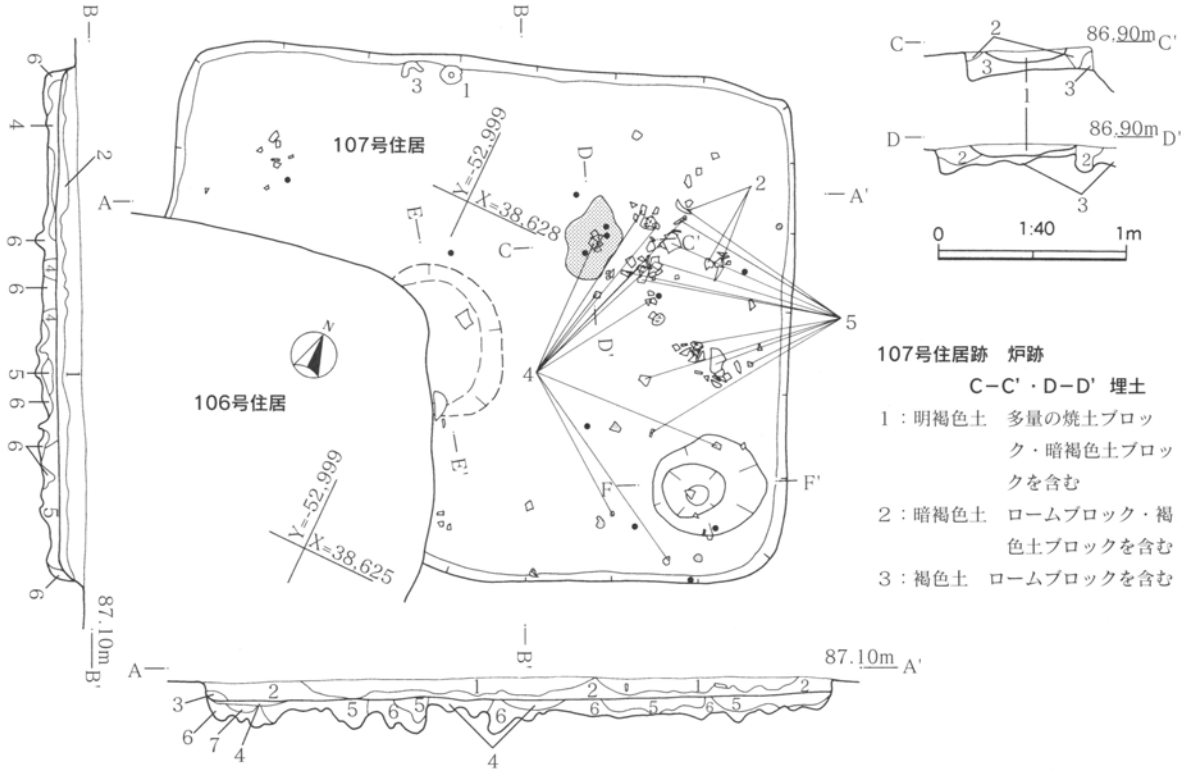
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
106号住居跡 1	須恵器 椀	埋土中 破片 口縁～体部	口径 (12.8) 底径 - 高さ (3.4)	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/3	口縁部外反。ロクロ成・整形。 No.2と同一個体。	
106号住居跡 2	須恵器 椀	床面-10cm 破片 体～底部	口径 - 底径 6.4 高さ (2.9)	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③浅黄色 2.5Y7/3	ロクロ成・整形。高台貼付け時に底部 切り離し痕を丁寧に調整。	
106号住居跡 3	須恵器 椀	5号土坑内 破片 底部	口径 - 底径 (7.0) 高さ (2.2)	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③橙色 7.5YR6/6	ロクロ成・整形。付け高台。内面へラ 磨き。	
106号住居跡 4	土師器 甕	床面-11cm 1/2 口縁～胴部	口径 (20.0) 底径 - 高さ (13.3)	①細・粗砂やや多 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR6/4	外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 5	土師器 甕	床面+9cm 破片 口縁～胴部	口径 (21.0) 底径 - 高さ (15.3)	①細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③褐色 7.5YR4/3	外面=口縁部横ナデ、胴部上位へラ削 り後へラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 6	土師器 甕	床面+8cm 破片 口縁～胴部	口径 (17.6) 底径 - 高さ (11.2)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR6/4	外面=口縁部粗い横ナデ、胴部斜方向 のへラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 7	土師器 甕	床面+6cm 破片 口縁～胴部	口径 (22.0) 底径 - 高さ (13.0)	①細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/3	外面=口縁部横ナデ、胴部との境に粗 い刷毛目状工具痕残す。胴部へラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 8	土師器 甕	床面+1cm 破片 口縁～胴部	口径 (17.8) 底径 - 高さ (12.6)	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR7/4	外面=口縁部横ナデ、胴部縦方向のへ ラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 9	土師器 甕	床面+10cm 破片 口縁～胴部	口径 (26.3) 底径 - 高さ (13.8)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③明赤褐色 5YR5/6	外面=口縁部粗い横ナデ、胴部との境 に指頭圧痕残す。胴部へラ削り。 内面=口縁部横ナデ。	
106号住居跡 10	土師器 甕	床面+3cm 破片 口縁～胴部	口径 (19.6) 底径 - 高さ (17.0)	①細・粗砂やや多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/3	外面=口縁部横ナデ、胴部は斜方向の へラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 11	土師器 甕	床面-7cm 破片 口縁～胴部	口径 (20.0) 底径 - 高さ (16.8)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③明赤褐色 5YR5/6	外面=口縁部横ナデ、胴部は縦方向の 丁寧なへラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 12	土師器 甕	床面-7cm 破片 口縁～胴部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③オリーブ黒 5Y3/1	器面凹凸多く歪。外面=粗い横ナ デ、胴部へラ削り後に粗いへラ磨き。 胴部に補修用穿孔あり。	
106号住居跡 13	土師器 甕	床面+2cm 2/3 口縁～底部	口径 20.2 底径 5.0 高さ 26.2	①微・細砂多 ②酸化焰 良好 ③明赤褐色 10YR7/6	外面=口縁部横ナデ、胴部へラ削り後 に部分的なへラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 14	須恵器 羽釜	床面直上 破片 口縁～胴部	口径 (20.0) 底径 - 高さ (12.7)	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③浅黄橙色 10YR8/3	外面=口縁部～頸～胴部上位は横ナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
106号住居跡 15	石製品 磨石	埋土中 1/2	長さ (7.65) 巾 9.50 厚さ 4.85	石材=粗粒輝石安山岩 重量=477.0g	上下平坦面に研磨痕、端部に敲打痕残 る。	

107号住居跡 (遺構写真PL.15、遺物写真PL.44)

位置：X=38,627 Y=-52,998 主軸方位：N-70° -E 面積：(13.95)㎡

平面形状は、東西軸5.0m×南北軸4.0mを測る隅丸長方形を呈すると思われるが、重複遺構により南西コーナー部を逸しているため、全容は不明。床面までの残存深度は、わずかに20cmを測るのみである。これは、上面の削平を受けていることもあるが、隣接の重複遺構が64cmもの壁高を残していることから、元々の掘り込みが浅かったものと考えられる。内部施設としては、住居中央部やや北東コーナー寄りの位置に炉跡

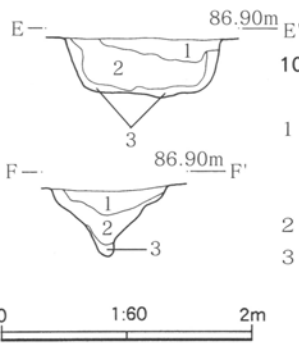
を検出する。掘り込みは有せず、礫等も用いられていない地焼炉であった。また、南東コーナー部より径80～95cm、深度60cmを測り、断面形状が楕円状を呈する土坑跡を検出する。柱穴は検出されていない。床面の形状は、住居全体に10～30cmの深さでランダムに鋤込まれた状態の掘り方に対し、全面に貼り床を施す。出土遺物は古式土師器甕・高坏脚などが出土する。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を呈す。重複遺構は、南西部において106号住居跡と接し、遺構確認時の埋土の状況により本住居跡の方が古いものと判断された。



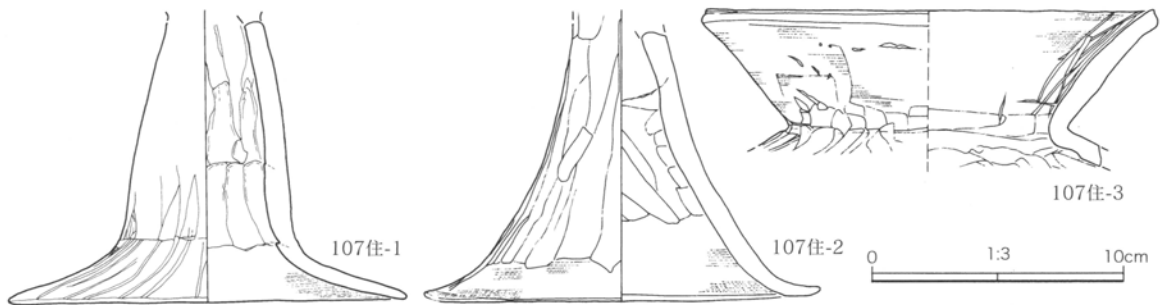
- 107号住居跡 炉跡  
C-C'・D-D' 埋土
- 1: 明褐色土 多量の焼土ブロック・暗褐色土ブロックを含む
  - 2: 暗褐色土 ロームブロック・褐色土ブロックを含む
  - 3: 褐色土 ロームブロックを含む

107号住居跡 A-A'・B-B' 埋土

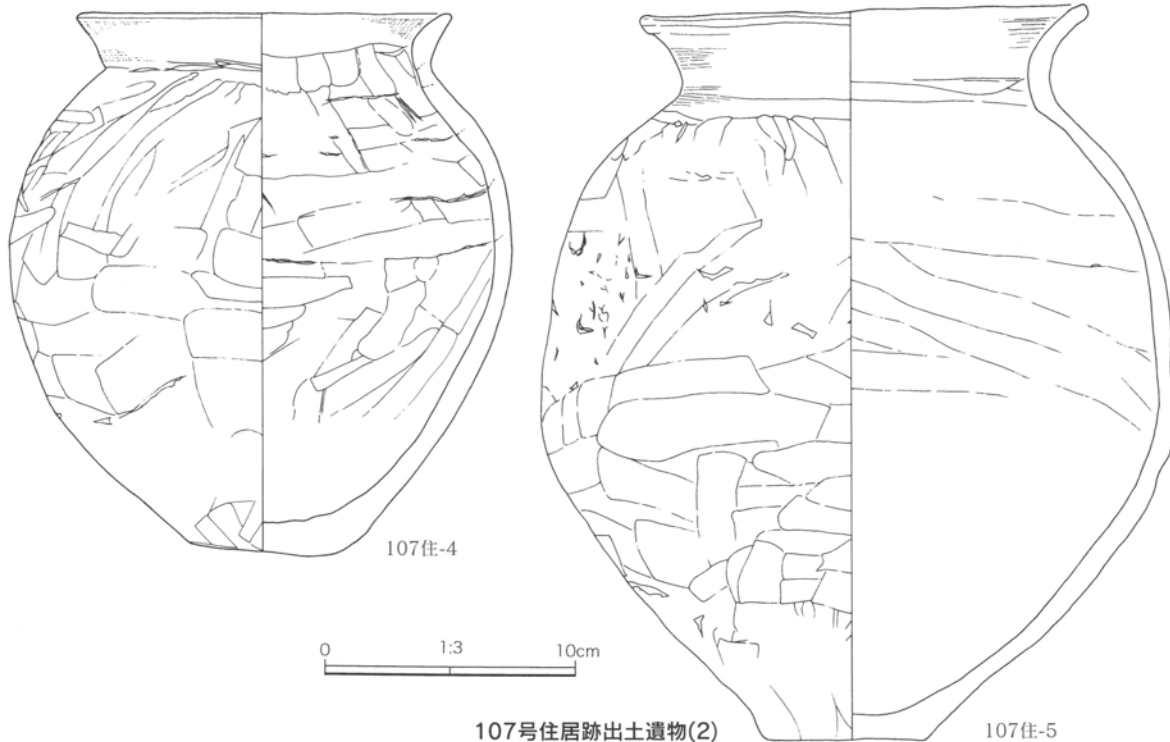
- 1: 黒色土 白色軽石を含み、樹根攪乱甚大
- 2: 明褐色土 黒色土を含む
- 3: 明褐色土 ロームブロック・黒色土を含む
- 4: 暗褐色土 多量のロームブロック・黒色土ブロック(径5～20mm大)と少量のローム粒子・ハードロームブロック(5～10mm大)を含む=掘り方埋土
- 5: 褐色土 多量のローム粒子と少量の暗褐色土ブロック・ハードロームブロック(径5～20mm大)を含む
- 6: 黄褐色土 ソフトローム土に少量の褐色土・暗褐色土・ハードロームブロック(径5～10mm大)を斑状に含む
- 7: 黄色土 ハードロームブロック(径5～20mm大)



- 107号住居跡 土坑  
E-E'・F-F' 埋土
- 1: 黒褐色土 白色軽石と少量の褐色土ブロックを含む
  - 2: 黒褐色土 白色軽石を含む
  - 3: 黒褐色土 白色軽石と少量のロームブロックを含む



107号住居跡出土遺物(1)



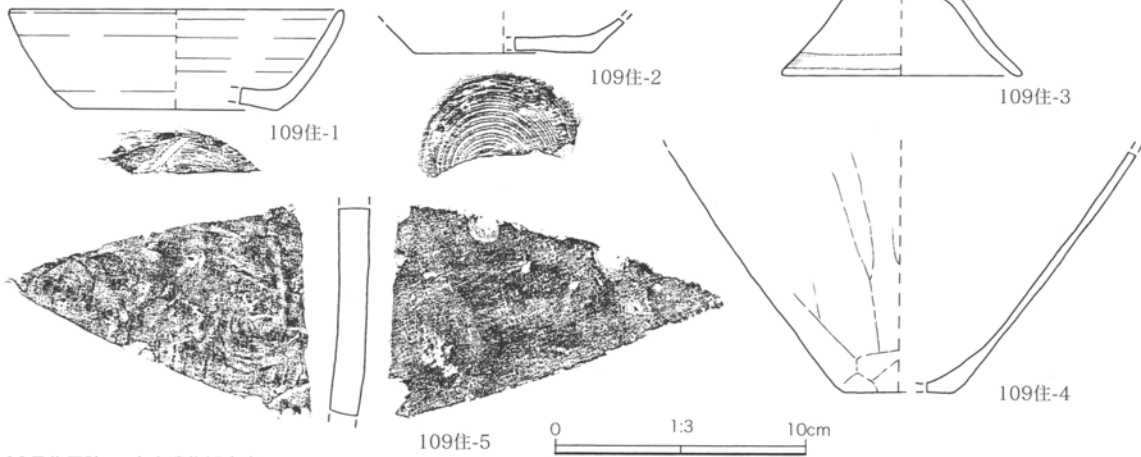
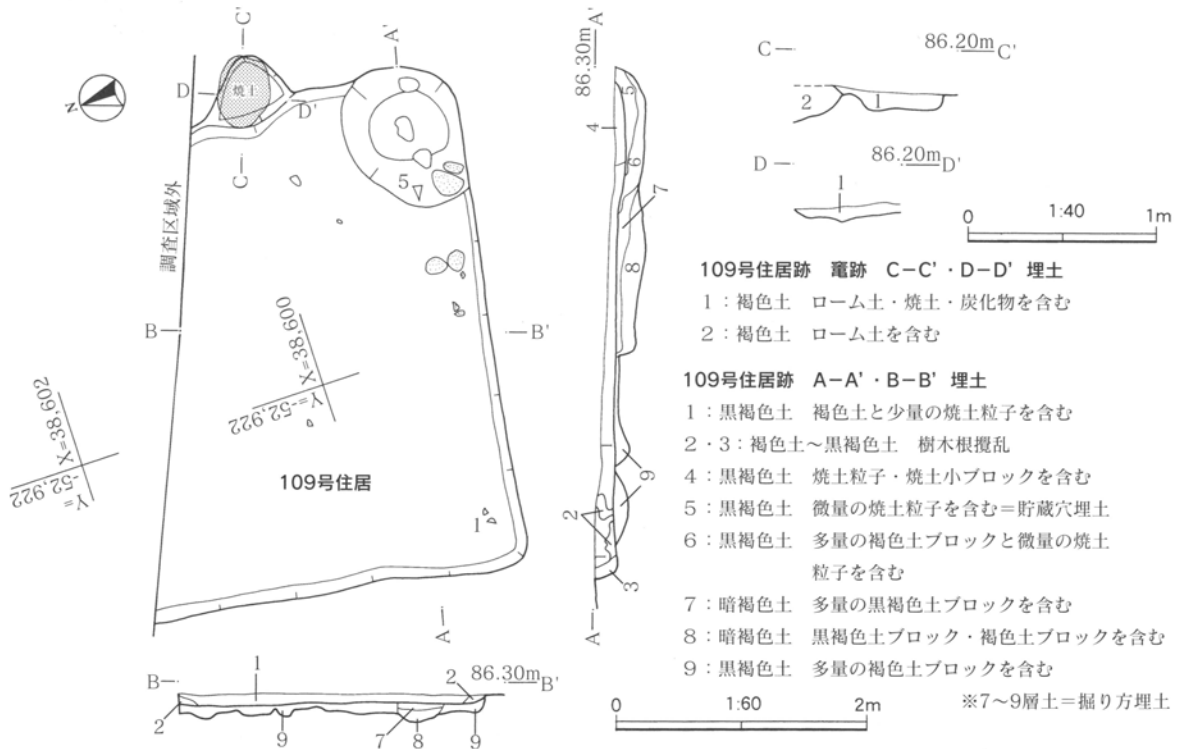
107号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
107号住居跡 1	土師器 高坏	床面直上 脚部	口径 - 底径 15.8 高さ (11.0)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR7/3	外面=丁寧なナデの後に粗いヘラ磨き。 内面=脚底部ナデ、脚内部は棒状工具による丁寧な押さえ。	
107号住居跡 2	土師器 高坏	床面+1cm 脚部	口径 - 底径 15.6 高さ (11.4)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③赤褐色 5YR4/6	外面=ヘラ削りヘラナデ後に粗いヘラ磨き。 内面=脚下半~底部ナデ。	
107号住居跡 3	土師器 壺	床面+3cm 破片 口縁~頸部	口径 (17.7) 底径 - 高さ (6.5)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR6/4	外面=口唇部は丁寧な横ナデ、口縁部下位はやや粗い横ナデ、肩部ヘラ磨き。 内面=口縁部横ナデ後に雑なヘラ磨き。	
107号住居跡 4	土師器 甕	床面+1cm 1/2 口縁~底部	口径 14.8 底径 6.0 高さ 21.4	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 5YR6/4	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後にやや粗いヘラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	
107号住居跡 5	土師器 甕	床面+1cm 略完形	口径 17.8 底径 6.4 高さ 28.6	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄褐色 10YR5/4	外面=口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後にやや粗いヘラナデ。 内面=口縁部横ナデ、胴部ナデ。	

109号住居跡 (遺構写真PL.16)

位置：X=38,600 Y=-52,922 主軸方位：N-99° -E 面積：(9.41)m<sup>2</sup>

平面形状は、東西軸に4.1mを測る隅丸方形を呈すると思われるが、北半部が調査区域外にかかるため、規模・形状の全容は不明。床面までの残存深度は、上面の削平が著しいため、わずかに12cmを測るのみで遺存状態は悪い。竈跡は東壁側に検出されたものの、やはり削平により遺存状態は悪く、掘り方を残すのみであった。掘り方では袖石等の埋設の痕跡はなく、また、煙道部も短く壁より大きく突出しない。内部施設としては南東コーナー部に径80~100cm、深度27cmを測る貯蔵穴1基を検出するのみである。床面の状況は、ほぼ全面にわたる3~20cmほどの不定形な掘り方に対して、全面に貼り床が施される。出土遺物はわずかながら須恵器坏片などを出土するのみである。埋土は3層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構なし。



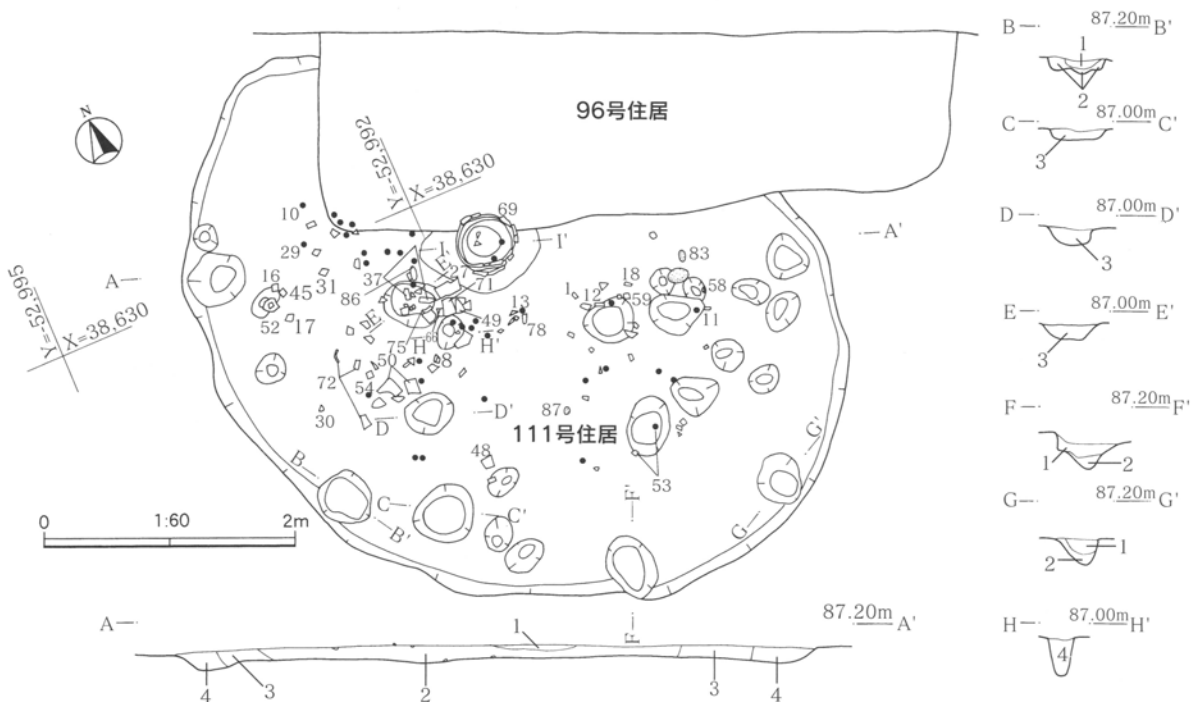
109号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
109号住居跡 1	須恵器 坏	床面+1cm 破片 口縁~底部	口径 (13.2) 底径 (8.0) 高さ 3.9	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③浅黄色 2.5Y7/3	やや粗雑なロクロ成・整形。底部回転系切り後は未調整。	
109号住居跡 2	須恵器 坏	掘り方埋土 1/2 底部	口径 - 底径 (7.0) 高さ (1.3)	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰色 5Y6/1	ロクロ成・整形。底部回転系切り後は未調整。	
109号住居跡 3	土師器 台付甕	埋土中 破片 台部	口径 - 底径 (9.6) 高さ (3.3)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③赤褐色 2.5YR4/6	脚部内外面共に丁寧なナデ。	
109号住居跡 4	土師器 甕	埋土中 破片 胴~底部	口径 - 底径 (4.2) 高さ (9.5)	①微・細砂やや多 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色 5YR4/3	外面=胴部~底部は縦方向の丁寧なヘラ削り。 内面=胴部ナデ。器肉薄。	
109号住居跡 5	須恵器 甕	床面-2cm 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③黄灰色 2.5Y5/1	自然袖付着。	

111号住居跡 (遺構写真PL.17、遺物写真PL.45・46)

位置：X=38,629 Y=-52,992 面積：(13.21)m<sup>2</sup>

平面形状は、径4.5~5.5mを測る楕円形状を呈すると思われるが、北側が重複遺構により欠失しているため、規模・形状の全容は不明。床面までの残存深度は上面の削平が著しく、わずか15cm以下と遺存状態は良好ではなかった。内部施設としては、住居中央やや北西寄りに埋甕炉を検出する。径50cm、深度25cmを測り、深鉢の下半部を欠き埋設する。土器および底面の地山は強く被熱を受ける。また、埋甕掘り方埋土内にも焼土がみられることから、使用途上において修復が行われたものと推察される。柱穴は径35~50cm、深度10~22cmを測る楕円形のピット5穴が、壁際にほぼ等間隔で検出された。床面は掘り方を持たないため、地山掘削面を床面とし硬化する。出土遺物は、埋甕炉の深鉢を除く大半が、埋土中よりの出土である。重複遺構は、北側に96号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相から本住居跡の方が古いものと判断された。



111号住居跡 A-A' 埋土

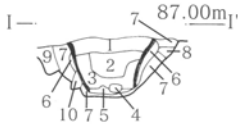
- 1：黒色土 現代耕作土
- 2：明褐色土 黒色土と黄褐色ローム土の混土
- 3：明褐色土 少量の黒色土を含む
- 4：黒色土 少量のロームブロックを含む

111号住居跡 ピット B-B'~H-H' 埋土

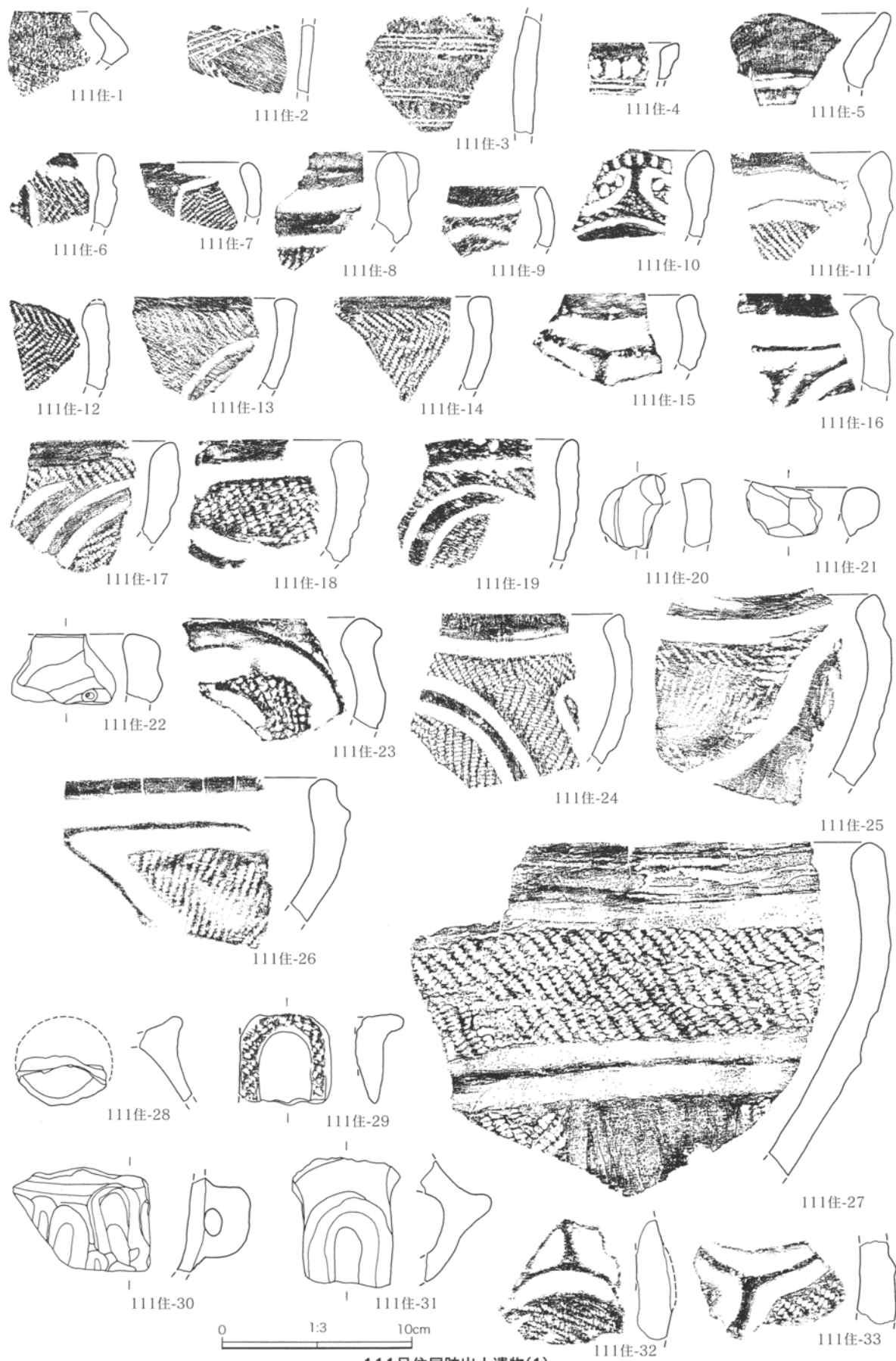
- 1：黒褐色土 多量の黄褐色土ブロックを含む
- 2：黄褐色土 少量の黒褐色土ブロックを含む
- 3：暗褐色土 少量のソフトローム粒子・ブロックを含む
- 4：黒褐色土 少量のソフトローム粒子・ブロックを含む



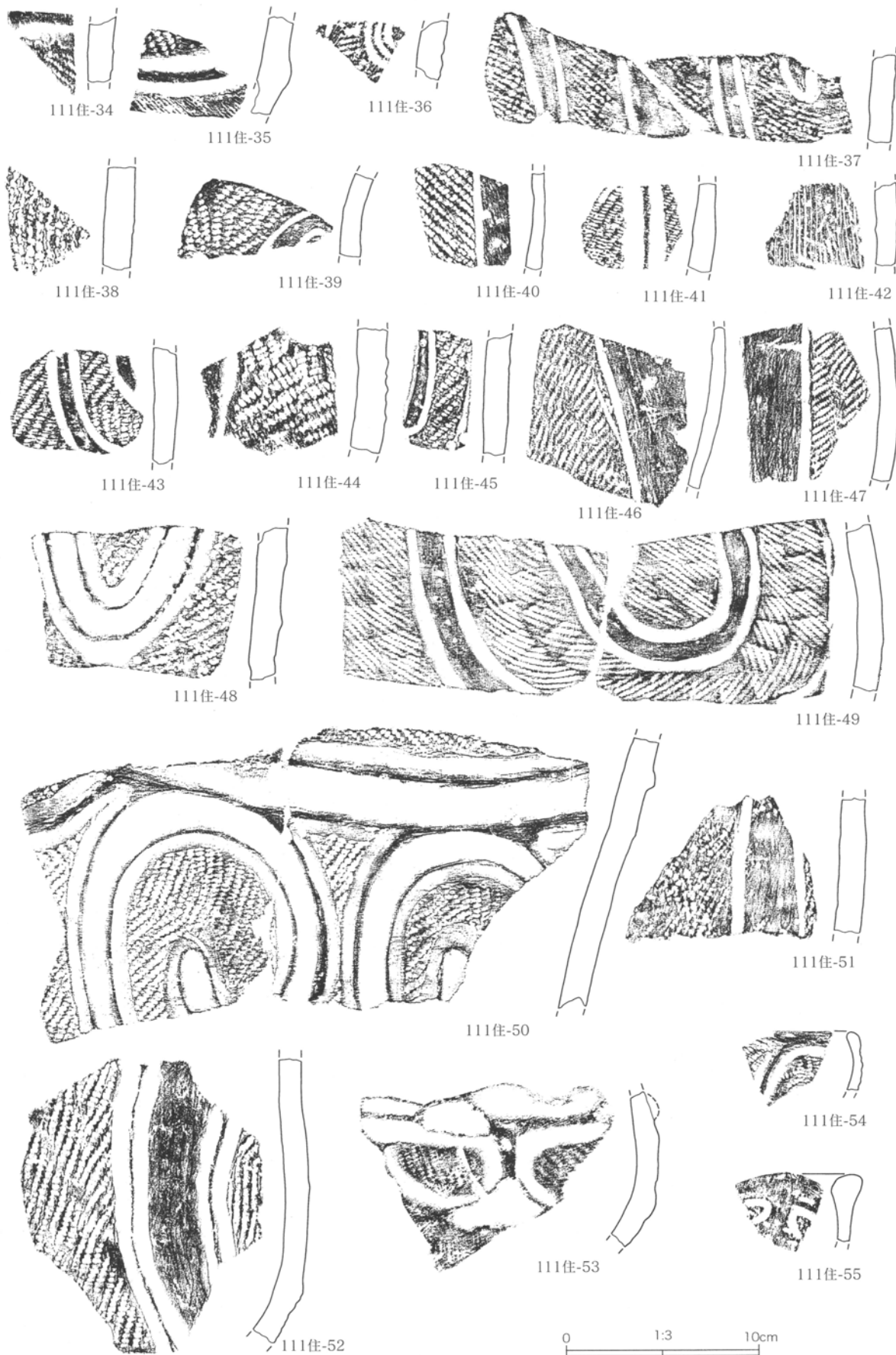
111号住居跡 埋甕 I-I' 埋土



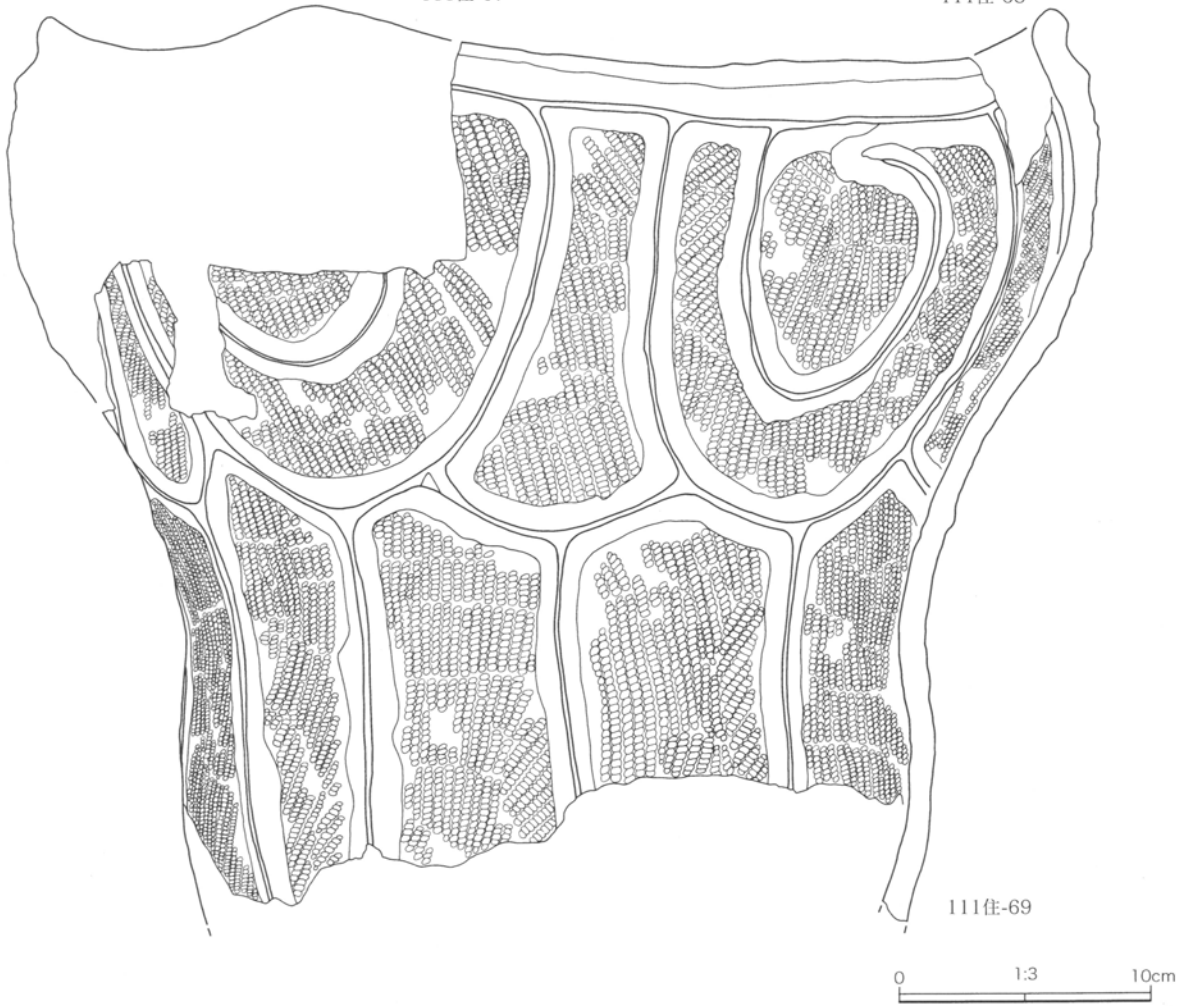
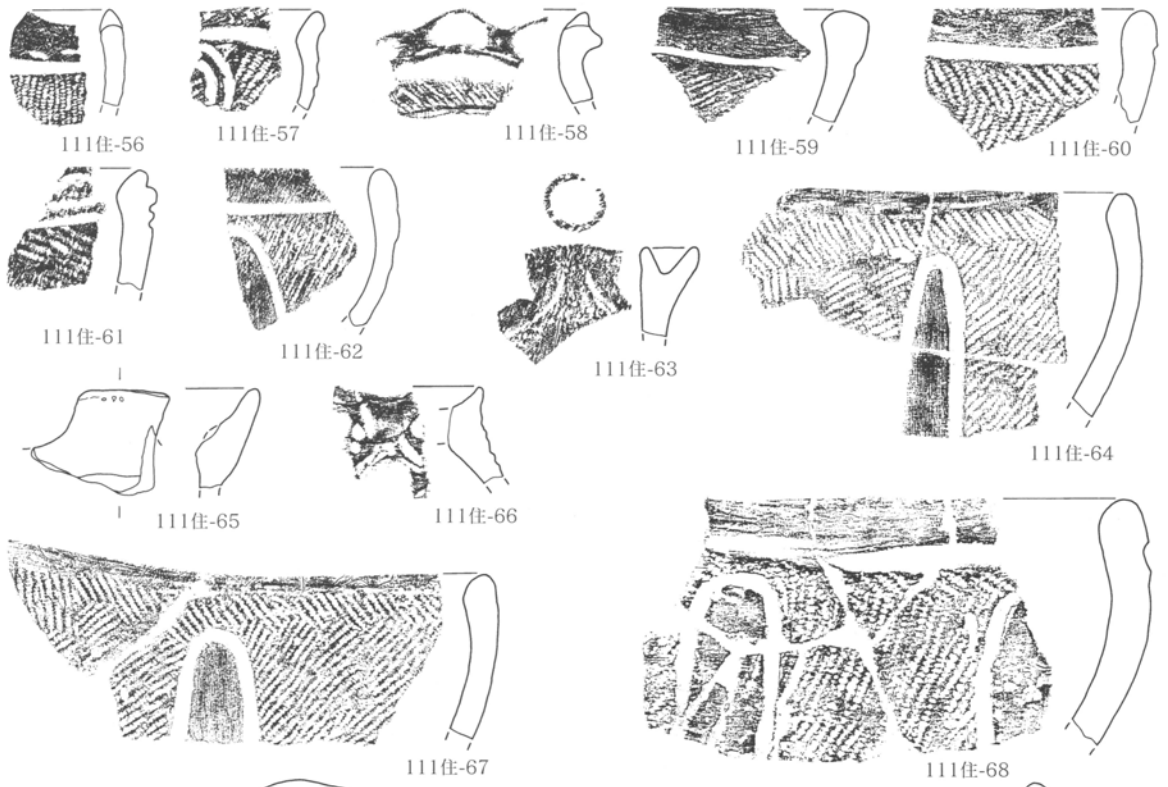
- 1：黒色土 白色軽石・炭化物・焼土粒子を含む
- 2：黒色土 少量の炭化物を含む
- 3：黒色土 黄褐色ロームブロックを含む
- 4：赤褐色焼土ブロック
- 〔掘り方埋土〕
- 5：黄褐色土 熱を受け硬化する
- 6：褐色土 少量のローム粒子を含み、埋甕に接した部分は焼土化する
- 7：褐色土 多量のローム粒子と少量のローム極小ブロック(径3~5mm大)・白色小粒軽石、微量の焼土粒子・炭化物を含む
- 8：褐色土 多量のハードロームブロック(径5~20mm大)を含む
- 9：褐色土 少量のハードロームブロック(径5~20mm大)を含む
- 10：黒褐色土 少量のローム粒子・焼土粒子を含む



111号住居跡出土遺物(1)

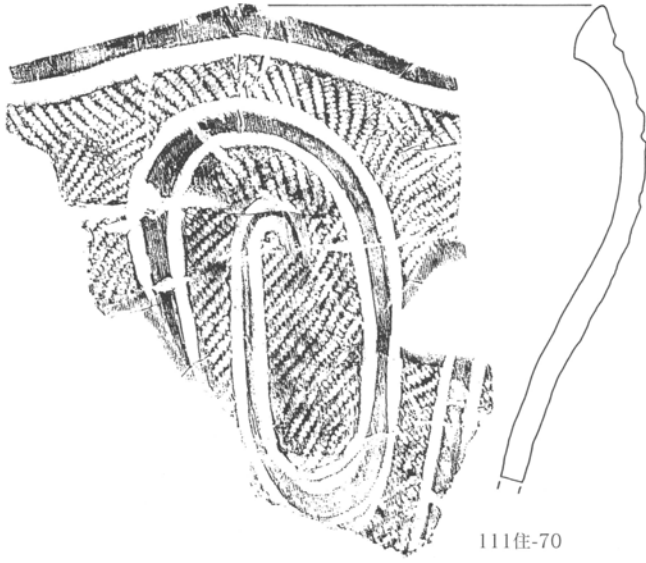


111号住居跡出土遺物(2)

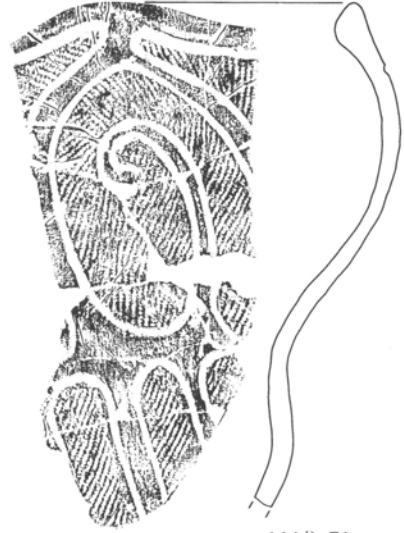


111号住居跡出土遺物(3)





111住-70



111住-71



111住-72



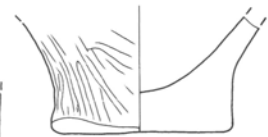
111住-73



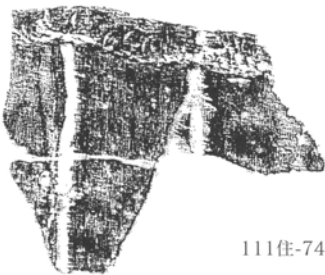
111住-76



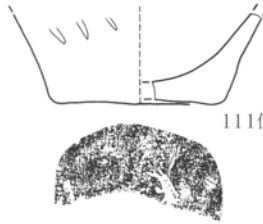
111住-75



111住-78



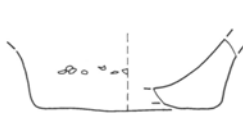
111住-74



111住-79



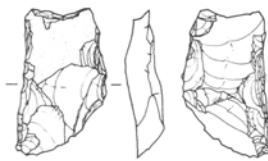
111住-77



111住-80



111住-81



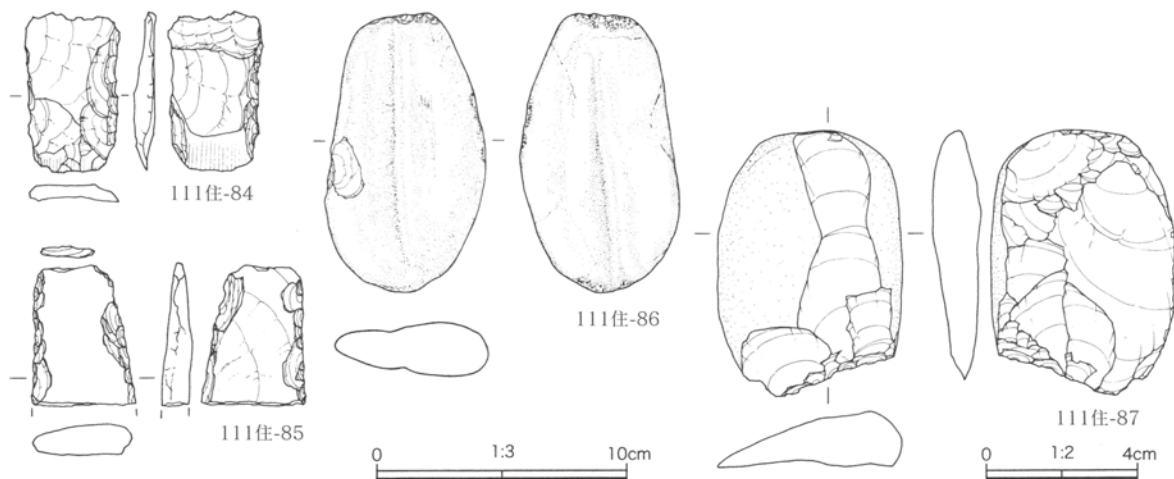
111住-82



111住-83



111号住居跡出土遺物(4)



111号住居跡 出土遺物観察表

111号住居跡出土遺物(5)

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
111号住居跡 1~4	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1~3=諸磯b 4=諸磯c 1=床面+7cm	
111号住居跡 69	縄文土器 深鉢	床面-28cm 口縁~胴部	口径 (39.6) 底径 - 高さ (36.0)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色 7.5YR5/3	加曾利E4	住居埋藏
111号住居跡 16	縄文土器 深鉢	床面直上 破片 口縁部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③浅黄色 2.5Y7/3	加曾利E3	
111号住居跡 58	縄文土器 深鉢	床面直上 破片 口縁部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色 10YR6/3	加曾利E4	
111号住居跡 30	縄文土器 深鉢	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③褐灰色 10YR4/1	加曾利E3	
111号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	5~15,17~29,31~53=加曾利E3	
111号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	54~57,59~68,70~76=加曾利E4	
111号住居跡 82	石器 打製石斧	埋土中	長さ 5.80 巾 3.55 厚さ 1.55	石材=黒色頁岩 重量=41.22g	節理面での割れにより下半部欠損。	
111号住居跡 83	石器 打製石斧	床面直上	長さ 8.80 巾 5.85 厚さ 1.70	石材=ホルンフェルス 重量=80.92g	撥形。扁平な形状の礫を素材として製作。	
111号住居跡 84	石器 打製石斧	埋土中	長さ 6.25 巾 3.75 厚さ 0.90	石材=細粒輝石安山岩 重量=18.93g	短冊形。刃部・側縁部に摩滅有り。剥落により上部欠損。	
111号住居跡 85	石器 打製石斧	埋土中	長さ 5.55 巾 4.20 厚さ 1.20	石材=細粒輝石安山岩 重量=38.89g	下半部欠損。	
111号住居跡 86	石製品 砥石	床面+13cm 完形	長さ 11.05 巾 6.30 厚さ 2.15	石材=砂岩 重量=204.0g	平坦な両面に1条ずつの筋状研磨痕、上下端部に敲打痕あり。	
111号住居跡 87	石器 削器	床面+4.5cm	長さ 7.00 巾 4.90 厚さ 1.30	石材=黒色頁岩 重量=54.85g	素材剥片の末端部に刃部が作り出される。	

112号住居跡 (遺構写真PL.18・19、遺物写真PL.46・47)

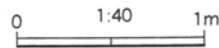
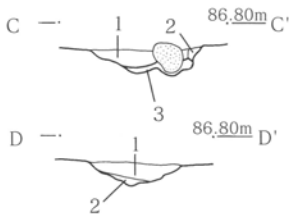
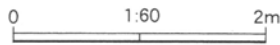
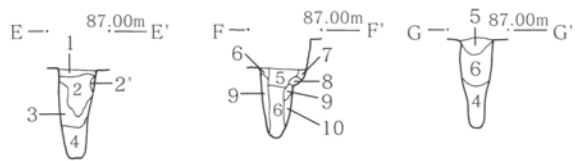
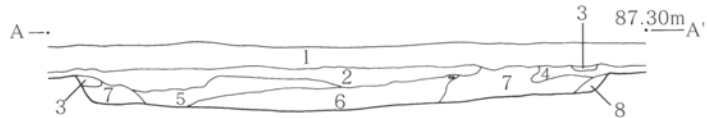
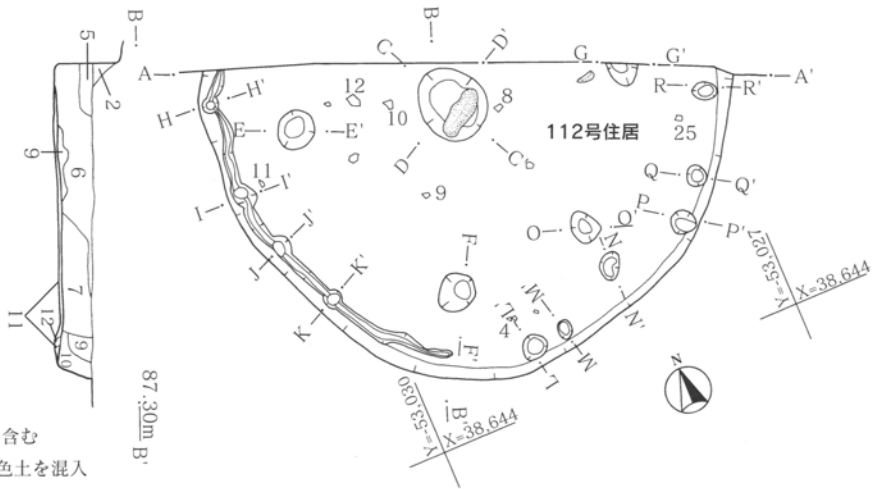
位置：X=38,646 Y=-53,029 面積：(7.68)m<sup>2</sup>

平面形状は、やや歪な円形を呈すると思われるが、北半部が調査区域外にかかるため、規模・形状の全容は不明。床面までの残存深度は25cmほどを測り、壁の崩落も少なく遺存状態は比較的良好であった。内部施設として、住居中央部にあたるとされる位置より、径50×60cm、深度10cmを測り、浅い楕円形状を呈する炉跡が検出された。炉跡には楕円形の礫を枕石として設置し、炉床部および枕石は共に強く被熱する。また、柱穴跡として調査範囲内より計14本のピットを検出し、内4本が主柱穴、壁際の10本が支柱穴と考えられる。主柱穴は径20~35cm、深度20~70cmを、支柱穴は径15~20cm、深度5~38cmを測る。この支柱穴に伴い、西側壁際の一部において巾10cmほど、深度3~9cmを測る壁溝を検出した。床面は掘り方を持たないため、地山掘削面を床面とし硬化する。出土遺物は少なく、そのほとんどが埋土中よりの出土である。埋土は9層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構はない。

112号住居跡 A-A'・

B-B' 埋土

- 1：黒色土 現耕作土
- 2：黒色土 1層土+褐色土  
=近現代耕作土
- 3：黒色土 2層土+黄褐色ローム土=近現代耕作土
- 4：黒色土 2層土+多量の黄褐色ローム土
- 5：褐色土 黄褐色ローム土・炭化物を含む
- 6：黄褐色土 多量のローム土と炭化物・焼土粒子を含む
- 7：黄褐色土 ローム土に多量の褐色土を混入
- 8：黄褐色土 ローム土に少量の褐色土を混入
- 9：黄褐色土 ローム土に褐色土を混入
- 10：黄褐色土 多量の黒色土を含む
- 11：黄褐色土 ローム土に少量の黒色土を混入し、炭化物を含む
- 12：黄褐色土 11層土に類似し、しまりなし

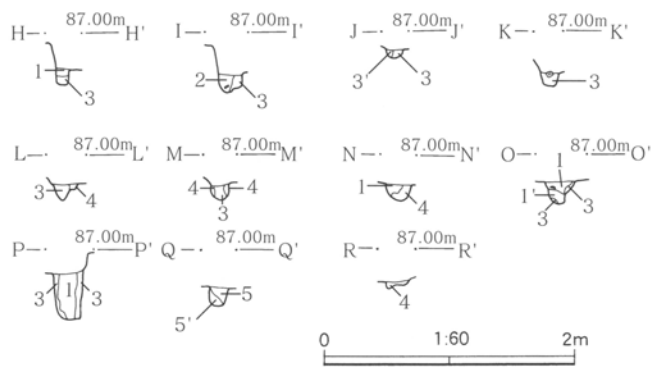


112号住居跡 炉跡 C-C'・D-D' 埋土

- 1：黒褐色土 少量のロームブロックと微量の焼土粒子・焼土ブロックを含む
- 2：暗褐色土 少量のローム粒子を含む
- 3：暗褐色土 多量のローム小ブロック(径5~15mm大)を含み、上面に一部焼土化が見られる

112号住居跡 柱穴 E-E'~G-G' 埋土

- 1：黒色土 2層土の硬化
- 2：黒色土 少量の黄褐色ローム土・炭化物を含む
- 2'：黒色土 多量の黄褐色ローム土を含む
- 3：黒色土 少量の黄褐色ローム土を含む
- 4：褐色土 黄褐色ローム土を主に微量の黒色土が混じる
- 5：褐色土 ローム土と黒色土の混土。炭化物を含む
- 6：褐色土 5層土に類似し、よりロームの混入量が多い
- 7：黄褐色土 ハードロームブロック
- 8：褐色土 ローム土と黒褐色土の混土
- 9：褐色土 1層土に類似し、よりロームの混入量が少ない
- 10：褐色土 多量のローム土を含む



112号住居跡 支柱穴 H-H' ~ R-R' 埋土

- 1 : 褐色土 ローム土に黒色土を斑状に含み、白色軽石を含む
- 1' : 褐色土 1層土に類似し黒色土の割合が多く、炭化物を含む
- 2 : 黒色土 ローム漸移層土を含む
- 3 : 褐色土 ローム土に黒色土を斑状に含む
- 3' : 褐色土 ローム土に少量の黒色土を斑状に含む
- 4 : 黄褐色土 ローム土と黒色土の混土、硬化する
- 5 : 褐色土 ローム土と黒色土の混土に少量の炭化物を含む
- 5' : 褐色土 5層土に類似し、多量の炭化物を含む



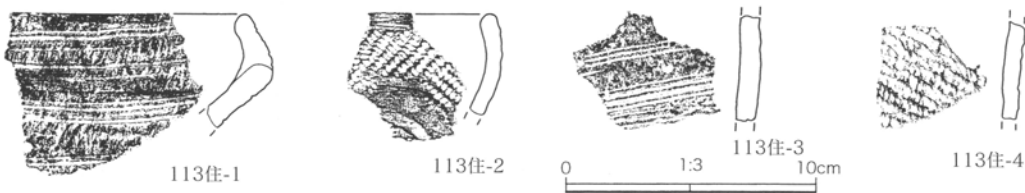
112号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
112号住居跡 1・2	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	1=諸磯b 2=諸磯c	
112号住居跡 3~10 ・15	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	3~10=勝坂 15=加曾利E3	
112号住居跡 11	縄文土器 深鉢	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③橙色 7.5YR6/6	勝坂	
112号住居跡 12	縄文土器 深鉢	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③橙色 5YR6/6	勝坂	
112号住居跡 13	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色 7.5YR5/3	阿玉台	
112号住居跡 16~22	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	加曾利E3	
112号住居跡 23・24	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	23・24=加曾利E4	
112号住居跡 26	石器 打製石斧	埋土中	長さ 4.60 巾 4.90 厚さ 1.20	石材=黒色頁岩 重量=29.31g	上半部欠損後、折れ面上に再加工有り。	

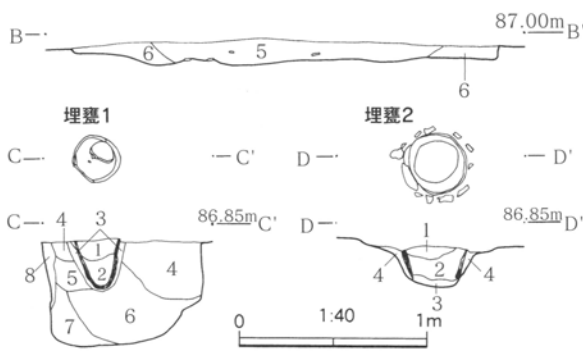
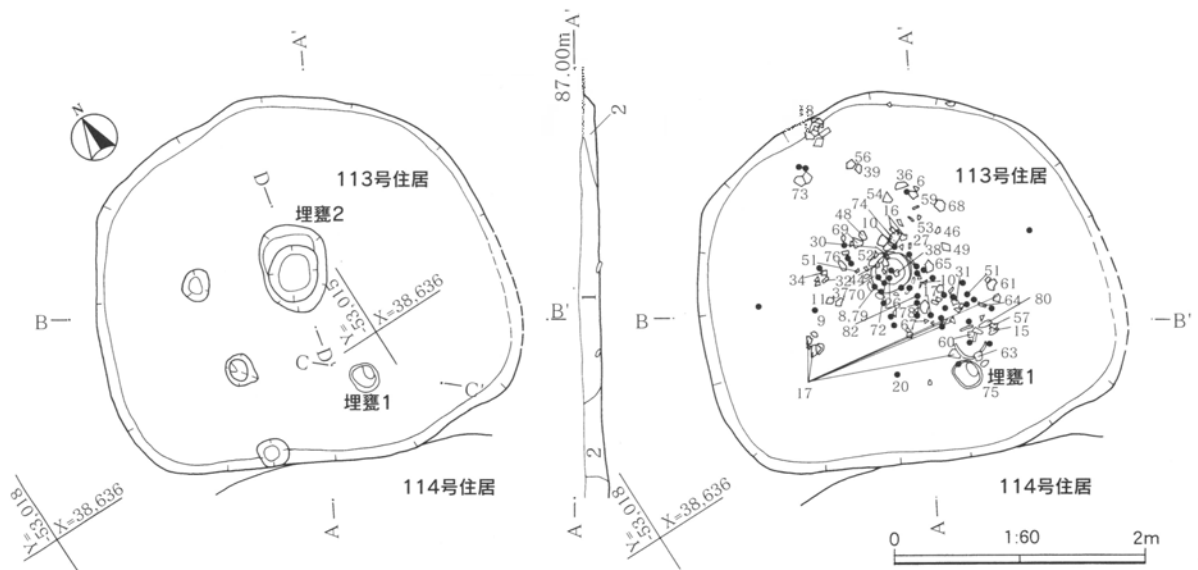
113号住居跡 (遺構写真PL.20・21、遺物写真PL47・48)

位置：X=38,637 Y=-53,015 面積：7.53㎡

平面形状は、径2.9~3.6mを測る歪な円形状を呈する。床面までの残存深度は、上面の削平を受けて、わずかに15cmを測るのみである。内部施設として、住居中央南東寄り(1号)と住居中央部(2号)の二基の埋甕を検出した。中央の2号埋甕は径35cm、深度17cmほどを測り、深鉢の下半部を欠き正位に埋設する。内部に焼土・灰・炭化物が多く認められることから、炉として使用されたものと考えられる。これに反して1号埋甕は、径25cm、深度26cmほどを測る略完形の深鉢を正位に埋設するが、内部に少量の炭化物を検出するも焼土・灰は認められず、炉として使用された可能性は低い。また、1号埋甕下に土坑跡を検出するが、埋甕掘り方が土坑の自然堆積埋没後に掘り込まれており、埋甕や住居跡に伴うものではない重複遺構と判断される。そのほか、柱穴跡と思われる直列するピットを3基検出するが、対となるピットが見当たらなかった。床面は掘り方を持たないため、地山掘削面を床面とし硬化する。出土遺物は少なく、2基の埋甕を除くそのほとんどが埋土中よりの出土である。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は南側に114号住居跡と壁を接し、埋土の様相から本住居跡の方が古いものと思われるが、接点が小さく明らかではない。また、南東部で221号土坑跡と重複し、新旧関係は埋土の様相から本住居跡の方が古いものと判断された。



113号住居跡出土遺物(1)



**113号住居跡 C-C' (埋壙1) 埋土**

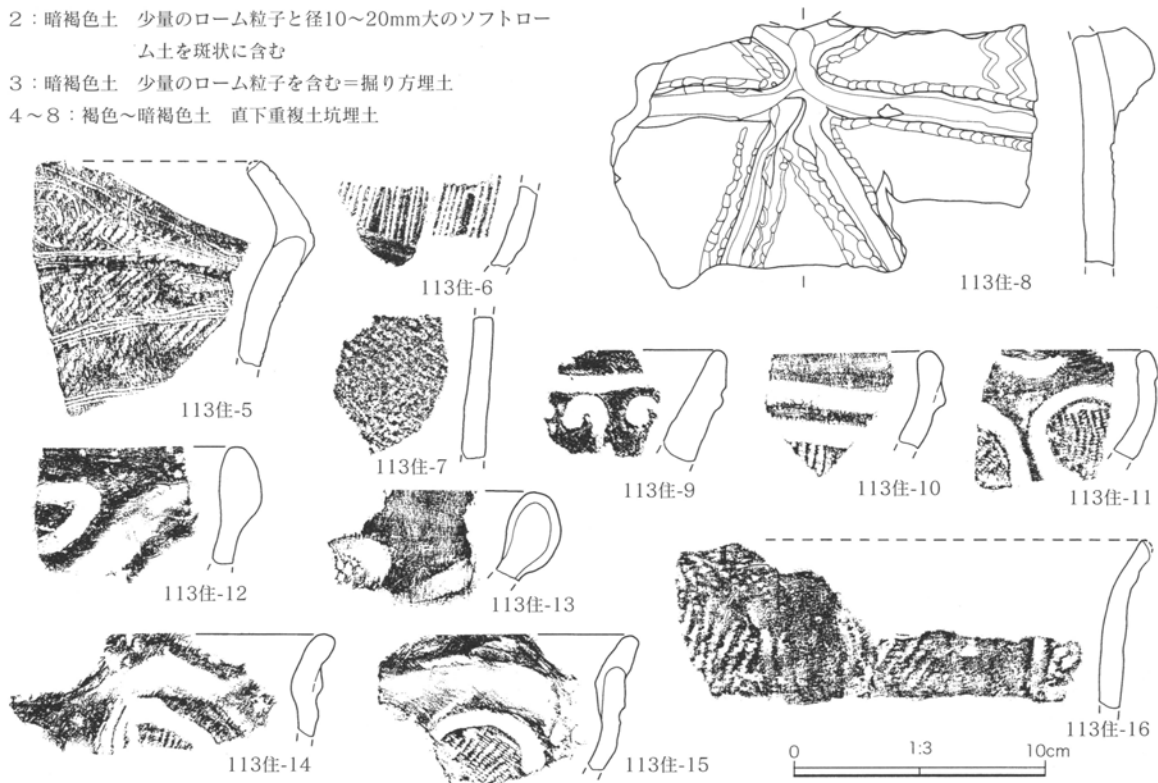
- 1：暗褐色土 少量のローム粒子と微量の炭化物を含む
- 2：暗褐色土 少量のローム粒子と径10～20mm大のソフトローム土を斑状に含む
- 3：暗褐色土 少量のローム粒子を含む＝掘り方埋土
- 4～8：褐色～暗褐色土 直下重複土坑埋土

**113号住居跡 A-A'・B-B' 埋土**

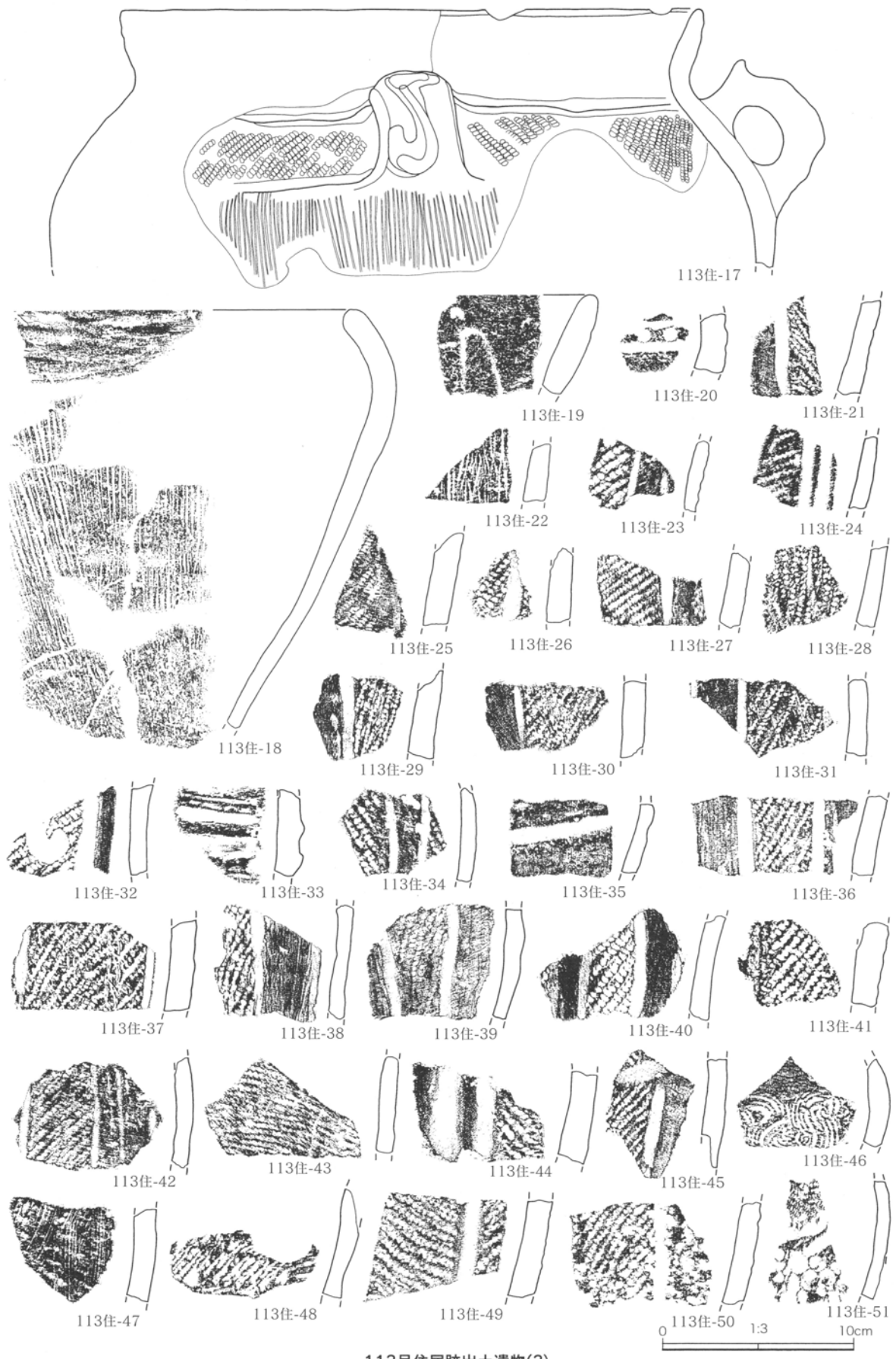
- 1：褐色土 褐色～暗褐色土が径20mmほどの斑状を呈し、少量のハードローム粒子・スコリアを含む (114号住居跡 2層土に同じ)
- 2：明褐色土 多量のソフトローム土を斑状に含む

**113号住居跡 D-D' (埋壙2) 埋土**

- 1：暗褐色土 少量のローム粒子を含む
- 2：暗褐色土 全体に褐色土を斑状に含み、少量のローム極小ブロック・焼土粒子・炭化物・灰を含む
- 3：暗褐色土 少量のハードロームブロック(径5～15mm大)を含む
- 4：暗褐色土 少量のローム粒子と焼土ブロック(径5～15mm大)と炭化物を含む＝掘り方埋土

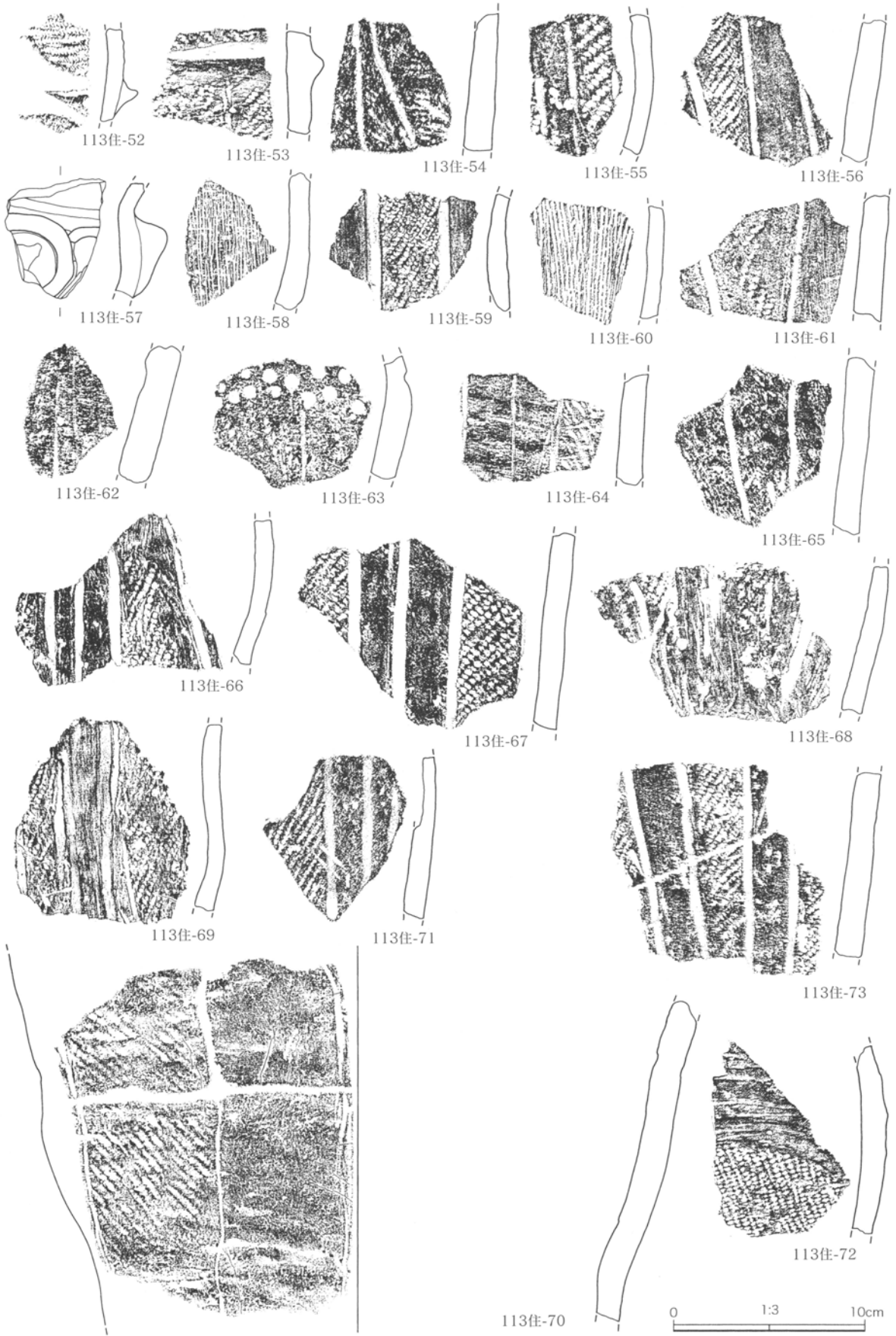


113号住居跡出土遺物(2)



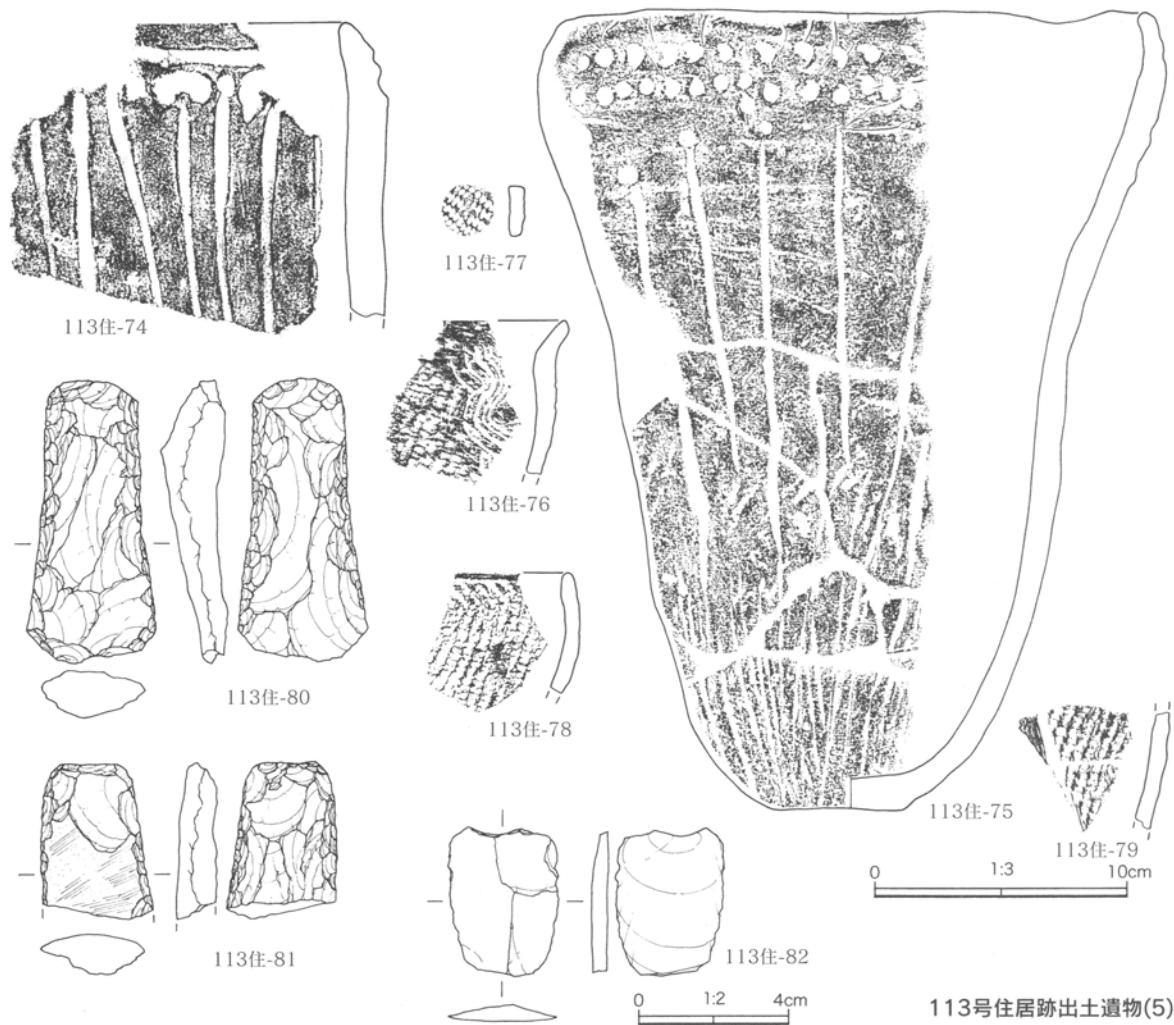
113号住居跡出土遺物(3)





113号住居跡出土遺物(4)





113号住居跡出土遺物(5)

113号住居跡 出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
113号住居跡 75	縄文土器 深鉢	床面-27cm 口縁~底部	口径 22.0 底径 5.0 高さ 31.3	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄褐色 10YR5/3	加曾利E4	埋甕1
113号住居跡 70	縄文土器 深鉢	床面-20cm 胴部	口径 - 底径 - 高さ (21.5)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③暗灰黄色 2.5Y6/2	加曾利E3	埋甕2
113号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	9~11,15~18,20,26~28,30~32,34,36~39, 44,46,48,49,51~54,56,57,59~61,63~69, 72,73=加曾利E3 8=阿玉台	
113号住居跡 右記	縄文土器 深鉢 浅鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	12~14,19,21~25,29,,33,35,40~43,45, 47,50,55,58,62,71=加曾利E3	
113号住居跡 74	縄文土器 深鉢他	床面+9cm 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	加曾利E4	
113号住居跡 1~7	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	諸磯b	
113号住居跡 77	土製品 円盤	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③褐色 7.5YR4/3	深鉢破片を加工・転用。	

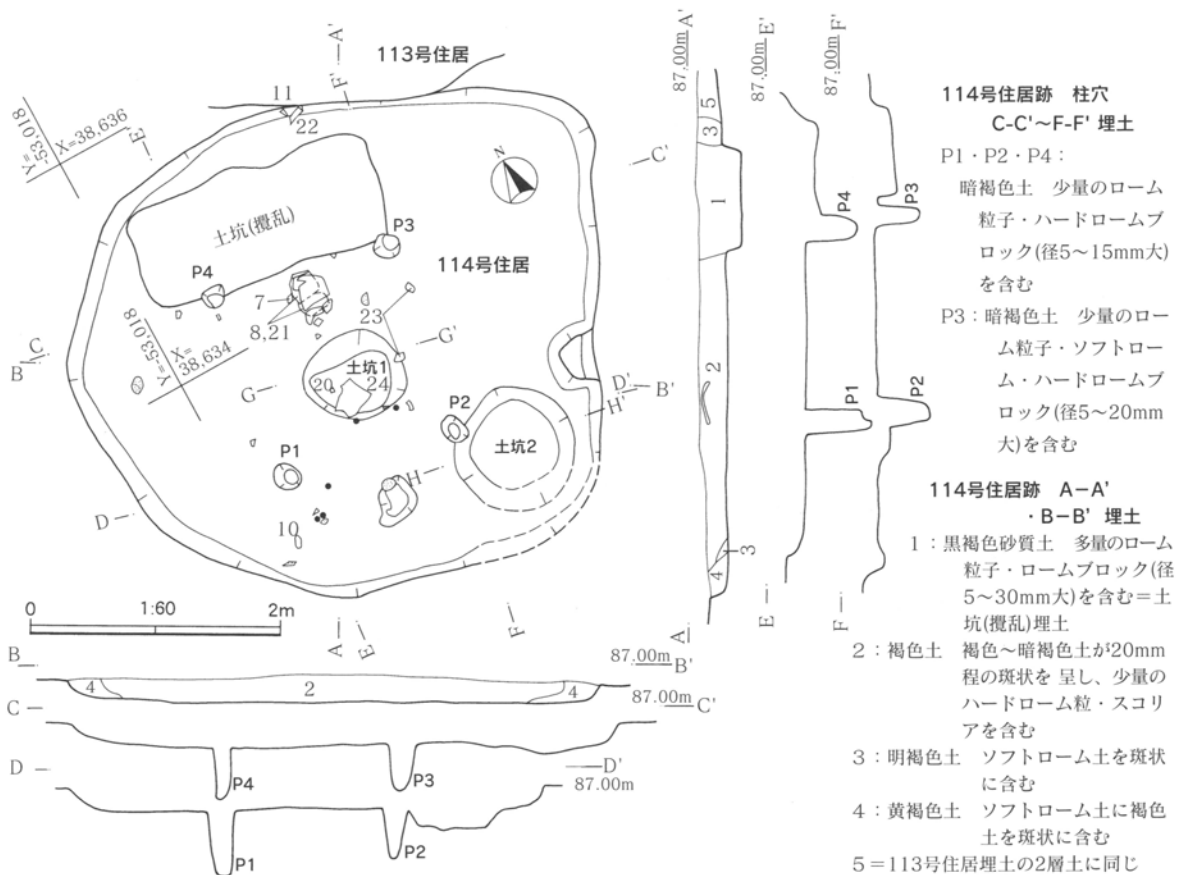
113号住居跡 出土遺物観察表2

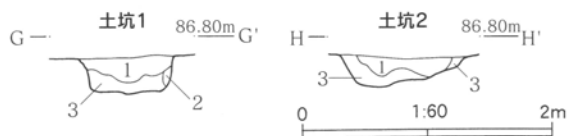
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
113号住居跡 80	石器 打製石斧	床面+6cm 略完形	長さ 11.10 巾 5.10 厚さ 2.55	石材=細粒輝石安山岩 重量=132.0g	短冊形。刃部の一部欠損。使用による摩滅減少。	
113号住居跡 81	石器 打製石斧	埋土中 1/2	長さ 6.10 巾 4.35 厚さ 1.65	石材=細粒輝石安山岩 重量=54.04g	短冊形。下半欠失。一面に自然面を残し加工。	
113号住居跡 82	石器 剥片	床面+8cm 完形	長さ 3.95 巾 3.00 厚さ 0.40	石材=黒色頁岩 重量=6.40g	打製石斧再加工時に生じた剥片。	

114号住居跡 (遺構写真PL.21、遺物写真PL.48)

位置：X=38,634 Y=-53,017 面積：12.65㎡

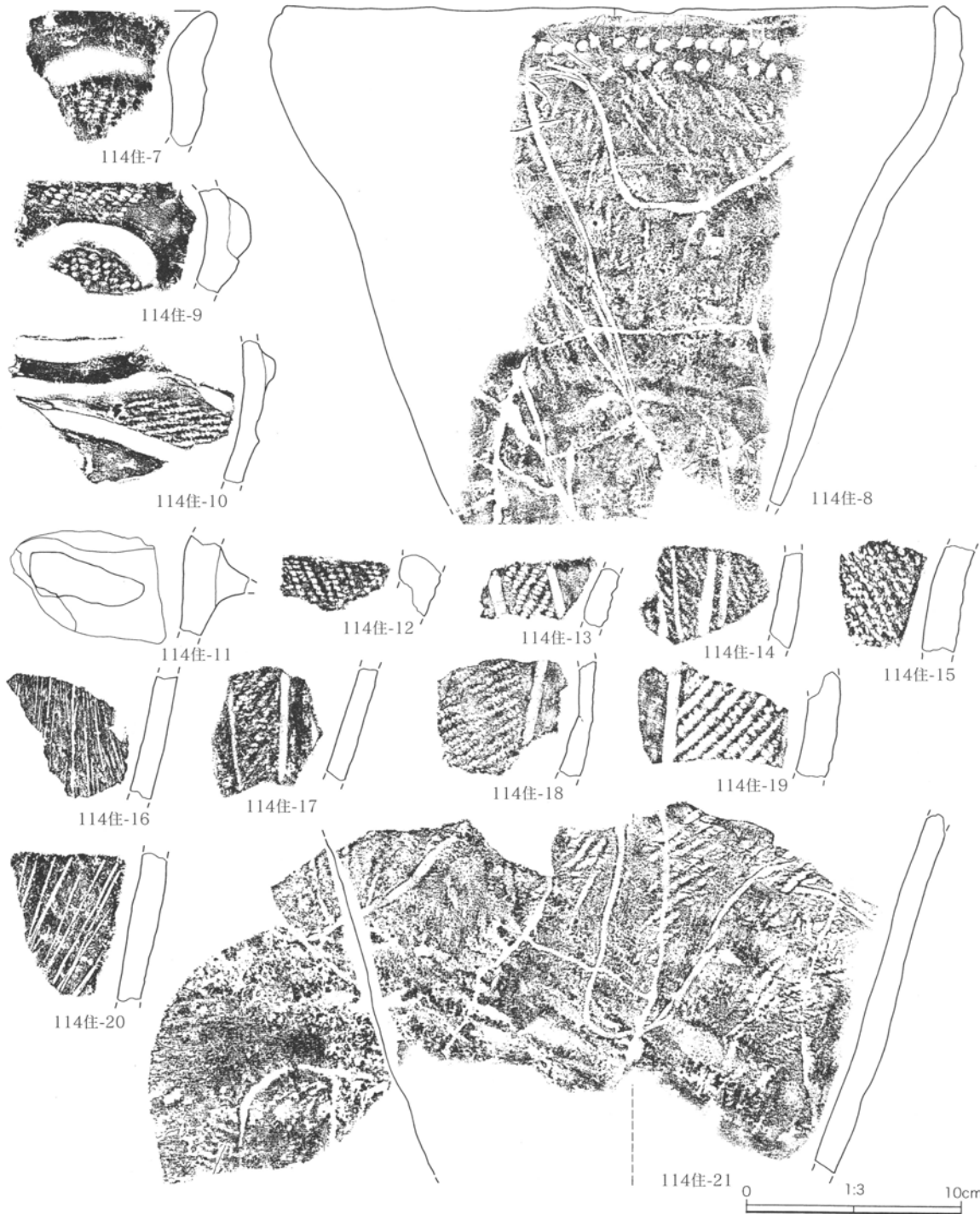
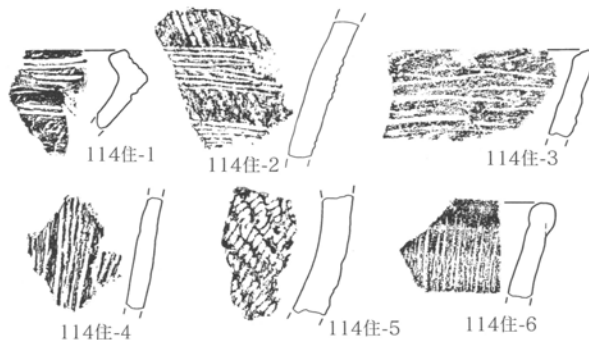
平面形状は、径4.0~4.8mを測る歪な円形状を呈する。床面までの残存深度は上面の削平を受けて、わずかに20cm弱を測るのみである。内部施設として、4本の柱穴跡を検出し、径18~25cm、深度34~54cmを測る。また、住居南東コーナー部に円形の掘り込みを検出するが、深度が20cmほどで挿鉢状を呈することから、貯蔵穴とは断言できない。残存する床面上には灰跡が見当たらず、可能性として北側の長方形攪乱部に存在していたか、又は中央部土坑の規模が周辺住居の埋甕掘り方と同規模であることから、住居廃絶時に埋甕を持ち去った可能性も考えられる。床面は掘り方を持たないため、地山掘削面を床面とするが、硬化の度合いは少ない。出土遺物は少なく、その大半が埋土中よりの出土である。埋土は3層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は北側に113号住居跡と壁を接し、埋土の様相から本住居跡の方が新しいものと思われるが、接点が小さく明らかではない。また、南東コーナー部で104号土坑跡と、北東コーナー部にて103号土坑跡と重複し、新旧関係は埋土の様相から本住居跡の方が両土坑跡よりも古いものと判断された。



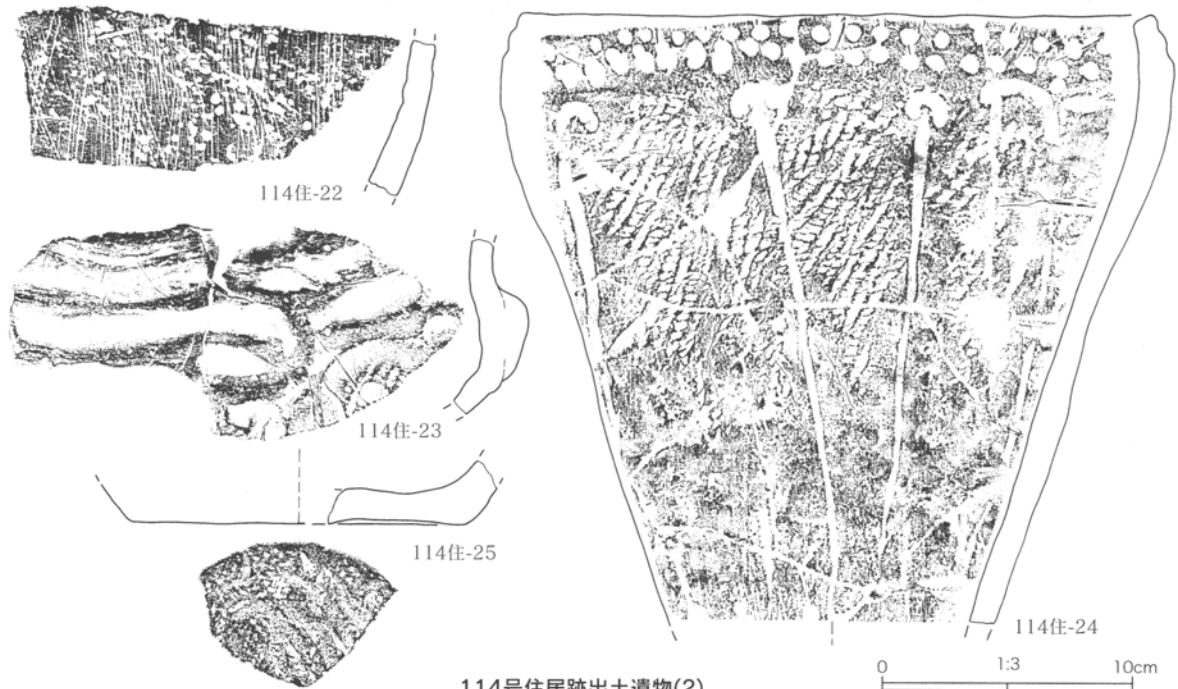


114号住居跡 土坑 G-G'・H-H' 埋土

- 1: 褐色土 ソフトローム土を径20mm程の斑状に含む
- 2: 暗褐色土 少量のハードローム小ブロック(径3~15mm大)を含む
- 3: 黄色土 ソフトローム土に多量のハードロームブロック(径10~30mm大)を含む



114号住居跡出土遺物(1)



114号住居跡出土遺物(2)

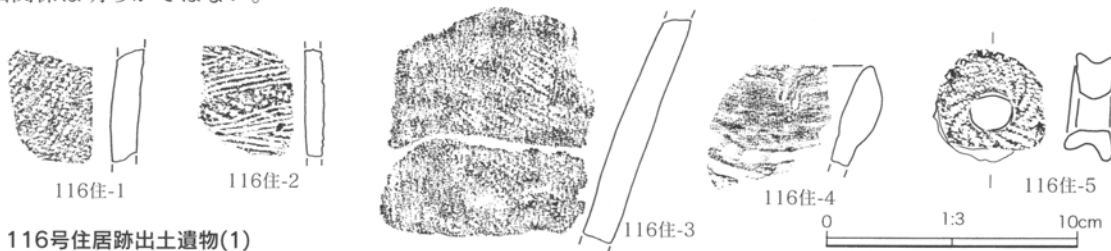
114号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
114号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	7~11,18,20~23=加曾利E3	
114号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	6,12~17,19=加曾利E3	
114号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	24=加曾利E4 1,2,3=諸磯b	

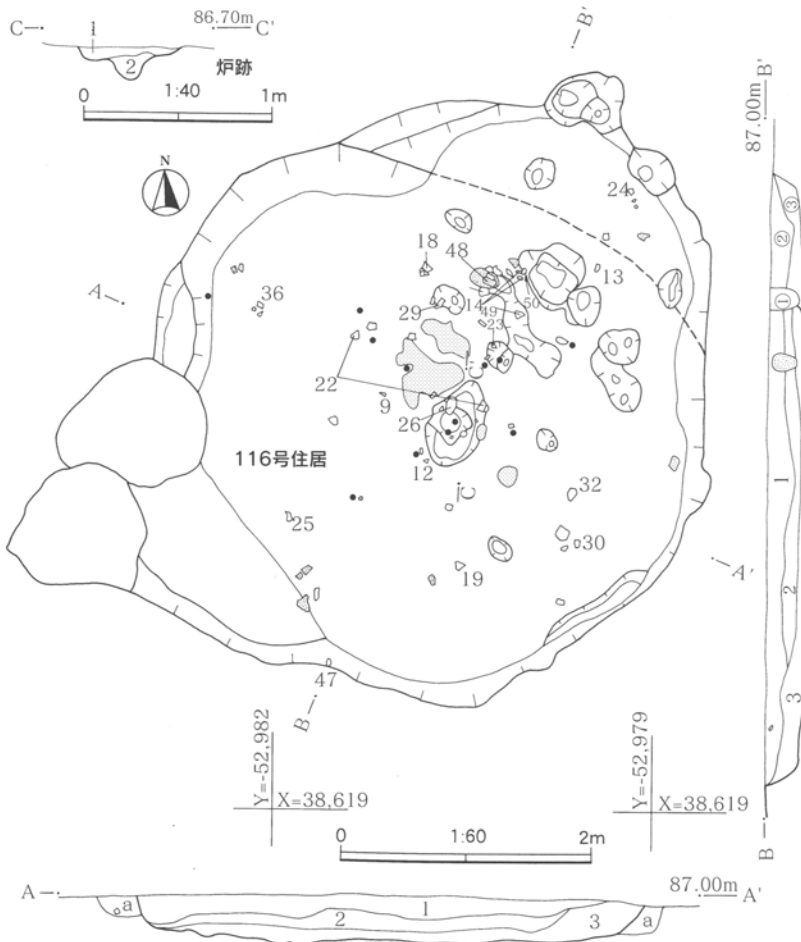
116号住居跡 (遺構写真PL.22、遺物写真PL.49)

位置：X=38,622 Y=-52,981 面積：(12.05)m<sup>2</sup>

平面形状は、径4.0~4.6mを測る、やや歪な円形状を呈すると思われるが、隣接して重複する多くの土坑跡によって、明瞭な壁を検出し得なかった。床面までの残存深度は38cmほどを測る。内部施設としては、住居のほぼ中央部に径70cm×40cmを測る楕円形の炉跡を検出する。使用面は平坦で、掘り方は中央部を挿鉢状に18cmほど掘り窪める。礫等の使用痕跡は認められなかった。この炉跡に伴い、北側の床面上に焼土の散布が認められた。その他、径20~50cm、深度17~43cmを測るピットを検出するが、柱穴と断定できるものはなかった。出土遺物は少なく、そのほとんどが埋土中よりの出土である。埋土は3層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は周辺に土坑群が存在し、一部接するものもみられるが、接点が小さく新旧関係は明らかではない。



116号住居跡出土遺物(1)



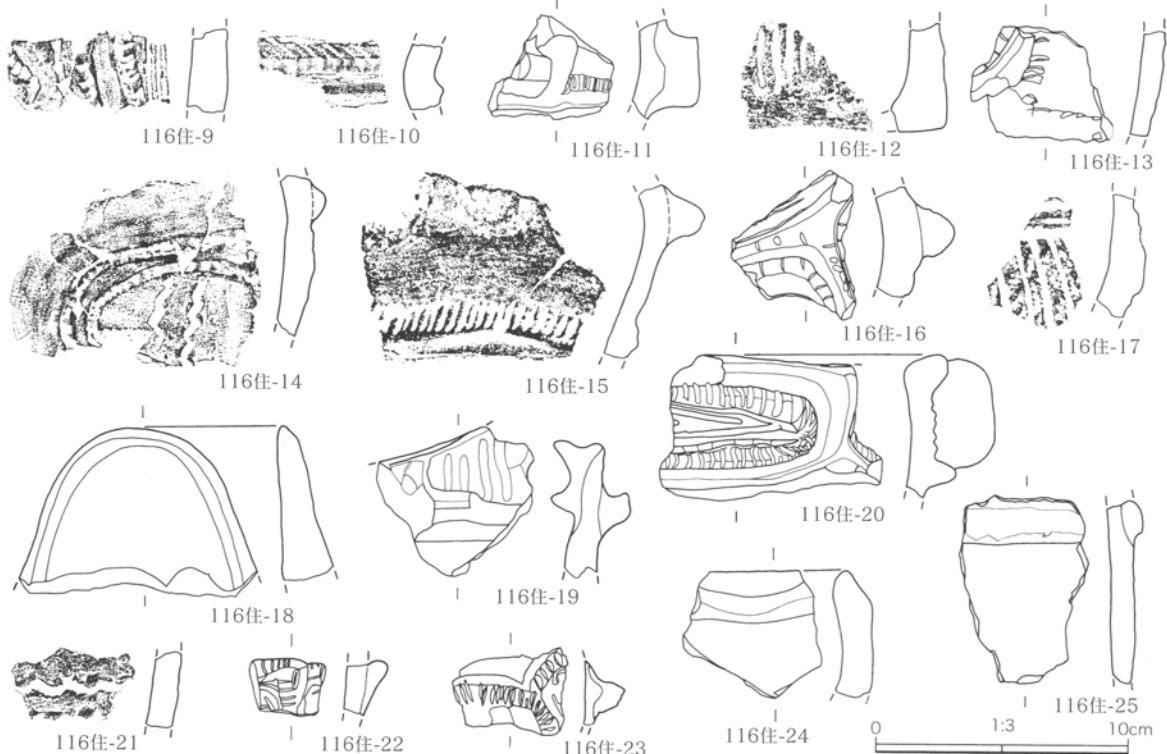
116号住居跡 炉跡 C-C' 埋土

- 1: 褐色土 少量の炭化物・焼土粒子を含む
- 2: 黒色土 多量の炭化物・焼土粒子を含む

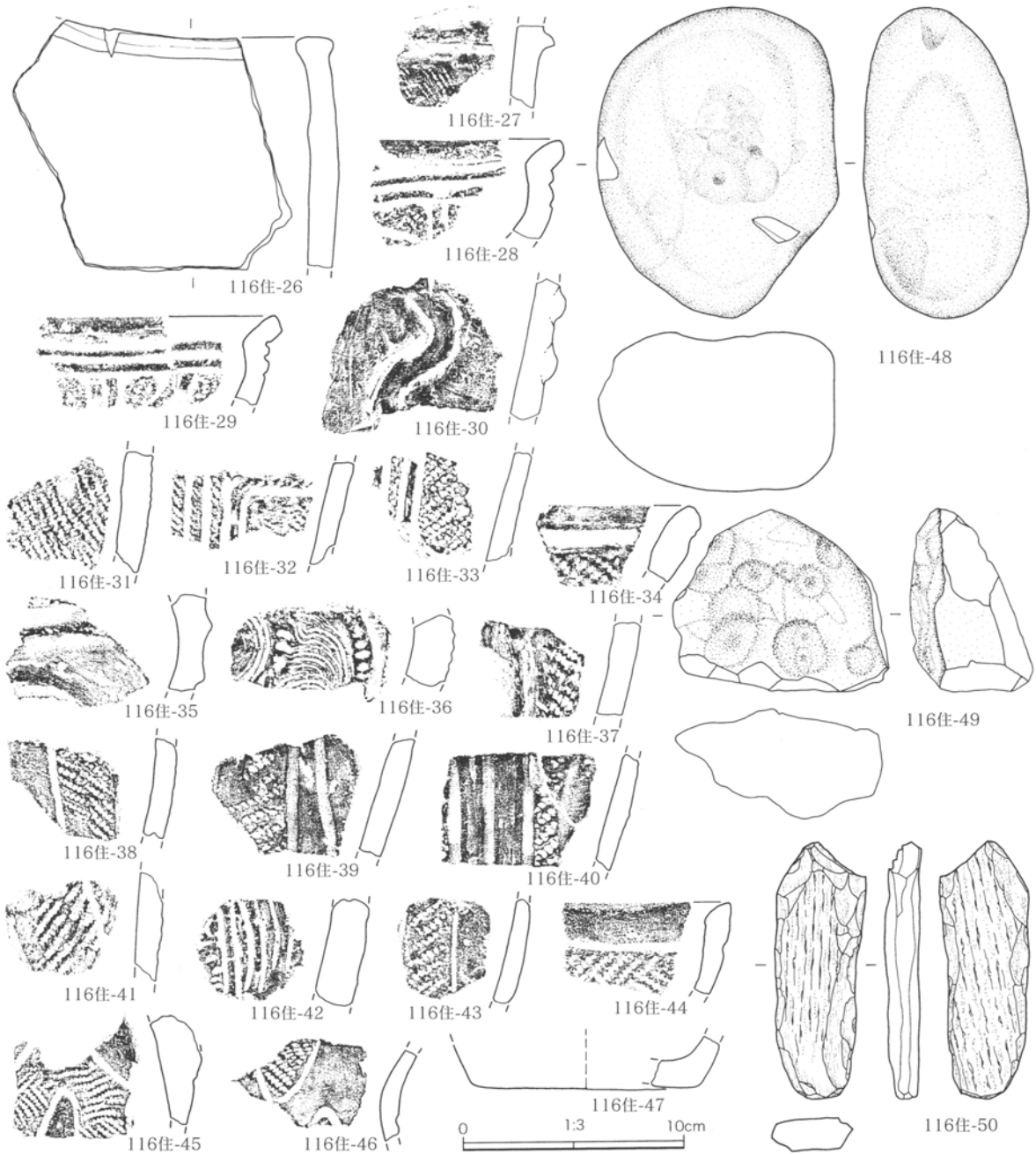
116号住居跡

A-A'・B-B' 埋土

- 1: 暗褐色土 少量の褐色土ブロック (径10~20mm大)を含む
- 2: 暗褐色土 多量の褐色土硬質ブロック (径10~20mm大)を含む
- 3: 褐色土 多量の暗褐色土ブロック (径10~20mm大)を含む
- a: 黄褐色土 ローム土に暗褐色土ブロックを含む
- ①: 黒褐色土 少量のローム粒子を含む
- ②: 暗褐色土 少量のロームブロック (径5~10mm大)を含む
- ③: 褐色土 ロームブロック (径20~30mm大)を含む



116号住居跡出土遺物(2)



116号住居跡 出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
116号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	32=加曾利E2 33,36=加曾利E3 18,19,23~26=阿玉台 4,5,9,12~15=勝坂	
116号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	34,35,37~41,43=加曾利E3 20~22=阿玉台 6~8,10,11,16,17=勝坂	
116号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	28~31=加曾利E1 44~46=加曾利E4 1,2=諸磯b	
116号住居跡 42	縄文土器 土製円盤	埋土中	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③橙色 7.5YR6/6	深鉢片加工・転用	

116号住居跡出土遺物(3)

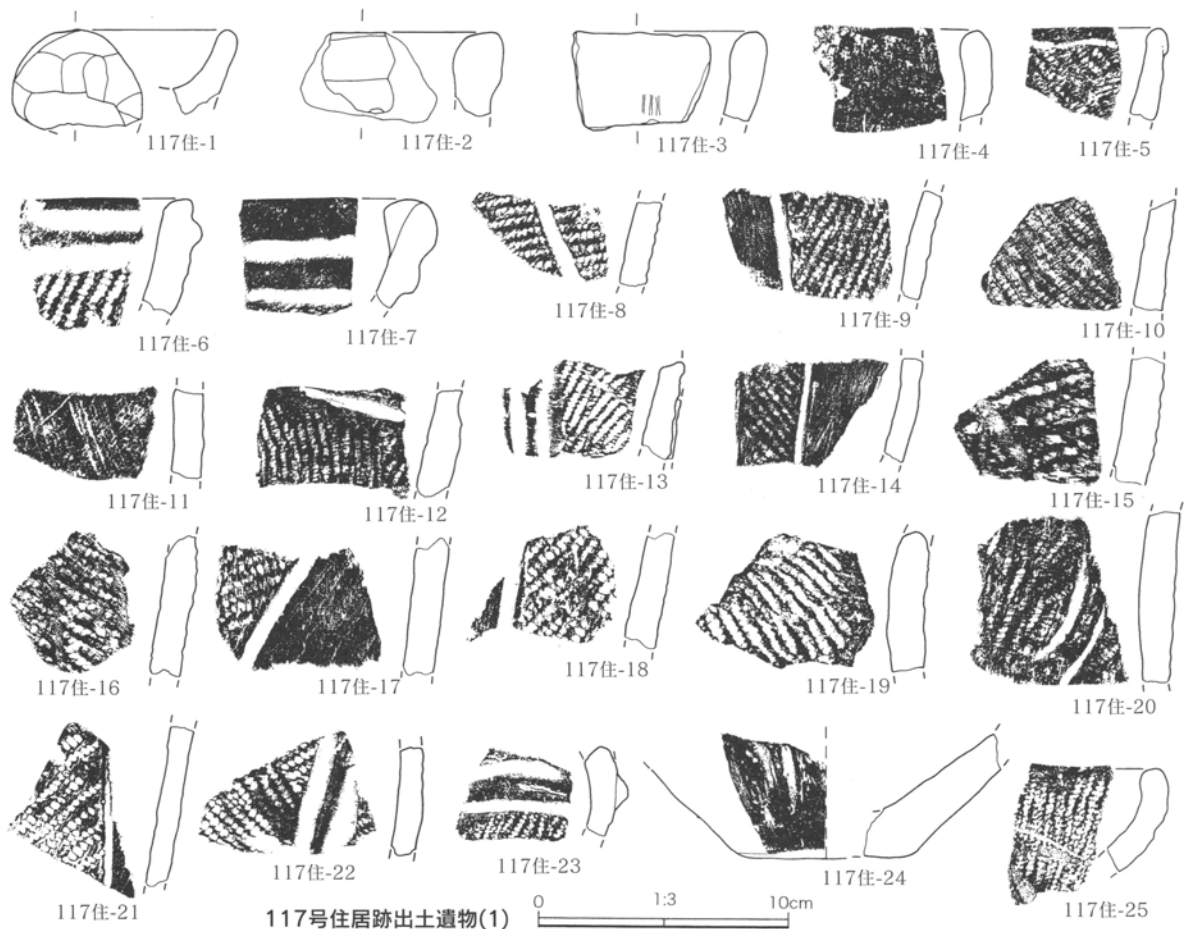
116号住居跡 出土遺物観察表2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
116号住居跡 48	石器 凹石	床面直上 完形	長さ 13.90 巾 10.80 厚さ 7.20	石材=粗粒輝石安山岩 重量=1.376g	一面の平坦面中央部が研磨により摩滅し皿状に浅く凹む。側面二ヶ所にも摩滅による平坦化。	
116号住居跡 49	石器 多孔石	床面-9cm 破片	長さ 8.15 巾 9.75 厚さ 4.49	石材=粗粒輝石安山岩 重量=319.0g	多孔石端部にも研磨による平坦化が見られる。	
116号住居跡 50	石器 打製石斧	床面-4cm 一部欠	長さ 11.50 巾 4.10 厚さ 1.60	石材=雲母石英片岩 重量=96.26g	短冊形。小型。	

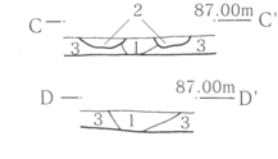
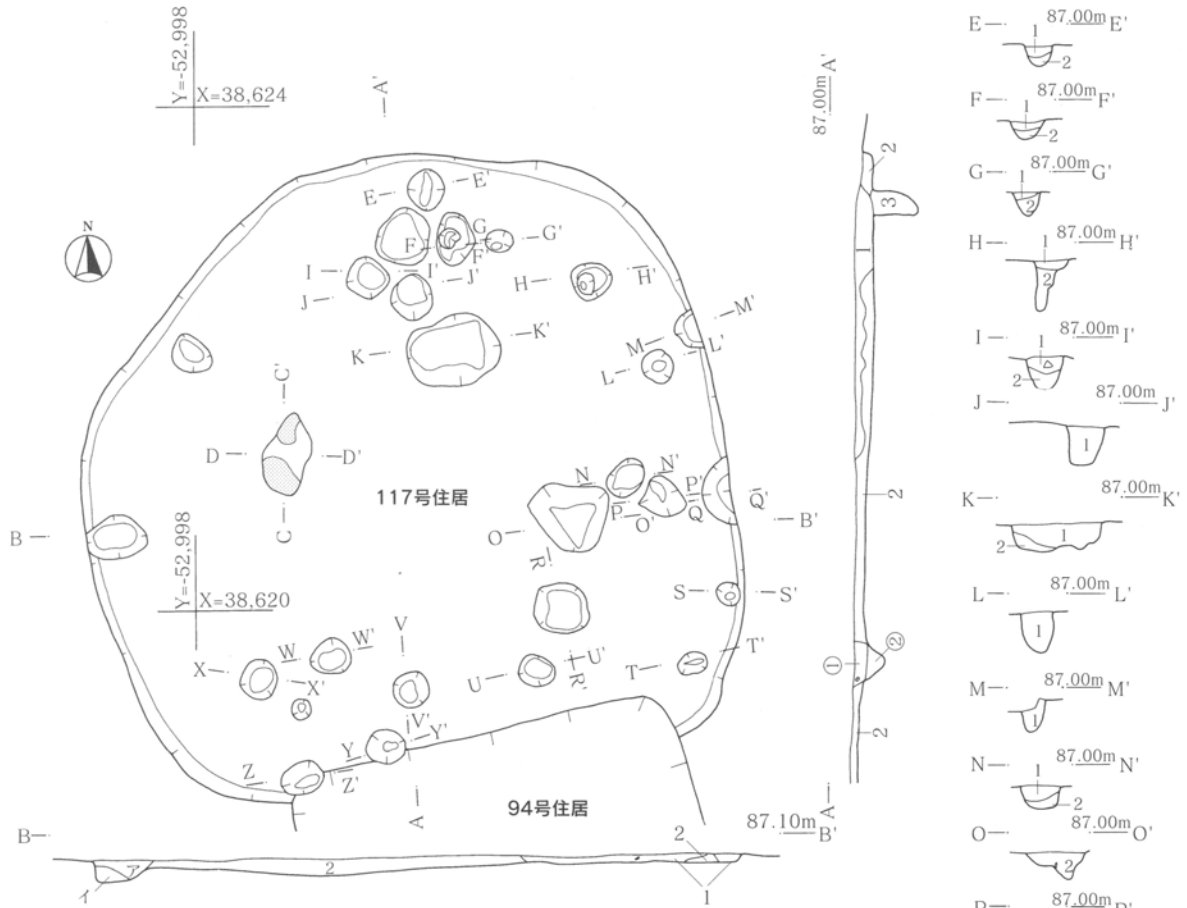
117号住居跡 (遺構写真PL.22、遺物写真PL.49)

位置：X=38,621 Y=-52,996 面積：(19.79)㎡

平面形状は、径5.1~5.7mを測るやや歪な円形状を呈する。床面までの残存深度は上面の削平が著しく、わずかに8~13cmを測るのみで、遺存状態は悪い。内部施設としては、住居中央やや北寄りの位置に炉跡を検出するが、攪乱を受けて使用面の大半を逸して炉床の焼土化の一部を残すのみであった。また径20~50cm、深度6~30cmを測るピットを検出する。出土遺物は少なく、そのほとんどが埋土中よりの出土である。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は、北西側に106号住居跡と南側に94号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の状況により、両者よりも本住居跡の方が古いものと判断された。また、北東側では119号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の状況により本住居跡の方が新しいものと判断された。







**117号住居炉跡 C-C'・D-D' 埋土**

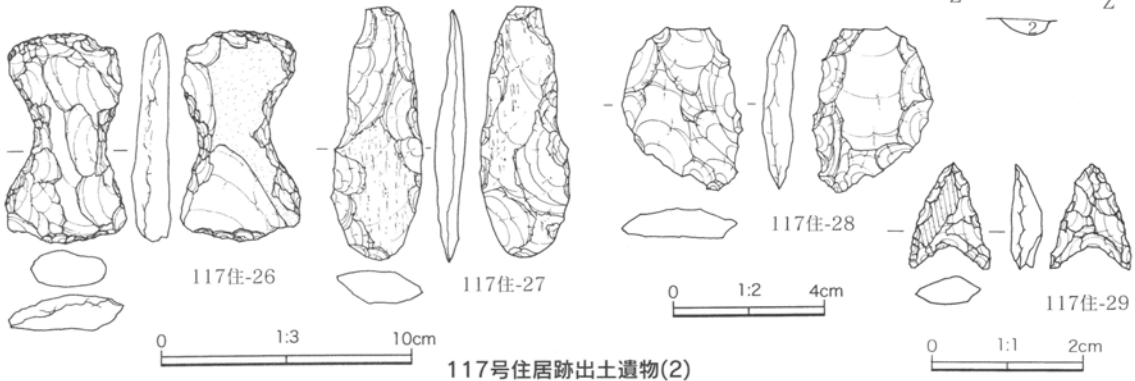
- 1 : 暗褐色土 ソフトローム土を斑状に含み、少量のローム粒子を含む
- 2 : 赤褐色土 3層土の焼土化
- 3 : 黄褐色土 褐色土を斑状に含み、多量のローム粒子を含む

**117号住居跡 A-A'・B-B' 埋土**

- 1 : 暗褐色土 少量の褐色土ブロックを含む
- 2 : 褐色土 多量の暗褐色土ブロックを含む
- 3 : 暗褐色土 多量のロームブロックと褐色土ブロックを含む
- ① : 暗褐色土 少量のロームブロックを含む
- ② : 暗褐色土 少量のローム粒子・褐色土ブロックを含む

**117号住居跡 ビット E-E'~Z-Z' 埋土**

- 1 : 暗褐色土 少量の褐色土ブロックを含む
- 2 : 褐色土 少量の暗褐色土ブロックを含む
- 3 : 暗褐色土 微量の暗褐色土ブロックを含む



117号住居跡出土遺物(2)



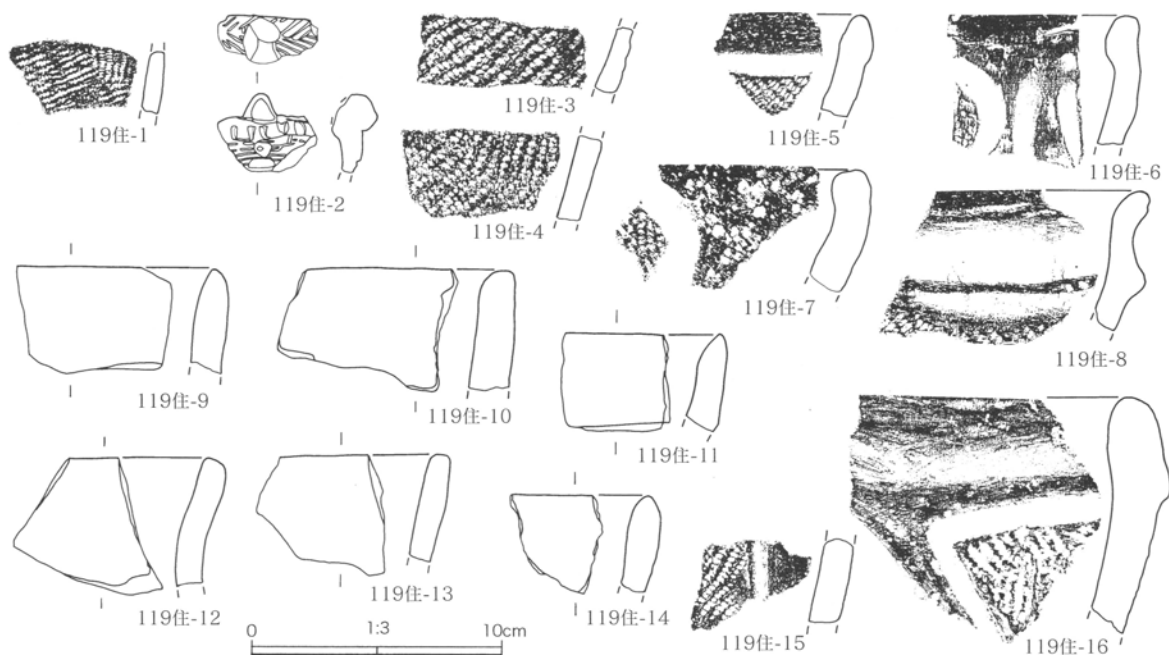
117号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
117号住居跡 24	縄文土器 深鉢	埋土中	口径 - 底径 (7.0) 高さ (4.9)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄橙色10YR7/4	加曾利E3	
117号住居跡 1~23 25	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	加曾利E3	
117号住居跡 26	石器 打製石斧	埋土中	長さ 8.30 巾 4.80 厚さ 1.50	石材=黒色頁岩 重量=58.63g	分銅形。刃部・胴部・側縁部に摩滅・線状痕有り。	
117号住居跡 27	石器 打製石斧	埋土中	長さ 9.90 巾 3.65 厚さ 1.25	石材=ホルンフェルス 重量=44.49g	短冊形。	
117号住居跡 28	石器 削器	埋土中	長さ 4.25 巾 3.15 厚さ 0.95	石材=黒色安山岩 重量=13.12g	素材剥片腹面側の両縁部に刃部が作り出される。	
117号住居跡 29	石器 石鏃	埋土中	長さ 1.40 巾 1.10 厚さ 0.40	石材=黒曜石 重量=0.38g	無茎凹基。正面に一部節理を残す。	

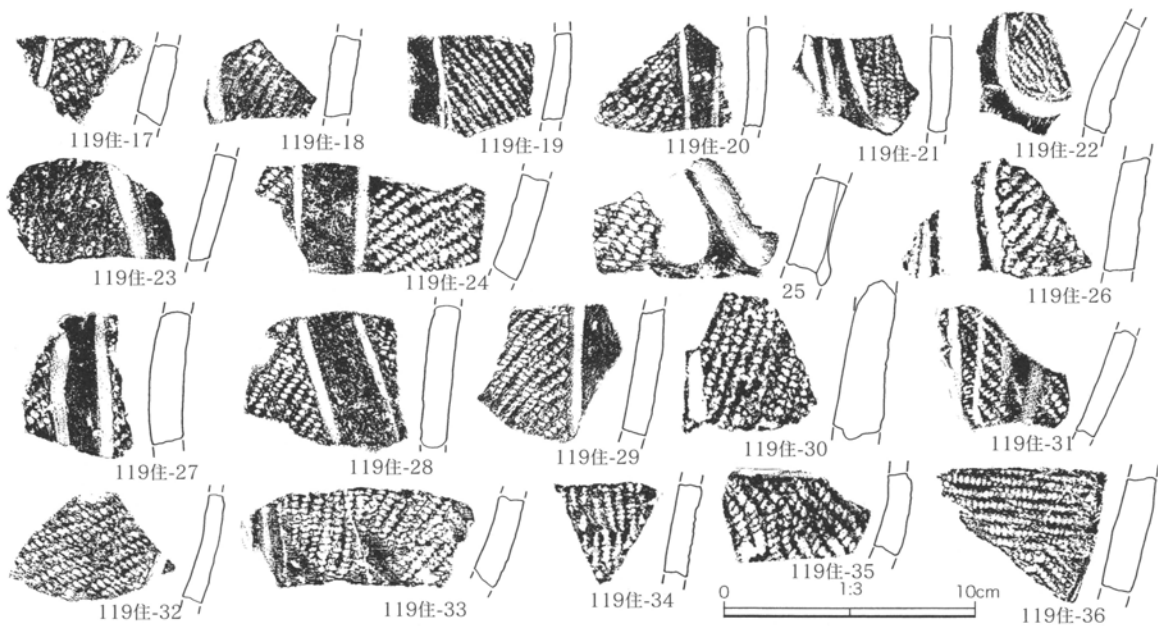
119号住居跡 (遺構写真PL.22、遺物写真PL.50)

位置：X=38,624 Y=-52,993 面積：(21.46)m<sup>2</sup>

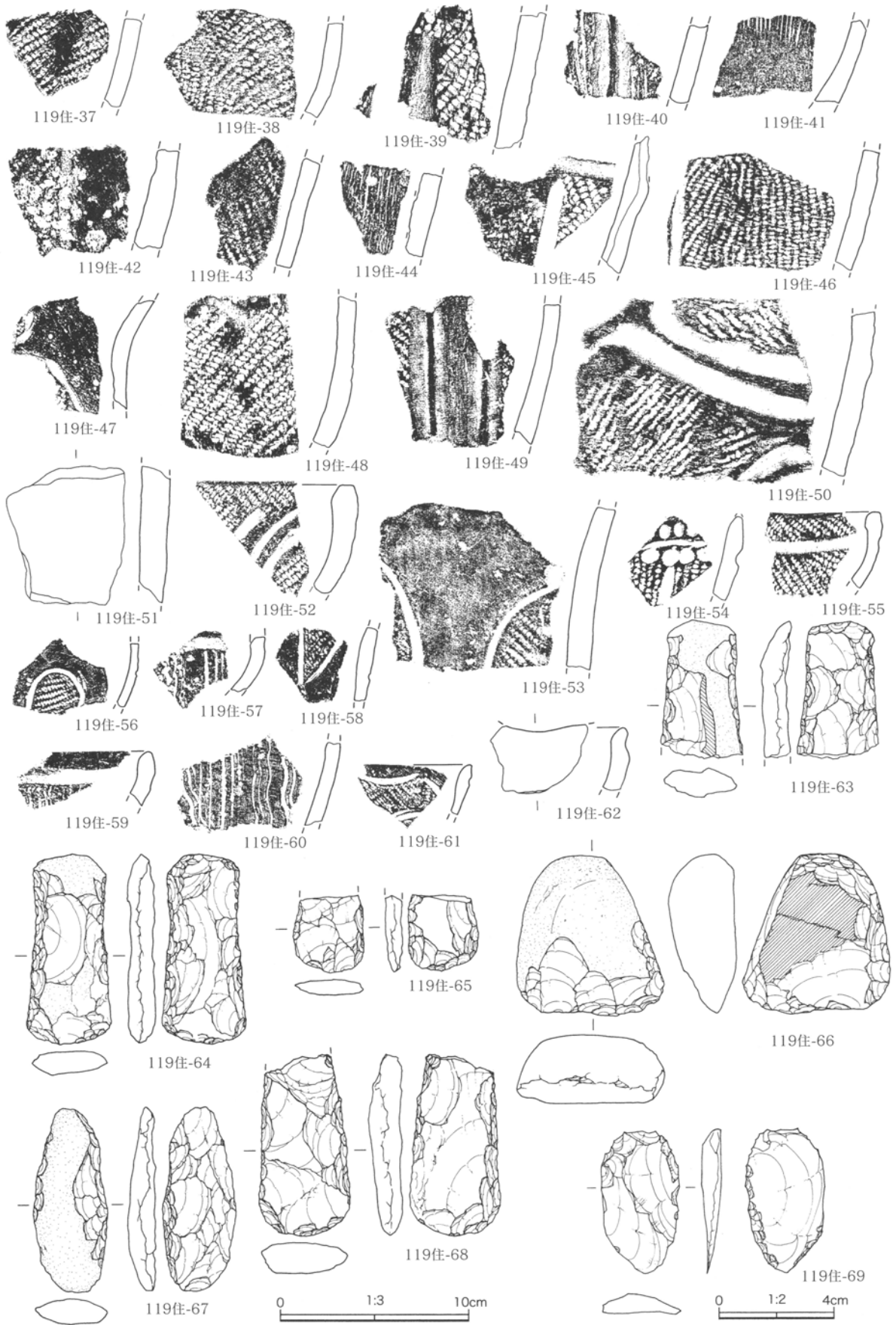
平面形状は、径4.7~6.4mを測る歪な楕円形状を呈する。床面までの残存深度は上面の削平が著しく、わずかに7~19cmを測るのみで、遺存状態は悪い。内部施設としては、床面上に径18~64cm、深度13~35cmを測るピット25穴を検出するが、位置的に対となるものがない。また、炉跡については焼土や炭化物の検出はなく、炉跡と確定できる個所はない。床面は掘り方・貼り床を持たず、掘削面地山をもって床面として硬化する。出土遺物は少なく、そのほとんどが埋土中よりの出土である。埋土は2層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。重複遺構は南西部において同じく縄文時代の117号住居跡と重複し、遺構確認時の埋土の様相より、本住居跡の方が古いものと判断された。



119号住居跡出土遺物(1)



119号住居跡出土遺物(2)



119号住居跡出土遺物(3)

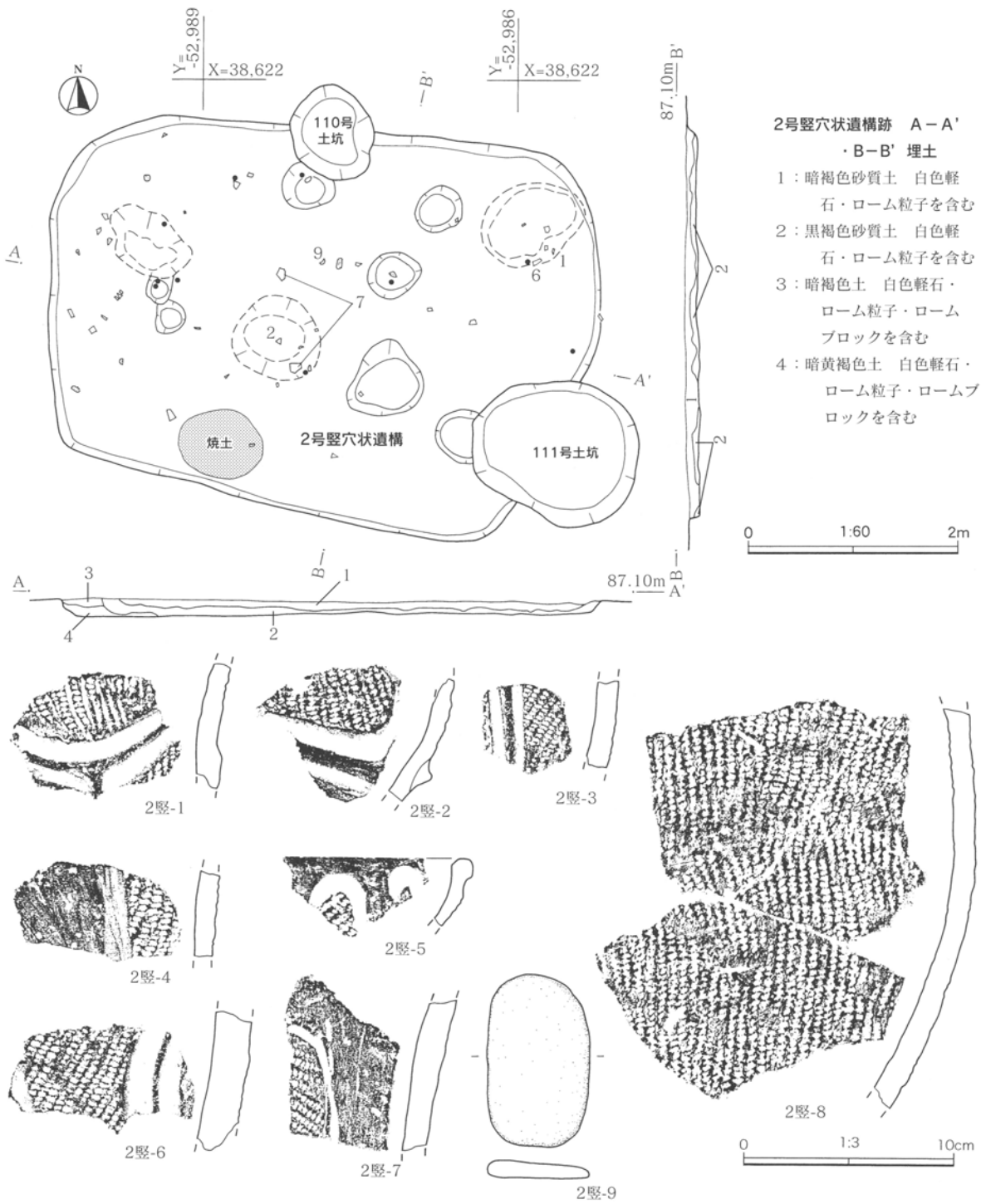
119号住居跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
119号住居跡 右記	縄文土器 深鉢	床面直上 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 良好 ③-	6~8,10,12,14,16,18,22,25,26, 30,32,35,36,39,42,45,46,48,50, 51=加曾利E3	
119号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	5,9,11,13,15,17,19~21,23,24,27~29,31, 33,34,37,38,40,41,43,44,49=加曾利E3 47,52~59=加曾利E4	
119号住居跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1=諸磯b 2=諸磯c 61=称名寺	
119号住居跡 63	石器 打製石斧	埋土中	長さ 7.25 巾 4.30 厚さ 1.60	石材=細粒輝石安山岩 重量=58.61g	短冊形。刃部欠損。胴部・基部・側縁部に摩滅有り。	
119号住居跡 64	石器 打製石斧	埋土中	長さ 9.90 巾 4.45 厚さ 1.20	石材=黒色頁岩 重量=87.63g	短冊形。刃部に摩滅・線状痕、胴部・基部・側縁部に摩滅有り。	
119号住居跡 65	石器 打製石斧	埋土中	長さ 4.05 巾 3.75 厚さ 0.85	石材=細粒輝石安山岩 重量=17.47g	短冊形。胴部・基部欠損。	
119号住居跡 66	石器 礫器	床面+8cm	長さ 8.40 巾 7.70 厚さ 3.50	石材=砂岩 重量=298.0g	節理面により分割された礫の端部に両面加工により刃部を作り出す。	
119号住居跡 67	石器 打製石斧	埋土中	長さ 9.60 巾 3.85 厚さ 1.50	石材=ホルンフェルス 重量=61.32g	短冊形。	
119号住居跡 68	石器 打製石斧	床面+2cm	長さ 9.45 巾 4.85 厚さ 1.75	石材=ホルンフェルス 重量=103.80g	短冊形。基部欠損。刃部・胴部・側縁部に摩滅有り。	
119号住居跡 69	石器 削器	埋土中	長さ 5.00 巾 2.75 厚さ 0.70	石材=黒色安山岩 重量=10.98g	素材剥片腹面側の打面部に刃部が作り出される。	

2号竪穴状遺構跡 (遺構写真PL.23、遺物写真PL.51)

位置：X=38,620 Y=-52,988 主軸方位：N-94° -W 面積：16.43㎡

平面形状は、東西軸5.4m×南北軸3.4mを測る歪な隅丸長方形形状を呈する。掘削の残存深度は18cmを測る。埋土は4層よりなり、自然堆積埋没の様相を示す。炉跡・竈跡共に検出されず、南壁中央部西寄りに焼土の散布を確認するものの、床面より間層を挟んだ状態であり、埋没途上での投げ入れと判断された。上記のとおり、本遺構は規模・形状・埋土の様相などが竪穴住居跡に類するものの、炉跡・竈跡が検出されなかったため、竪穴状遺構とした。重複遺構は北壁中央部において110号土坑跡と、東壁中央南寄りにおいて111号土坑跡と重複し、遺構確認時の相互の埋土の様相より本遺構の方が古いものと判断された。



2号竖穴状遺構跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
2号竖穴状遺構 1~8	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 底径 高さ	- - -	加曾利E3 1=床面-2cm, 2=床面+7cm, 6=床面直上, 7=床面+3cm,	
2号竖穴状遺構 9	石器 磨石	床面+7cm	長さ 巾 厚さ	8.2 4.9 0.9	石材=粗粒輝石安山岩 重量=58.87g 縁辺に磨面・線状痕有り。	

## 2 掘立柱建物跡

### 9号掘立柱建物跡

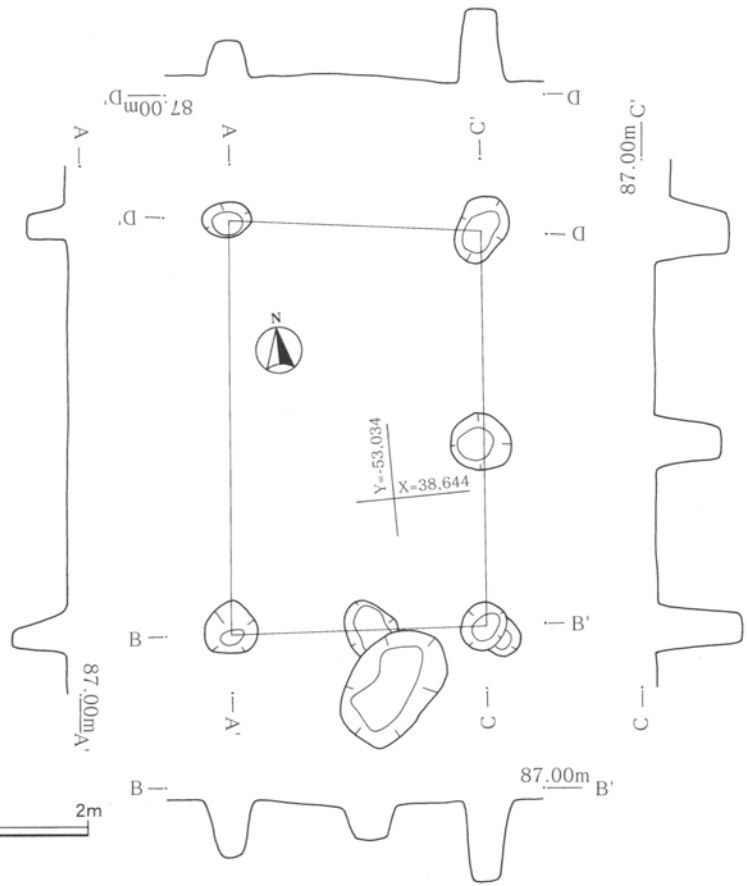
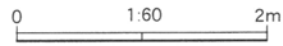
位置：X=38,644 Y=-53,034

主軸方位：N-5° -E

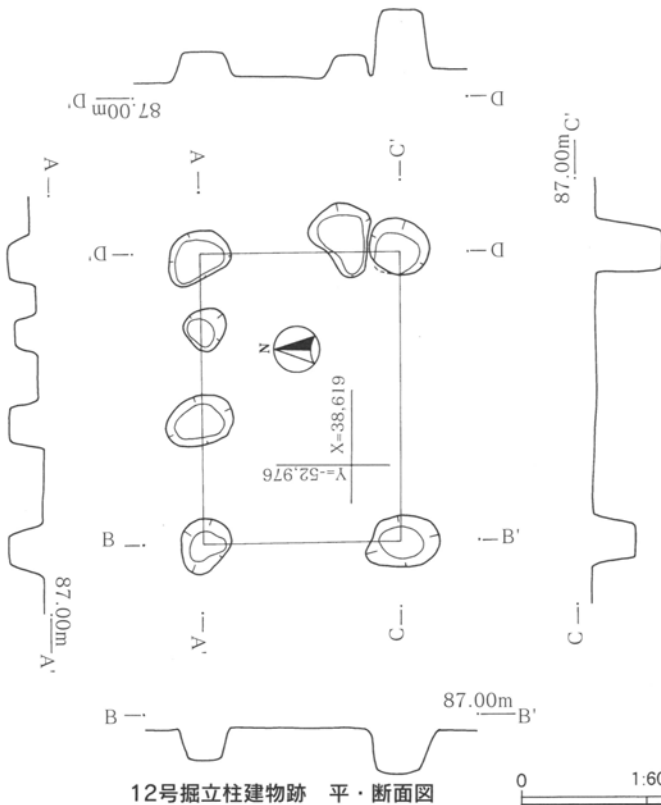
面積：6.5㎡

調査段階では建物跡との断定ができず、単独のピット群として調査されていたが、整理時において、その間取りから建物跡と判断された。

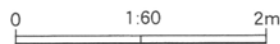
規模は、東西軸1間×南北軸2間であるが、西側の間柱は確認されていない。柱穴の径は25～55cmほど、深度は確認面より25～65cmほどを測る。



9号掘立柱建物跡 平・断面図



12号掘立柱建物跡 平・断面図



### 12号掘立柱建物跡

位置：X=38,619 Y=-52,976

主軸方位：N-90° -W

面積：3.5㎡

9号掘立柱建物跡と同様に調査段階では建物跡との断定ができず、整理時において、その間取りから建物跡と判断された。

規模は、東西軸2間×南北軸1間であるが、南側の間柱は確認されていない。柱穴の径は30～50cmほど、深度は確認面より15～50cmほどを測る。

### 3 井戸跡

1号井戸跡 (遺構写真PL.24、遺物写真PL.44)

位置：X=38,625 Y=-53,002

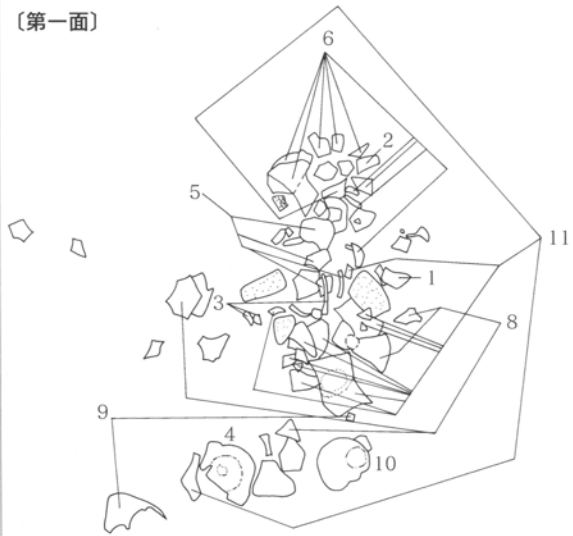
主軸方位：N-10° -E 面積：(2.04)m<sup>2</sup>

平面形状は、遺構確認面においては肩部の崩落により不定形を呈するものの、中位から底面に至っては50×100cm程を測る隅丸長形状を呈し、確認面よりの深度は140cmを測る。

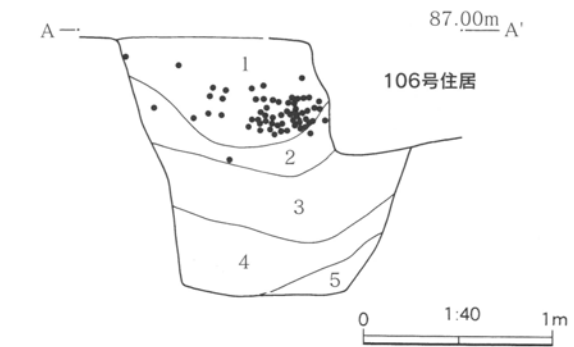
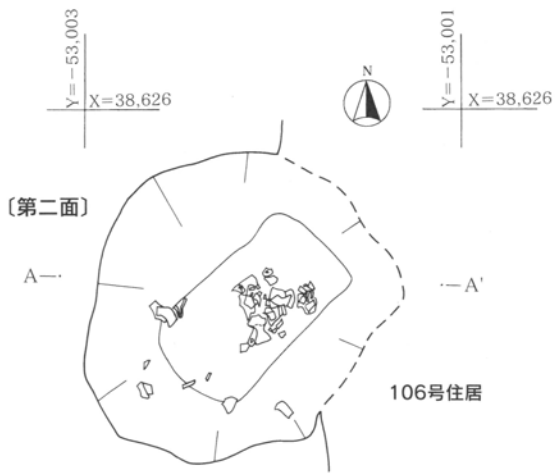
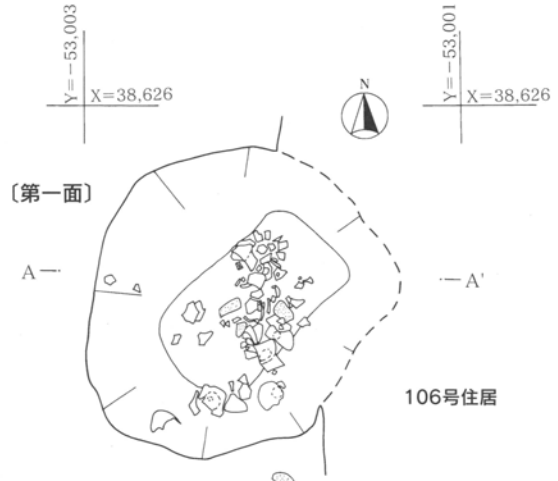
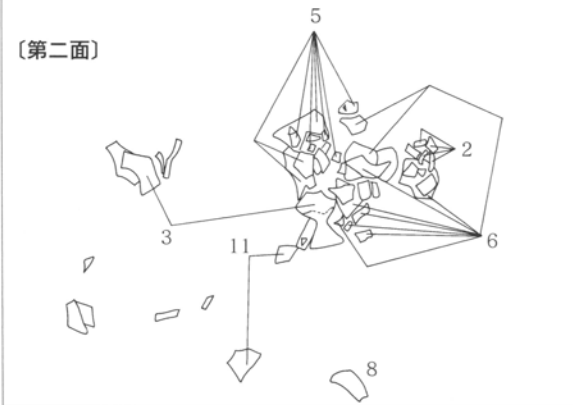
内部には井戸枠の存在を示す痕跡は残らず、また礫の出土も見られないことから、素掘りの井戸と考えられるが、一定箇所より水を汲上げる際につるべ桶が擦れて抉られた痕跡も見られないため、汲上げ用の施設または板敷きの足場などが存在したものと推察される。

遺物出土状態拡大図

〔第一面〕



〔第二面〕



1号井戸跡 平・断面図

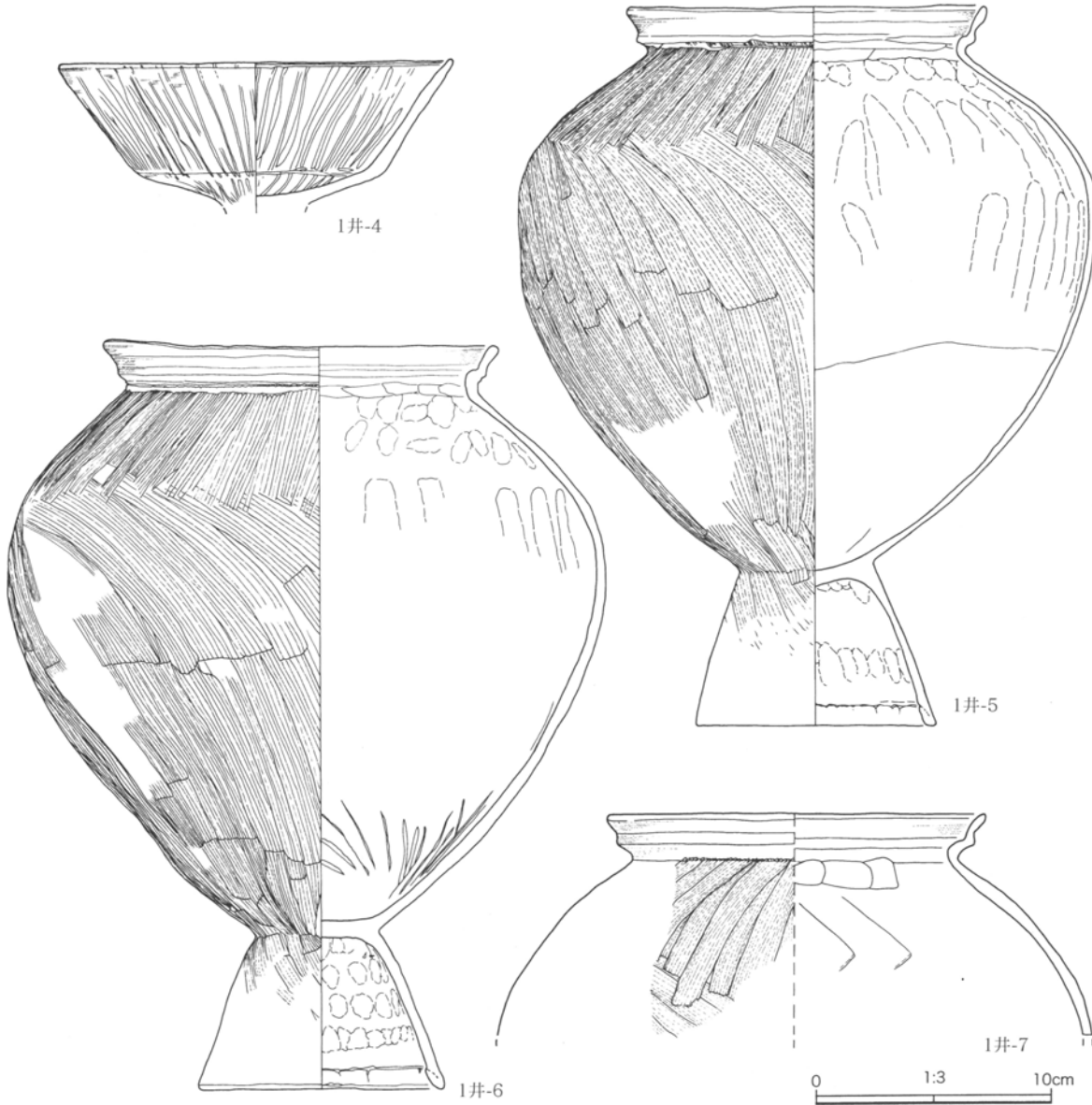
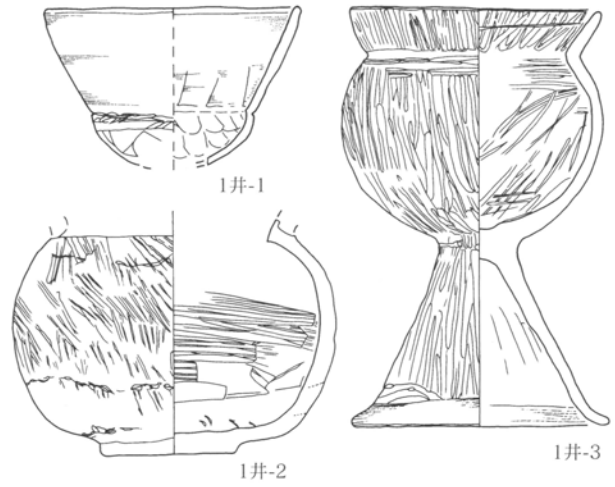
1号井戸跡 A-A' 埋土

- 1：黒褐色弱粘質土 少量のロームブロックを含む
- 2：黒褐色弱粘質土 少量のローム粒子と微量の白色軽石粒を含む
- 3：暗褐色弱粘質土 少量のローム粒子を含む
- 4：暗褐色弱粘質土 少量のローム粒子・ロームブロックを含む
- 5：暗褐色弱粘質土 ローム粒子・ロームブロックを含む

出土遺物としては、S字状台付甕などの古式土師器類を伴うものの、遺物の出土層位が全て確認面にほど近い上位よりの出土であるため、埋没時期は遺物の示す古墳時代前期に断定出来るものの、掘削・使用時期についてはさらに遡ると言えるのみである。

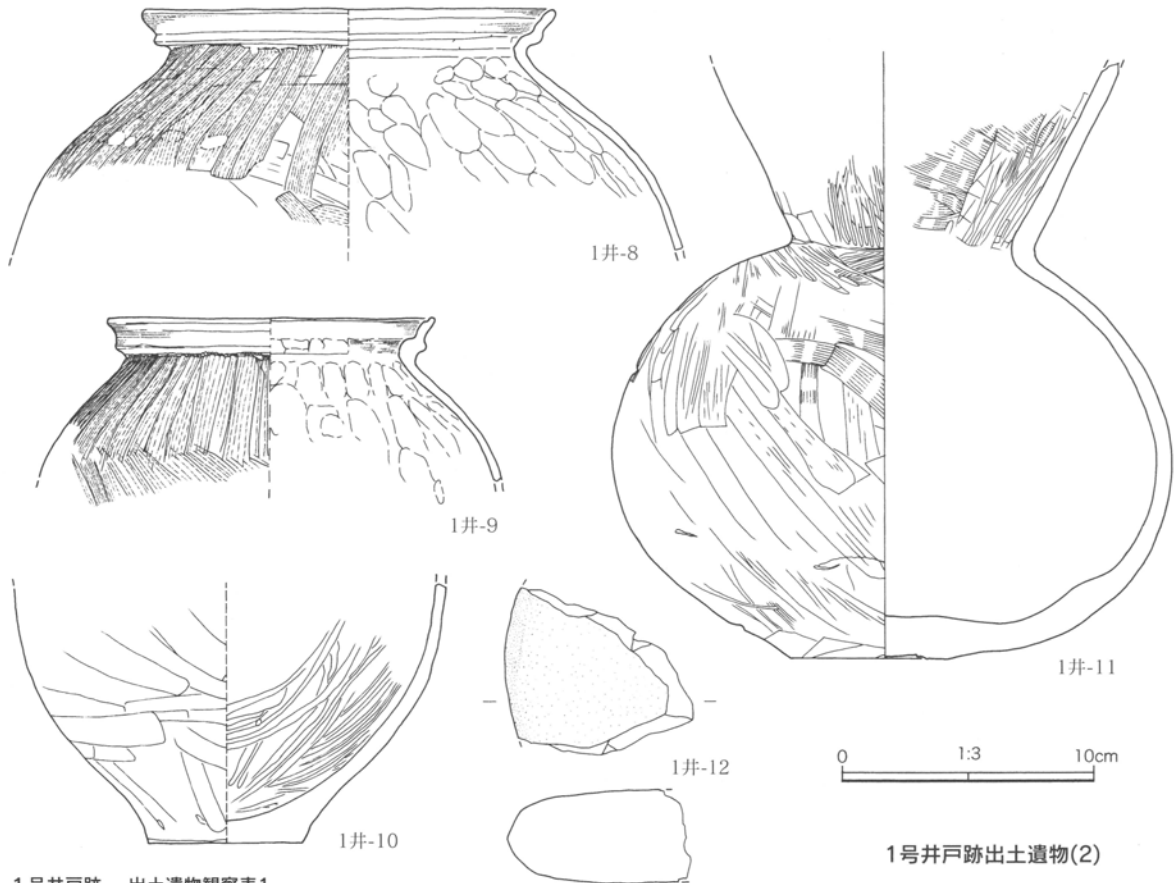
埋土の様相は、少量のロームを含むものの、大きなブロックの混入もなく、自然堆積による埋没の様相を示す。

重複する遺構として106号住居跡があるが、遺構確認時における埋土の平面的な様相から、本井戸跡の方が古いものと判断された。



1号井戸跡出土遺物(1)





1号井戸跡出土遺物(2)

1号井戸跡 出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
1号井戸跡 1	古式土師 小型 埴	埋土中 破片 口縁～底部	口径 (10.2) 底径 - 高さ (6.2)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄褐色 10YR6/4	外面=口縁部は丁寧なナデ、体～底部はへら削り。 内面=ナデ。	
1号井戸跡 2	古式土師 小型 壺	埋土中 1/2 頸～底部	口径 - 底径 5.2 高さ (9.2)	①細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色 5YR4/4	外面=粗い刷毛目調整。 内面=ナデおよび粗い刷毛目調整。	
1号井戸跡 3	古式土師 小型 台付甕	埋土中 略完形	口径 9.8 底径 10.0 高さ 16.5	①微・細砂やや多 ②酸化焰 良好 ③灰黄色 2.5Y7/3	外面=口縁部横ナデ、胴～脚部縦方向のへら磨き。内面=口縁～胴部ナデの後粗いへら磨き。脚部ナデ。	
1号井戸跡 4	古式土師 高坏	埋土中 1/2 坏部	口径 (16.6) 底径 - 高さ (6.0)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色 5YR4/4	外面=坏部ナデの後粗い縦方向のへら磨き。内面=ナデの後粗い縦方向(放射状)のへら磨き。	
1号井戸跡 5	古式土師 S字状口縁 台付甕	埋土中 2/3 口縁～底部	口径 (15.0) 底径 10.0 高さ 30.0	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③暗赤褐色 5YR3/3	外面=口縁部は丁寧な横ナデ。胴部は刷毛目調整。横線なし。 内面=ナデ。	
1号井戸跡 6	古式土師 S字状口縁 台付甕	埋土中 略完形	口径 16.8 底径 10.5 高さ 31.5	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色 7.5YR4/3	外面=口縁部は丁寧な横ナデ。胴部は刷毛目調整。横線なし。 内面=ナデ。	
1号井戸跡 7	古式土師 S字状口縁 台付甕	106号住 破片 口縁～胴部	口径 (16.0) 底径 - 高さ (9.3)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色 7.5YR4/3	外面=口縁部は丁寧な横ナデ。胴部は刷毛目調整。横線なし。 内面=ナデ。	
1号井戸跡 8	古式土師 S字状口縁 台付甕	埋土中 破片 口縁～胴部	口径 (16.1) 底径 - 高さ (9.6)	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰 良好 ③にぶい黄褐色 10Y5/4	外面=口縁部は丁寧な横ナデ。胴部は刷毛目調整。横線なし。 内面=ナデ。	
1号井戸跡 9	古式土師 S字状口縁 台付甕	埋土中 破片 口縁～胴部	口径 (12.8) 底径 - 高さ (7.4)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③にぶい褐色 7.5YR4/3	外面=口縁部は丁寧な横ナデ。胴部は刷毛目調整。横線なし。 内面=ナデ。	

1号井戸跡 出土遺物観察表2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
1号井戸跡 10	古式土師 甕	埋土中 破片 胴～底部	口径 - 底径 6.1 高さ (10.1)	①細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい赤褐色2.5YR4/4	外面＝胴部下半へら削り後へらナデ。 内面＝胴部下半丁寧なナデの後粗いへら 磨き。	
1号井戸跡 11	古式土師 丸底壺 (埴)	埋土中 3/4 口縁～底部	口径 - 底径 6.0 高さ (23.4)	①微・細砂少 ②酸化焰 良好 ③褐色 7.5YR4/4	外面＝口縁部～胴部は細かい刷毛目調整 の後、へら磨き。内面＝口縁部刷毛目 調整後へら磨き。胴部ナデ。	
1号井戸跡 12	石器 磨石	埋土中	長さ 6.6 巾 7.6 厚さ 3.7	石材＝粗粒輝石安山岩 重量＝227.9g	正面・裏面に磨面、端部に面的な敲打痕 有り。	

2号井戸跡 (遺構写真PL.24、遺物写真PL.44)

位置：X=38,609 Y=-52,914 面積：1.33㎡

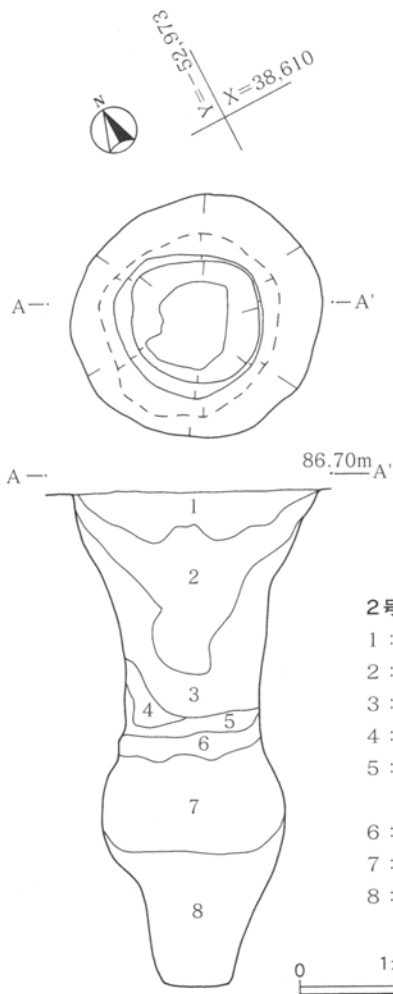
平面形状は、径130cm程を測る円形状を呈し、深度は確認面より265cm程を測る。

内部には井戸杵の痕跡は見られず、磔の出土もないことから、素掘りの井戸であったものと考えられる。

断面形状は、底面より1m程の部分に崩落による膨れが見られることから、この層位より湧水があったものと推察される。また、汲上げの際につるべ桶が擦れて扶られた痕跡が見られないことから、上部に汲上げの施設又は板敷きの足場等が存在していたものと考えられる。

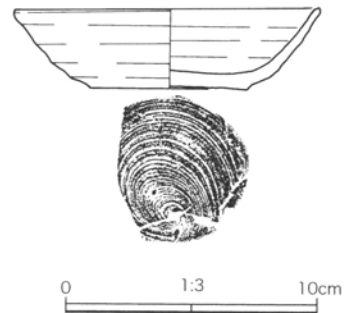
出土遺物は、わずかに須恵器坏と流れ込みの縄文土器片を伴うのみである。

埋土は自然堆積の様相を示し、人為的な埋戻しは行われていない。



2号井戸跡 A-A' 埋土

- 1：黒色土 少量のローム粒子・白色軽石粒・焼土粒子を含む
- 2：黒色土 少量のローム粒子と微量の白色軽石粒・焼土粒子を含み、しまりなし
- 3：黄褐色土 多量のローム粒子と微量の白色軽石粒・焼土粒子を含み、しまりなし
- 4：黄褐色土 3層土+多量の黒色土
- 5：黄褐色弱粘質土 多量の黒色土・ローム粒子を含む
- 6：黒色弱粘質土 ローム土を斑状に含む
- 7：黄褐色弱粘質土 黒色土を斑状に含む
- 8：黒色砂質土 細砂・黒色粘質土・ローム土が薄く相互に堆積する



2号井戸跡 平・断面図

2号井戸跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
2号井戸跡 1	須恵器 坏	埋土中 4/5 口縁～底部	口径 12.0 底径 6.0 高さ 3.3	①微・細砂少 ②還元焰 良好 ③灰色 7.5YR4/1	丁寧な口縁成・整形。底部回転糸切り 後、未調整。	

# 4 炉 跡

## 1号炉跡 (石囲い炉)

(遺構写真PL.23、遺物写真PL.51)

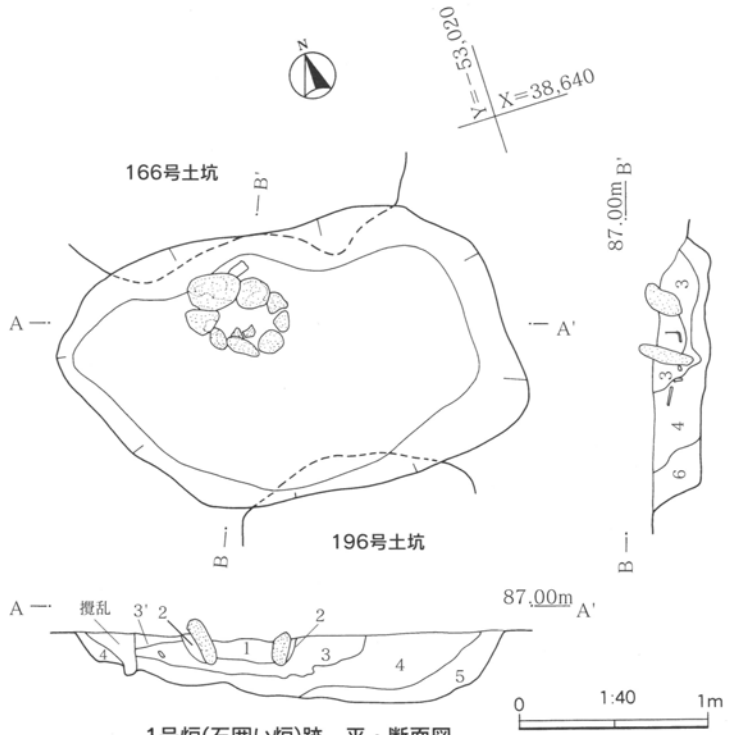
位置：X=38,639 Y=-53,021

面積：2.80㎡

炉単体の平面形状は、東西軸231cm×南北軸146cmを測る楕円形状を呈し、深度は10～14cm程を測る。不揃いの円礫8個を組み合わせて炉とし、底面および内側の礫面は被熱による赤色化が著しいため、長期間の使用が推察される。

調査時において本炉跡を上面の削平により壁を失った竪穴住居跡(115号住)に伴う石囲い炉跡と、その掘り方に重複する土坑跡(198号土坑)と考えたが、掘り方を再検討した結果、炉跡に連続する土坑状の掘り込みと判断された。このため、本炉跡は掘り方が示す規模の小型の施設に伴う可能性が考えられるが、底面がフラットではなく、柱穴跡等も検出できなかった。

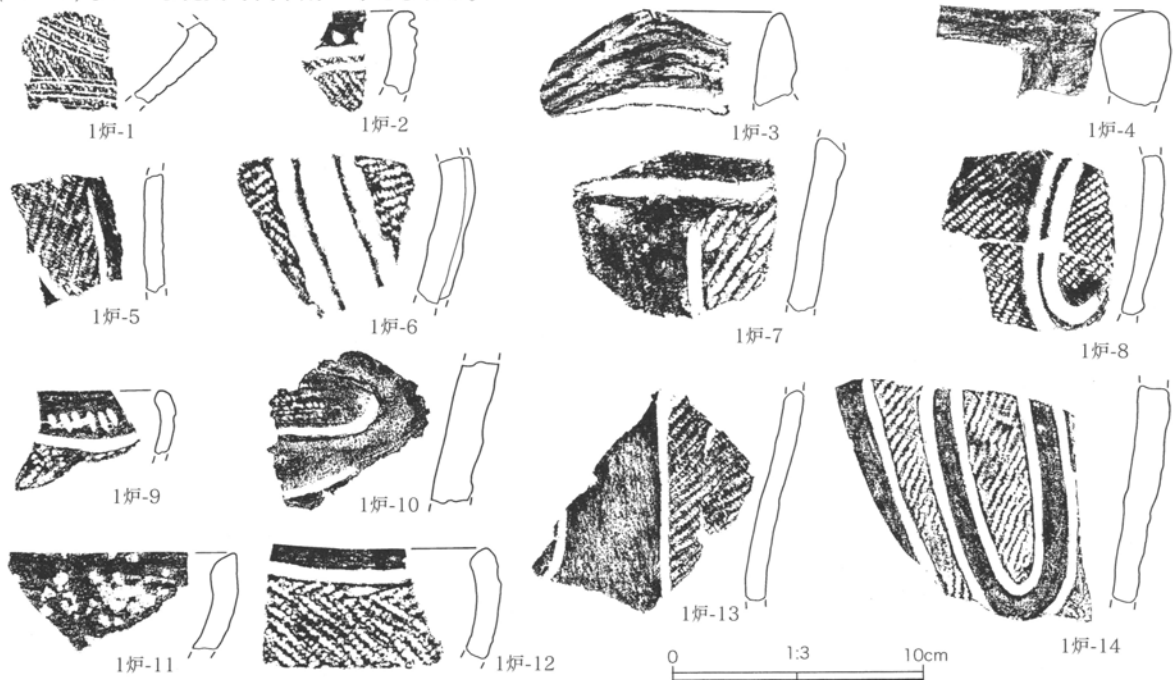
遺構の時期については、炉内より出土の土器片(No.10)などから縄文時代中期と考えられる。



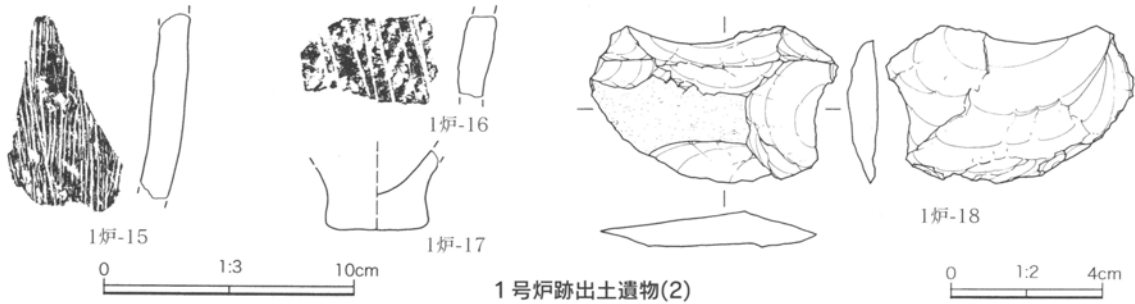
1号炉(石囲い炉)跡 平・断面図

### 1号炉跡 A-A'・B-B' 埋土

- 1：褐色～暗褐色土 少量のソフトローム小ブロックを含む
- 2：暗褐色土 多量のローム粒子と少量のハードローム極小ブロックを含む(石裏込め土)
- 3：褐色土 微量のローム粒子、ローム小ブロックを含む
- 3'：褐色土 3層に類似し、多量のローム粒子を含む
- 4：褐色土 暗褐色土とソフトローム土の混土に少量のローム粒子を含み、硬化する
- 5：明褐色土 ソフトローム土に少量の暗褐色土・ローム粒子を含む
- 6：黄褐色土 多量のローム粒子・ロームブロックを含む



1号炉跡出土遺物(1)



1号炉跡出土遺物(2)

1号炉跡 出土遺物観察表

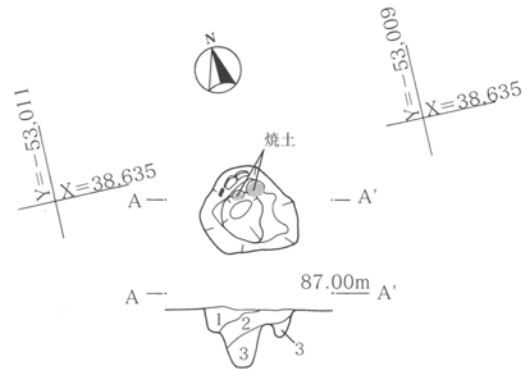
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
1号炉跡 右記	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1=諸磯b、15、16=中期後半 2~8=加曾利E3 9~14=加曾利E4	
1号炉跡 18	石器 削器	埋土中 破片	長さ 4.25 巾 6.60 厚さ 0.80	石材=頁岩 重量=24.15g	素材剥片腹面側の末端部に刃部が作り出される。	

3号炉跡(埋塞) (遺構写真PL.23、遺物写真PL.51)

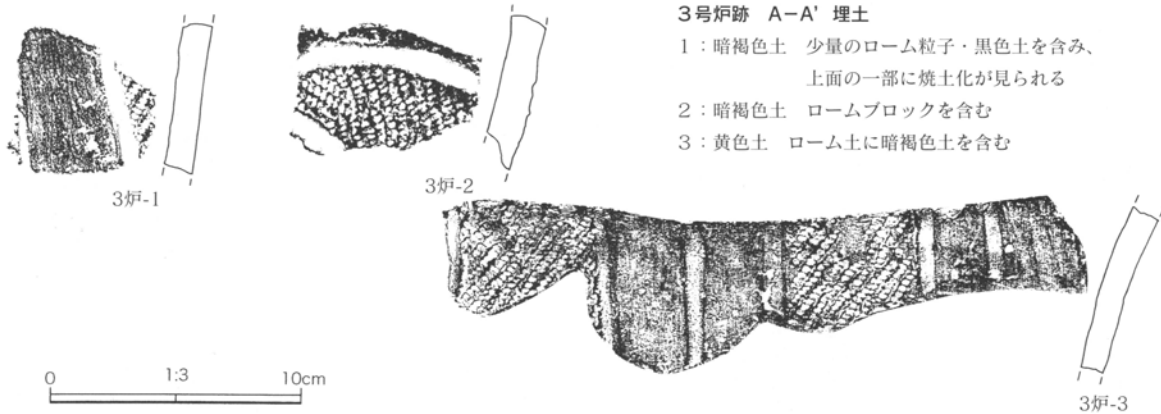
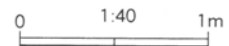
位置：X=38,635 Y=-53,010

面積：0.17㎡

上面の削平を受け、埋設深鉢と焼土の一部を残すのみの検出となった。掘り方の規模は、径45~54cm、深度32cmを測る不定形を呈する。竪穴住居跡に伴う炉跡と考えられるが、住居規模・形状等は不明。遺構の時期については、埋塞片(No.1~3)より縄文時代中期と考えられる。



3号炉跡 平・断面図



3号炉跡 A-A' 埋土

- 1：暗褐色土 少量のローム粒子・黒色土を含み、上面の一部に焼土化が見られる
- 2：暗褐色土 ロームブロックを含む
- 3：黄色土 ローム土に暗褐色土を含む

3号炉跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
3号炉跡 1~3	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	加曾利E3	

## 5 土坑跡

土坑跡一覽表

遺構名	位置	形状	規模	残存深度	遺構時期	備考
95号土坑跡	X=38629 Y=-53010	凹形	径75cm	23cm	不明	
99号土坑跡	X=38637 Y=-53019	楕円形	210×160cm	80cm	縄文中期	98号住居跡と重複
100号土坑跡	X=38639 Y=-53016	不定形	(120cm)	35cm	奈良・平安	97号住居跡、121号土坑跡と重複
103号土坑跡	X=38634 Y=-53015	隅丸方形	径97cm	34cm	不明	114号住居跡と重複
104号土坑跡	X=38631 Y=-53016	隅丸長方形	145×133cm	42cm	縄文中期	114号住居跡、358A土坑跡と重複
105号土坑跡	X=38631 Y=-53015	隅丸方形	径90cm	14cm	縄文中期	358A土坑跡と重複
106号土坑跡	X=38630 Y=-53013	楕円形	135×80cm	43cm	奈良・平安	
107号土坑跡	X=38636 Y=-53010	楕円形	140×107cm	28cm	不明	
108号土坑跡	X=38631 Y=-53003	凹形	径80cm	16cm	不明	202・203号土坑跡と重複
110号土坑跡	X=38624 Y=-52988	凹形	87×83cm	23cm	奈良・平安	2号竪穴状遺構、357号土坑跡と重複
111号土坑跡	X=38620 Y=-52985	不定形	160×130cm	30cm	縄文中期	2号竪穴状遺構跡と重複
112号土坑跡	X=38622 Y=-52984	楕円形	165×105cm	25cm	縄文中期	351号土坑跡と重複
113号土坑跡	X=38619 Y=-52987	隅丸三角形	200×130cm	30cm	縄文中期	2号竪穴状遺構、369A土坑跡と重複
114号土坑跡	X=38618 Y=-52986	不定形	145×114cm	22cm	縄文中期	
115号土坑跡	X=38623 Y=-52978	楕円形	108×68cm	55cm	縄文中期	
116号土坑跡	X=38619 Y=-52978	楕円形	105×64cm	52cm	縄文中期	
119号土坑跡	X=38606 Y=-52947	楕円形	(76×40cm)	54cm	縄文中期	104号住居跡と重複
120号土坑跡	X=38606 Y=-52941	楕円形	85×68cm	22cm	不明	
121A号土坑跡	X=38639 Y=-53015	楕円形	110×84cm	33cm	不明	100号土坑跡と重複
121B号土坑跡	X=38608 Y=-52941	楕円形	108×64cm	19cm	不明	
122号土坑跡	X=38605 Y=-52940	楕円形	145×75cm	39cm	縄文中期	
123号土坑跡	X=38608 Y=-52939	楕円形	90×62cm	20cm	縄文中期	
124号土坑跡	X=38603 Y=-52943	楕円形	126×65cm	21cm	不明	
125号土坑跡	X=38602 Y=-52941	凹形	径60cm	12cm	不明	
126号土坑跡	X=38603 Y=-52939	楕円形	175×94cm	30cm	不明	
127号土坑跡	X=38603 Y=-52938	楕円形	331×153cm	17cm	不明	
128A号土坑跡	X=38600 Y=-52932	楕円形	167×145cm	38cm	不明	
128B号土坑跡	X=38604 Y=-52937	楕円形	136×93cm	37cm	不明	
130号土坑跡	X=38605 Y=-52934	楕円形	108×69cm	35cm	不明	
131号土坑跡	X=38598 Y=-52932	凹形	径90cm	15cm	不明	
133号土坑跡	X=38600 Y=-52930	隅丸方形	186×118cm	27cm	不明	
134号土坑跡	X=38599 Y=-52926	楕円形	98×66cm	46cm	不明	
135号土坑跡	X=38598 Y=-52925	不定形	110×95cm	40cm	不明	136号土坑跡と重複
136号土坑跡	X=38596 Y=-52926	不定形	130×80cm	50cm	不明	135号土坑跡と重複
137号土坑跡	X=38598 Y=-52924	楕円形	175×109cm	23cm	不明	350号土坑跡と重複
138号土坑跡	X=38603 Y=-52950	凹形	径95cm	26cm	不明	
139号土坑跡	X=38612 Y=-52952	隅丸三角形	180×133cm	55cm	不明	
146号土坑跡	X=38619 Y=-52989	不定形	172×172cm	53cm	縄文	154号土坑跡と重複
153号土坑跡	X=38611 Y=-52946	楕円形	100×88cm	37cm	不明	103号住居跡と重複
154号土坑跡	X=38619 Y=-52991	不定形	170×162cm	35cm	縄文中期	146号土坑跡と重複
157号土坑跡	X=38637 Y=-53033	不定形	227×148cm	22cm	不明	
158号土坑跡	X=38647 Y=-53033	不定形	193×115cm	66cm	縄文中期	
159号土坑跡	X=38636 Y=-53012	凹形	径106cm	74cm	縄文前期	221号土坑跡と重複
160号土坑跡	X=38633 Y=-53020	不定形	(105cm)	15cm	縄文中期	98号住居跡と重複
161号土坑跡	X=38626 Y=-53007	凹形	径230cm	45cm	不明	207号土坑跡と重複

遺構名	位置	形状	規模	残存深度	遺構時期	備考
164号土坑跡	X=38631 Y=-53019	不定形	(125cm)	40cm	縄文中期	
165号土坑跡	X=38640 Y=-53025	不定形	303×280cm	72cm	縄文中期	
166号土坑跡	X=38640 Y=-53021	不定形	194×120cm	45cm	縄文中期	1号炉跡と重複
168号土坑跡	X=38633 Y=-53004	円形	径120cm	45cm	縄文中期	209号土坑跡と重複
169号土坑跡	X=38619 Y=-52971	円形	径120cm	34cm	縄文中期	
178号土坑跡	X=38617 Y=-52973	楕円形	76×55cm	33cm	不明	
179号土坑跡	X=38614 Y=-52973	楕円形	126×104cm	20cm	縄文中期	
180号土坑跡	X=38612 Y=-52971	楕円形	164×136cm	15cm	不明	
181号土坑跡	X=38619 Y=-52973	楕円形	70×60cm	37cm	不明	
182号土坑跡	X=38623 Y=-52975	不定形	80×65cm	45cm	不明	
196号土坑跡	X=38638 Y=-53021	円形	径130cm	40cm	縄文中期	1号炉跡と重複、炉跡より旧
198号土坑跡	-	-	-	-	縄文中期	「1号炉跡」に名称変更
200号土坑跡	X=38636 Y=-53007	不定形	(94cm)	62cm	縄文中期	
201号土坑跡	X=38635 Y=-53001	不定形	(112cm)	33cm	不明	
202号土坑跡	X=38632 Y=-53002	楕円形	160×134cm	26cm	不明	108号土坑跡と重複
203号土坑跡	X=38631 Y=-53002	楕円形	164×64cm	32cm	不明	108号土坑跡と重複
204号土坑跡	X=38632 Y=-53006	楕円形	126×67cm	38cm	不明	
205号土坑跡	X=38627 Y=-53005	楕円形	120×75cm	25cm	不明	
206号土坑跡	X=38629 Y=-53000	不定形	(180cm)	29cm	不明	107号住居跡と重複
207号土坑跡	X=38625 Y=-53006	楕円形	(130cm)	50cm	縄文中期	161号土坑跡と重複
208号土坑跡	X=38628 Y=-53006	円形	径80cm	45cm	不明	
209号土坑跡	X=38634 Y=-53003	楕円形	160×120cm	37cm	不明	168号土坑跡と重複
212号土坑跡	X=38634 Y=-52999	楕円形	70×48cm	15cm	不明	
221号土坑跡	X=38636 Y=-53013	円形	径105cm	55cm	縄文中期	113号住居、159・238土坑と重複
225号土坑跡	X=38628 Y=-52995	円形	径120cm	18cm	縄文中期	
227号土坑跡	X=38626 Y=-52982	楕円形	(110×60cm)	15cm	縄文中期	228号土坑跡と重複
228号土坑跡	X=38626 Y=-52984	不定形	(160cm)	37cm	不明	227号土坑跡と重複
232号土坑跡	X=38630 Y=-53006	不定形	(76cm)	25cm	縄文中期	
234号土坑跡	X=38638 Y=-53028	楕円形	57×48cm	28cm	縄文中期	
238号土坑跡	X=38636 Y=-53015	楕円形	132×105cm	57cm	不明	113号住居跡と重複
246号土坑跡	-	-	-	-	縄文中期	「3号炉跡」に名称変更
247号土坑跡	X=38650 Y=-53042	不定形	(147cm)	50cm	不明	
254号土坑跡	X=38641 Y=-53030	不定形	226×215cm	46cm	縄文中期	
255号土坑跡	X=38640 Y=-53032	楕円形	138×114cm	45cm	縄文中期	
260号土坑跡	X=38617 Y=-52987	楕円形	165×125cm	30cm	縄文中期	
263号土坑跡	X=38616 Y=-52986	楕円形	128×92cm	30cm	縄文中期	279号土坑跡と重複
268号土坑跡	X=38636 Y=-53030	楕円形	144×114cm	35cm	縄文中期	
269号土坑跡	X=38623 Y=-52989	楕円形	85×55cm	27cm	不明	2号竪穴状遺構跡と重複
270号土坑跡	X=38622 Y=-52988	円形	径82cm	25cm	不明	2号竪穴状遺構跡と重複
271号土坑跡	X=38623 Y=-52986	楕円形	100×80cm	28cm	縄文中期	2号竪穴状遺構、351号土坑と重複
276号土坑跡	X=38622 Y=-52982	楕円形	82×65cm	15cm	不明	
279号土坑跡	X=38617 Y=-52985	楕円形	154×80cm	16cm	不明	116号住居跡、263号土坑跡と重複
280号土坑跡	X=38618 Y=-52983	隅丸三角形	93×80cm	34cm	不明	
281号土坑跡	X=38618 Y=-52983	隅丸方形	105×105cm	20cm	縄文中期	
283号土坑跡	X=38620 Y=-52984	楕円形	124×65cm	16cm	不明	
284号土坑跡	X=38626 Y=-52988	円形	径80cm	50cm	不明	
285号土坑跡	X=38619 Y=-52983	不定形	200×83cm	35cm	縄文中期	290号土坑跡と重複
286号土坑跡	X=38618 Y=-52982	隅丸方形	80×70cm	28cm	不明	287号土坑跡と重複
287号土坑跡	X=38618 Y=-52981	隅丸三角形	85×75cm	28cm	不明	286号土坑跡と重複

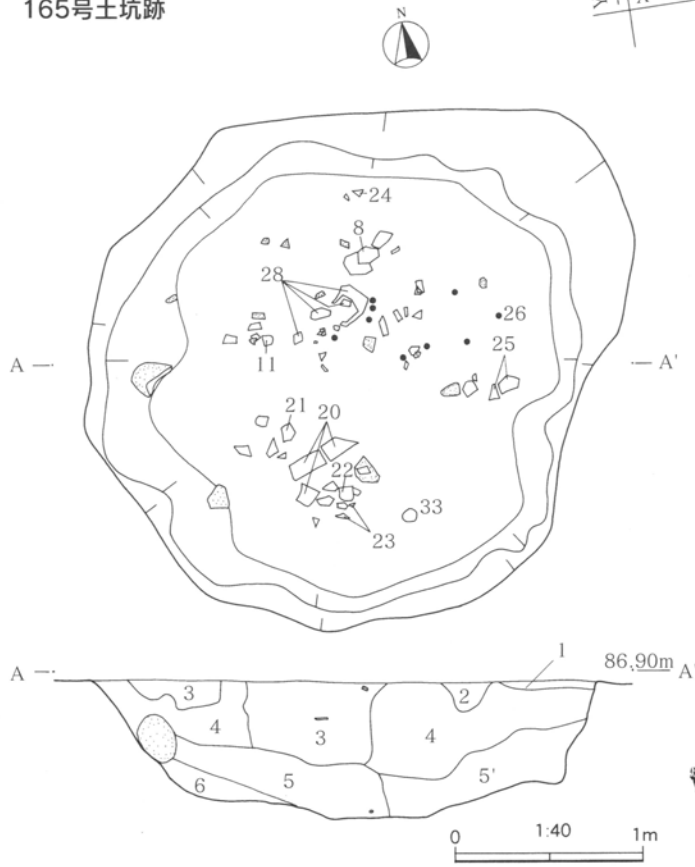
遺構名	位置	形状	規模	残存深度	遺構時期	備考
290号土坑跡	X=38619 Y=-52981	不定形	125×85cm	23cm	不明	285号土坑跡と重複
297号土坑跡	X=38639 Y=-53029	隅丸方形	径100cm	28cm	縄文中期	
298号土坑跡	X=38617 Y=-52980	不定形	204×197cm	23cm	不明	299・300号土坑跡と重複
299号土坑跡	X=38618 Y=-52979	楕円形	85×70cm	38cm	不明	298号土坑跡と重複
300号土坑跡	X=38617 Y=-52979	楕円形	(65cm)	38cm	不明	298・301号土坑跡と重複
301号土坑跡	X=38618 Y=-52978	楕円形	(120cm)	19cm	不明	300号土坑跡と重複
306号土坑跡	X=38643 Y=-53034	楕円形	100×65cm	40cm	不明	
307号土坑跡	X=38646 Y=-53034	隅丸方形	100×80cm	30cm	不明	
308号土坑跡	X=38644 Y=-53041	楕円形	90×64cm	45cm	不明	
309号土坑跡	X=38635 Y=-53027	不定形	118×118cm	35cm	不明	
310号土坑跡	X=38641 Y=-53024	楕円形	95×67cm	46cm	不明	
320号土坑跡	X=38626 Y=-52985	不定形	(115cm)	32cm	不明	95号住居跡と重複
321号土坑跡	X=38626 Y=-52990	楕円形	83×45cm	19cm	不明	
323号土坑跡	X=38606 Y=-52945	楕円形	187×137cm	53cm	不明	
324号土坑跡	X=38603 Y=-52945	楕円形	80×43cm	32cm	不明	
350号土坑跡	X=38597 Y=-52924	円形	径95cm	70cm	縄文	袋状土坑。137号土坑跡と重複
351A号土坑跡	X=38623 Y=-52985	楕円形	98×36cm	18cm	不明	112・271号土坑跡と重複
354B号土坑跡	X=38601 Y=-52935	楕円形	180×86cm	33cm	縄文中期	
355B号土坑跡	X=38593 Y=-52928	円形	径60cm	60cm	不明	
357A号土坑跡	X=38624 Y=-52988	不定形	215×114cm	24cm	不明	110号土坑跡と重複
358A号土坑跡	X=38631 Y=-53015	円形	径95cm	70cm	縄文	104・105号土坑跡と重複
359B号土坑跡	X=38590 Y=-52924	円形	径90cm	82cm	不明	
360B号土坑跡	X=38589 Y=-52922	楕円形	103×77cm	70cm	縄文	
367A号土坑跡	X=38628 Y=-52988	不定形	(120cm)	18cm	不明	95・96号住居跡と重複
368B号土坑跡	X=38595 Y=-52930	楕円形	75×48cm	39cm	不明	
369A号土坑跡	X=38619 Y=-52988	不定形	(110cm)	20cm	不明	113号土坑跡と重複
391号土坑跡	X=38614 Y=-52960	楕円形	104×60cm	20cm	不明	
392号土坑跡	X=38609 Y=-52962	楕円形	90×62cm	18cm	不明	
393号土坑跡	X=38617 Y=-52959	不定形	(305×140cm)	30cm	不明	

注1、 遺構番号は、北関東自動車道本線部との通番。上記表の途中欠番は、本線部の遺構として別報告。

注2、 調査時に重複して同一番号を付してしまったものについては、整理時において番号末にアルファベットを付記してユニークとした。

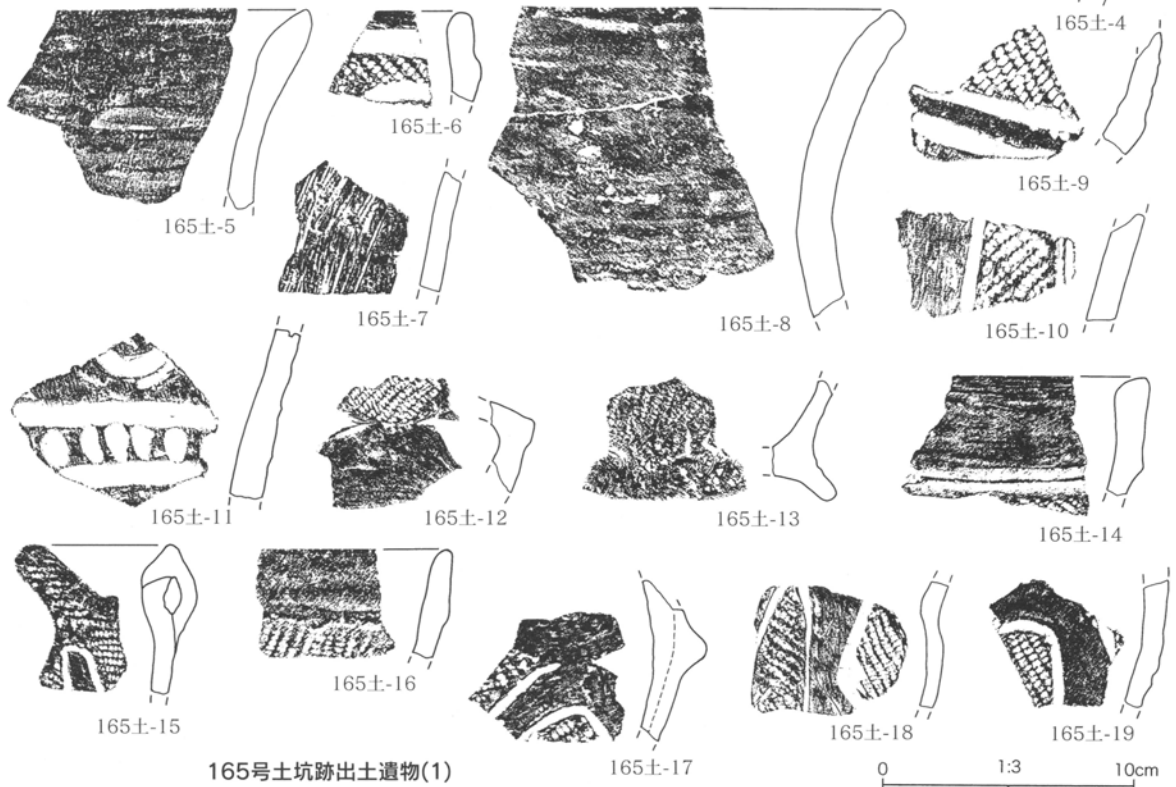
注3、 重複等により全体形状が明らかでない土坑の規模・深度の計測値は、検出部の最大値を( )内に記した。

165号土坑跡



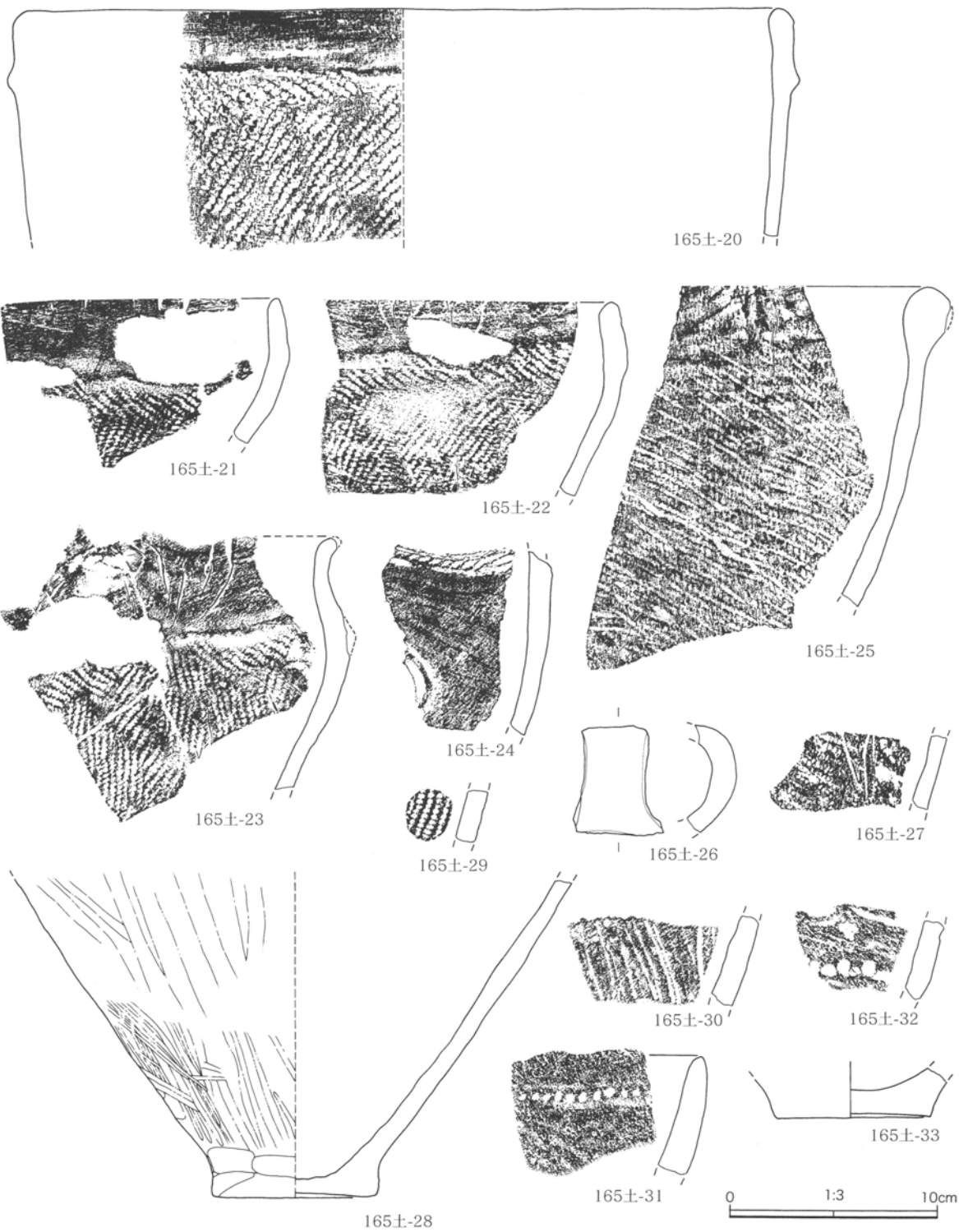
165号土坑跡 A-A' 埋土

- 1: 黒褐色砂質土 攪乱土
  - 2: 褐色土 斑状のソフトローム土と少量のローム粒子を含む
  - 3: 暗褐色土 多量のローム土を斑状に含み、少量のハードローム粒子を含む
  - 4: 黄褐色土 多量の褐色土を斑状に含み、少量のローム粒子・炭化物を含む
  - 5: 褐色土 少量のローム粒子・炭化物・斑状のソフトローム土を含む
  - 5': 褐色土 5層土に類似し、よりローム粒子・炭化物の混入量が多い
  - 6: 褐色土 ソフトローム土と褐色土の混土、少量のローム粒子を含む
- ※ 5~5' 層土中に出土遺物は集中する



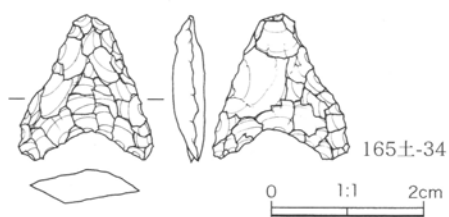
165号土坑跡出土遺物(1)





165号土坑跡 34	種別=石器 器種=石鏃	
埋土中	長さ 1.90cm 巾 1.75cm 厚さ 0.40cm	石材=チャート 重量=1.14g

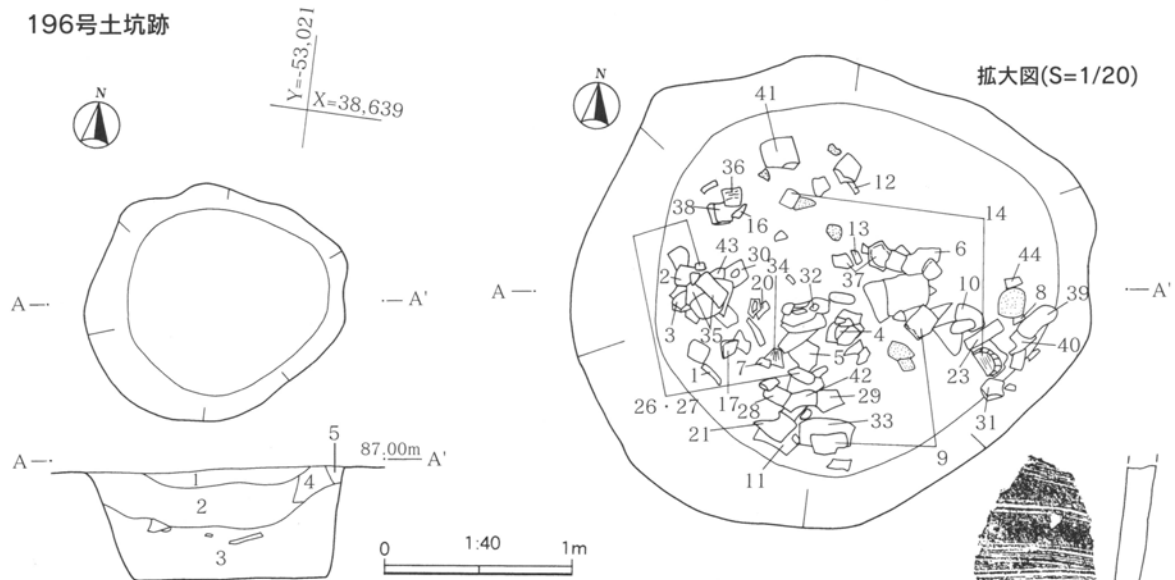
165号土坑跡出土遺物(2)



165号土坑跡 出土遺物観察表

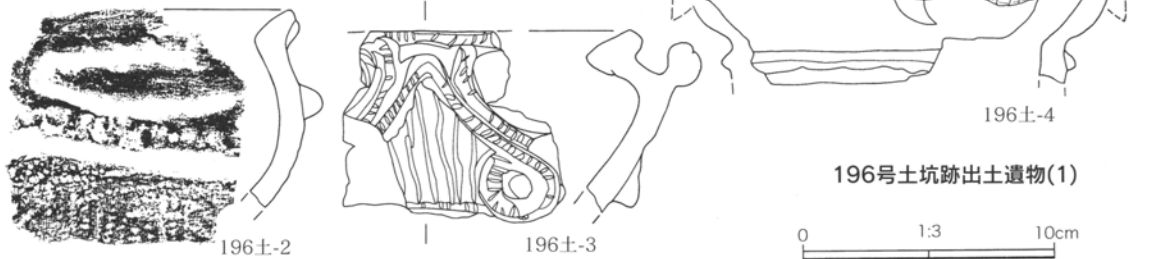
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
165号土坑跡 20	縄文土器 深鉢	床面+12cm 破片 口縁~胴部	口径 (36.0) 底径 - 高さ (11.0)	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰 ③灰褐色 7.5YR4/2	加曾利E4	
165号土坑跡 28	縄文土器 深鉢	床面+22cm 破片 胴~底部	口径 - 底径 (7.8) 高さ (15.1)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色 10YR6/4	加曾利E4	
165号土坑跡 29	土製品 円盤	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色 10YR7/4	中期土器片を再加工。	
165号土坑跡 1・2	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1=諸磯a、2=諸磯b	
165号土坑跡 4~13	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	加曾利E3	
165号土坑跡 右記	縄文土器 深鉢	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	14~19,21~27=加曾利E4	

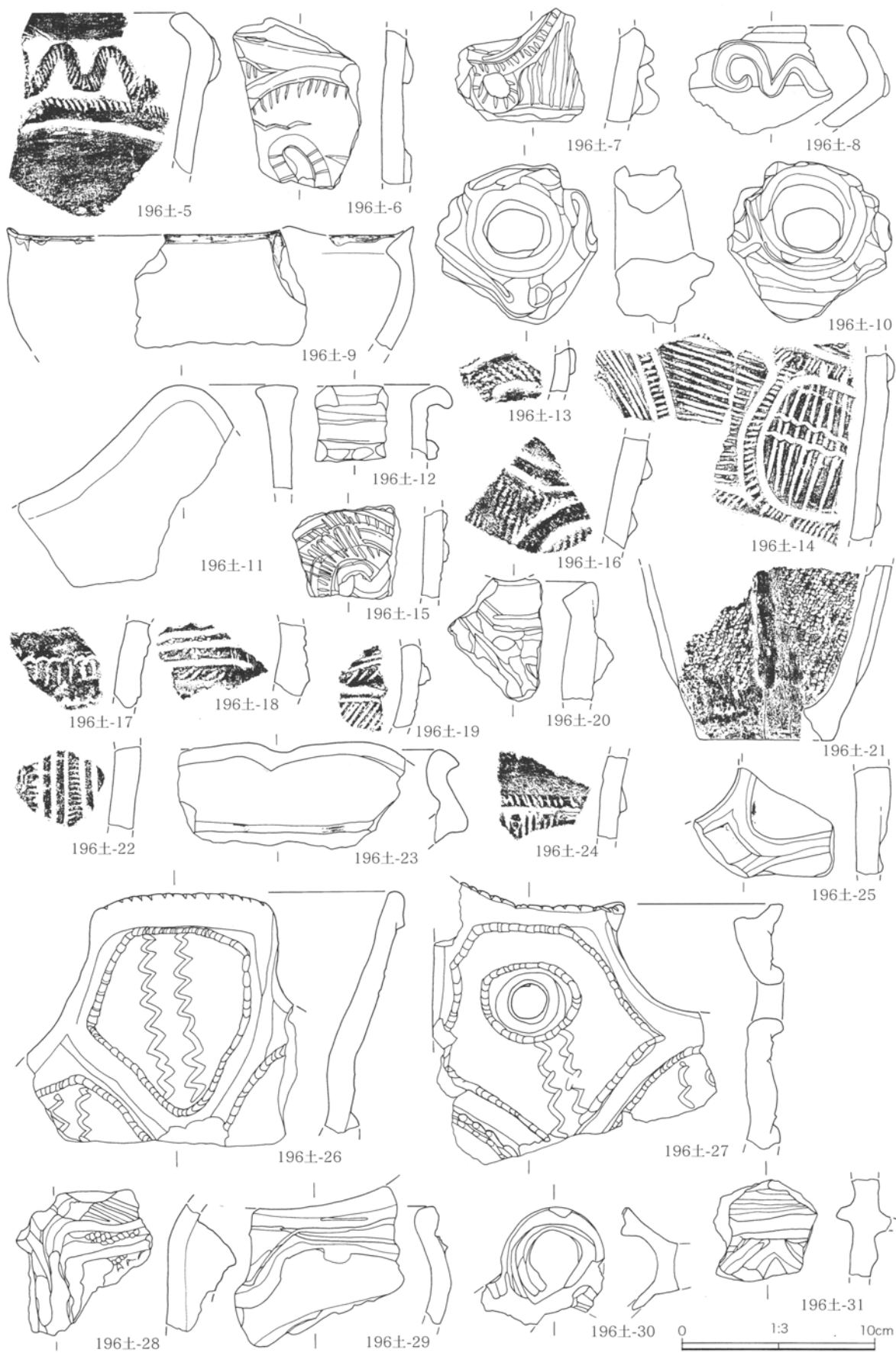
196号土坑跡



196号土坑跡 A-A' 埋土

- 1: 暗褐色土 斑状のソフトローム土と微量の炭化物を含む
- 2: 褐色土 斑状のソフトローム土と少量のローム小ブロックを含む
- 3: 暗褐色土 少量のローム粒子・ローム小ブロック・炭化物を含む  
※3層土中に出土遺物は集中する
- 4: 黄褐色土 ソフトローム土に褐色土を斑状に含む
- 5: 褐色土 多量のハードロームブロック(径5~40mm大)を含む





196号土坑出土遗物(2)

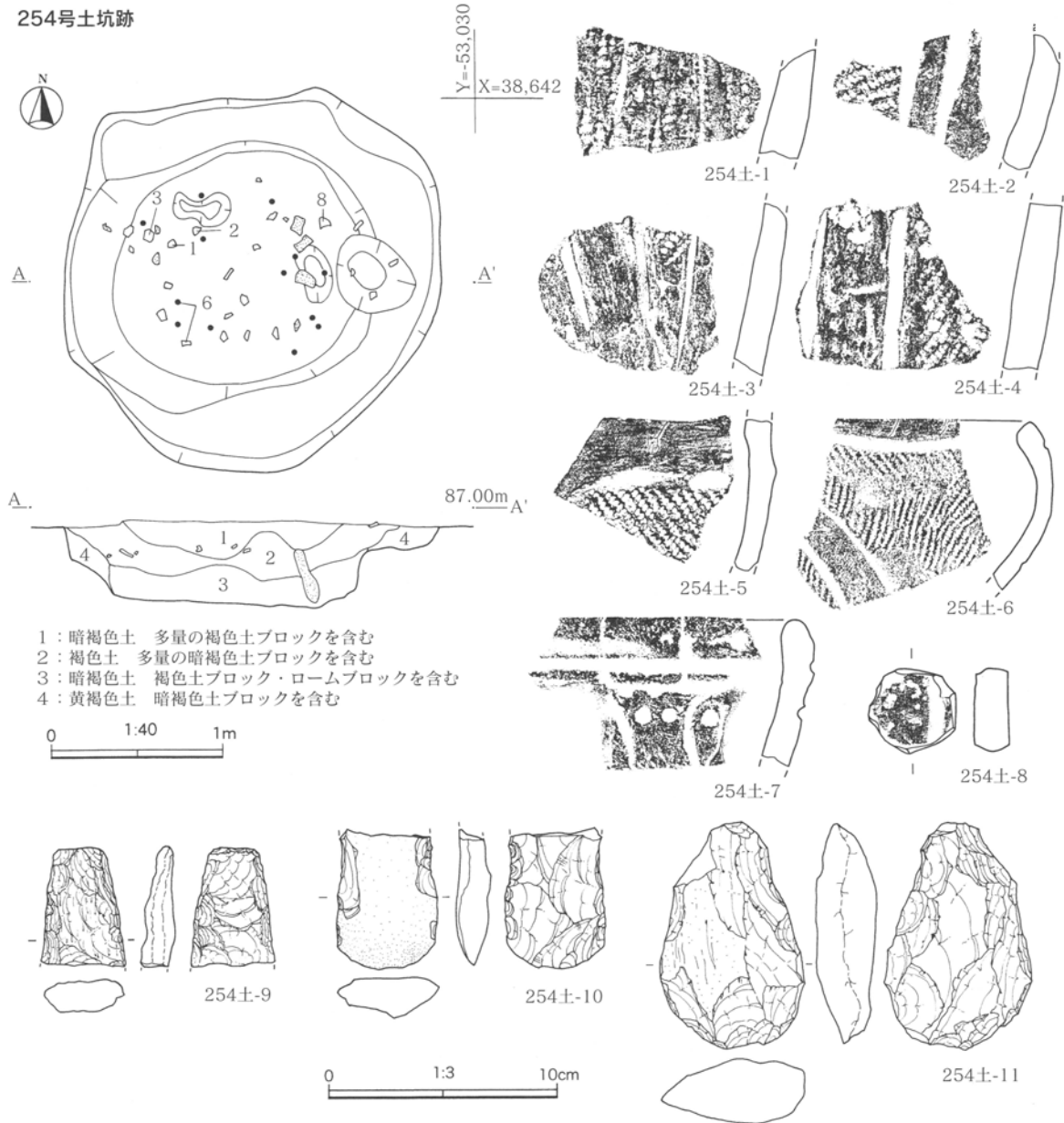


196号土坑跡出土遺物(3)

196号土坑跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
196号土坑跡 1~27	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1=諸磯b 2~22=勝坂 23~27=阿玉台	
196号土坑跡 28~44	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	42~44=加曾利E1 他=中期中葉	

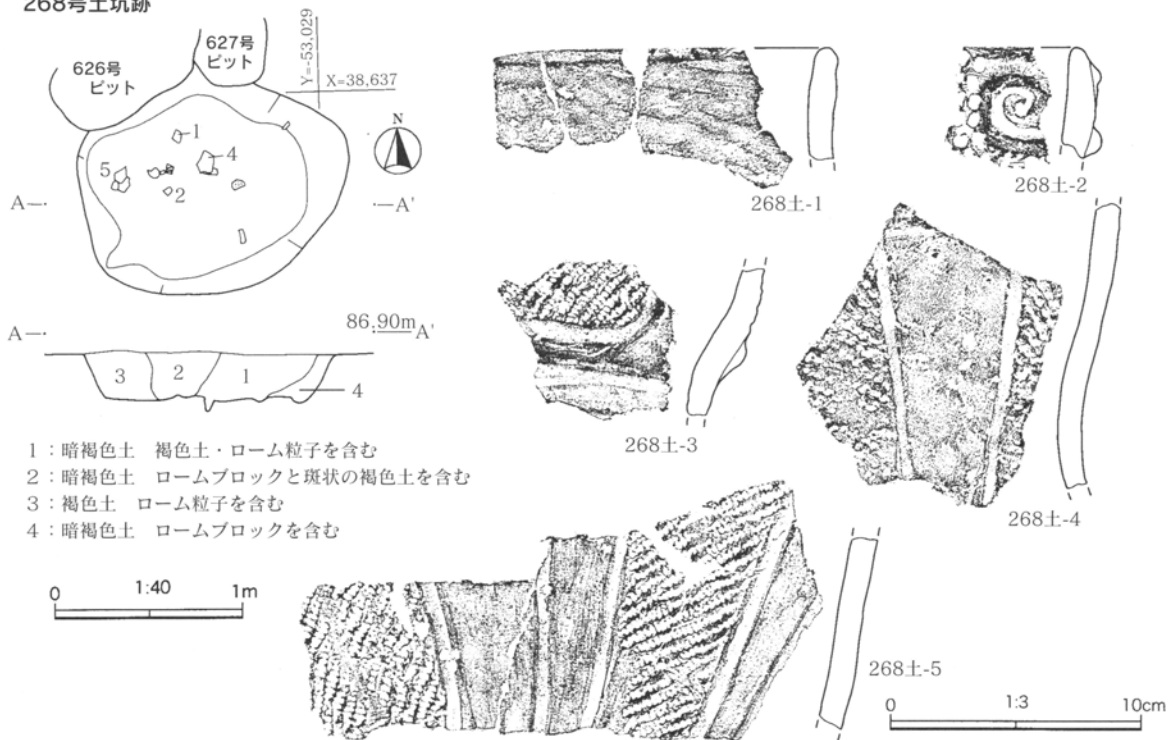
254号土坑跡



254号土坑跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
254号土坑跡 1~8	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1~5=加曾利E3 6,7=加曾利E4 8=土製円盤(中期後半)	
254号土坑跡 9	石器 打製石斧	埋土中 破片	長さ 5.15 巾 3.70 厚さ 1.50	石材=ホルンフェルス 重量=31.74g	下半部欠損。	
254号土坑跡 10	石器 打製石斧	埋土中 破片	長さ 6.00 巾 4.45 厚さ 1.50	石材=細粒輝石安山岩 重量=59.51g	短冊形。	
254号土坑跡 11	石器 打製石斧	埋土中	長さ 9.75 巾 6.25 厚さ 2.65	石材=ホルンフェルス 重量=187.0g	撥形。	

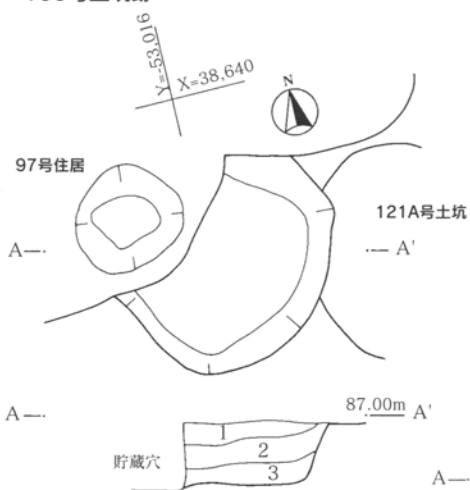
268号土坑跡



268号土坑跡 出土遺物観察表

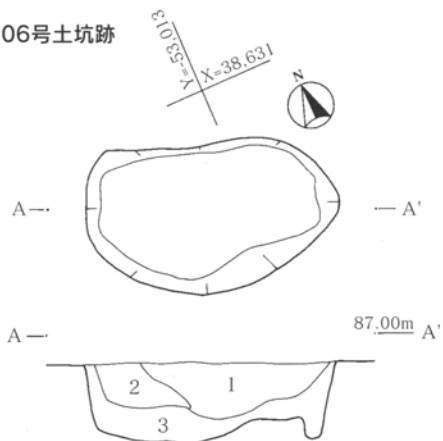
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
268号土坑跡 1~5	縄文土器 深鉢他	床面直上 破片	口径— 底径— 高さ—	①— ②酸化焰 ③—	加曾利E3	

100号土坑跡



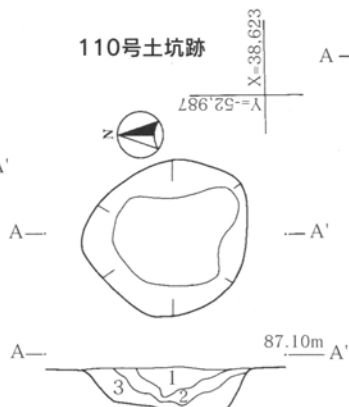
- 1: 明褐色土 多量の焼土粒子と少量のローム粒子を含む  
2: 暗褐色土 微量のローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む  
3: 暗褐色土 少量のローム粒子・ロームブロックと微量の焼土粒子を含む

106号土坑跡

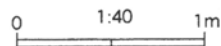


- 1: 黒褐色土  
2: 褐色土 多量の焼土ブロックを含む  
3: 褐色土 ロームブロック・ローム粒子を含む

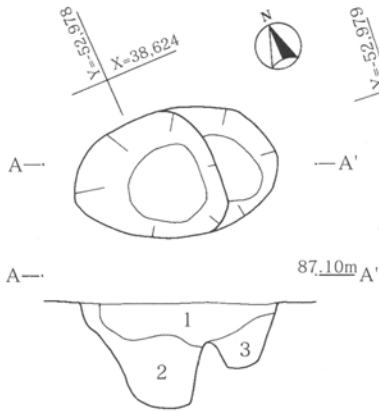
110号土坑跡



- 1: 黒褐色土 ローム粒子と少量の焼土粒子を含む  
2: 褐色土 ローム粒子と少量の焼土粒子を含む  
3: 褐色土 多量のロームブロックを含む

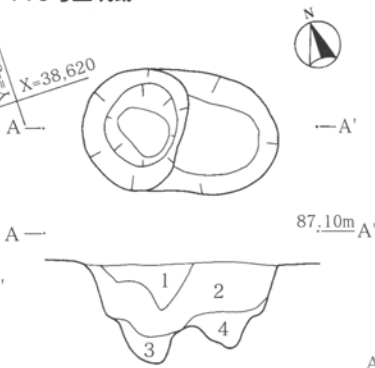


115号土坑跡



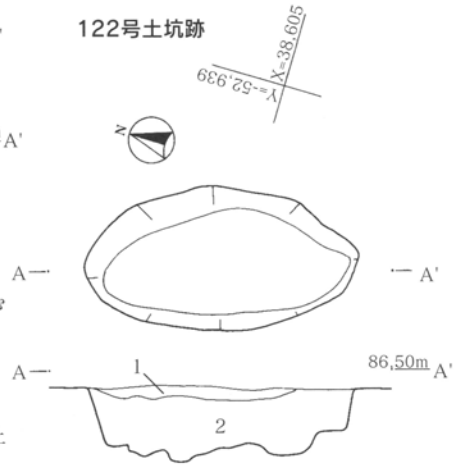
- 1: 暗褐色土 少量のローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を含む
- 2: 黒褐色土 微量のローム粒子を含む
- 3: 褐色土 多量のロームブロックを含む

116号土坑跡



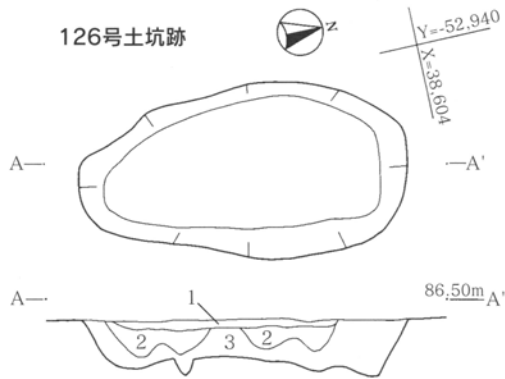
- 1: 黒褐色土 少量のローム粒子を含む
- 2: 黒褐色土 多量のロームブロックを含む
- 3: 暗褐色土 少量のロームブロックを含む
- 4: 黄褐色土 暗褐色土を含むローム土

122号土坑跡



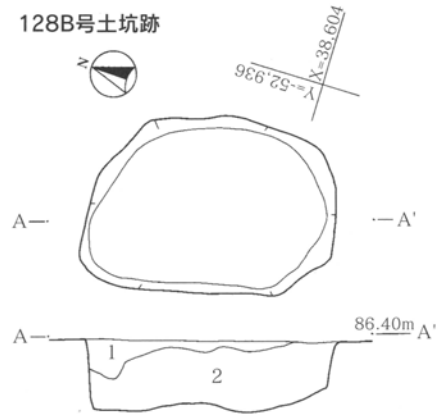
- 1: 黒色砂質土
- 2: 褐色土 多量のローム土を含む

126号土坑跡



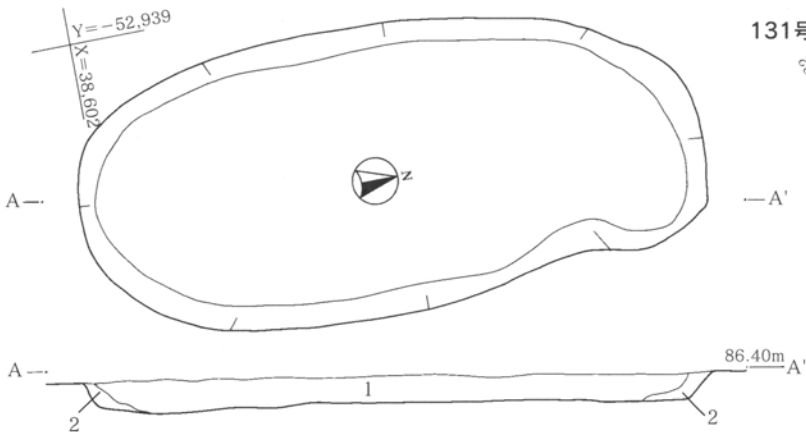
- 1: 黒色砂質土
- 2: 暗褐色土 1層土を含む
- 3: 褐色土 暗褐色土を含むローム土

128B号土坑跡



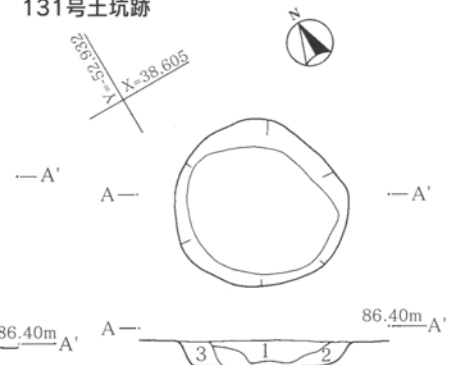
- 1: 黒色土 焼土粒子を含む
- 2: 褐色粘質土 ローム粒子を含む

127号土坑跡

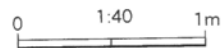


- 1: 黒色土 焼土粒子を含む
- 2: 褐色粘質土 ローム粒子を含む

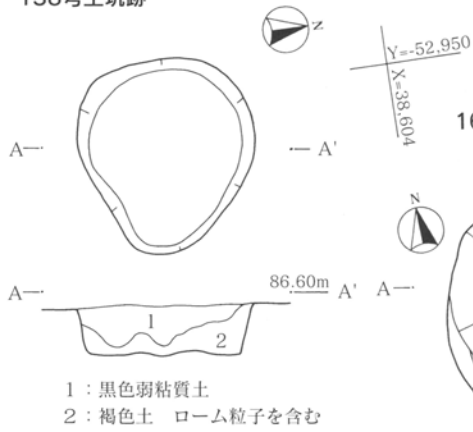
131号土坑跡



- 1: 黒色土 焼土粒子を含む
- 2: 褐色粘質土 ローム粒子を含む
- 3: 黄色弱粘質土 褐色土を含む

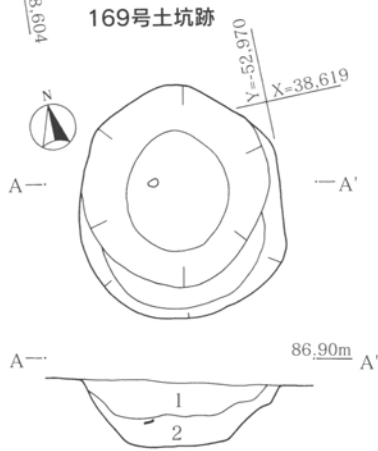


138号土坑跡



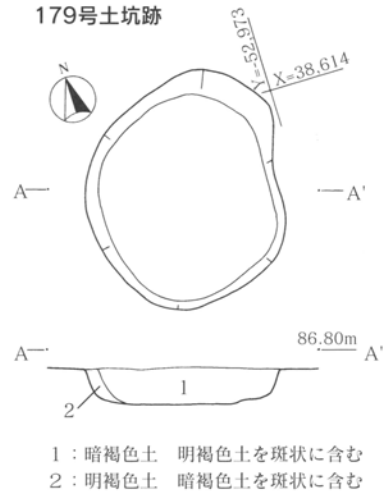
- 1: 黒色弱粘質土
- 2: 褐色土 ローム粒子を含む

169号土坑跡



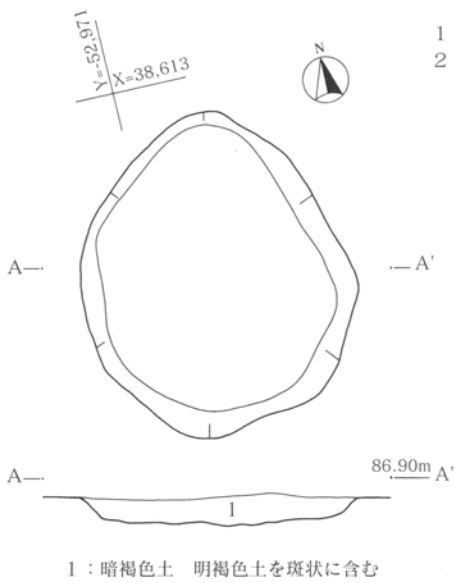
- 1: 暗褐色土 ロームブロックを含む
- 2: 明褐色土 ロームブロックを含む

179号土坑跡



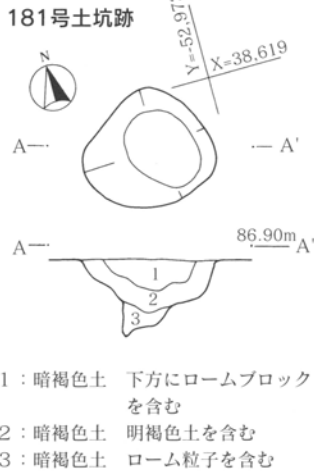
- 1: 暗褐色土 明褐色土を斑状に含む
- 2: 明褐色土 暗褐色土を斑状に含む

180号土坑跡



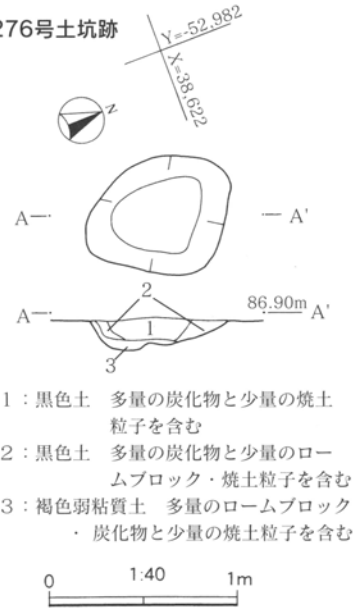
- 1: 暗褐色土 明褐色土を斑状に含む

181号土坑跡

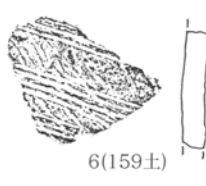
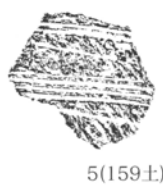
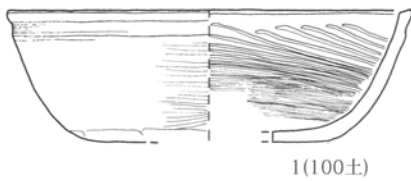
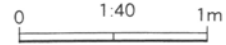


- 1: 暗褐色土 下方にロームブロックを含む
- 2: 暗褐色土 明褐色土を含む
- 3: 暗褐色土 ローム粒子を含む

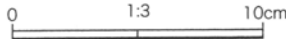
276号土坑跡



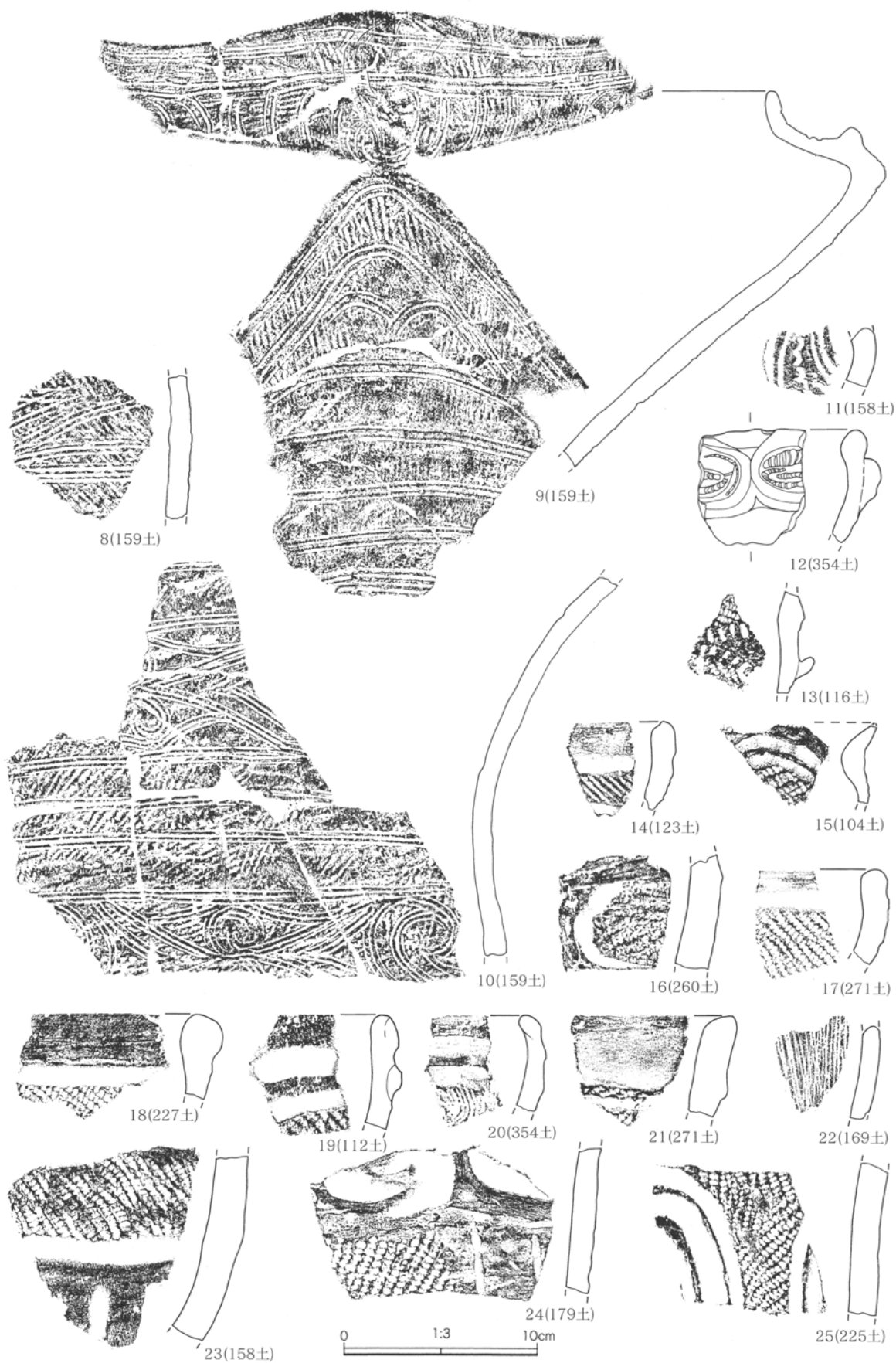
- 1: 黒色土 多量の炭化物と少量の焼土粒子を含む
- 2: 黒色土 多量の炭化物と少量のロームブロック・焼土粒子を含む
- 3: 褐色弱粘質土 多量のロームブロック・炭化物と少量の焼土粒子を含む



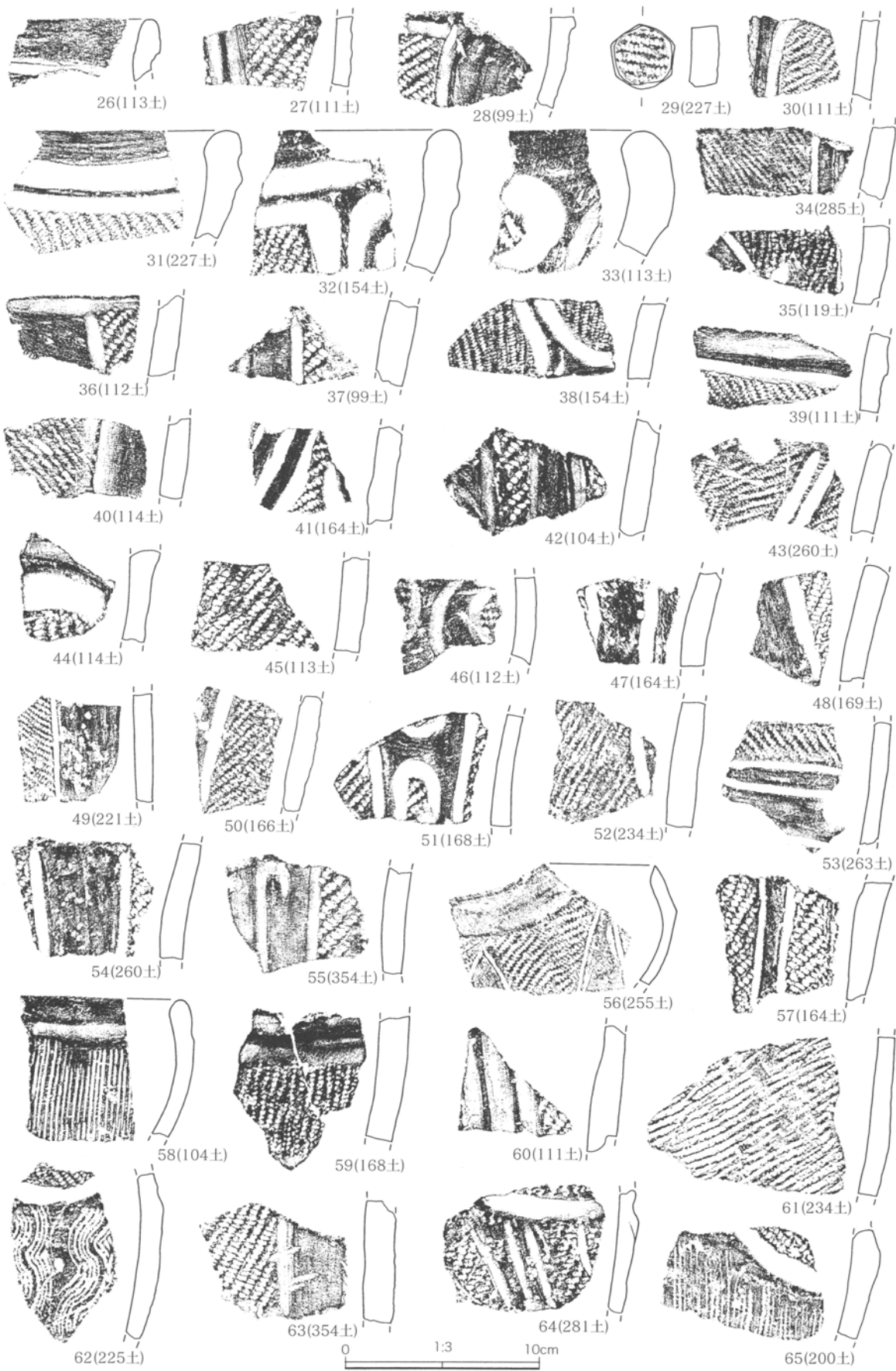
土坑跡出土遺物(1)



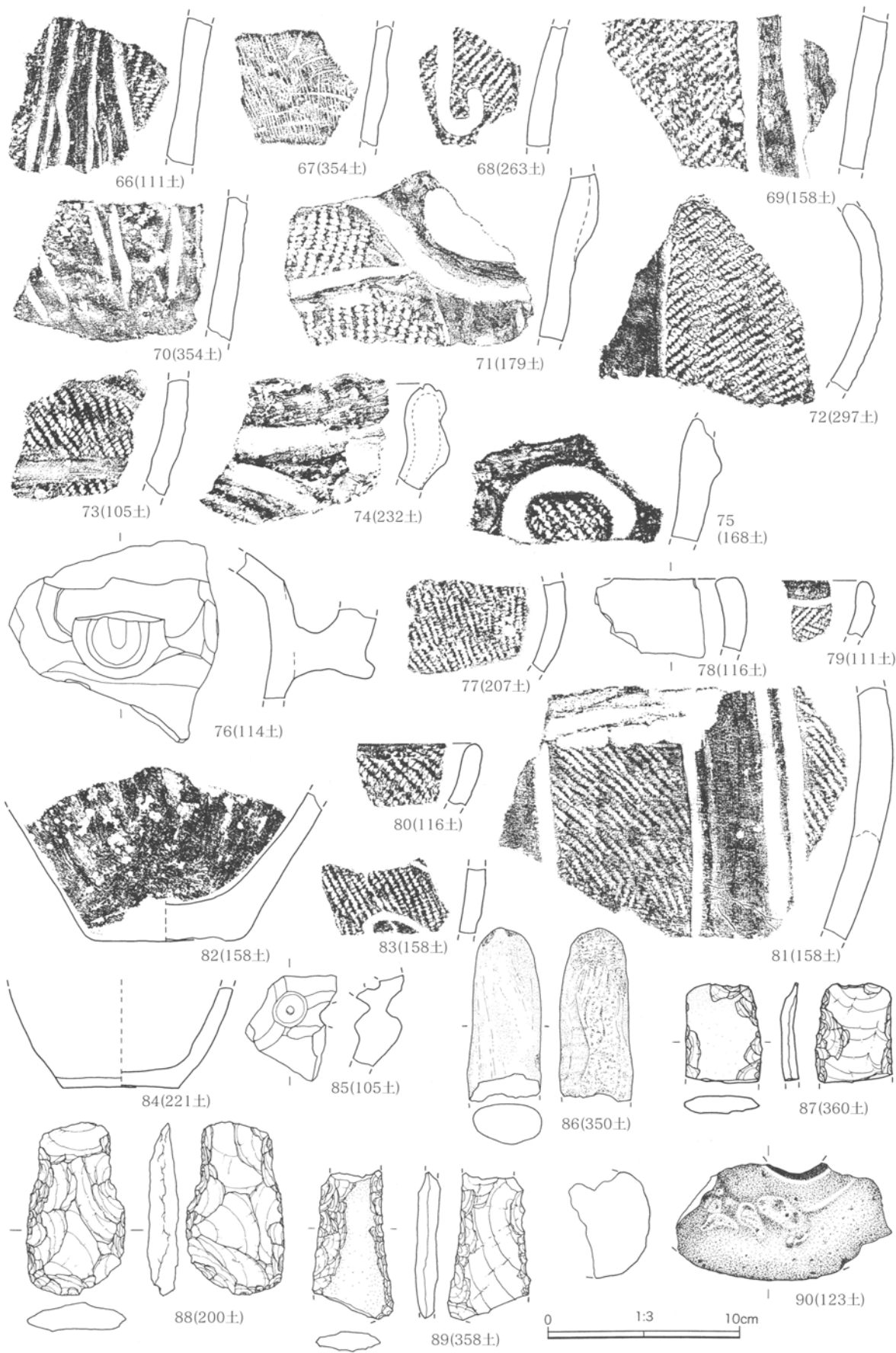




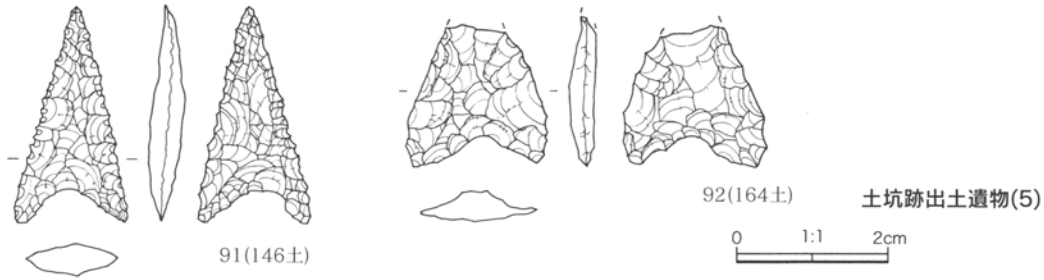
土坑跡出土遺物(2)



土坑跡出土遺物(3)

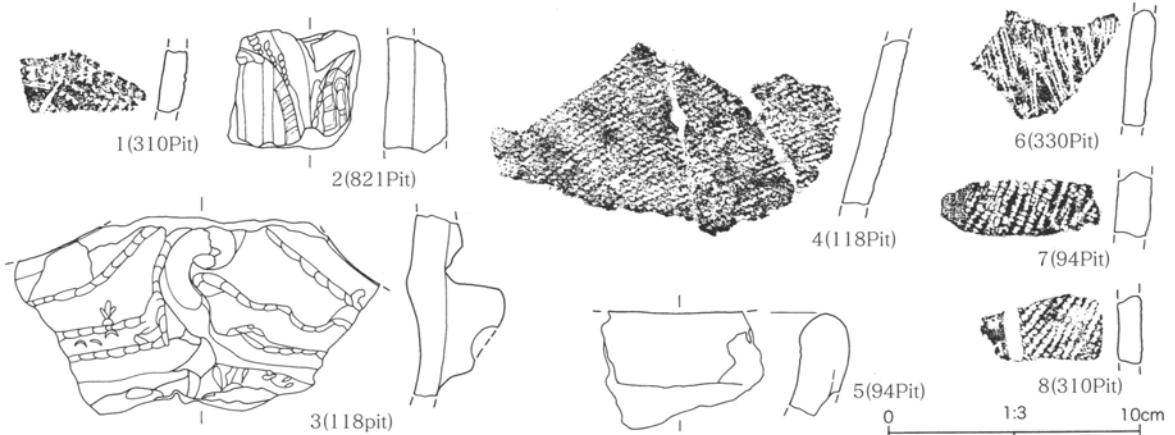


土坑跡出土遺物(4)

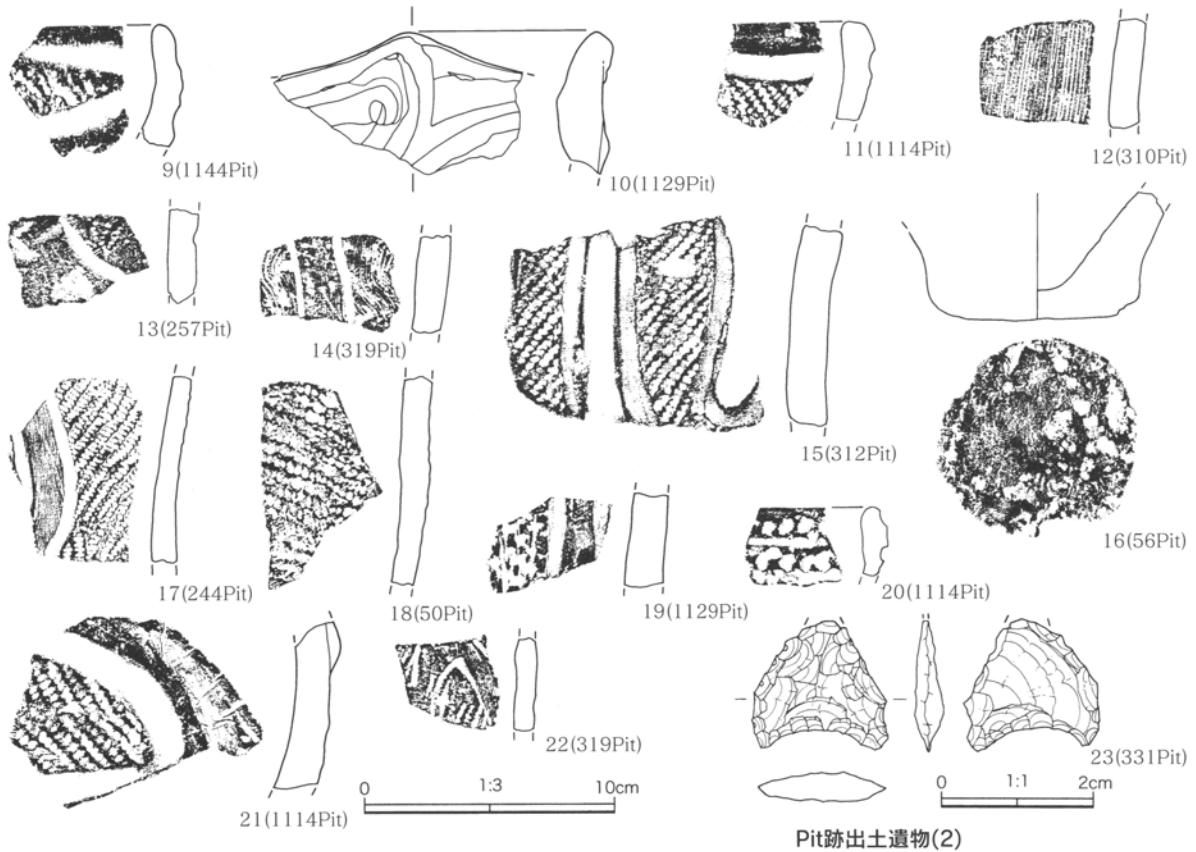


土坑跡 出土遺物観察表

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
土坑跡 1 100号土坑跡	土師器 坏	埋土中 破片	口径 (8.0) 底径 - 高さ 5.2	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 ③褐色 7.5YR4/6	内外面共に丁寧な磨きの後、内面黒色処理。	内黒土器
土坑跡 2~13	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	2=黒浜、3~10=諸磯b 11=勝坂 12,13=阿玉台	
土坑跡 14~83	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	14~76=加曾利E3 77~81=加曾利E4 82,83=中期後半	
土坑跡 86 350号土坑跡	石器 棒状石器	床面+51cm	長さ 8.90 巾 3.80 厚さ 2.20	石材=緑色片岩 重量=117.23g	左側縁部に面的な敲打(研磨)痕有り。	
土坑跡 87 360号土坑跡	石器 打製石斧	埋土中	長さ 5.10 巾 3.90 厚さ 0.95	石材=細粒輝石安山岩 重量=28.94g	短冊形。下半部欠損。	
土坑跡 88 200号土坑跡	石器 打製石斧	埋土中	長さ 9.00 巾 5.15 厚さ 1.65	石材=黒色頁岩 重量=80.45g	短冊形。基部欠損。刃部・側縁部に摩滅・線状痕有り。	
土坑跡 89 358号土坑跡	石器 打製石斧	埋土中	長さ 7.65 巾 4.20 厚さ 1.25	石材=細粒輝石安山岩 重量=43.32g	短冊形。刃部の一部と基部を欠損。側縁部に摩滅有り。	
土坑跡 90 123号土坑跡	石器 凹石	埋土中	長さ 11.1 巾 6.0 厚さ 4.2	石材=粗粒輝石安山岩 重量=277g	一部残存。凹孔付近に摩滅有り。	
土坑跡 91 146号土坑跡	石器 石鏃	埋土中	長さ 2.85 巾 1.50 厚さ 0.50	石材=黒色安山岩 重量=1.00g	無茎凹基。	
土坑跡 92 164号土坑跡	石器 石鏃	埋土中	長さ 1.85 巾 1.85 厚さ 0.35	石材=黒色安山岩 重量=1.06g	無茎凹基。先端部に衝撃剥離痕有り。	

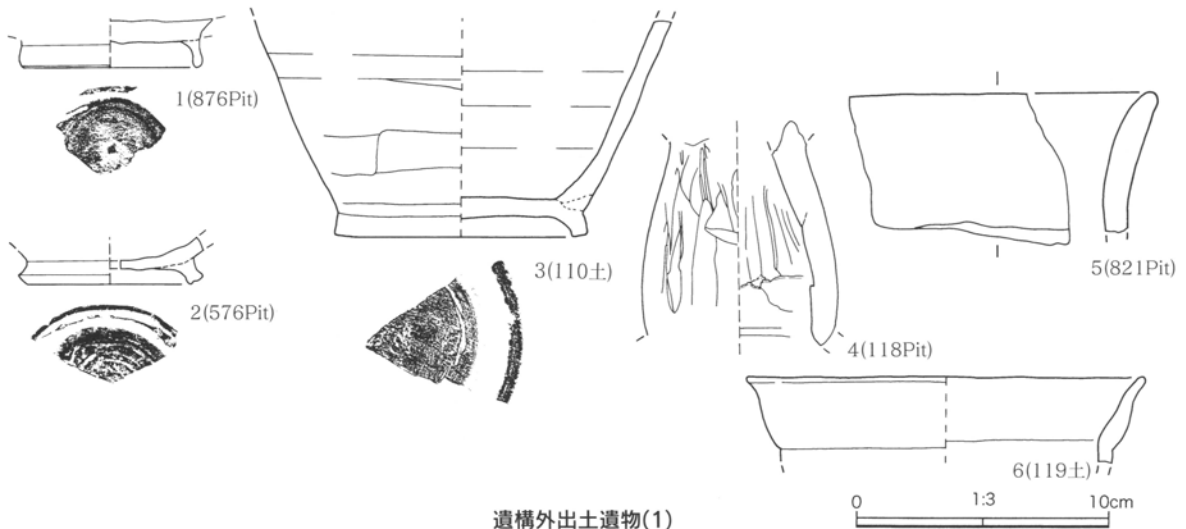


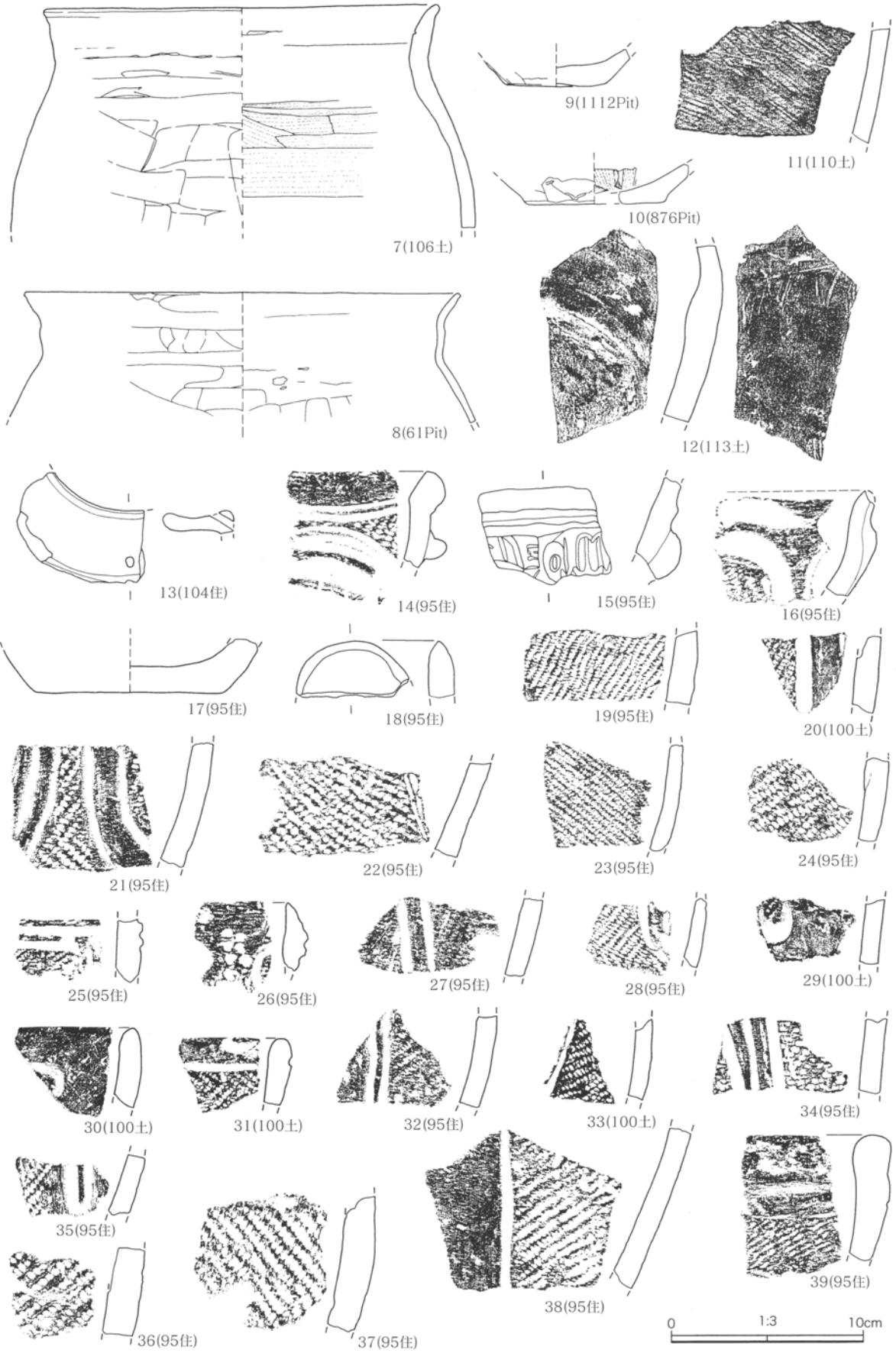
Pit跡出土遺物(1)



Pit跡 出土遺物観察表

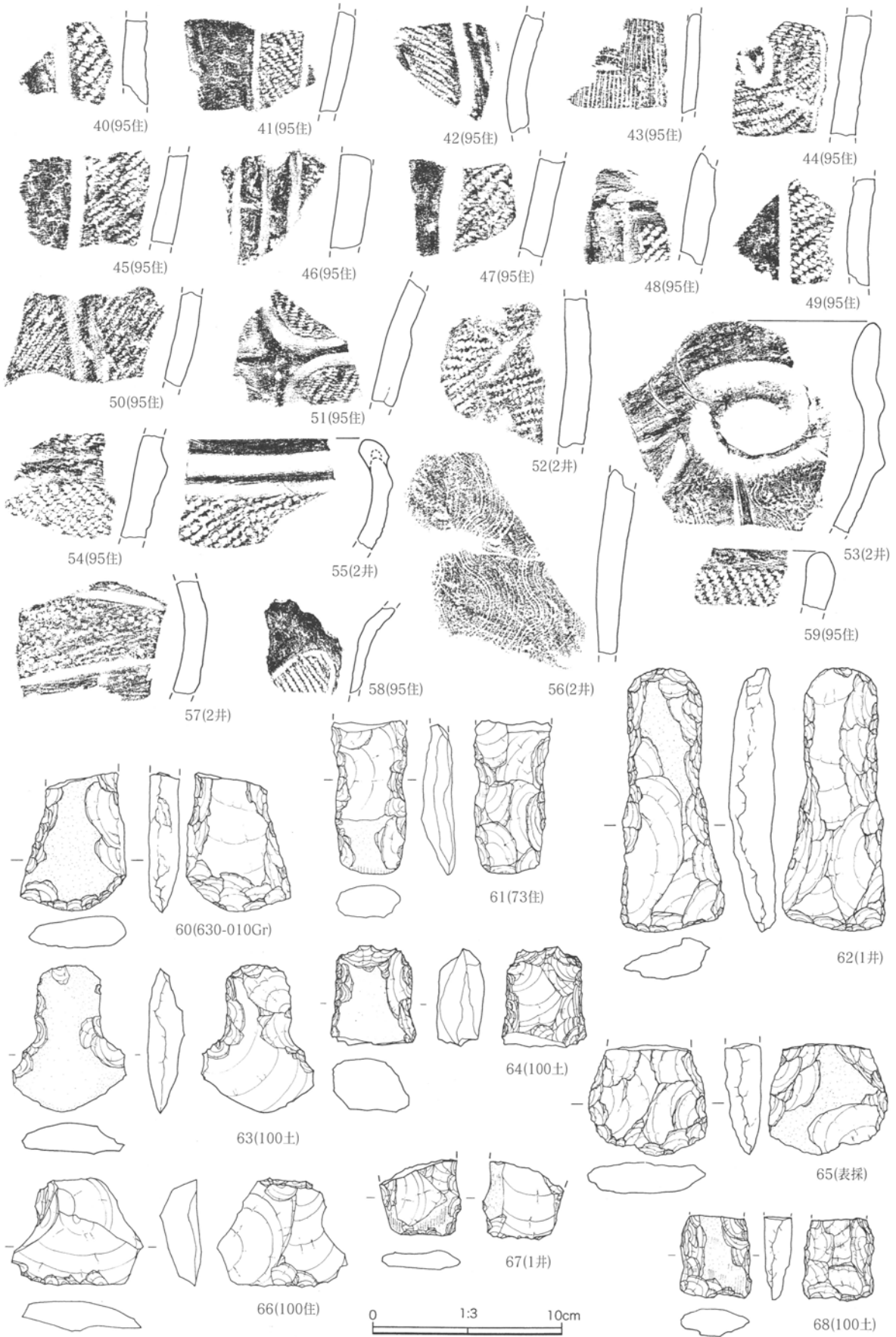
遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
Pit跡 1~4	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	1=前期前半 2,3=阿玉台 4=中期中葉	
Pit跡 5~22	縄文土器 深鉢他	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	5~21=加曾利E3 22=加曾利E4	
Pit跡 23 331号Pit跡	石器 石鏃	埋土中 完形	長さ 1.70 巾 1.80 厚さ 0.40	石材=黒色安山岩 重量=0.98g	無茎凹基。先端部欠損。	



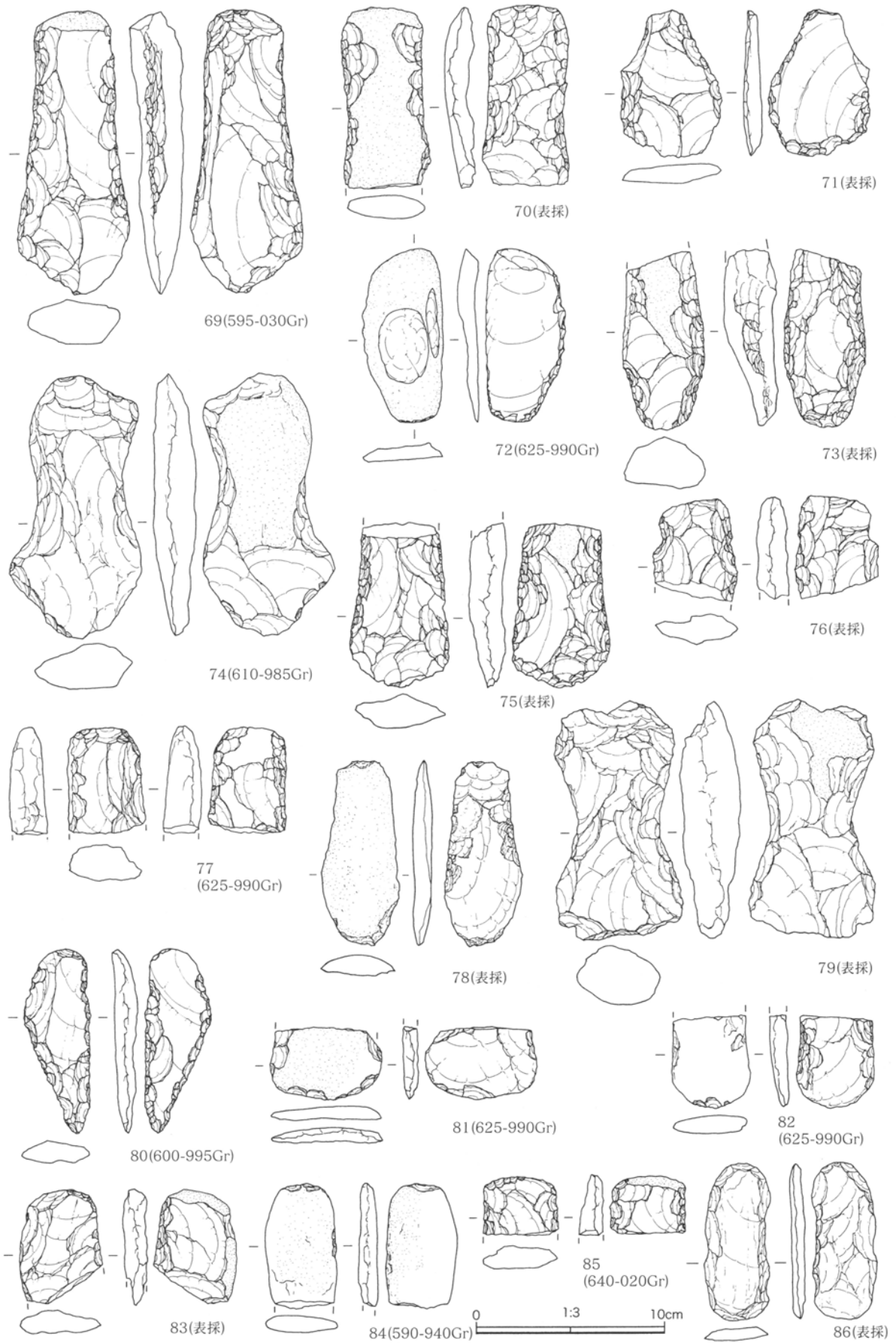


遺構外出土遺物(2)



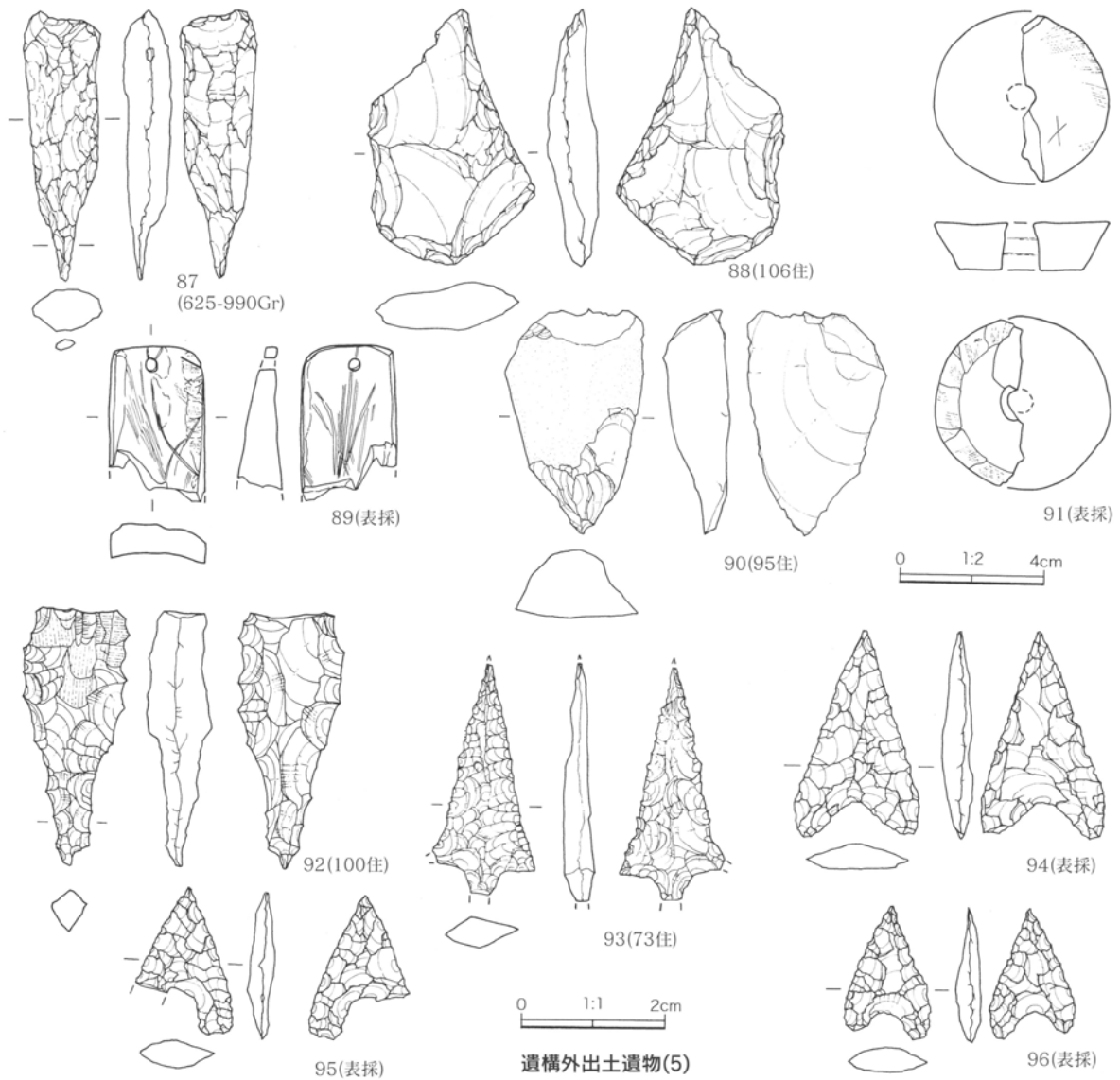


遺構外出土遺物(3)



遺構外出土遺物(4)





遺構外出土遺物観察表1

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
遺構外 1 876号Pit	須恵器 皿	埋土中 破片 底部	口径 - 底径 (7.1) 高さ (1.8)	①微・細・粗砂少 ②還元焰 良好 ③灰白色 7.5Y7/1	ロクロ成・整形。高台部削り出し。	
遺構外 2 576号Pit	須恵器 椀	埋土中 破片 底部	口径 - 底径 (7.4) 高さ (1.7)	①微・細・粗砂やや多 ②還元焰 良好 ③灰色 7.5Y6/1	ロクロ成・整形。高台部貼付け。	
遺構外 3 110号土坑	須恵器 壺	埋土中 破片 胴～底部	口径 - 底径 (10.0) 高さ (8.5)	①微・細・粗砂やや多 ②還元焰 良好 ③暗灰黄色 2.5Y5/2	ロクロ成・整形。高台部削り出し。	
遺構外 4 118号Pit	土師器 高坏	埋土中 破片 脚部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂やや多 ②酸化焰 良好 ③橙色 5YR6/6	外面＝丁寧なナデの後に粗いヘラ磨き。 内面＝棒状工具による整形。	
遺構外 5 821号Pit	土師器 壺	埋土中 破片 口縁部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③橙色 7.5YR7/6	内外面共に横方向のヘラ削り後にナデ、 横方向のヘラ磨き。	
遺構外 6 119号土坑	土師器 壺	埋土中 破片 口縁部	口径 (15.6) 底径 - 高さ (3.3)	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③明褐色 7.5YR5/6	口縁部は緩やかなS字状を呈し、内外面 共に丁寧なナデの後ヘラ磨き。	

遺構外出土遺物観察表2

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
遺構外 7 106号土坑	土師器 甕	埋土中 破片 口縁～胴部	口径 (20.4) 底径 - 高さ (11.5)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR7/3	外面=口縁部指頭圧痕凹みを残し横ナデ、胴部横方向のヘラ削り。 内面=口縁部横ナデ、胴部刷毛目整形。	
遺構外 8 61号Pit	土師器 甕	埋土中 破片 口縁～胴部	口径 (22.4) 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 良好 ③橙色 5YR6/6	外面=口縁部横ナデ、胴部横方向のヘラ削り。 内面=口縁部～胴部上位横ナデ。	
遺構外 9 1112号Pit	土師器 甕	埋土中 破片 底部	口径 - 底径 (5.0) 高さ (1.8)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③橙色 7.5YR6/6	外面=胴部下端～底部ヘラナデ。 内面=ナデ。	
遺構外 10 876号Pit	土師器 甕	埋土中 破片 底部	口径 - 底径 (6.6) 高さ (1.9)	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 良好 ③にぶい橙色 7.5YR7/4	外面=胴部下端～底部ヘラ削り。 内面=刷毛目調整。	
遺構外 11 110号土坑	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②還元焰 良好 ③灰オリーブ色 5Y6/2	外面=叩きの条痕。 内面=あて具痕を残さずナデ。	
遺構外 12 113号土坑	須恵器 甕	埋土中 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②還元焰 良好 ③灰色 7.5Y4/1	器内の厚さ不均質。 外面=ナデ。 内面=横ナデ。	
遺構外 13 104号住居	縄文土器 深鉢	竈埋土 破片 口縁部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂少 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色10YR6/4	諸磯b	
遺構外 14 95号住居	縄文土器 深鉢	竈埋土 破片 口縁部	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 ③褐色 10YR4/6	阿玉台	
遺構外 15 95号住居	縄文土器 深鉢	竈埋土 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①微・細・粗砂多 ②酸化焰 ③橙色 5YR6/6	勝坂	
遺構外 16～57	縄文土器 深鉢	埋土 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	加曾利E3	
遺構外 58・59 95号住居	縄文土器 深鉢	埋土 破片	口径 - 底径 - 高さ -	①- ②酸化焰 ③-	加曾利E4	
遺構外 60 630-010Gr.	石器 打製石斧	表土 上欠	長さ 7.15 巾 5.50 厚さ 1.65	石材=細粒輝石安山岩 重量=80.11g	撥形。上部欠損。刃部・側縁部に摩滅・線状痕あり。	
遺構外 61 73号住居	石器 打製石斧	埋土中 上欠	長さ 8.00 巾 4.00 厚さ 1.70	石材=珪質頁岩 重量=76.73g	短冊形。基部欠損。刃部に摩滅有り。	
遺構外 62 1号井戸	石器 打製石斧	埋土中 完形	長さ 13.65 巾 5.40 厚さ 2.45	石材=ホルンフェルス 重量=183.0g	短冊形。刃部・側縁部に一部摩滅有り。	
遺構外 63 100号土坑	石器 打製石斧	埋土中 完形	長さ 7.65 巾 5.80 厚さ 2.00	石材=黒色頁岩 重量=65.44g	撥形。素材剥片の末端をそのまま刃部に用いる。側縁部に一部摩滅有り。	
遺構外 64 100号土坑	石器 打製石斧	埋土中 下欠	長さ 5.25 巾 4.40 厚さ 2.45	石材=黒色頁岩 重量=80.18g	短冊形。胴部・刃部欠損。	
遺構外 65 表採	石器 打製石斧	表採 上欠	長さ 5.70 巾 6.15 厚さ 1.85	石材=細粒輝石安山岩 重量=77.57g	分銅形。上半部欠損。	
遺構外 66 100号住居	石器 削器	埋土中 完形	長さ 5.5 巾 6.8 厚さ 2.1	石材=黒色頁岩 重量=57.78g	素材剥片腹面側の末端に刃部が作り出される。	
遺構外 67 1号井戸	石器 打製石斧	埋土中 上欠	長さ 3.95 巾 4.20 厚さ 0.95	石材=黒色頁岩 重量=21.14g	短冊形。基部・胴部欠損。刃部・側縁部に摩滅・線状痕有り。刃部に摩滅面を切る剥離面有り。	

遺構外出土遺物観察表3

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成形技法等の特徴	備考
遺構外 68 100号土坑	石器 打製石斧	埋土中 上欠	長さ 4.20 巾 3.65 厚さ 1.45	石材=黒色頁岩 重量=33.28g	短冊形。上半部欠損。刃部に摩滅・線状痕有り。	
遺構外 69 595-030Gr.	石器 打製石斧	表採 完形	長さ 14.85 巾 5.95 厚さ 2.80	石材=黒色頁岩 重量=235.0g	短冊形。刃部・胴部に摩滅・線状痕有り。	
遺構外 70 表採	石器 打製石斧	表採	長さ 9.45 巾 4.65 厚さ 1.55	石材=細粒輝石安山岩 重量=83.56g	短冊形。刃部欠損。	
遺構外 71 表採	石器 打製石斧	表採 完形	長さ 7.65 巾 5.40 厚さ 0.95	石材=珪質頁岩 重量=42.73g	撥形。横長剥片を素材とする。	
遺構外 72 625-990Gr.	石器 削器	表採 完形	長さ 9.05 巾 4.25 厚さ 1.10	石材=黒色頁岩 重量=44.92g	素材剥片の一侧縁部に刃部を作り出す。	
遺構外 73 表採	石器 打製石斧	表採 上欠	長さ 9.30 巾 4.30 厚さ 2.80	石材=珪質頁岩 重量=132.0g	短冊形。基部欠損。刃部に一部摩滅有り。	
遺構外 74 610-985Gr.	石器 打製石斧	表採 完形	長さ 13.75 巾 6.90 厚さ 2.25	石材=ホルンフェルス 重量=226.0g	分銅形。	
遺構外 75 表採	石器 打製石斧	表採 上欠	長さ 8.60 巾 5.10 厚さ 1.95	石材=黒色頁岩 重量=101.77g	短冊形。基部欠損。	
遺構外 76 表採	石器 打製石斧	表採 下欠	長さ 5.40 巾 4.45 厚さ 1.65	石材=黒色頁岩 重量=46.27g	短冊形。胴部・刃部欠損。	
遺構外 77 625-990Gr.	石器 打製石斧	表採 下欠	長さ 5.65 巾 4.10 厚さ 2.05	石材=細粒輝石安山岩 重量=66.73g	短冊形。下半部欠損。	
遺構外 78 表採	石器 打製石斧	表採	長さ 9.70 巾 4.10 厚さ 1.00	石材=ホルンフェルス 重量=55.67g	短冊形。	
遺構外 79 表採	石器 打製石斧	表採 完形	長さ 12.45 巾 6.75 厚さ 3.20	石材=ホルンフェルス 重量=275.0g	分銅形。	
遺構外 80 600-995Gr.	石器 石錐	表採	長さ 9.55 巾 3.50 厚さ 1.40	石材=黒色頁岩 重量=41.03g		
遺構外 81 625-990Gr.	石器 打製石斧	表採 上欠	長さ 3.80 巾 5.85 厚さ 0.80	石材=ホルンフェルス 重量=26.18g	短冊形。基部・胴部欠損。刃部・側縁部に摩滅有り。	
遺構外 82 625-990Gr.	石器 打製石斧	表採 上欠	長さ 4.90 巾 4.20 厚さ 1.05	石材=細粒輝石安山岩 重量=26.98g	短冊形。上半部欠損。刃部・胴部・側縁部に摩滅・線状痕有り。	
遺構外 83 表採	石器 打製石斧	表採 下欠	長さ 6.00 巾 4.40 厚さ 1.30	石材=ホルンフェルス 重量=38.85g	短冊形。下半部欠損。	
遺構外 84 590-940Gr.	石器 棒状石器	表採 下欠	長さ 6.50 巾 3.58 厚さ 1.00	石材=緑色片岩 重量=37.49g	一侧縁部に不連続な微細剥離痕有り。	
遺構外 85 640-020Gr.	石器 打製石斧	表採 下欠	長さ 3.10 巾 3.95 厚さ 1.30	石材=細粒輝石安山岩 重量=22.94g	短冊形。胴部・刃部欠損。	
遺構外 86 表採	石器 打製石斧	表採 完形	長さ 8.20 巾 3.45 厚さ 0.80	石材=ホルンフェルス 重量=29.04g	短冊形。	

遺構外出土遺物観察表4

遺構名 遺物番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・成整形技法等の特徴	備考
遺構外 87 625-990Gr.	石器 石錐	表採 完形	長さ 7.50 巾 2.15 厚さ 1.35	石材=ホルンフェルス 重量=21.34g		
遺構外 88 106号住居	石器 打製石斧	埋土中	長さ 7.10 巾 4.65 厚さ 1.40	石材=珪質頁岩 重量=36.86g		
遺構外 89 表採	石製品 砥石	表採 下欠	長さ 4.30 巾 2.70 厚さ 1.15	石材=頁岩 重量=13.18g	提げ砥。 孔径0.3cm。	
遺構外 90 95号住居	石器 剥片	埋土中	長さ 6.20 巾 3.90 厚さ 1.85	石材=黒色頁岩 重量=43.0g		
遺構外 91 表採	石製品 紡錘車	表採 1/2	上径 4.80 下径 3.40 厚さ 1.30	石材=蛇紋岩 重量=22.56g	孔径=0.70~1.00cm、上下両方より穿孔	
遺構外 92 100号住居	石器 石錐	埋土中 完形	長さ 3.60 巾 1.40 厚さ 0.90	石材=チャート 重量=4.50g	錐部先端に摩滅・線状痕(錐部側縁に直交方向)有り。	
遺構外 93 73号住居	石器 石鏃	竈埋土 略完形	長さ 3.20 巾 1.40 厚さ 0.45	石材=黒色頁岩 重量=1.12g	有茎。側縁部は鋸歯状に加工。	
遺構外 94 表採	石器 石鏃	表採 完形	長さ 2.90 巾 1.70 厚さ 0.40	石材=チャート 重量=1.38g	無茎凹基。	
遺構外 95 表採	石器 石鏃	表採	長さ 2.00 巾 1.35 厚さ 0.35	石材=チャート 重量=0.63g	無茎凹基。片側脚部欠損。	
遺構外 96 表採	石器 石鏃	表採 完形	長さ 1.85 巾 1.20 厚さ 0.35	石材=黒曜石 重量=0.53g	無茎凹基。	

# 写真図版





塚下遺跡全景（上空より）



塚下遺跡全景（上空より）



塚下遺跡全景（上空より）



塚下遺跡全景（南上空より）

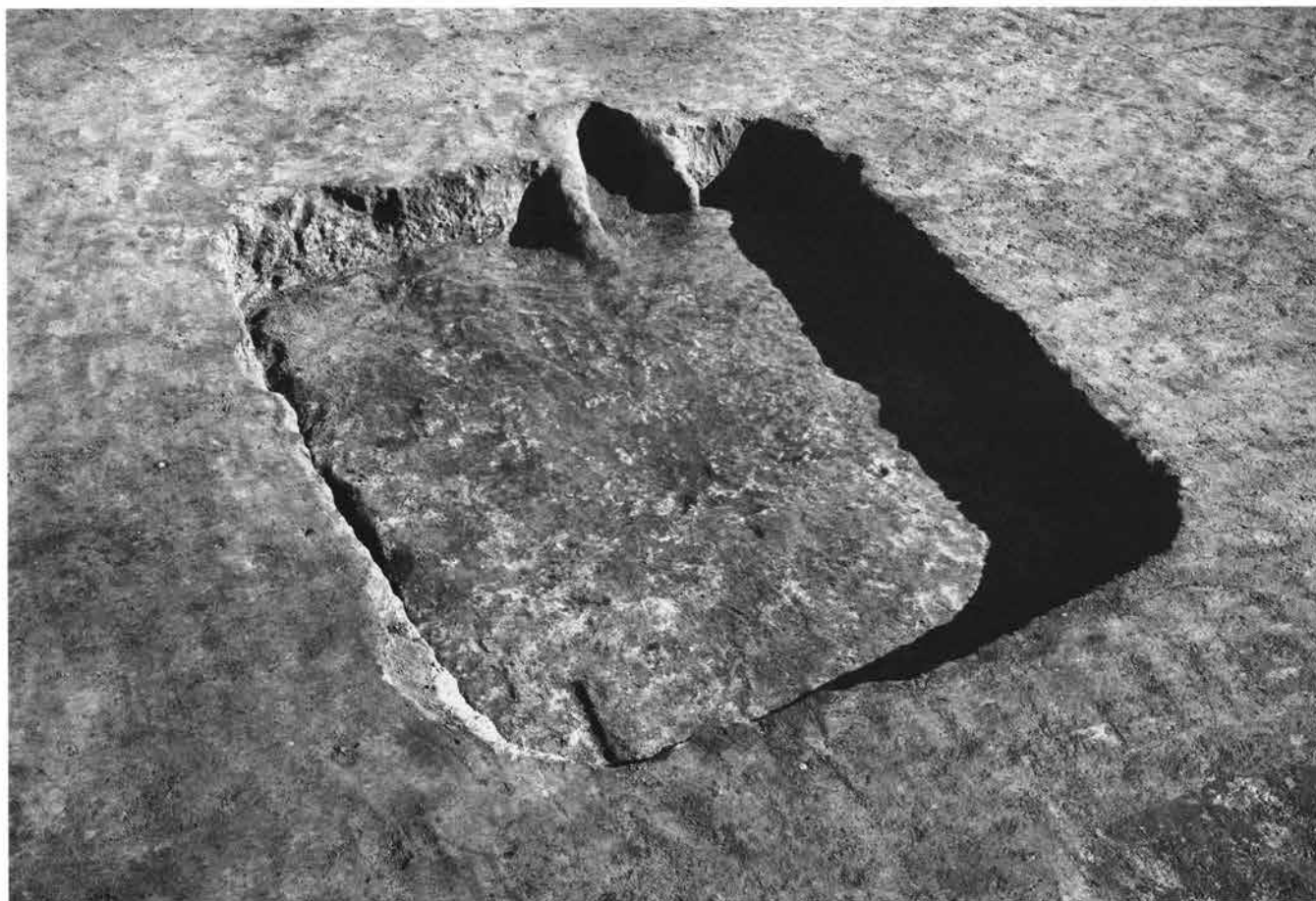




調査区各区遠景



塚下遺跡全景（上空より）



73号住居跡 全 景 (西より)



73号住居跡 遺物出土状態 (西より)



73号住居跡 竈跡全景 (西より)



73号住居跡 掘り方全景 (西より)



73号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)





95号住居跡 全 景 (西より)



95号住居跡 遺物出土状態 (西より)



95号住居跡 竈跡遺物出土状態 (西より)



95号住居跡 掘り方全景 (西より)



95号住居跡 竈跡全景 (西より)



95号住居跡 貯蔵穴遺物出土状態 (西より)



95号住居跡 竈跡掘り方断面 (西より)



95号住居跡 貯蔵穴全景 (西より)



96号住居跡 掘り方全景 (西より)



96号住居跡 全 景 (西より)



97号住居跡 遺物出土状態 (西より)



97号住居跡 全景 (西より)



97号住居跡 遺物出土状態 (西より)



97号住居跡 貯蔵穴全景



97号住居跡 竈跡粘土出土状態 (西より)



97号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)



97号住居跡 竈跡全景 (西より)



97号住居跡 掘り方全景 (西より)

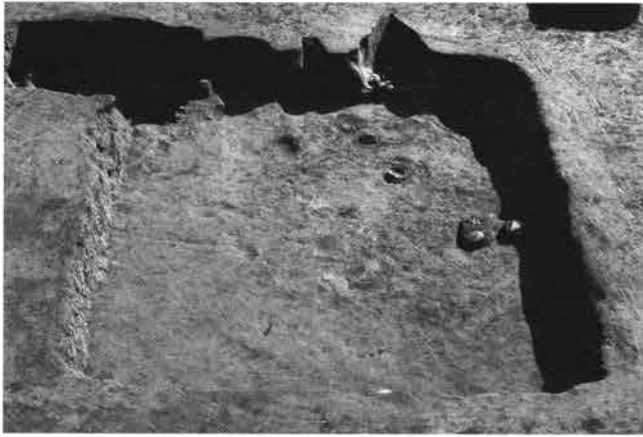




97号住居跡 全 景 (西より)



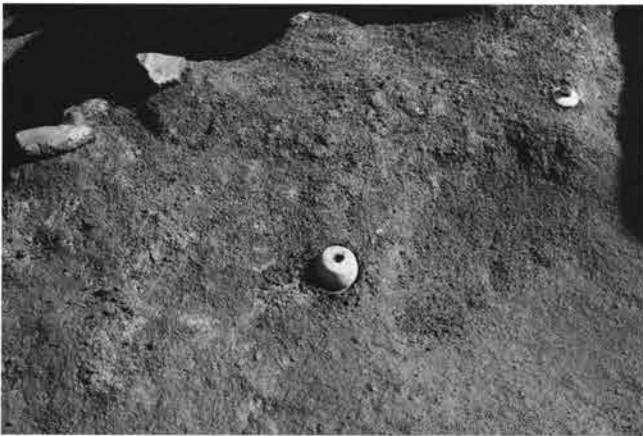
98号住居跡 全 景 (西より)



98号住居跡 遺物出土状態 (西より)



98号住居跡 遺物出土状態



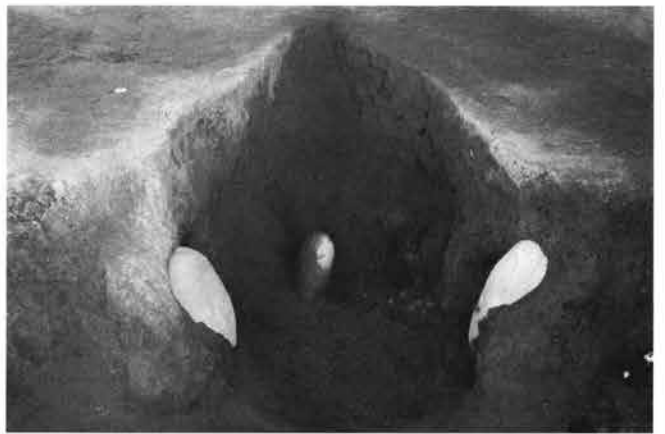
98号住居跡 遺物出土状態



98号住居跡 遺物出土状態



98号住居跡 竈跡遺物出土状態 (西より)



98号住居跡 竈跡全景 (西より)



98号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)



98号住居跡 掘り方全景 (西より)





100号住居跡 遺物出土状態 (西より)



100号住居跡 竈跡周辺遺物出土状態 (西より)



100号住居跡 全景 (西より)



100号住居跡 竈跡遺物出土状態 (西より)



100号住居跡 貯蔵穴全景



100号住居跡 竈跡全景 (西より)



100号住居跡 掘り方全景 (西より)



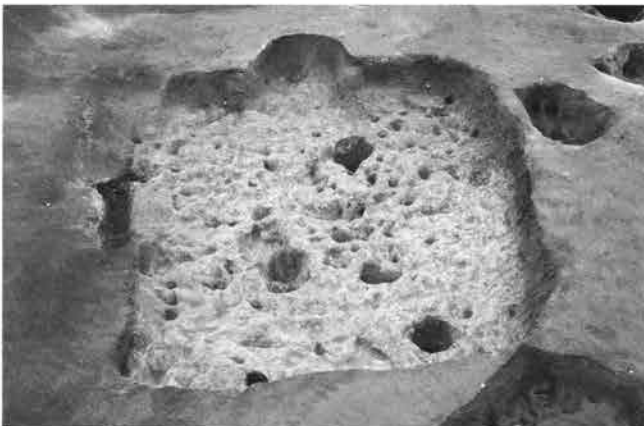
100号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)



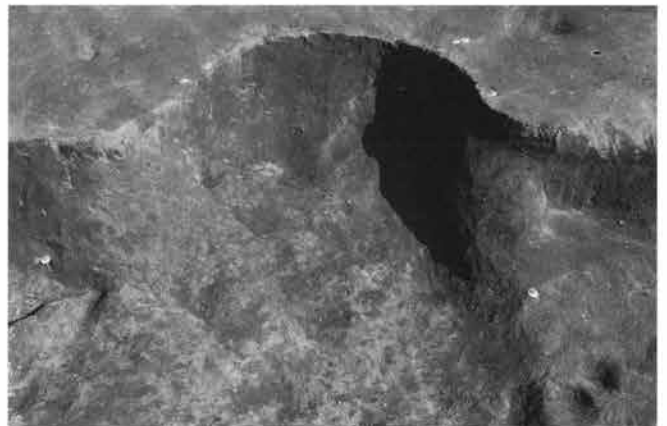
102号住居跡 遺物出土状態 (西より)



102号住居跡 竈跡全景 (西より)



102号住居跡 掘り方全景 (西より)



102号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)



103号住居跡 全景 (西より)



103号住居跡 遺物出土状態 (西より)



103号住居跡 掘り方全景 (西より)



104号住居跡 遺物出土状態 (西より)



104号住居跡 竈跡遺物出土状態 (西より)



104号住居跡 掘り方全景 (西より)



104号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)



106号住居跡 遺物出土状態 (西より)



106号住居跡 竈跡遺物出土状態 (西より)

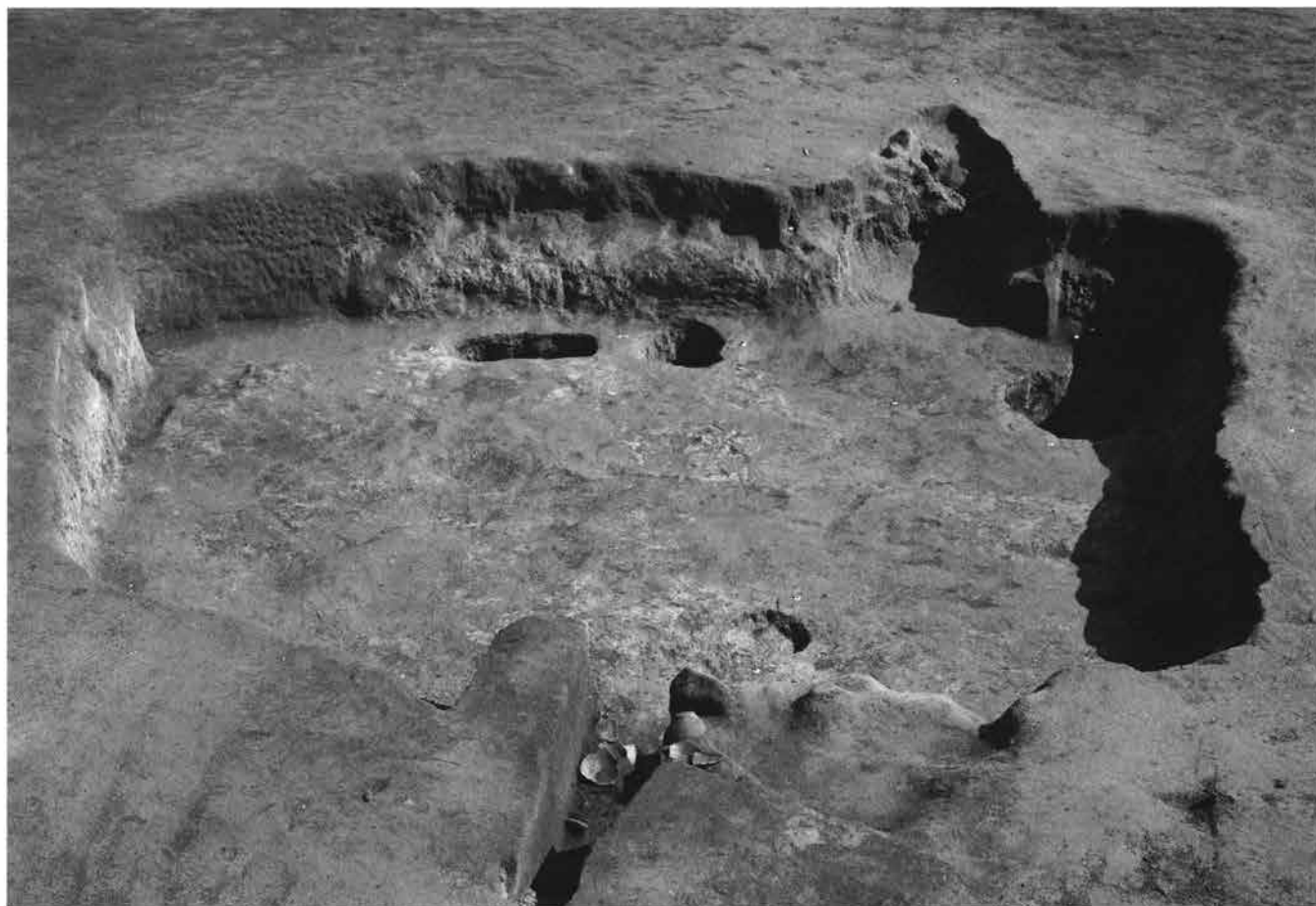


106号住居跡 屋内土坑1



106号住居跡 屋内土坑2





106号住居跡 全 景 (西より)



106号住居跡 貯蔵穴遺物出土状態



106号住居跡 竈跡遺物出土状態



106号住居跡 掘り方全景 (西より)



106号住居跡 竈跡全景 (西より)



107号住居跡 遺物出土状態（北より）



107号住居跡 遺物出土状態近景（北より）



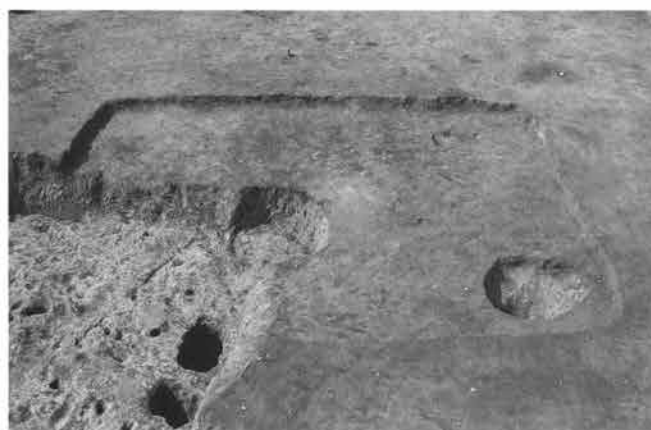
107号住居跡 遺物出土状態近景



107号住居跡 屋内土坑遺物出土状態



107号住居跡 炉跡全景（北西より）



107号住居跡 全景（南より）



107号住居跡 炉跡断割り



107号住居跡 掘り方全景（北より）



109号住居跡 埋土断面 (南より)



109号住居跡 埋土断面 (西より)



109号住居跡 屋内土坑遺物出土状態 (南より)



109号住居跡 竈跡掘り方全景 (西より)



109号住居跡 掘り方全景 (西より)





111号住居跡 全 景 (南より)



111号住居跡 炉跡埋甕 (南より)



111号住居跡 遺物出土状態 (南より)



111号住居跡 炉跡埋甕掘り方 (北より)



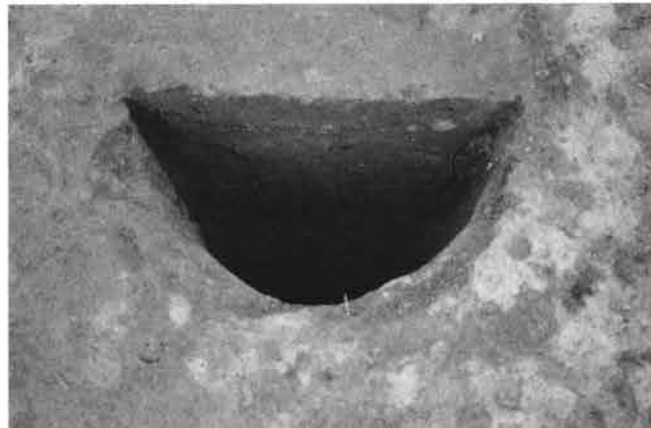
111号住居跡 掘り方全景 (南より)



112号住居跡 遺物出土状態 (南より)



112号住居跡 炉跡断割り (南より)



112号住居跡 柱穴E埋土断面



112号住居跡 柱穴F埋土断面

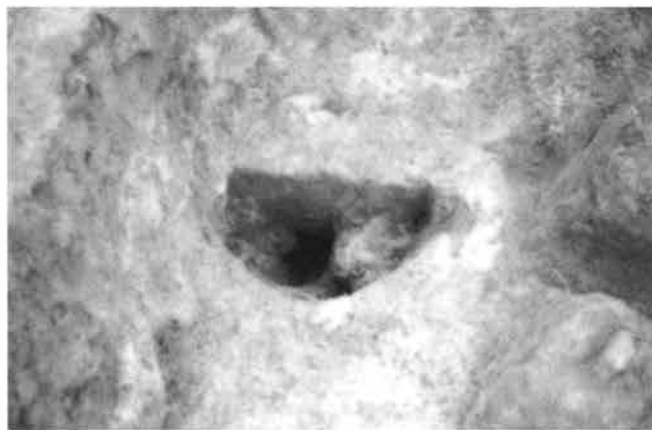


112号住居跡 柱穴G埋土断面





112号住居跡 壁際支柱穴H



112号住居跡 壁際支柱穴L



112号住居跡 壁際支柱穴I



112号住居跡 壁際支柱穴M



112号住居跡 壁際支柱穴J



112号住居跡 壁際支柱穴P



112号住居跡 壁際支柱穴K



112号住居跡 壁際支柱穴Q



113号住居跡 全 景 (東より)



113号住居跡 遺物出土状態 (東より)



113号住居跡 1号埋甕 (西より)



113号住居跡 掘り方全景 (北東より)



113号住居跡 1号埋甕・直下土坑 (西より)



113号住居跡 1・2号埋甕 (北東より)



113号住居跡 2号埋甕



113号住居跡 1・2号埋甕 (西より)



114号住居跡 遺物出土状態 (東より)



114号住居跡 掘り方全景 (東より)

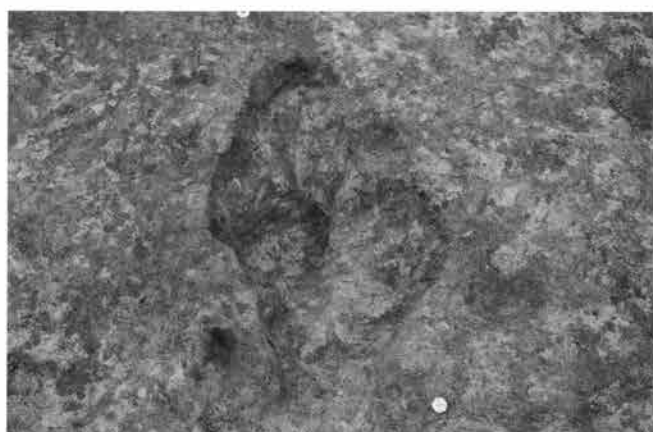




116号住居跡 遺物出土状態 (南より)



116号住居跡 全景 (南より)



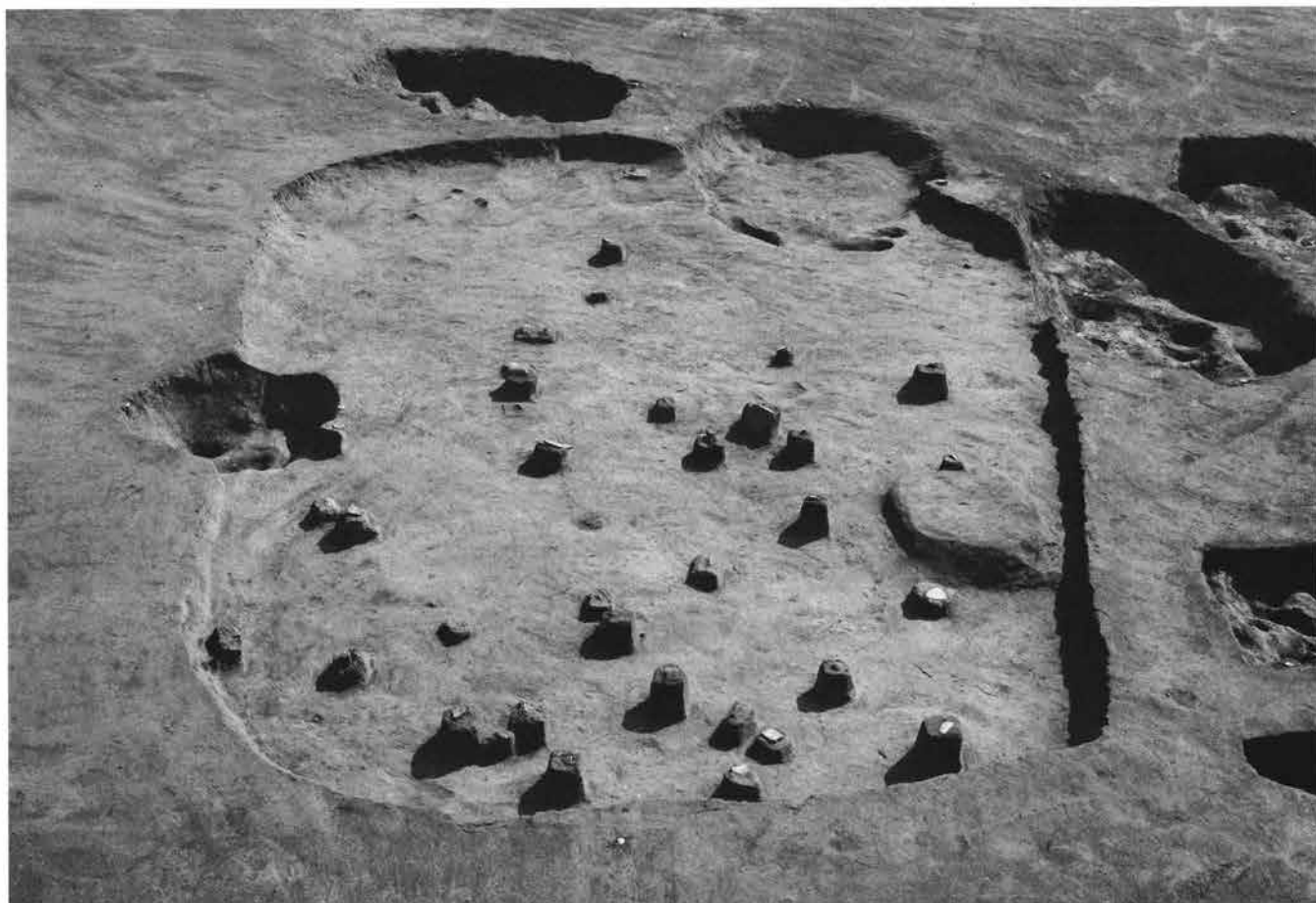
116号住居跡 炉跡全景 (南より)



117号住居跡 全景 (東より)



119号住居跡 全景 (東より)



2号竖穴状遺構跡 全景 (西より)



1号炉跡(石囲い炉) 全景 (東より)



3号炉跡(埋甕炉) 全景 (南より)



1号井戸跡 遺物出土状態 (北より)



1号井戸跡 全景 (北西より)



2号井戸跡 全景 (西より)



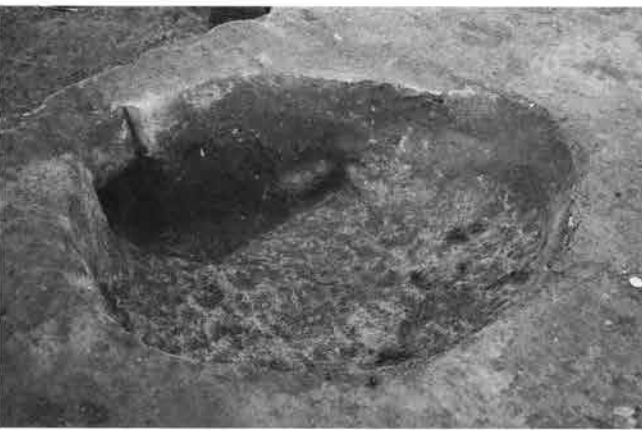
2号井戸跡 近景 (西より)



95号土坑跡 全景 (西より)



99号土坑跡 全景 (東より)



100号土坑跡 全景 (南東より)



103号土坑跡 全景 (東より)





104号土坑跡 全景 (西より)



105号土坑跡 全景 (西より)



106号土坑跡 全景 (東より)



107号土坑跡 全景 (東より)



108号土坑跡 全景 (西より)



110号土坑跡 全景 (西より)



111号土坑跡 全景 (南東より)



112号土坑跡 全景 (南より)





113号土坑跡 全景 (南より)



114号土坑跡 全景 (南より)



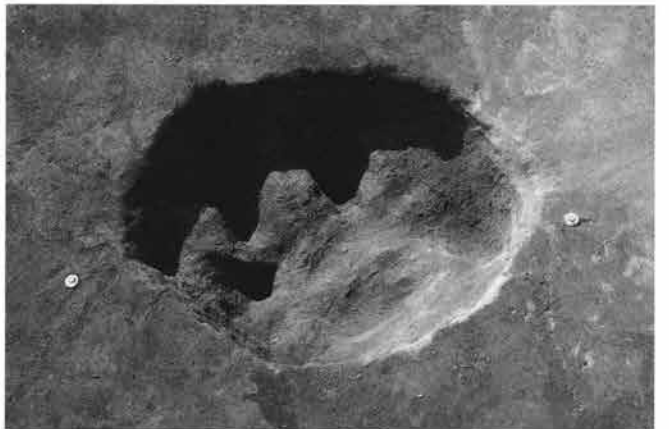
115号土坑跡 全景 (西より)



116号土坑跡 半裁状態 (南より)



119号土坑跡 全景 (西より)



120号土坑跡 全景 (北より)



121A号土坑跡 全景 (西より)



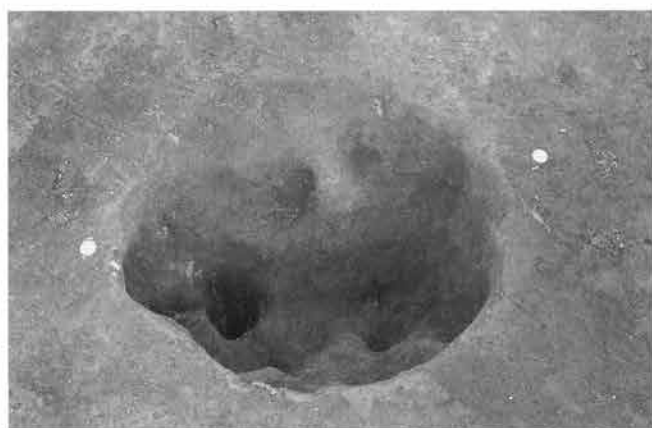
122号土坑跡 全景 (北東より)



123号土坑跡 全景（東より）



124号土坑跡 全景（北より）



125号土坑跡 全景（北西より）



126号土坑跡 全景（西より）



127号土坑跡 全景（東より）



128B号土坑跡 全景（北東より）



130号土坑跡 全景（北西より）



131号土坑跡 全景（北より）



133号土坑跡 半裁状態 (西より)



134号土坑跡 全景 (西より)



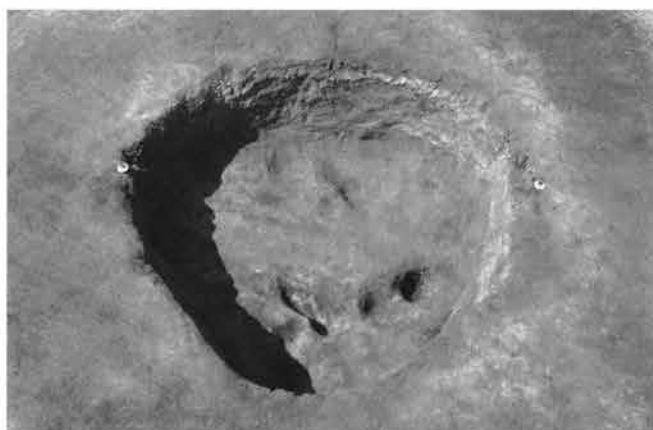
135号土坑跡 全景 (西より)



136号土坑跡 全景 (西より)



137号土坑跡 全景 (西より)



138号土坑跡 全景 (東より)



139号土坑跡 全景 (北より)



146号土坑跡 半裁状態 (東より)





153号土坑跡 全景 (南より)



154号土坑跡 全景 (西より)



157号土坑跡 断面 (南より)



158号土坑跡 全景 (南より)



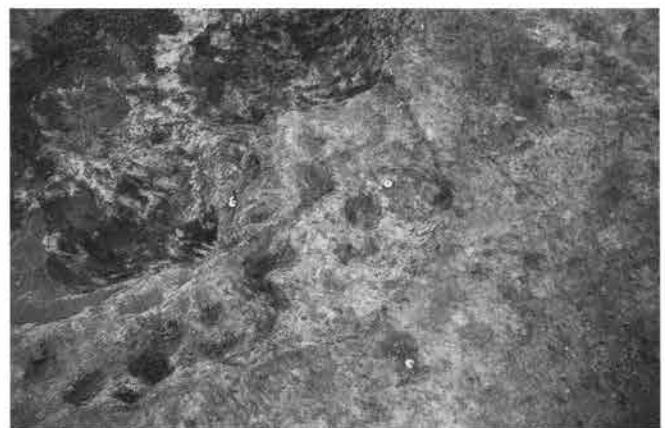
159号土坑跡 全景 (北より)



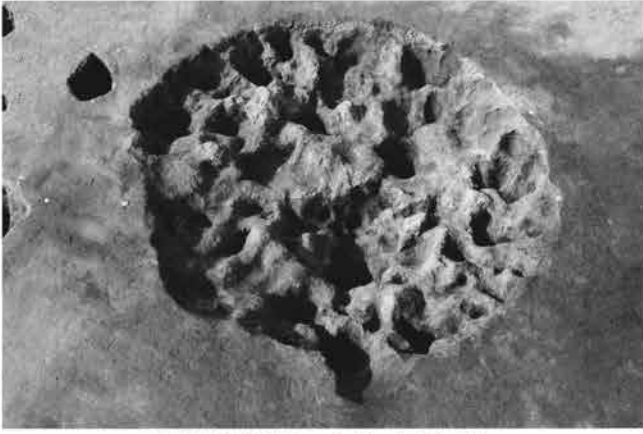
221号土坑跡 全景 (北より)



238号土坑跡 全景 (北より)



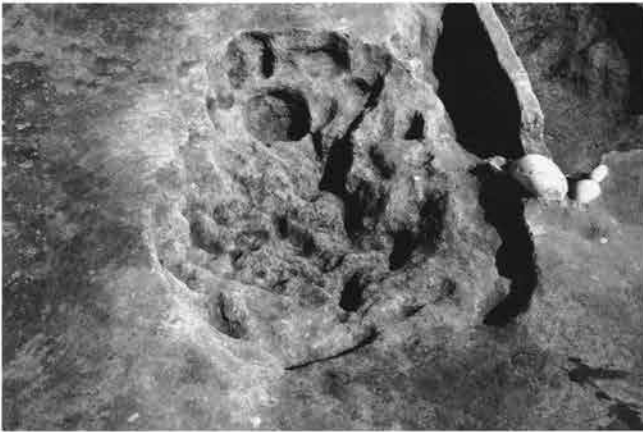
160号土坑跡 全景 (南より)



161号土坑跡 全景（南より）



164号土坑跡 全景（南より）



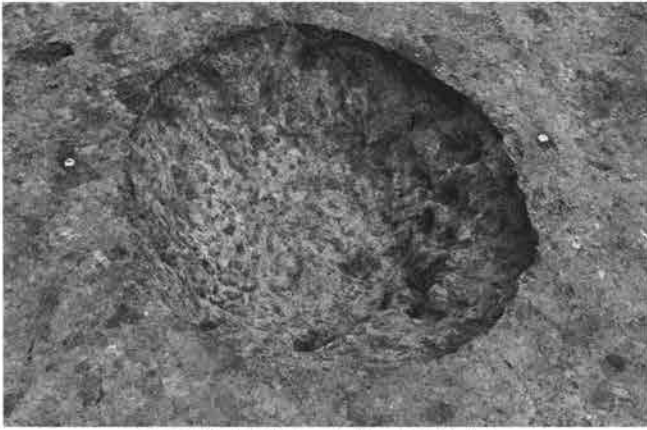
166号土坑跡 全景（西より）



168号土坑跡 全景（南より）



165号土坑跡 遺物出土状態（北より）



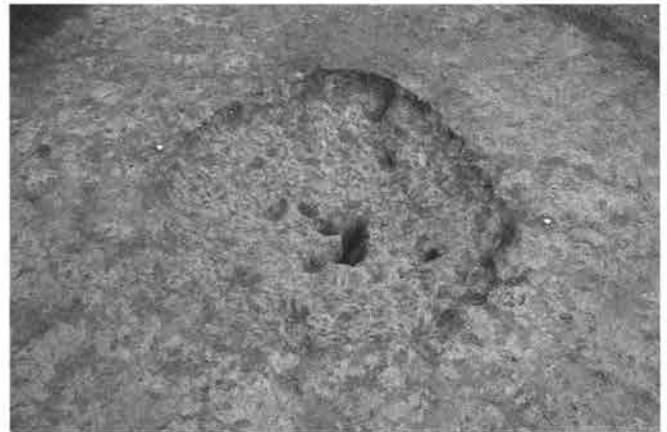
169号土坑跡 全景 (南より)



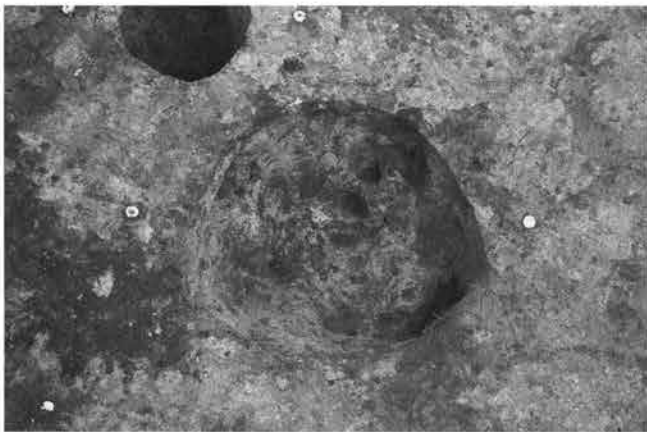
178号土坑跡 全景 (南より)



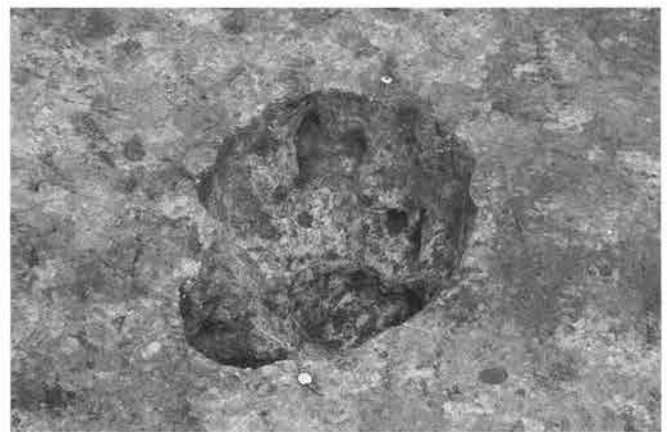
179号土坑跡 全景 (南より)



180号土坑跡 全景 (南より)



181号土坑跡 全景 (南より)



182号土坑跡 全景 (南より)



200号土坑跡 半裁断面 (南より)



201号土坑跡 半裁断面 (南より)





196号土坑跡 遺物出土状態 (西より)



196号土坑跡 全 景 (西より)



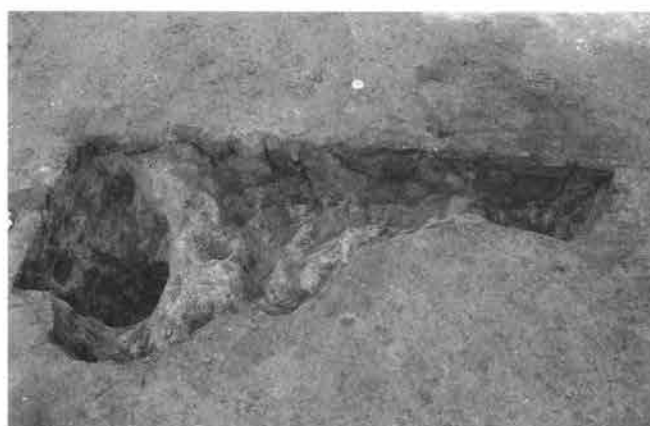
202号土坑跡 半裁断面（南より）



203号土坑跡 半裁断面（南より）



204号土坑跡 半裁断面（南より）



205号土坑跡 半裁断面（南より）



206号土坑跡 断面（北東より）



207号土坑跡 断面（南より）



208号土坑跡 半裁断面（南西より）



209号土坑跡 半裁断面（南より）



212号土坑跡 半裁断面 (南より)



225号土坑跡 全景 (南より)



227号土坑跡 半裁断面 (南より)



228号土坑跡 半裁断面 (南より)



232号土坑跡 半裁断面 (西より)



234号土坑跡 半裁断面 (南西より)



247号土坑跡 全景 (北西より)

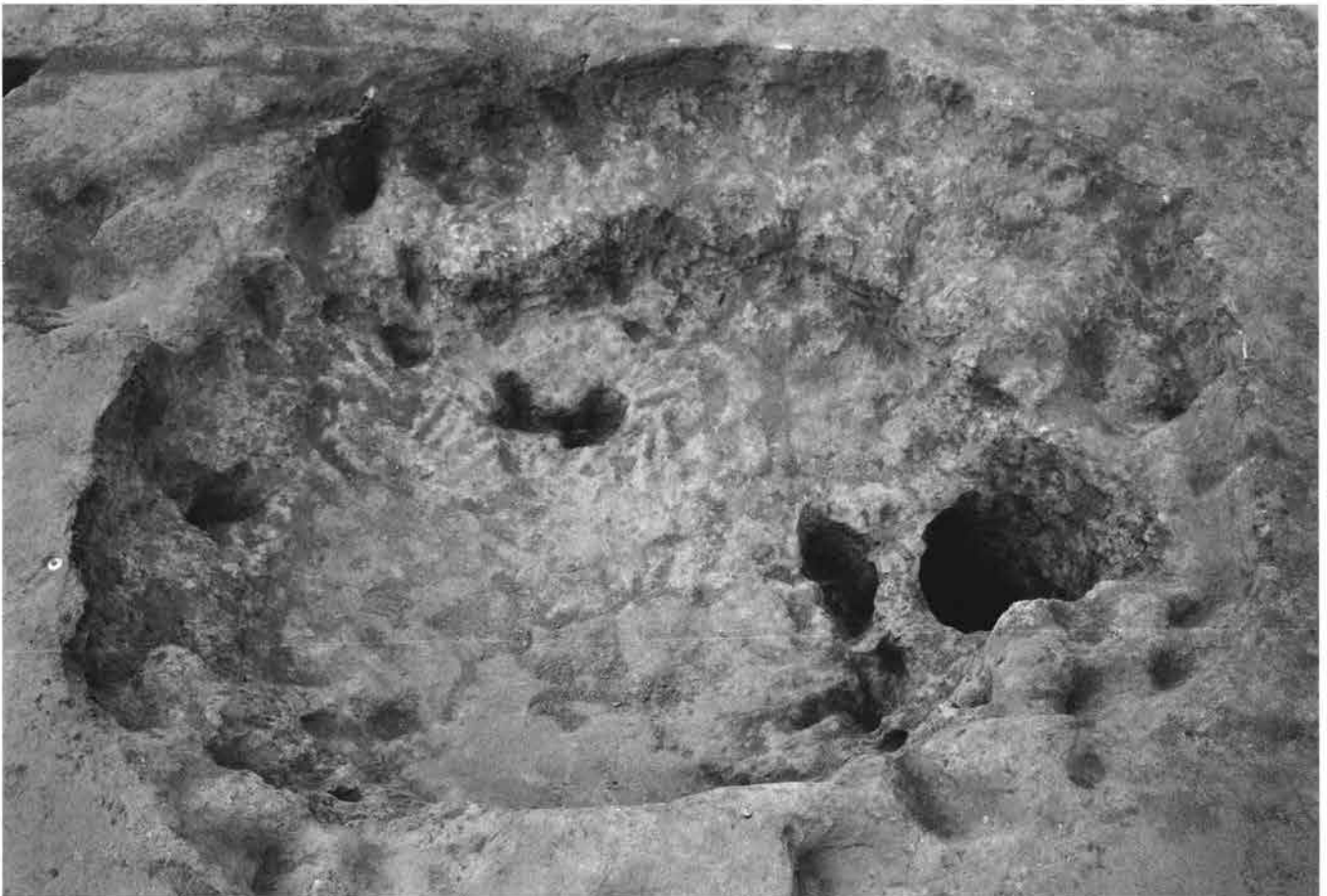


255号土坑跡 半裁断面 (南より)





254号土坑跡 遺物出土状態 (南より)



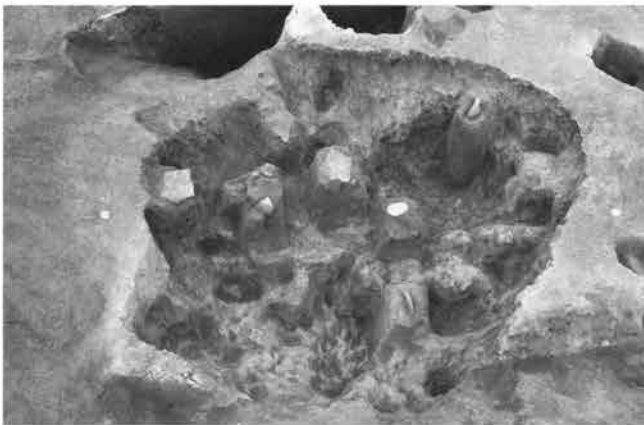
254号土坑跡 全 景 (南より)



260号土坑跡 半裁断面 (南より)



263号土坑跡 半裁断面 (南より)



268号土坑跡 全景 (南より)



269号土坑跡 半裁断面 (南より)



270号土坑跡 半裁断面 (南より)



276号土坑跡 全景 (西より)



271号土坑跡 全景 (南より)



279号土坑跡 半裁断面 (東より)



280号土坑跡 半裁断面 (東より)



281号土坑跡 半裁断面 (東より)



283号土坑跡 半裁断面 (東より)



285号土坑跡 半裁断面 (南より)



286号土坑跡 半裁断面 (南より)



287号土坑跡 半裁断面 (南より)

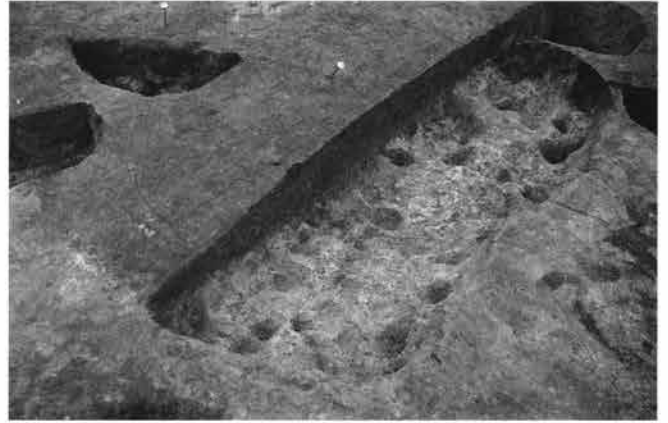


290号土坑跡 半裁断面 (東より)





297号土坑跡 半裁断面 (西より)



298号土坑跡 全景 (南東より)



299号土坑跡 半裁断面 (南東より)



300号土坑跡 半裁断面 (南東より)



301号土坑跡 半裁断面 (南東より)



306号土坑跡 半裁断面 (東より)



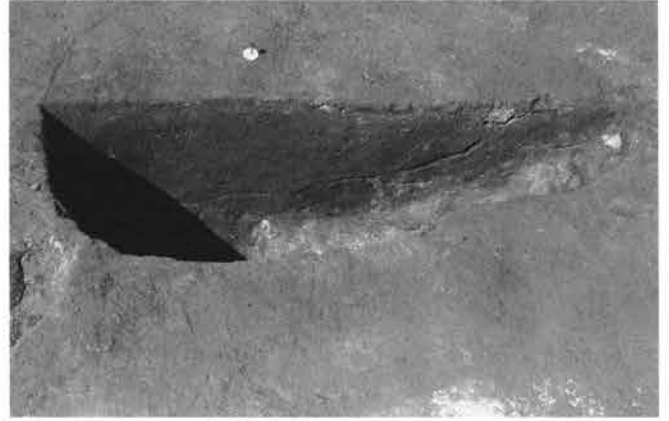
307号土坑跡 半裁断面 (南より)



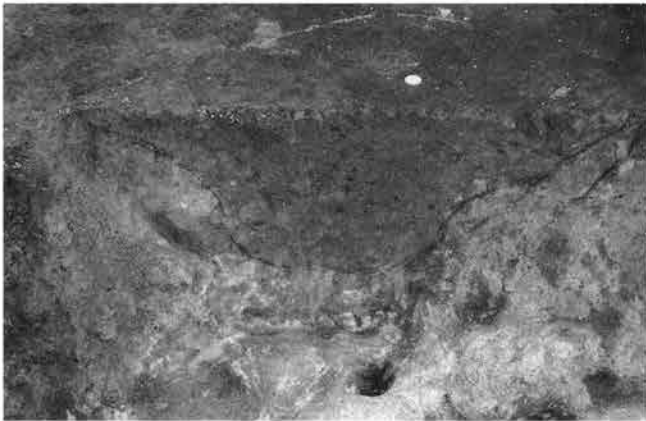
308号土坑跡 半裁断面 (南より)



309号土坑跡 半裁断面 (南より)



310号土坑跡 半裁断面 (南より)



320号土坑跡 半裁断面 (北より)



321号土坑跡 半裁断面 (西より)



323号土坑跡 半裁断面 (南より)



324号土坑跡 半裁断面 (南より)



351A号土坑跡 半裁断面 (西より)



355B号土坑跡 半裁断面 (南より)



350号土坑跡 半裁断面 (南より)



350号土坑跡 全 景 (南より)





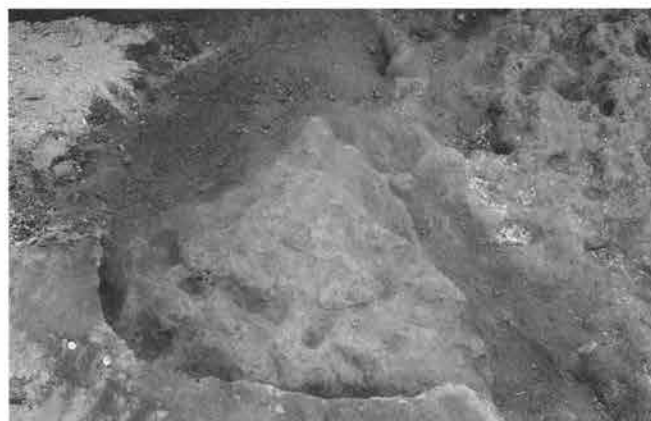
357A号土坑跡 全景 (南より)



358A号土坑跡 全景 (南より)



359B号土坑跡 遺物出土状態 (南より)



367A号土坑跡 全景 (南より)



369A号土坑跡 全景 (南より)



391号土坑跡 全景 (西より)



392号土坑跡 全景 (東より)



393号土坑跡 全景 (南より)



73住-9



73住-7



73住-16



73住-2



73住-5



73住-12



73住-22



95住-3



96住-1



95住-1



95住-9



95住-8



100住-2



[墨書拡大]

100住-19



100住-3



100住-8



100住-9



100住-7



106住-4



106住-13



106住-15



[穿孔部拡大]



106住-12



106住-14



97住-4



97住-5



103住-1



103住-2



102住-10



102住-7



98住-1



98住-5



98住-2



98住-4



98住-9



98住-10



98住-11



98住-3



98住-8



98住-7





107住-1



107住-5



107住-4



107住-2



2井戸-1



1井戸-3



1井戸-11



1井戸-2



1井戸-5



1井戸-6



111住-69



111住-84



111住-82



111住-85



111住-87

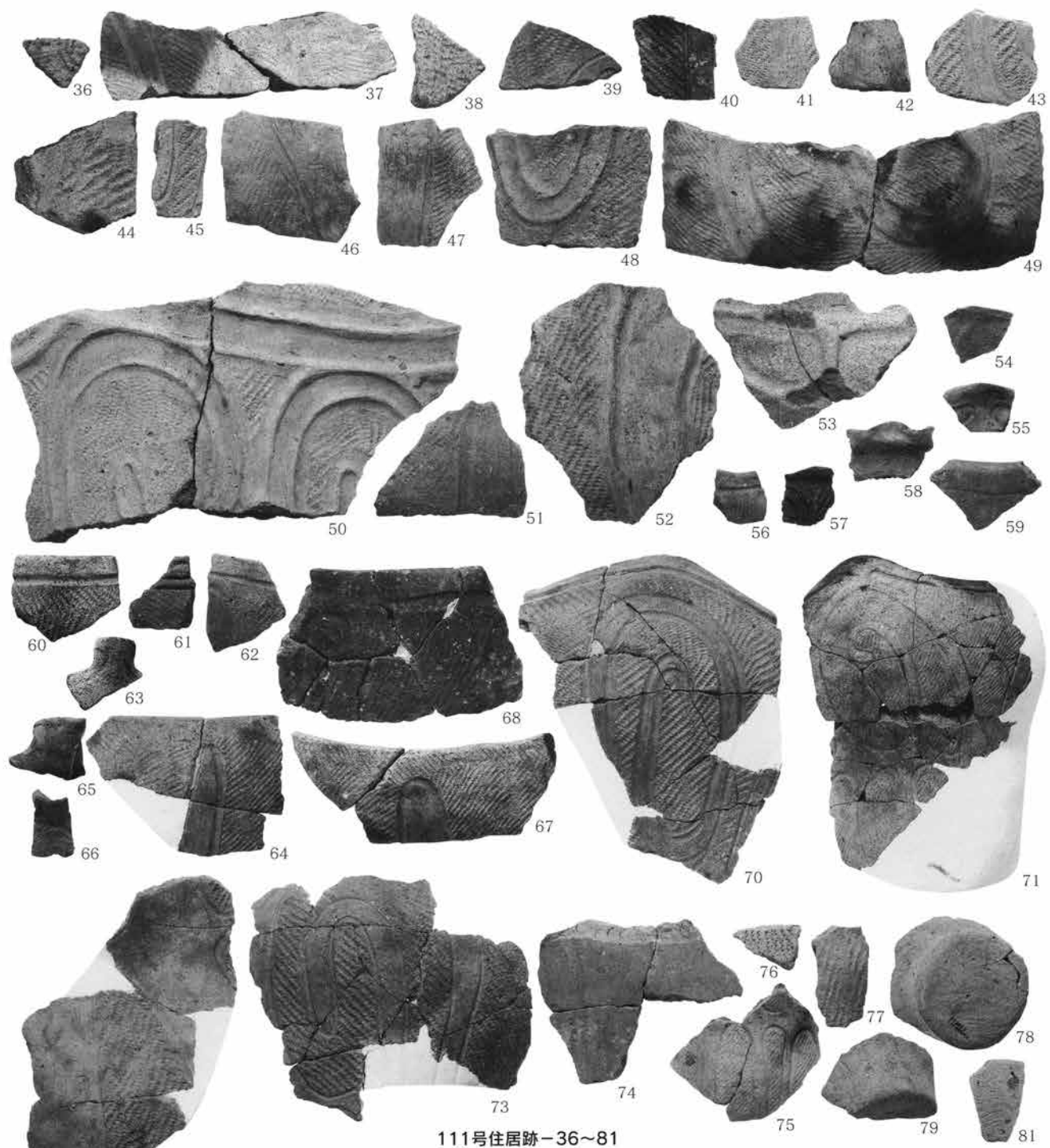


111住-83

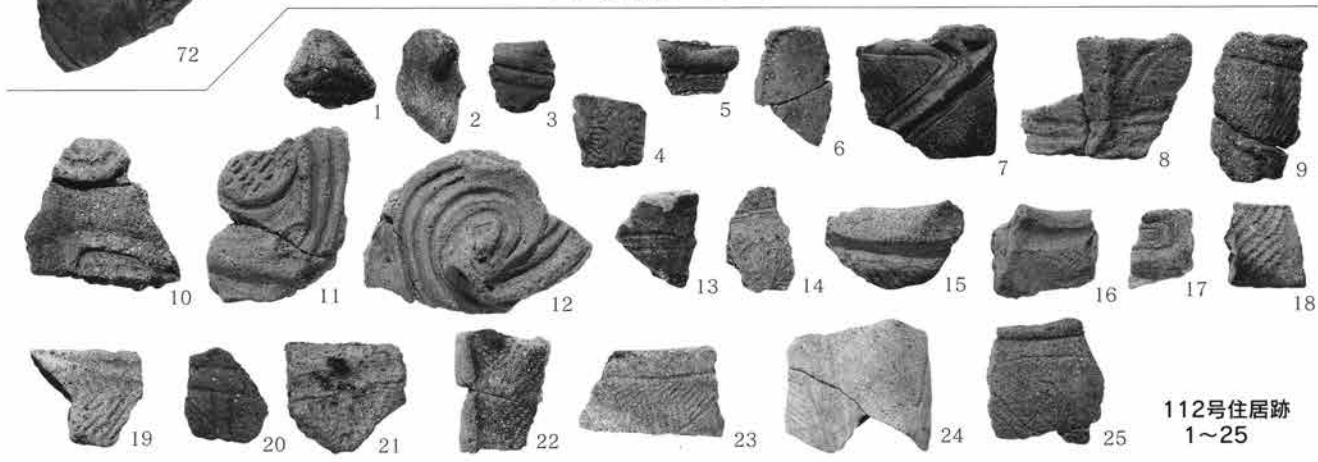


111住-86





111号住居跡-36~81



112号住居跡 1~25



112住-26



113住-70



113住-75



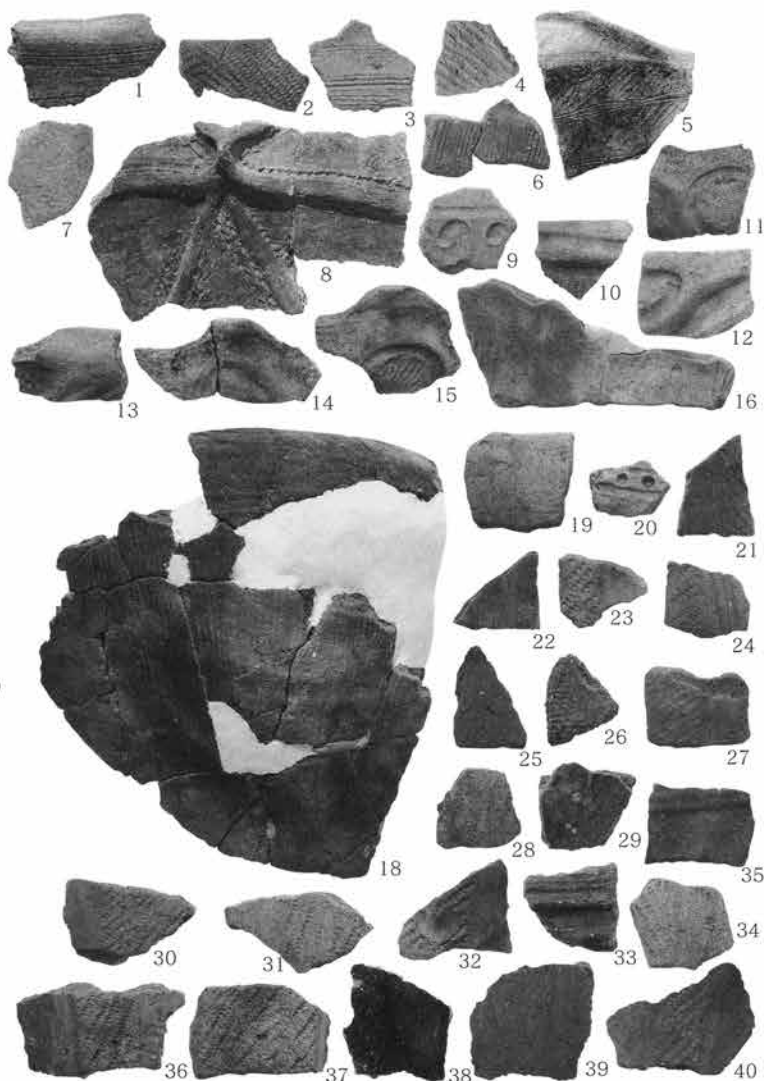
113住-82



113住-81



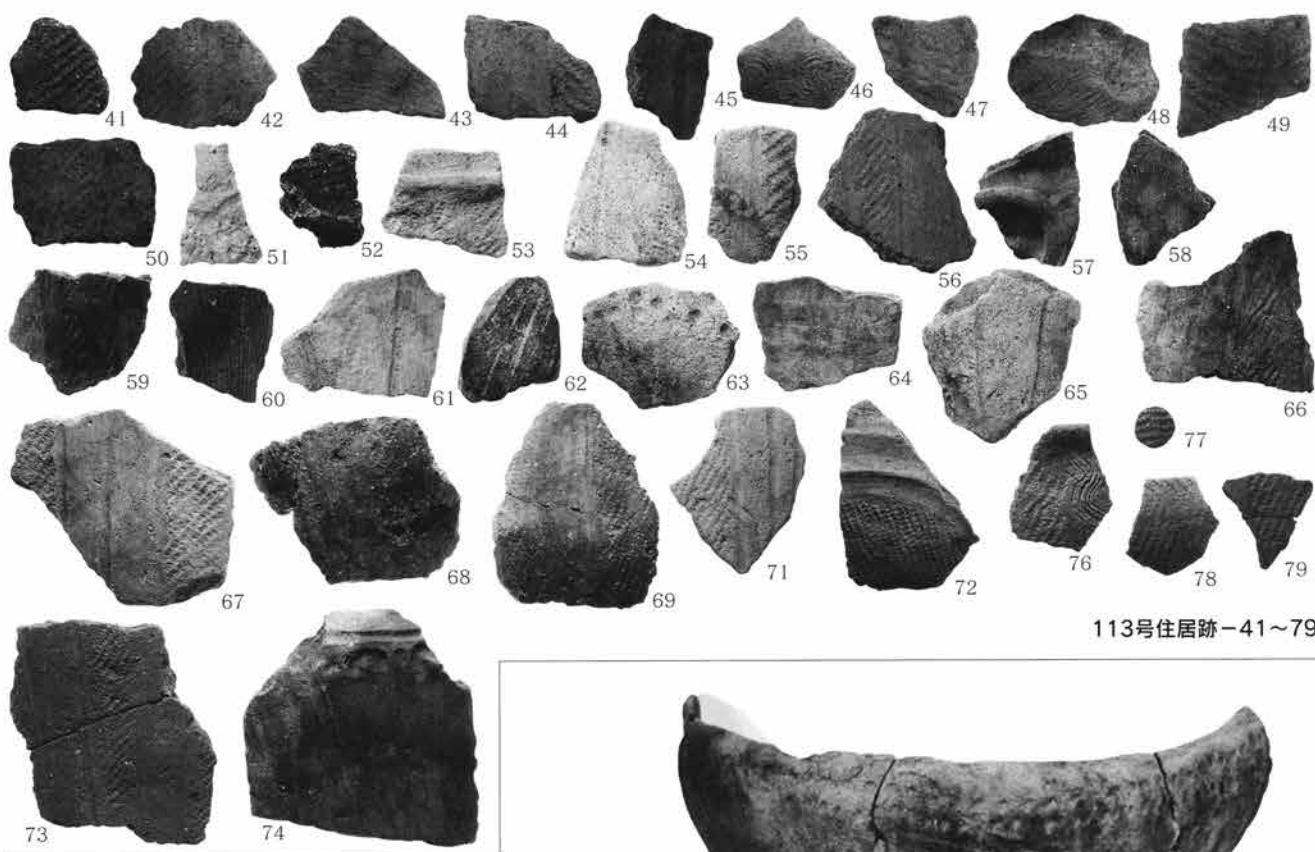
113住-80



113号住居跡-1~40



17



113号住居跡-41~79



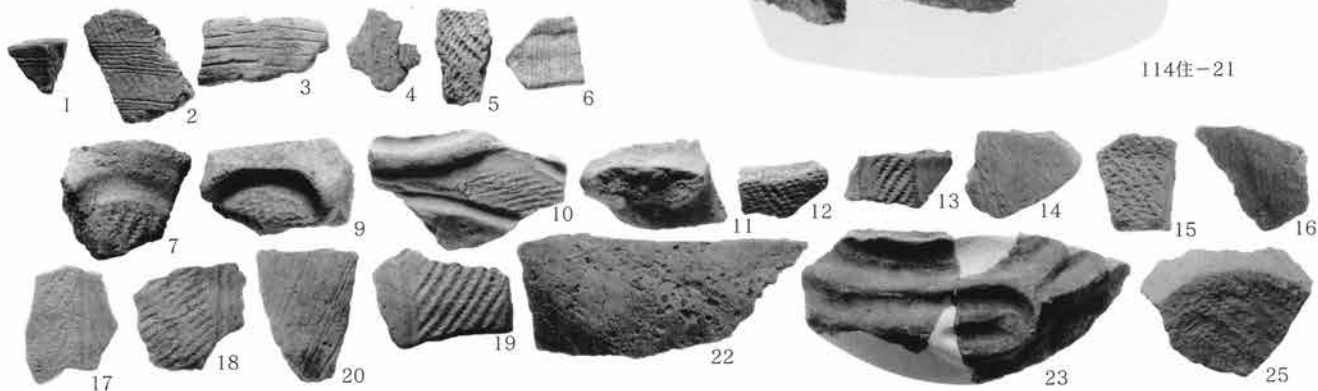
114住-24



114住-8

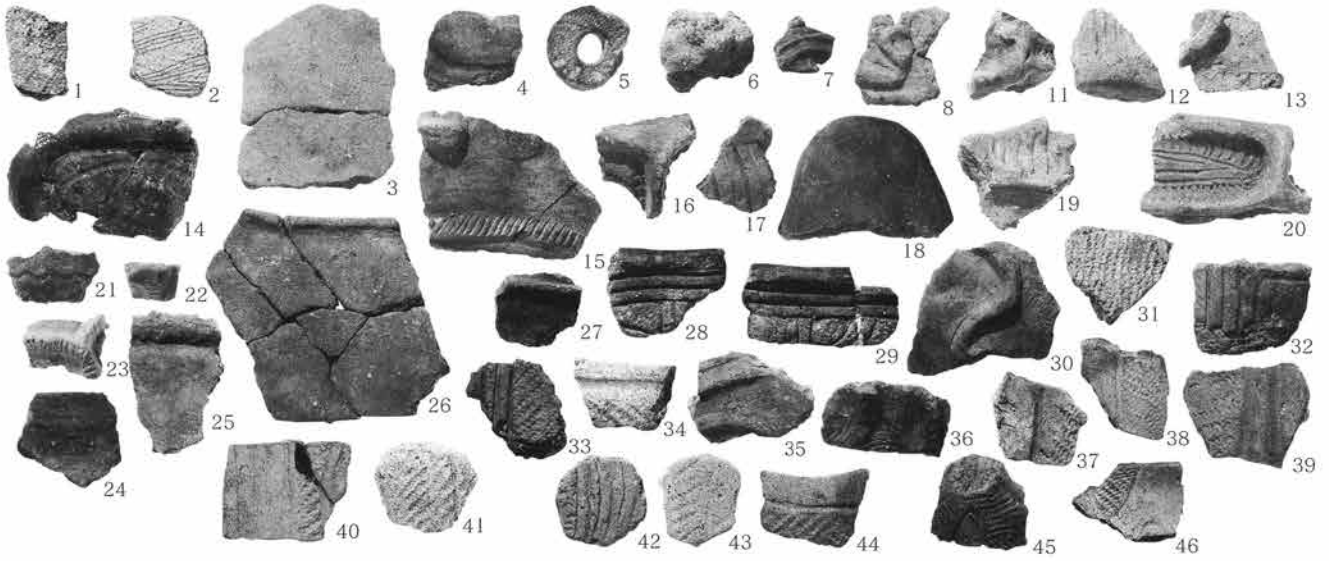


114住-21



114号住居跡-1~25





116住-48

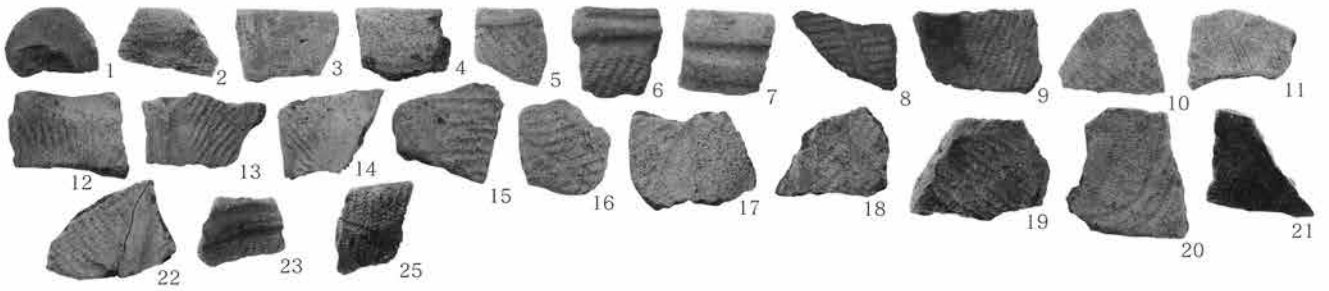


116住-49



116住-50

116号住居跡-1~50



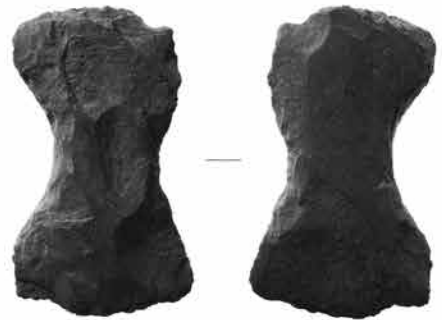
117住-27



117住-28



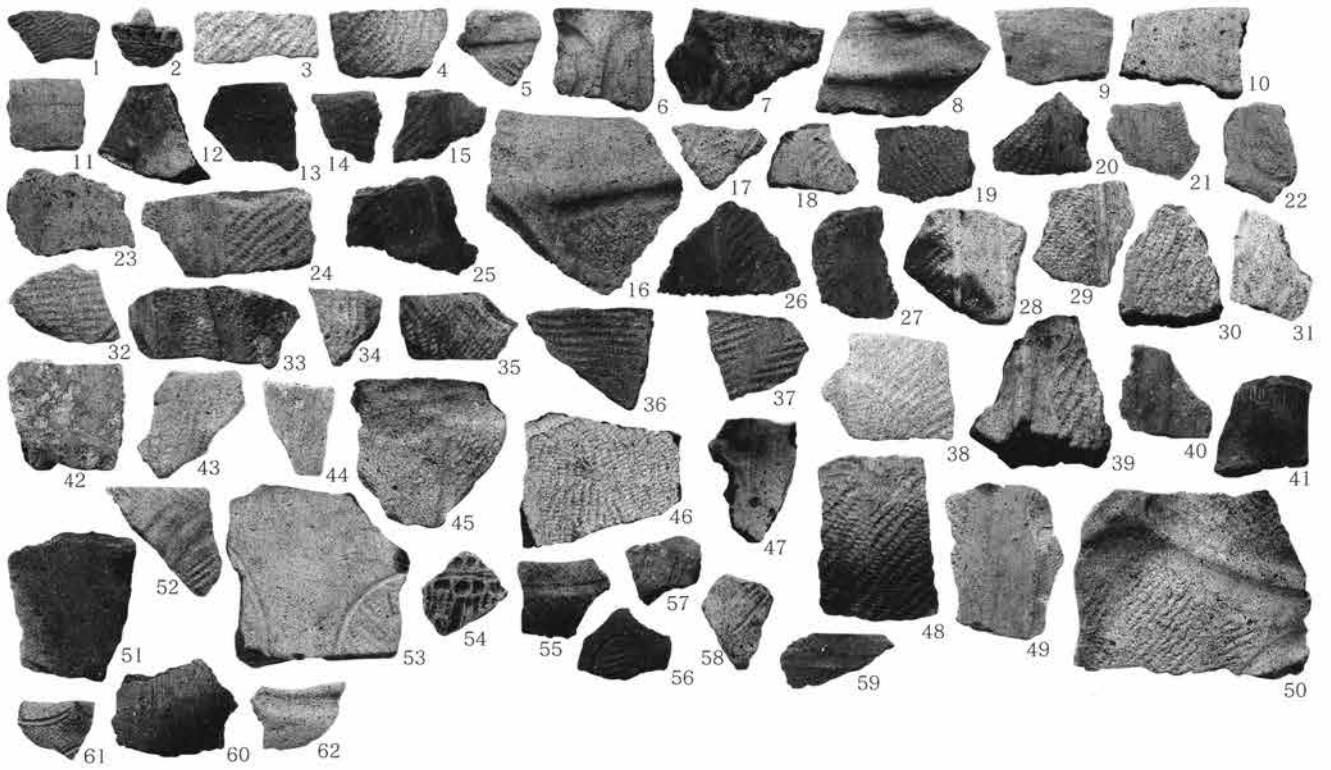
117住-29



117号住居跡-1~29

117住-26





119住-69



119住-65



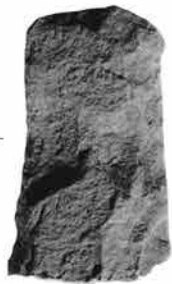
119住-64



119住-68



119号住居跡-1~69



119住-63



119住-67



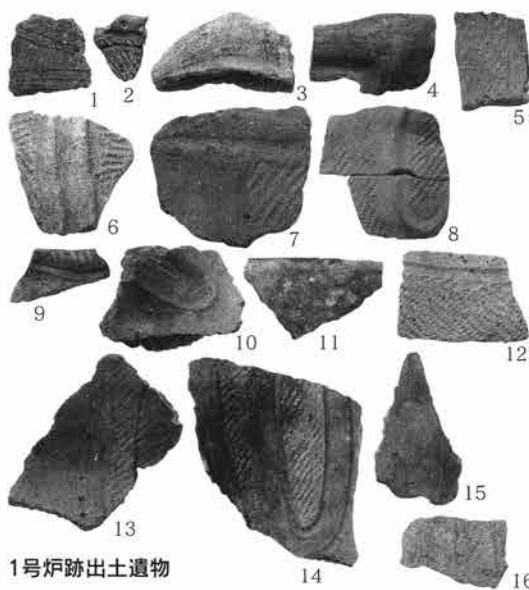
119住-66



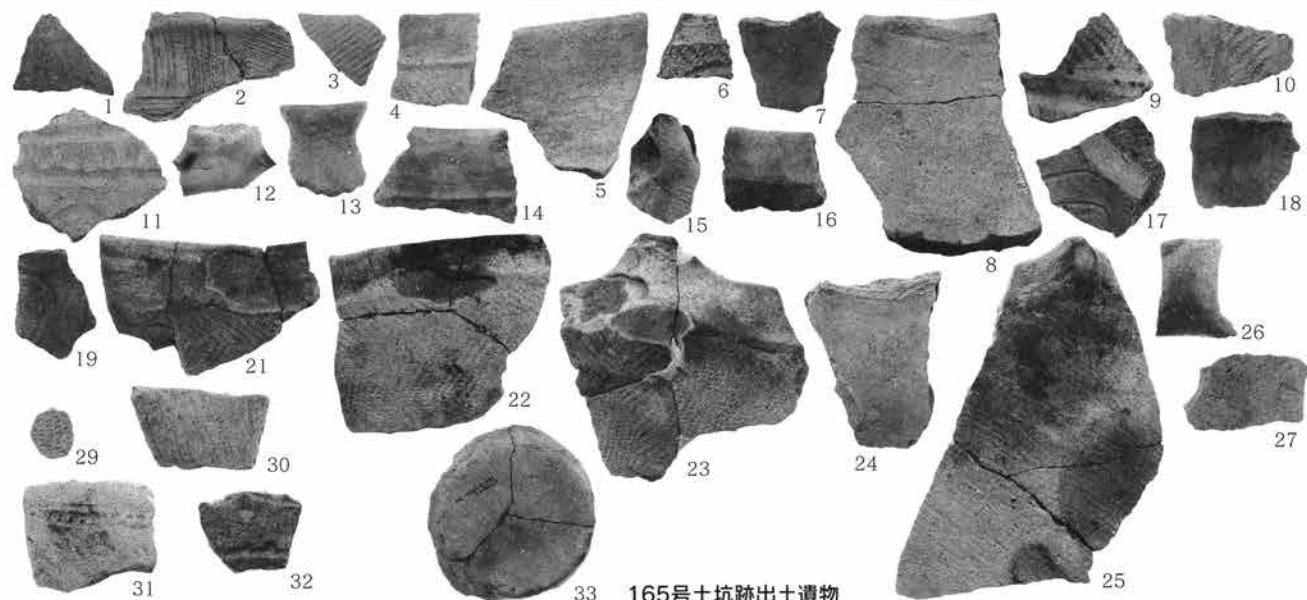
2号豎穴狀遺構跡出土遺物



3号炉跡出土遺物



1号炉跡出土遺物



165号土坑跡出土遺物



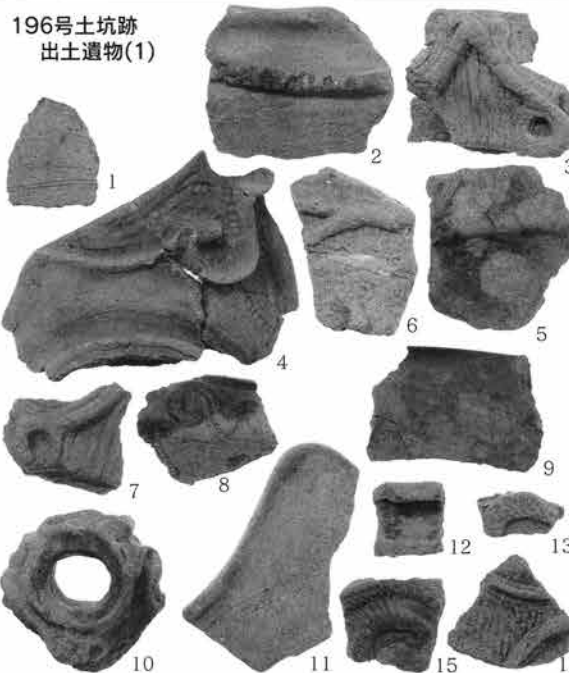
165土-20



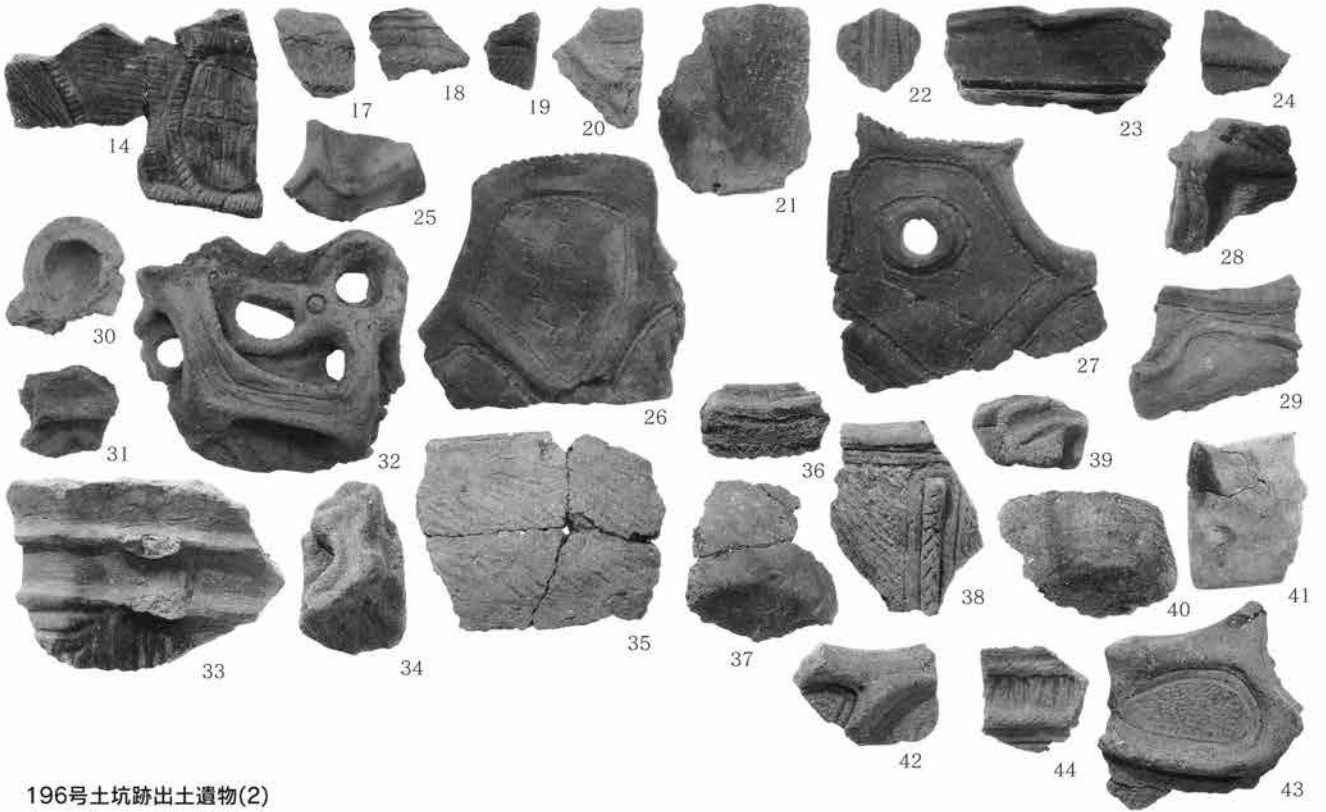
165土-28



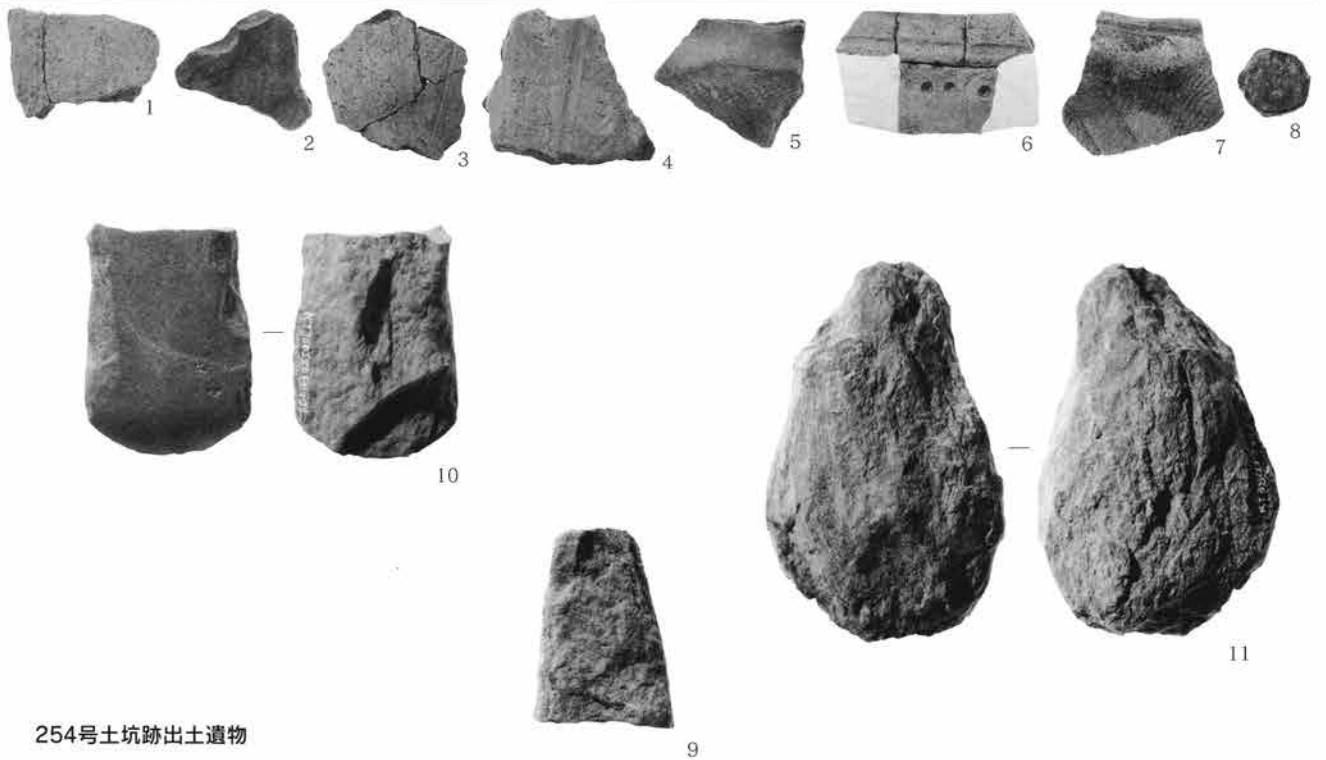
165土-34



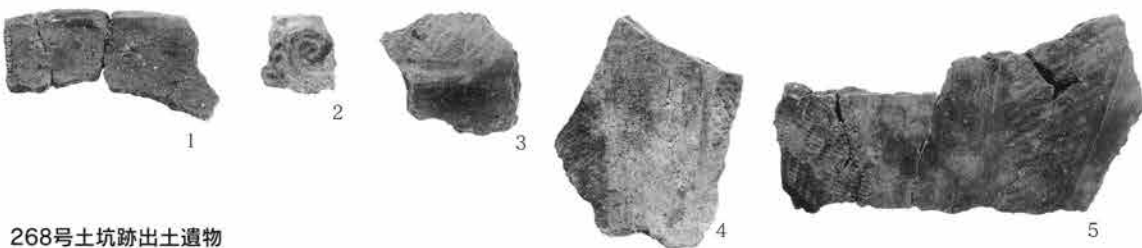
196号土坑跡  
出土遺物(1)



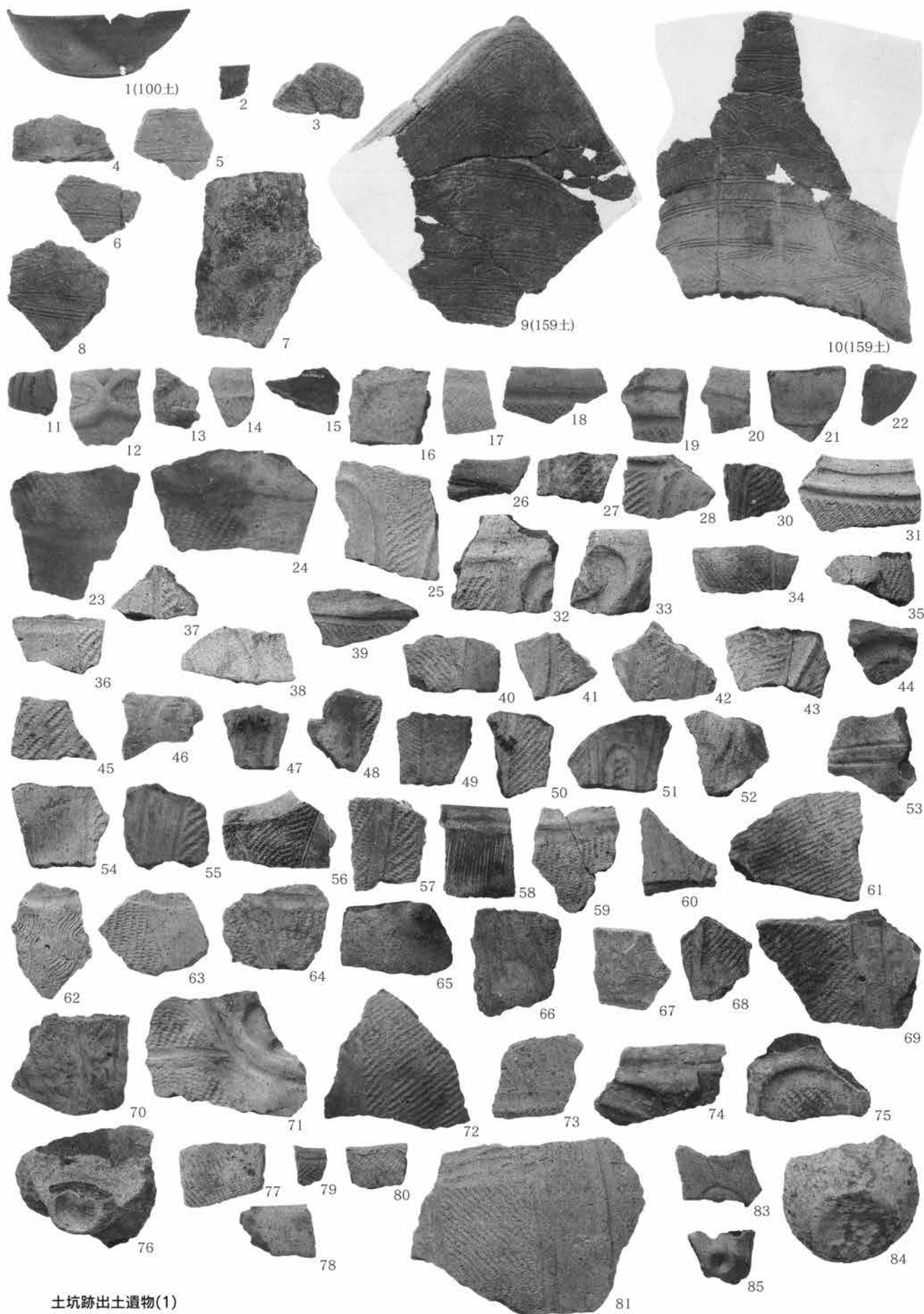
196号土坑跡出土遺物(2)



254号土坑跡出土遺物



268号土坑跡出土遺物



土坑跡出土遺物(1)

81





91(146土)



92(164土)



87(360土)



88(200土)



(164土)



(354土)



89(358土)



86(350土)



90(123土)

土坑跡出土遺物(2)



1(310P)



2(821P)



3(118P)



4(118P)



5(94P)



6(330P)



7(94P)



8(310P)



9(1144P)



10(1129P)



11(1114P)



12(310P)



13(257P)



14(319P)



15(312P)



16(56P)



17(244P)



18(50P)



19(1129P)



20(1114P)

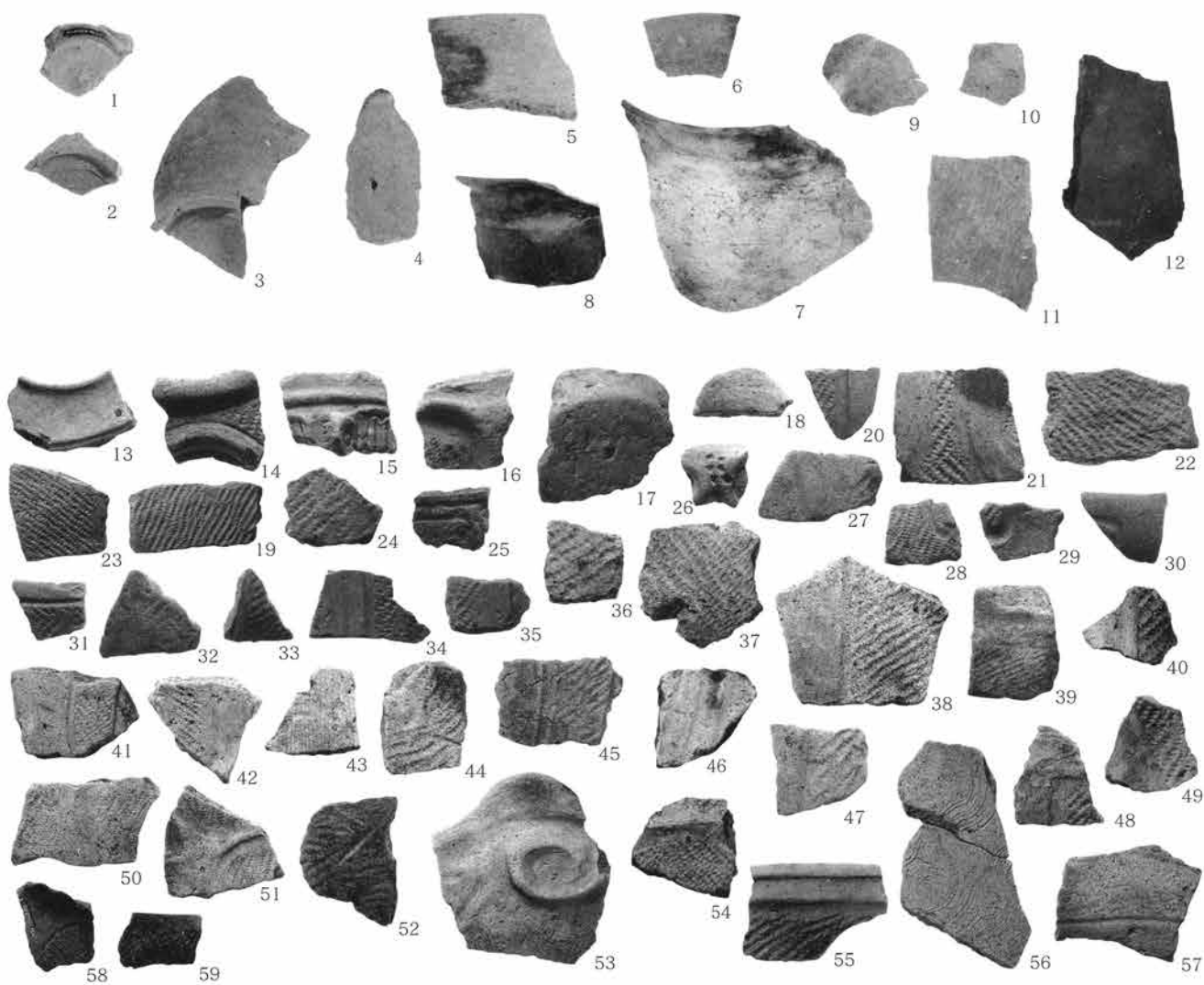


21(1114P)

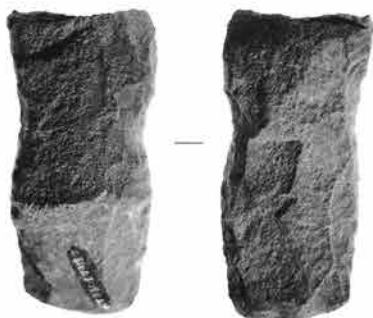


22(319P)

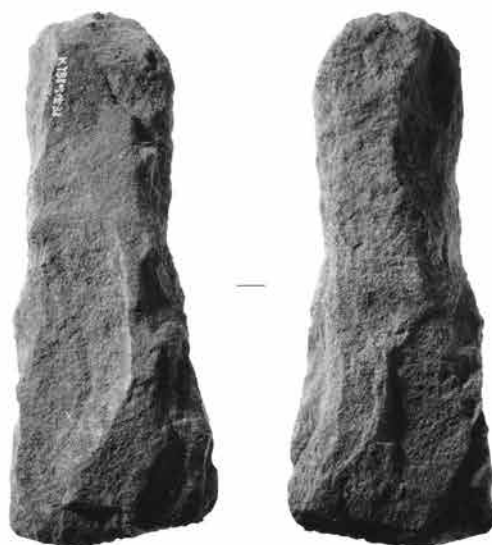
Pit跡出土遺物



60(630-010Gr)



61(73住)



62(1井)





63(100土)



65(表採)



64(100土)



66(100住)



67(1井)



68(100土)



70(表採)



69(595-030Gr)



71(表採)



73(表採)



72(625-990Gr)



74(610-985Gr)



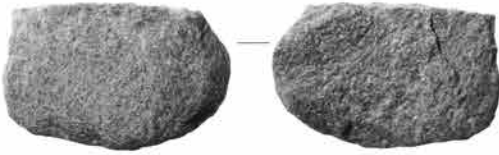
75(表採)



76(表採)



77(625-990Gr)



81(625-990Gr)



79(表採)



80(600-995Gr)



83(表採)



85(640-020Gr)



82(625-990Gr)



87(625-990Gr)



86(表採)



78(表採)



88(106住)



84(590-940Gr)



89(表採)



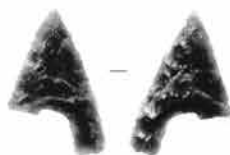
91(表採)



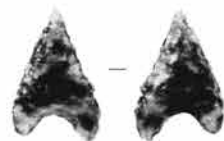
93(73住)



94(表採)



95(表採)



96(表採)



(97住)



92(100住)



## 発掘調査報告書抄録

ふりがな	つかしいせき
書名	塚下遺跡 (1)
副書名	(一)香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 並びに北関東自動車道(伊勢崎～県境)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第386集
編著者名	新倉明彦
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 (作成法人ID=21005)
所在地	〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	平成18年10月12日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つかしいせき 塚下遺跡	ぐんまけん いせきし 群馬県 伊勢崎市  かみだまち 上田町	10-204	5025900 (県番号)	36°20'50"	139°14'32"	2001.8.1 } 2002.9.31	1,773㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塚下遺跡 (県側道部)	集落	縄文時代	竪穴住居跡7軒 炉跡2基、土坑跡46基 不明竪穴遺構1基	縄文土器 石器	
		古墳時代	竪穴住居跡1軒 井戸跡1基	古式土師器	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡11軒 掘立柱建物2棟 土坑跡3基	土師器・須恵器	
		不明	土坑跡74基、ピット411基		



財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告 第386集

## 塚下遺跡(1)



---

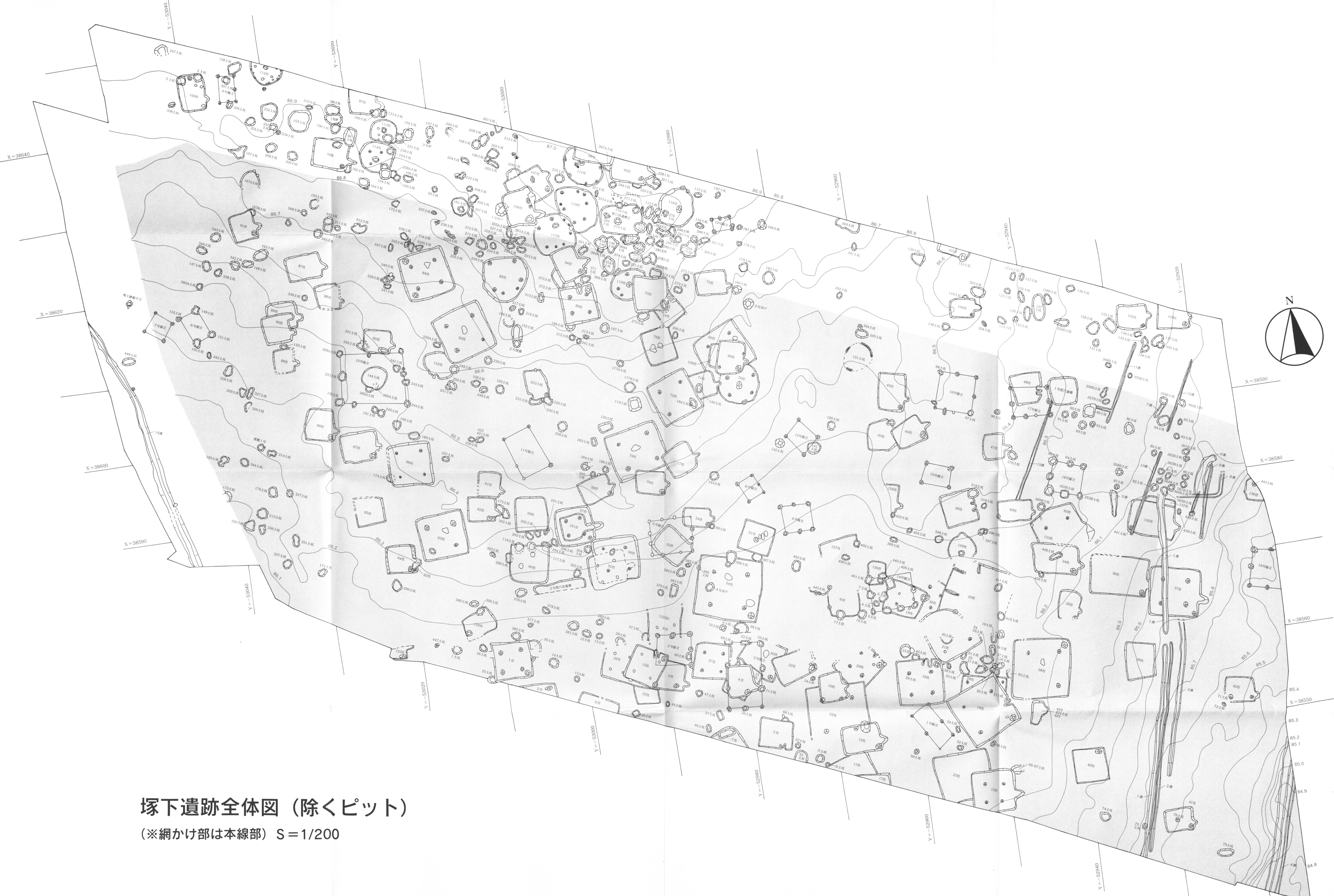
平成18(2006)年 10月5日 印刷  
平成18(2006)年 10月12日 発行

発行/編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2  
TEL 0279-52-2511(代表)  
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org>

印刷/朝日印刷工業株式会社

---

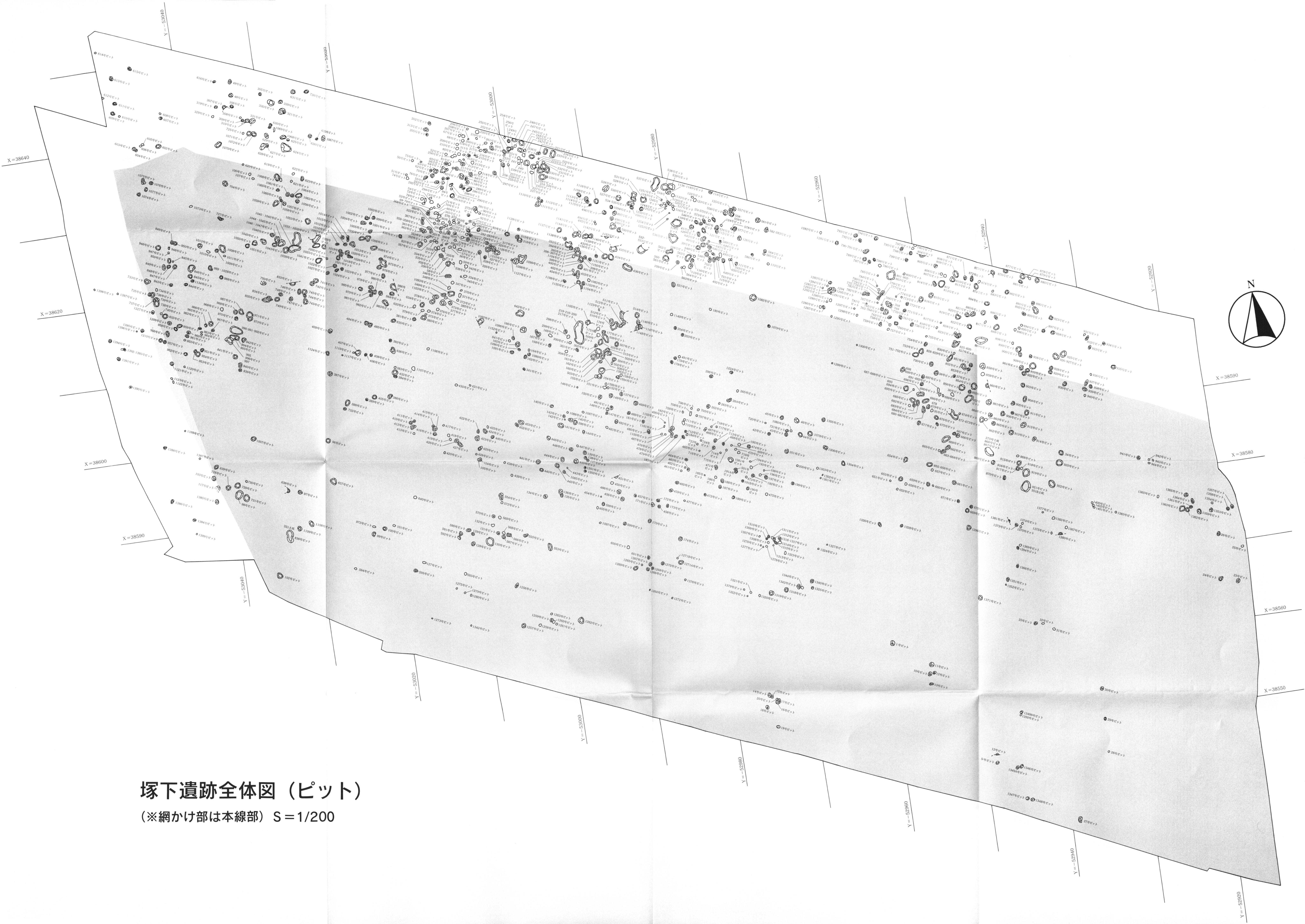




塚下遺跡全体図（除くピット）

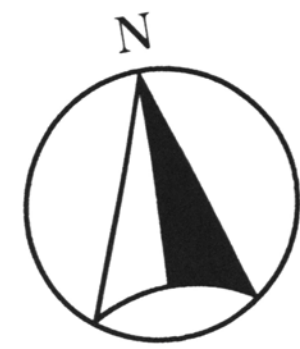
（※網かけ部は本線部） S = 1/200





塚下遺跡全体図 (ピット)

(※網かけ部は本線部) S = 1/200



Y = 50350

X = 38550

X = 38580

X = 38590

X = 38640

Y = 50300

Y = 50350

Y = 50400

Y = 50450

Y = 50500

Y = 50550

Y = 50600

Y = 50650

Y = 50700

Y = 50750

Y = 50800

Y = 50850

Y = 50900

Y = 50950

Y = 51000

Y = 51050

Y = 51100

X = 38640

X = 38620

X = 38600

X = 38590

X = 38560

X = 38550

X = 38580

X = 38590

X = 38580

X = 38590

X = 38640

X = 38620

X = 38600

X = 38590